

操作ガイドを お読みになる前に 新機能/変更内容のお知らせ

最新ファームウェアによる新機能/仕様変更と、
『操作ガイド』の記載変更などの最新情報を
P. ii ~ P. xvii で説明しています。

すでに本製品を使用しているかた
ファームウェア更新後の最新情報については、
P. ii ~ P. xvii をお読みください。

本製品を初めてご使用になるかた
P. ii ~ P. xvii と、P. 1 以降の『操作ガイド』を
あわせてお読みください。



最新ファームウェアに更新することで、新機能/仕様変更が有効になります。ファームウェアのバージョン確認および更新方法は、次のページをご覧ください。

『操作ガイドをお読みになる前に』	
ファームウェアバージョンの確認と更新.....	P. ii
新機能と仕様変更.....	P. iii
その他の変更情報.....	P. xiii
『操作ガイド』	P. 1

ファームウェアバージョンの確認と更新

カメラのファームウェアバージョンの確認と更新は、カメラマネジメントツールを使って行います。
必要に応じて、最新ファームウェアをホームページからダウンロードして、カメラのファームウェアを更新してください。
カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

最新ファームウェアバージョン

カメラ機種	ファームウェアバージョン
VB-H45, VB-H45B ^{*1} , VB-M44, VB-M44B ^{*1}	1.1.x
VB-H730F Mk II	
VB-S30D Mk II, VB-S31D Mk II	
VB-S800D Mk II, VB-S900F Mk II	
VB-S805D Mk II, VB-S905F Mk II	
VB-S30VE, VB-S800VE, VB-S910F	1.1.x
VB-R13VE (H2) ^{*2} , VB-R13VE, VB-R13, VB-R11VE (H2) ^{*2} , VB-R11VE, VB-R11	1.2.x
VB-R12VE (H2) ^{*2} , VB-R12VE, VB-R10VE (H2) ^{*2} , VB-R10VE	
VB-M50B	
VB-H652LVE, VB-H651VE, VB-H651V	
VB-M641VE, VB-M641V, VB-M640VE, VB-M640V	
VB-H761LVE (H2) ^{*2} , VB-H761LVE-H, VB-H761LVE, VB-H760VE (H2) ^{*2} , VB-H760VE	
VB-H751LE (H2) ^{*2} , VB-H751LE-H, VB-H751LE	
VB-M741LE (H2) ^{*2} , VB-M741LE-H, VB-M741LE, VB-M740E (H2) ^{*2} , VB-M740E	

*1 VB-H45とVB-H45B、VB-M44とVB-M44Bの違いは外観色のみです。

*2 "(H2)" が付いている機種は、同じ機種名の親水コーティングモデルです。

『操作ガイド』は、上表のファームウェアバージョンよりも前のバージョンの内容で記載されています。
そのため、最新ファームウェアバージョンによる新機能と仕様変更内容については、以降のページをお読みください。

新機能と仕様変更

対象機種

ファームウェアの更新による新機能と仕様変更は、次のとおりです。
なお、お使いの機種によっては、説明の画面と実際の画面が異なる場合があります。

●: 最新ファームウェアで対応 ○: 対応済み

新機能/仕様変更	対象機種			
	VB-H45, VB-M44 VB-H730F Mk II VB-S30D Mk II VB-S31D Mk II VB-S800D Mk II VB-S900F Mk II VB-S805D Mk II VB-S905F Mk II	VB-S30VE VB-S800VE VB-S910F	VB-R13VE (H2), VB-R13VE VB-R13, VB-R11VE (H2) VB-R11VE, VB-R11 VB-R12VE (H2), VB-R12VE VB-R10VE (H2), VB-R10VE VB-M50B, VB-H652LVE VB-H651VE, VB-H651V VB-M641VE, VB-M641V VB-M640VE, VB-M640V VB-H761LVE (H2) VB-H761LVE-H, VB-H761LVE VB-H760VE (H2), VB-H760VE VB-H751LE (H2) VB-H751LE-H, VB-H751LE VB-M741LE (H2) VB-M741LE-H, VB-M741LE VB-M740E (H2), VB-M740E	
動作環境: PC環境/モバイル端末情報の更新	●	●	●	P. v
カメラの初期設定: 管理者アカウント登録の追加	○	○	●*4	P. vi
カメラビューワー: [ワンショットAF] ボタンの追加*1	●	●	●	P. vii
カメラビューワー: スナップショットの保存形式変更	●	●	●	P. vii
設定ページ: 登録ユーザー確認用パスワードの入力	○	●	●	P. viii
設定ページ: [簡単カメラ設定] の推奨値変更と性能向上	○	○	●	P. viii
設定ページ: [ADSR] および [プライバシーマスク] 設定時の プリセット選択追加*2	○	●	○	P. ix
設定ページ: [オンスクリーン表示] の入力文字数変更	○	●	○	P. x
設定ページ: [音声全般] の項目追加*3	○	○	●	P. x
設定ページ: 初期化時の保持項目変更	○	●	●	P. xi

新機能/仕様変更	対象機種			
	VB-H45, VB-M44 VB-H730F Mk II VB-S30D Mk II VB-S31D Mk II VB-S800D Mk II VB-S900F Mk II VB-S805D Mk II VB-S905F Mk II	VB-S30VE VB-S800VE VB-S910F	VB-R13VE (H2), VB-R13VE VB-R13, VB-R11VE (H2) VB-R11VE, VB-R11 VB-R12VE (H2), VB-R12VE VB-R10VE (H2), VB-R10VE VB-M50B, VB-H652LVE VB-H651VE, VB-H651V VB-M641VE, VB-M641V VB-M640VE, VB-M640V VB-H761LVE (H2) VB-H761LVE-H, VB-H761LVE VB-H760VE (H2), VB-H760VE VB-H751LE (H2) VB-H751LE-H, VB-H751LE VB-M741LE (H2) VB-M741LE-H, VB-M741LE VB-M740E (H2), VB-M740E	
工場出荷設定： 設定値変更 (IPv4、管理者アカウント、フォーカス)	○	○	●*5	P. xii
工場出荷設定： 設定値変更 (DNS、カメラ名、デイナイト、メモリーカードの操作)	○	●	●	P. xii
工場出荷設定： 設定値変更 (ユーザー権限)	●	●	●	P. xii
設定名称： ビットレート制御内容の表示	○	●	●	P. xii

*1 オートフォーカス機能がある機種のみ

*2 光学ズーム機のみ

*3 音声送受信機能がある機種のみ

*4 VB-R11VE (H2)、VB-R11VE、VB-R11、VB-R10VE (H2)、VB-R10VE、VB-M641VE、VB-M641V、VB-M640VE、VB-M640V、VB-M741LE (H2)、VB-M741LE-H、VB-M741LE、VB-M740E (H2)、VB-M740E のみ

*5 IPv4、管理者アカウント：

VB-R11VE (H2)、VB-R11VE、VB-R11、VB-R10VE (H2)、VB-R10VE、VB-M641VE、VB-M641V、VB-M640VE、VB-M640V、VB-M741LE (H2)、VB-M741LE-H、VB-M741LE、VB-M740E (H2)、VB-M740E のみ

フォーカス：

VB-H651VE、VB-H651V、VB-M641VE、VB-M641V、VB-M640VE、VB-M640V のみ

動作環境

最新のファームウェアに対応する動作環境は次のとおりです。

■ PC環境詳細

CPU (推奨)	Intel Core i7-2600 以上	
グラフィックボード (推奨)	指定なし	
メモリー (推奨)	2 GB 以上	
ビューワー用ディスプレイ (推奨)	1920 x 1080 以上	
OSとWebブラウザ	Windows 7 Ultimate/Windows 7 Professional/ Windows 7 Enterprise/Windows 7 Home Premium SP1 32/64-bit	Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows 8.1/Windows 8.1 Pro/Windows 8.1 Enterprise 32/64-bit* ¹	Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows 10 Pro/Windows 10 Enterprise/Windows 10 Education/Windows 10 Home 32/64-bit	Internet Explorer 11 32/64-bit, Microsoft Edge* ² , Chrome 65* ²
	Windows Server 2008 Standard SP2 32/64-bit	Internet Explorer 9 32-bit
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1 64-bit	Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows Server 2012 Standard 64-bit* ¹	Internet Explorer 10 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows Server 2012 R2 Standard 64-bit* ¹	Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows Server 2016 Standard 64-bit	Internet Explorer 11 64-bit, Chrome 65* ²
	– JavaScript、IFRAME (HTMLタグ)、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	
OS言語	設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー： ドイツ語/英語/スペイン語/フランス語/イタリア語/ポーランド語/ロシア語/ トルコ語/タイ語/韓国語/中国語 (簡体字)/日本語	

*1 Windowsのスタート画面では動作しない

*2 映像表示 (H.264)、音声送受信は非対応

■ 動作確認済モバイル端末 (設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー)

– 2018年4月時点

モバイル端末	OS	Webブラウザ
Surface 3	Windows 10 Home 64-bit	Internet Explorer 11, Microsoft Edge* ¹
	– JavaScript、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	
iPad Pro 12.9-inch	iOS 10.3.3	Safari* ¹
iPad Pro 10.5-inch	iOS 11.3	
iPhone 7* ²	– JavaScript、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	
iPhone 8 Plus* ²		
iPhone X* ²		
Nexus 9	Android 7.1.1	Chrome 65* ¹
Galaxy Tab S 8.4	Android 4.4.2	Chrome 65* ¹
Nexus 6P* ²	Android 8.1	Chrome 65* ¹
Galaxy S8* ²	Android 8.0	Chrome 65* ¹

*1 映像表示 (H.264)、音声送受信は非対応

*2 設定ページ、カメラビューワーは非対応

カメラの初期設定

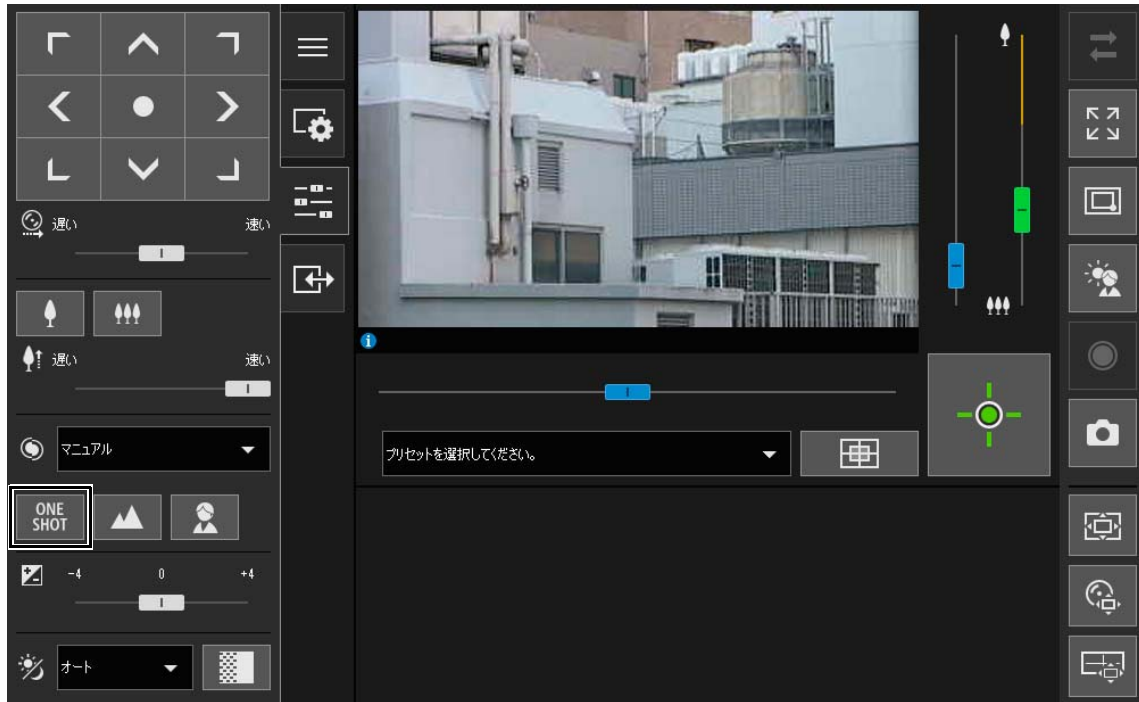
[管理者アカウント] の工場出荷設定は空欄となりました。ファームウェア更新後、工場出荷設定に戻したときは初回アクセス時に、[管理者名] と [パスワード] の設定が必要になります (本変更は、ファームウェアバージョン 1.1.8 から対応済み)。

Webブラウザから初回アクセスしたときに表示される初期設定画面

カメラマネジメントツールを使用して初期設定を行う場合は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

■ 映像を調整する > フォーカスを合わせる

カメラビューワーにおいても、ワンショットAFの操作が可能になりました。



[ワンショットAF] ボタン

[フォーカス] が [マニュアル] の場合に使用します。 をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後に、マニュアルモードになります。

重要

フォーカスの使用についての注意事項と、フォーカスの合う範囲については、『操作ガイド』の記載をご確認ください。

■ スナップショットを保存する

次の [メモ] が変更になりました。

変更前

- スナップショットはJPEGファイルで保存されます。

変更後

- スナップショットの保存形式は、使用するWebブラウザによって異なります。

■ [基本] > [ユーザー管理]

登録ユーザーのパスワード設定時に、確認用パスワードの入力が必要になりました。

基本

ネットワーク

ユーザー管理

日付と時刻

映像

ビューワー

カメラ

映像と音声

サーバー

ユーザー管理

再起動

適用

クリア

管理者アカウント

管理者名 5~15文字

パスワード 8~31文字

パスワード(確認用) 8~31文字

登録ユーザーアカウント

ユーザー名 5~15文字

パスワード 8~31文字

パスワード(確認用) 8~31文字

追加

[パスワード(確認用)]

上と同じパスワードを確認のため入力します。

■ [カメラ] > [起動時設定]

[簡単カメラ設定] の [動き優先] 選択時に表示される [露出]、[シャッターリミット (低速)]、[シャッターリミット (高速)]、[シャッタースピード] の推奨値を変更しました。また、性能向上に伴い、[簡単カメラ設定] の [動き優先] と [深度優先] の留意点を変更します。

基本

カメラ

起動時設定

デナイトフォーカス

パンラマ

可視範囲

プリセット

プリセット巡回

映像と音声

サーバー

映像記録

イベント

セキュリティ

メモリーカード

メンテナンス

起動時設定

適用

クリア



カメラ位置

パン/チルト/ズーム位置

登録する

デジタルPTZ位置

登録しない

カメラ設定

簡単カメラ設定

種類を選択してください

フォーカス

オート

[簡単カメラ設定]

種類	動き優先
[露出]	オート
[シャッターリミット (低速)]	1/1000 (秒)
[シャッターリミット (高速)]	1/16000 (秒)
シャッタースピード	-

重要

[簡単カメラ設定] では、次の留意点があります。

[動き優先]

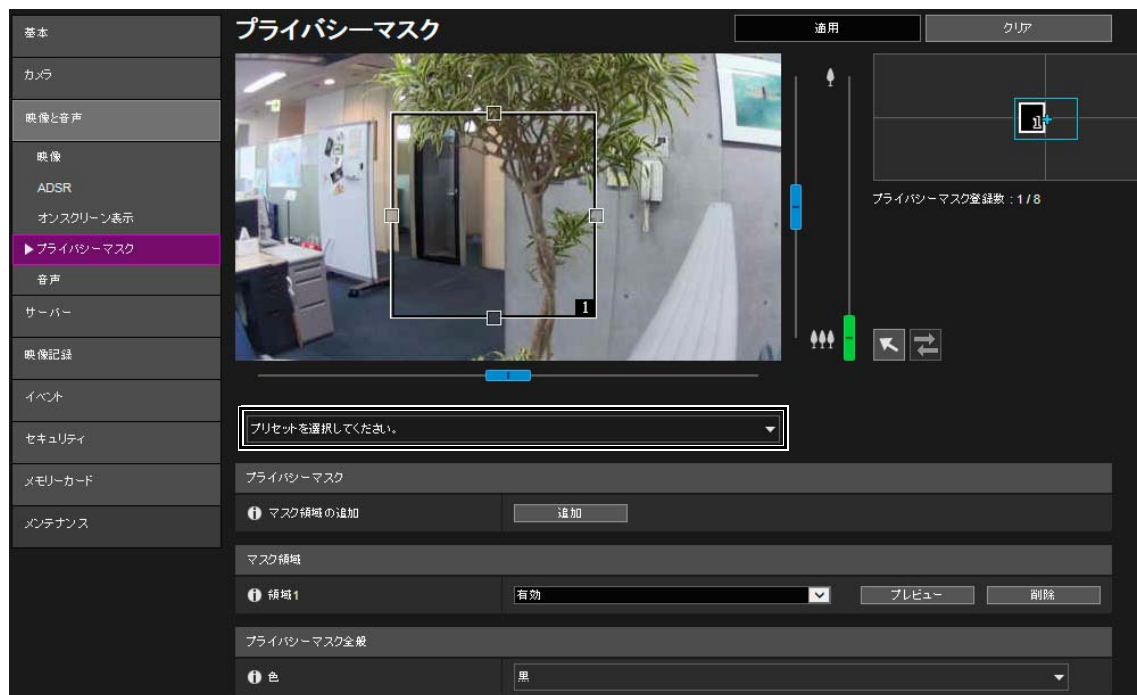
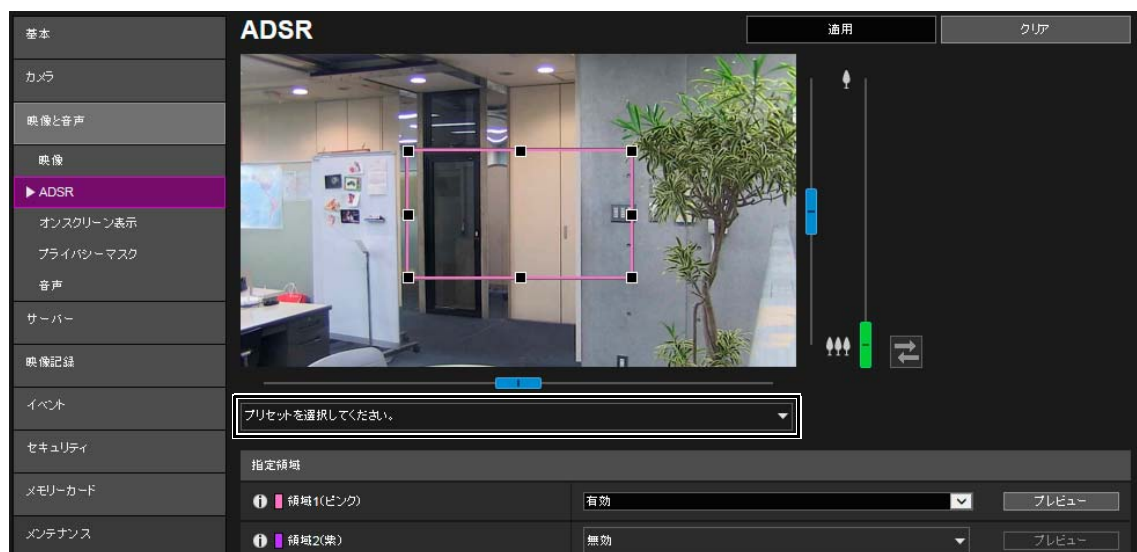
- 蛍光灯などの影響によりフリッカーが発生する場合があります。
- 低照度時において [標準設定] と比べて映像が暗くなったり、ノイズが増える場合があります。

[深度優先]

- 低照度時において [標準設定] と比べて映像が暗くなったり、ノイズが増える場合があります。

■ [映像と音声] > [ADSR] / [映像と音声] > [プライバシーマスク]

ADSRの指定領域とプライバシーマスク領域の設定で、カメラアングルを変更する場合、スライダー操作に加えて、プリセット選択ボックスからプリセットを選択できるようになりました。



■ [映像と音声] > [オンスクリーン表示]

[テキスト表示] で、[指定文字列を表示する] の選択時に設定できる [テキスト文字列] の入力文字数が増え、最大で40文字以内になりました。

メモ

- ・ 英語以外の文字列を表示する場合は、オンスクリーン表示アシストツールを使用します (ただし、タイ語には対応していません)。詳細については、『オンスクリーン表示アシストツール 使用説明書』を参照してください。
- ・ [テキスト表示] と [日付表示] [時刻表示] を同じ行に並べると、文字列が途切れる場合があります。文字列が重なった場合、[テキスト表示位置] を [右上] または [右下] に設定したものが優先して表示されます。
- ・ 映像サイズやテキスト表示の文字数、表示位置によっては、すべての文字列が表示されないことがあります。映像サイズ、オンスクリーン表示の設定変更を行った場合は、表示内容を確認してください。

■ [映像と音声] > [音声]

[音声入力の使用] の有無および [音声通信方式] の選択ができるようになりました。また、音声入力の [現在の音量レベル] も表示されるようになりました。

[音声入力の使用]

マイクからの音声使用の有無を選択します。[使用する] を選択すると [音声サーバー] > [カメラからの音声送信]、[イベント] > [音声検知] > [音量検知イベント] など音声入力にかかわる機能が使用できます。[使用しない] を選択し [適用] すると、次の設定項目が固定となり、音声入力機能が無効になります。

- [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] > [送信しない]
- [サーバー] > [RTPサーバー] > [RTPストリーム1] ~ [RTPストリーム5] > [音声送信] > [使用しない]
- [イベント] > [音声検知] > [音量検知] > [音量検知イベント] > [使用しない]
- [イベント] > [音声検知] > [悲鳴検知] > [悲鳴検知イベント] > [使用しない]

[現在の音量レベル]

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に、現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。

[音声通信方式]

音声送受信方法を選択します。

[半二重]

マイクとスピーカーが近くにある場合に発生するハウリングを防ぐことができます。ただし、カメラがビューワーからの音声を受信しているときや、音声ファイル再生中は、カメラからビューワーへの音声送信が無音になります。そのため、ビューワーの[音声受信] ボタンがアクティブ(紫)でも、マイクからの入力音声は聞こえません。

[全二重]

カメラがビューワーからの音声を受信しているときでも、カメラからビューワーへ音声送信ができます。

■ [メンテナンス] > [全般]

[初期化] > [ネットワーク設定] > [保持する] を選択した場合、新たに下線の項目が保持されるようになりました。



[ネットワーク設定]

[保持する] に設定した場合、次の設定を残して初期化します。

- ・ 管理者名
- ・ 管理者パスワード
- ・ ネットワーク設定
- ・ NTPサーバー
- ・ HTTPサーバー
- ・ ホストアクセス制限
- ・ タイムゾーン
- ・ 証明書
- ・ 秘密鍵
- ・ IPsec

[保持しない] に設定した場合、上記設定も含めて初期化します。

管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください。

■ [メンテナンス] > [ファームウェア更新]

[ファームウェア更新] > [初期設定に戻す] > [戻す] を選択した場合に保持される項目は、前項の [初期化] > [ネットワーク設定] > [保持する] と同様に変更されました。

■ 工場出荷設定一覧

工場出荷設定の設定値を次のように変更しました。

項目	変更前	変更後
・ IPv4 IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定	自動設定 (DHCP)
・ DNS ネームサーバーアドレスの自動設定	使用しない	DHCP / DHCPv6を使用する
・ 管理者アカウント 管理者名 パスワード	設定値あり	設定値なし
・ ユーザー権限 一般ユーザーのカメラ権限	映像配信+一般カメラ制御	アクセス権限なし
・ ユーザー権限 一般ユーザーの音声配信	配信する	配信しない
・ カメラ名 カメラ名 (半角英数字)	Camera	機種名 (例) VB-M50B
・ カメラ設定 フォーカス	マニュアル	オート
・ カメラ設定 デイナイト	デイモード	オート
・ メモリーカードの操作 映像の上書き	無効	有効

🗉 メモ

工場出荷設定のカメラは、DHCPでIPアドレスを取得する設定になるため、カメラマネジメントツールでのカメラの検出は、DHCP環境で実行するか、もしくはIPv6環境で実行してください。これらの環境以外で設定する場合は、『操作ガイド』の「DHCPサーバーがない環境でのネットワーク設定」を参照してください。

■ 設定名称の変更

🗉 メモ

お使いのカメラによっては、下記以外の設定名称も変更されています。

[基本]>[映像]>[H.264(1)]と[H.264(2)]において、[ビットレート制御]の設定名称を変更しました。

- ・ [ビットレート制御する] → [ビットレート制御する (固定ビットレート)]
- ・ [ビットレート制御しない] → [ビットレート制御しない (可変ビットレート)]

その他の変更情報

ファームウェアの更新に伴う変更以外に、次の項目について『操作ガイド』の説明を変更します。
説明変更の対象機種は、次のとおりです。

変更情報	対象機種			
	VB-H45, VB-M44 VB-H730F Mk II VB-S30D Mk II VB-S31D Mk II VB-S800D Mk II VB-S900F Mk II VB-S805D Mk II VB-S905F Mk II	VB-S30VE VB-S800VE VB-S910F	VB-R13VE (H2), VB-R13VE VB-R13, VB-R11VE (H2) VB-R11VE, VB-R11 VB-R12VE (H2), VB-R12VE VB-R10VE (H2), VB-R10VE VB-M50B, VB-H652LVE VB-H651VE, VB-H651V VB-M641VE, VB-M641V VB-M640VE, VB-M640V VB-H761LVE (H2) VB-H761LVE-H, VB-H761LVE VB-H760VE (H2), VB-H760VE VB-H751LE (H2) VB-H751LE-H, VB-H751LE VB-M741LE (H2) VB-M741LE-H, VB-M741LE VB-M740E (H2), VB-M740E	
RMシリーズ販売終了について	●	●	●	P. xiii
セットアップCD-ROM 製品同梱終了について		●	●	P. xiv
日常のお手入れ	●	●	●	P. xv
操作ガイドの改訂： カメラビューワの操作に必要な権限	●	●	●	P. xvi
操作ガイドの改訂： [映像記録] > [アップロード]	●	●	●	P. xvi
操作ガイドの改訂： [イベント] > [タイマー]	●	●	●	P. xvi
操作ガイドの改訂： [無限遠固定]	●	●	●	P. xvi
操作ガイドの改訂： トラブルシューティング	●	●	●	P. xvii
操作ガイドの改訂： ビューワーメッセージ	●	●	●	P. xvii
操作ガイドの改訂： 工場出荷設定一覧	●		●	P. xvii

RMシリーズ販売終了について

ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRMシリーズの販売は終了しました。
これに伴い、録画ソフトウェアRM-Liteの配布も終了しました。

セットアップCD-ROM 製品同梱終了について

セットアップCD-ROMの製品同梱は終了しました。

これに伴い、セットアップCD-ROMに収録されていたソフトウェア、使用説明書、ソフトウェアの使用許諾契約など各種ファイル情報の提供方法が次のとおり変更になりました。

種類	名前	提供方法
ソフトウェア	ネットワークビデオレコーディングソフトウェア RM-Lite	配布終了
	カメラマネジメントツール	ホームページからダウンロード canon.jp/nvs-app インストーラー名 : VBToolsInstall.exe
	録画映像ユーティリティ	
	オンスクリーン表示アシストツール* ¹	
ライセンス	ソフトウェアの使用許諾契約	設定ページに表示 [メンテナンス] > [全般] > [表示と実行] > [ライセンスを見る]
	第三者のソフトウェア	
使用説明書	操作ガイド	ホームページからダウンロード canon.jp/nvs-app
	主な仕様	
	モバイルカメラビューワー 操作ガイド	
	カメラマネジメントツール 使用説明書	
	録画映像ユーティリティ 使用説明書	
	オンスクリーン表示アシストツール 使用説明書* ¹	
音声ファイルのサンプル	サウンドサンプル* ²	

*¹ オンスクリーン表示アシストツールに対応する機種および言語のみ

*² 音声送受信機能がある機種のみ

日常のお手入れ

日常のお手入れの説明を改訂します。

■ 映像の確認

定期的に、設定した撮影範囲からずれていないか、フォーカスが合っているかなどを確認します。
必要に応じて再調整してください。

■ 清掃方法

作業を開始する前に、電源を切ってください。

ドームカバー、トップカバーおよび保護窓のお手入れ

- 1 ホコリや砂粒などの付着物をきれいな水 (水道水など) で流します*。
*屋内専用のカメラ (VB-H730F Mk II、VB-S30D Mk II、VB-S800D Mk II、VB-S805D Mk II、VB-R13、VB-R11、VB-H651V、VB-M641V、VB-M640V) は、直接水で洗い流せないため、きれいな水で湿らせたやわらかい布で拭きます。
- 2 指紋や油分など水だけで取れない汚れは、食器用中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかいスポンジや布に含ませ、やさしく拭き取ります。
- 3 水滴や洗剤が残らないように、きれいな水で湿らせたやわらかい布で拭きます**。
** VB-H761LVE-H、VB-H751LE-H、VB-M741LE-Hは、洗剤をきれいな水 (水道水など) で流し、自然乾燥させます。

重要

誤った清掃方法により、ドームカバーやトップカバー、保護窓に傷がついた場合、有償による交換が必要となるため、次の点に注意してお手入れしてください。

- ・ ホコリ、砂粒、指紋などの汚れにより、オートフォーカスがうまく動作しなかったり、逆光や赤外照明が反射して映像が白く曇ることがあります。映像品質を維持するためには定期的な清掃が必要です。
- ・ 乾いた布では拭かないでください。特に付着した汚れを取り除かず、そのまま布などで拭くことは絶対にしないでください。ドームカバー、トップカバーおよび保護窓を傷つける原因になります。
- ・ 親水コーティングモデルは次の点もご注意ください。
 - 清掃に使うスポンジや布は、新品であってもコーティングの効果を低下させる不純物が付着している場合がありますので、食器用中性洗剤で洗ってからお使いください。
 - 霧吹きによっては潤滑材などの不純物の影響でコーティングの効果を低下させる場合がありますので、霧吹きはできるだけ使用しないことをおすすめします。

親水コーティングモデルには、製品外装カバーに『親水コーティングモデルラベル』が貼付されています。



レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とします。

- ・ レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因になります。
- ・ レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。

■ カメラビューワの操作に必要な権限

次のメニューやボタンは、登録ユーザーおよび一般ユーザーのすべての権限を無効にしても、使用できます。

[メイン] メニュー

- 言語切り替えボタン
- [ユーザー切り替え]
- [設定ページ]
- [モバイルカメラビューワー]

[再接続] ボタン

インフォメーション表示

■ [映像記録] > [アップロード]

次の重要文は不要になりました。



重 要

HTTPまたはFTPでのアップロード、メール通報先にWindows系OSを設定する場合、IPsec通信は対応しません。

■ [イベント] > [タイマー]

タイマーイベントの説明を改訂します。

[24時間連続設定]

[有効] に設定し、[繰り返し間隔] に [なし] 以外を設定すると、[開始時刻] によらず [繰り返し間隔] の間隔でタイマーイベントが繰り返し発生します。[繰り返し間隔] に [なし] を設定したときは、[開始時刻] にだけタイマーイベントが発生します。

なお、[有効] に設定したときに実行できる動作は、[映像記録] のみとなります。

■ [無限遠固定]

フォーカスの [無限遠固定] の説明を改訂します。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカス位置を移動します。

より厳密にフォーカスを合わせたい場合は、[マニュアル] を選択してフォーカスを調整します。

■ トラブルシューティング

次の問題に、対処方法を追加します。

問題	対処方法
カメラに接続できない 映像が表示されない 音声を利用できない* ビューワーの接続が切れる	ご利用のセキュリティソフトウェアで、カメラや問題が発生したソフトウェアの除外設定を行ってください。
カメラビューワーが起動できない	- カメラビューワー起動時に、発行元不明によるファイルブロックのセキュリティ警告が表示された場合は、次のいずれかの対応を行ってください。 - インターネット接続環境でカメラを使用している場合は、最新の状態にWindows Update実施後、カメラビューワーを起動してください。 - インターネット接続不可の環境の場合は、接続可能なPCでキャノンダウンロードサイトよりルート証明書インストーラーをダウンロードし、対象の環境にインストールしてください。
カメラビューワーで一部機能が使用できない	『操作ガイド』の「カメラのIP アドレスを信頼済みサイトとして追加する」の手順に従い、[セキュリティ] 設定で、このWebサイトを [信頼済みサイト] に追加し、信頼済みサイトの保護モードを無効にしてください (Windows Serverを使用していない場合も同様に行ってください)。 - Internet Explorer以外のWebブラウザをお使いの場合、もしくは、Internet Explorerで、Canon Network Camera Addon Moduleが正しくインストールされていない場合は、次の機能を使用できません。 - 音声の受信/送信* - H.264映像の受信/再生

*音声送受信機能がある機種のみ

■ ビューワーマッセージ一覧> 警告メッセージ

次のメッセージの、説明を改訂します。

メッセージ	説明
ActiveXが無効になっています。	Webブラウザ設定でActiveXの利用が無効化されている、またはセキュリティ設定でActiveXからシステムの機能にアクセスできない場合。 ActiveXが有効であるにもかかわらず、プロキシサーバーを使用する環境でこのメッセージが表示された場合は、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシサーバーを使用する] をチェック > [詳細設定] > [例外] に、カメラのIPアドレスを指定してください。

■ 工場出荷設定一覧

次の項目の、設定値を改訂します。

項目	設定値
・ カメラ設定 シャッタースピード	1/100

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com)



ネットワークカメラ 操作ガイド



VB-S30VE
VB-S800VE
VB-S910F

ご使用の前に必ずこの使用説明書をお読みください。

日本語

はじめに

キヤノンネットワークカメラ (以下、カメラ) をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます*。
この『操作ガイド』は、カメラの設定や操作方法について説明しています。ご使用前によくお読みになり、カメラを正しく利用してください。また、セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダ内のファイルも必ずお読みください。

* 本書に記載しているカメラには、国または地域によって販売していない機種もあります。

製品に関する最新情報 (ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。

製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

この製品の使用に関するご注意 (免責事項)

■ ネットワークセキュリティ

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で行ってください。
不正アクセスなどネットワークのセキュリティ上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。

<対策例>

- カメラのパスワードを定期的に変更する。
- カメラのHTTP、HTTPSポート番号を変更する。
- 通信機器でカメラへのアクセス制限を行う。

その他、対策のポイントについては、次のホームページでも紹介しています。合わせてご確認ください。

<http://cweb.canon.jp/e-support/information/security/index.html>

■ ラジオやテレビなどへの電波障害

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
VB-S30VE、VB-S800VEは、シールドネットワークケーブル(STP)を使用して接続してください。

VCCI-B

■ 法的な注意事項

お客様は、本製品の使用に関して、プライバシー保護および肖像権に関係する全ての適用法令を順守する責任があります。場合によって、カメラまたは音響機器による監視または記録は、法令により制限または禁止されていることがあり、その詳細は国・地域によって異なります。お客様は、本製品を設置する前に、本製品が全ての適用法令に基づく法的要求を順守した方法によって設置されたことを確実にするために、お客様の国・地域の法令 (当該国・地域の州または地方自治体の法令を含む) を確認する必要があります。法令により要求される場合、マイクを使用しないでください。居住者または訪問者がプライバシー確保への期待を合理的に持つ可能性がある場所 (寝室、更衣室、トイレなど) に、本製品を設置しないでください。

本製品は、映像および音声を監視される全ての人物にとって明らかに視認できるように設置される必要があります。加えて、本製品により監視される全ての人物にとって明らかに視認できるように本製品に近接して目立つように表示された掲示物によって、当該人物に対して本製品が当該人物の映像および会話を記録していることを伝える必要があります。

本製品の設置、または、カメラまたは音響機器による監視または記録に関してお客様と第三者との間で紛争を生じた場合において、キヤノンはいかなる責任も負いません。

■ 著作権

お客様が撮影した映像や画像、録音した音声などは、著作権法上、権利者に無断で使用・公開することはできませんのでご注意ください。

■ 同梱ソフトウェアRM-Liteの使用

RM-Liteの不具合などにより、録画ができなかったり、録画データが破壊、消失する場合があります。これにより生じるお客様の損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

■ CMOSセンサーについて

ネットワークカメラで動きの速い被写体を撮影したときや、撮影中に画角が変化したときに被写体が斜めに曲がって見えることがあります。

これはCMOS撮像素子を使用した場合に発生する現象であり、ネットワークカメラの異常ではありません。

同梱ソフトウェアの使用許諾契約

同梱ソフトウェアの使用許諾契約については、同梱セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダの中のBundledSoftwareフォルダ内にある次のファイルをご覧ください。

ソフトウェアの種類	ファイル名
カメラマネジメントツール	VBTools-J.txt
録画映像ユーティリティ	
オンスクリーン表示アシストツール	
ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite	RM-Lite-J.txt

This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

商標

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Windows Server、Microsoft Edge、SurfaceおよびActiveXは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- 本製品には、Microsoft社より使用を許諾されたexFATファイルシステムの技術が組み込まれています。
- iPhone、iPad、iPad mini、iPad Air および Safari は、Apple Inc. の商標です。
- microSD、microSDHC、microSDXCロゴはSD-3C、LLCの商標です。
- ONVIF®は、Onvif, Inc. の商標です。
- その他、本書に記載された商品名、社名などは各社の商標または登録商標です。

第三者のソフトウェア

この製品 (カメラおよび同梱のRM-Lite) には、第三者のソフトウェアモジュールが含まれています。詳細は同梱セットアップ CD-ROM の LICENSE フォルダの OpenSourceSoftware フォルダ内「ThirdPartySoftware-J.pdf」をご覧ください。また、各モジュールのライセンス条件につきましては、同じフォルダに含まれていますのでご覧ください。

GPLおよびLGPLで許諾されるソフトウェアについて

GPLおよびLGPLに基づき、ソースコードの入手を希望されるお客様は、次の情報を記載の上、日本語または英語で nvsoss@mail.canon まで電子メールでご連絡ください。

1. 製品名称およびファームウェアのバージョン
2. 入手を希望されるソフトウェアモジュールの名称

ソースコードはお客様が本製品を購入された日より、少なくとも3年間はお入手いただけます。なお、ソースコードをご提供するにあたり、弊社からご提供に要した実費をご請求させていただく場合もございますので、その旨ご了承ください。

輸出規制

本製品は、安全保障輸出規制貨物に該当します。そのため、輸出または海外に持ち出す場合は、関係当局の許可が必要となる場合があります。

使用説明書について

使用説明書の種類

カメラの使用説明書には、次のものがあります。各使用説明書を参照していただきたい部分には、その使用説明書名を記しています。

同梱の説明書

「設置ガイド」

カメラ設置上の注意、設置手順を説明しています。

セットアップCD-ROM収録の説明書

「操作ガイド」(本書)

カメラの初期設定、カメラビューワの操作、設定ページでの各種設定、トラブルシューティングなどを説明しています。

「モバイルカメラビューワ 操作ガイド」

モバイルカメラビューワの詳しい使いかたについて説明しています。

「付録 主な仕様」

カメラの仕様一覧です。

「カメラマネジメントツール 使用説明書」

カメラマネジメントツールの詳しい使いかたについて説明しています。

「録画映像ユーティリティ 使用説明書」

録画映像ユーティリティの詳しい使いかたについて説明しています。

「オンスクリーン表示アシストツール 使用説明書」

オンスクリーン表示アシストツールの詳しい使いかたについて説明しています。

ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite「システム管理者マニュアル」

録画ソフトウェアRM-Lite (P. 18) の詳しい使いかたについて説明しています。

■ ご注意

- 1 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 2 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3 本書の内容については万全を期して作成しましたが、お気づきの点がございましたら、裏表紙に記載のお客様相談センターまでご連絡ください。
- 4 運用した結果の影響につきましては、上記2項、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書の使いかた

本書はPCの画面上に表示して読むことを想定しています。

■ ソフトウェアの画面例

本書に記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。

説明には、OSはWindows 8.1、WebブラウザはInternet Explorer 11を使用して、VB-S30VEを接続した画面例を基本的に使用しています。

また、映像サイズセットは、[1920x1080/960x540/480x270] を選択している場合で説明しています。ほかの映像サイズセットをご利用の場合は、映像サイズを置き換えてお読みください。

本書で使用している記号

■ カメラ機種を示す記号

機種ごとに異なる機能の説明については、機種名や次の記号を記載しています。

記号	カメラ機種
	VB-S30VE
	VB-S800VE
	VB-S910F

■ 安全上の注意を示す記号

この『操作ガイド』で使用している記号について説明します。製品を安全にお使いいただくための注意事項や、使用に際しての重要事項/補足説明などには次のような記号を使用しています。表示の内容を十分理解して作業してください。

記号	意味
 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。必ずこの注意事項をお守りください。
 火災注意  感電注意	これらの記号を無視して取り扱いを誤った場合に、火災の発生や感電の可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 禁止  分解禁止  水ぬれ禁止	これらの記号は、禁止事項を示しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれている場合もあります。
 指示	この記号は、必ず実行していただく指示の内容を示しています。
 重要	この記号は、重要事項や制限事項が書かれています。必ずお読みください。
 メモ	操作の参考になることや補足説明が書かれています。

安全にお使いいただくために

カメラをお使いいただくうえで、必ず守っていただきたい注意事項について説明します。
守られない場合、けがや死亡事故、物的損害が発生することがありますので、よくお読みになったうえ、必ずお守りください。

注意事項

■ 使用上の注意

警告	
 指示	発煙、異音、発熱、異臭などの異常を発見したときは、直ちに使用を中止し、最寄りの販売店にご連絡ください。 継続して使用すると火災、感電の原因になります。
 禁止  分解禁止  水ぬれ禁止  火災注意  感電注意	次の点に注意してください。火災、感電の原因になります。 - 雷が鳴り始めたら、設置や点検などの作業を中止し、カメラや接続ケーブルなどに触れないでください。 - 分解、改造はしないでください。 - カメラに水をかけたり濡らしたりしないでください。S910F - カメラの内部に水や金属などの異物を入れないでください。 - カメラの近くで可燃性のスプレーを使用しないでください。 - カメラを長期間使用しないときは、カメラにLANケーブルを繋いだままにしないでください。 - 接続ケーブル類を傷つけないでください。
 禁止	医療機器などの人命に関わるシステムには使用しないでください。 PCやネットワークの環境によっては映像の遅延や欠落が発生するため高精度の映像伝送は保証できません。 上記の場合にカメラを使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

注意	
 禁止	次の点に注意してください。故障の原因になることがあります。 - 太陽、ハロゲン灯など高輝度の光源や被写体を撮影しないでください。 - カメラに強い衝撃や振動を与えないでください。 - カメラヘッドまたはレンズ部に触らないでください。 - カメラ回転部を手で回さないでください。S30VE

■ カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意

注意	
 禁止	カメラに搭載されている次の機能および同梱ソフトウェアは、常に高い信頼性が要求される用途では使用しないでください。 - インテリジェント機能 - ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite これらの機能は高精度の撮影を保証するものではなく、一定範囲を超えると対応できません。これらの機能を使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

■ お手入れに関する注意

⚠ 警告	
 禁止  火災注意  感電注意	アルコールやシンナー、ベンジンなど引火性溶剤は使用しないでください。 火災、感電の原因になります。
⚠ 注意	
 指示	取付金具やネジのさびつき、ネジの緩みがないか定期的に点検を行ってください。 点検は販売店にご依頼ください。 落下によるけがや機器の破損の原因になります。

日常のお手入れ

お手入れは、電源を切って行ってください。

■ 外装のお手入れ

- 1 柔らかい布を水またはうすい中性洗剤で湿らせ、軽く汚れを拭き取ります。
- 2 乾いた布で拭きます。



重要

トップカバーや保護板に汚れがつくと、オートフォーカスがうまく動作しなかったり、画質が低下したりする原因となります。定期的にお手入れしてください。

■ レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とします。

- レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因になります。
- レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。 **S30VE** **S910F**

カメラの廃棄

カメラを廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

その際、メモリーカードの抜き忘れに十分ご注意ください。

	はじめに	2
	この製品の使用に関するご注意 (免責事項)	2
	同梱ソフトウェアの使用許諾契約	3
	商標	3
	第三者のソフトウェア	4
	輸出規制	4
	使用説明書について	5
	使用説明書の種類	5
	本書の使いかた	5
	本書で使用している記号	6
	安全にお使いいただくために	7
	注意事項	7
	日常のお手入れ	8
	カメラの廃棄	8
1 章	ご使用の前に	
	ネットワークカメラでできること	16
	カメラのソフトウェア	17
	カメラの操作と設定	17
	セットアップCD-ROM収録のソフトウェア	17
	オプションのソフトウェア/ライセンス	19
	動作環境	20
	PC環境詳細	20
	動作確認済モバイル端末 (設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー)	
	– 2016年5月時点	21
	カメラを使用するまでの流れ	22
	Step 1 設置前の準備	22
	Step 2 カメラとの接続を確認する	22
	Step 3 カメラを設置する	22
	Step 4 カメラビューワーを使う	22
	Step 5 運用に合わせて詳細設定する	23
	困ったときは	23
2 章	カメラのセットアップ	
	ソフトウェアをインストールする	26
	必要なソフトウェア	26
	インストール	26
	セキュリティを確認/設定する	29
	ファイアウォールの設定を確認する	29
	カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして追加する	30
	Windows Server使用時の設定	31
	カメラを初期設定する	34
	カメラマネジメントツールを起動する	34
	カメラを検出する	34
	ネットワークの設定をする	36

信頼済みサイトに追加する	37
映像を確認する	37
Webブラウザからカメラにアクセスする	38

3章 カメラビューワー

カメラビューワーで映像を見る	42
カメラビューワーを起動する	42
管理者や登録ユーザーに切り替える	44
カメラビューワーの画面構成	47
インフォメーションを確認する	52
受信映像サイズや表示画面サイズを変更する	53
受信映像サイズ/フォーマット、表示画面サイズを変更する	53
全画面表示にする	54
カメラを操作する	57
カメラ制御権を取得する	57
パン・チルト・ズームを操作する	58
映像を調整する	62
逆光補正を使用する	63
プリセット/ホームポジションを使用する	64
ビューワー PTZとデジタルPTZ	65
映像の一部を拡大して表示する (ビューワー PTZ)	65
映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ)	66
スナップショットを保存する	69
メモリーカードに映像を記録する	70
映像を手動録画する	70
録画した映像を確認する	70
音声を受信・送信する	71
音声を受信する	71
音声を送信する	71
イベント検知の状態を確認する	73
外部デバイス出力を操作する	73
イベント検知の状態を確認する	73

4章 設定ページ

設定ページの使いかた	76
設定ページにアクセスする	76
設定ページ共通の操作	77
映像表示部の操作について	78
各設定ページについて	80
[基本] > [ネットワーク]	
ネットワークを設定する	83
LAN	83
IPv4	83
IPv6	84
DNS	85
mDNS	86
[基本] > [ユーザー管理]	
アカウント、権限について設定する	87

管理者アカウント	87
登録ユーザーアカウント	87
ユーザー権限	88
[基本] > [日付と時刻]	
日付/時刻を設定する	89
現在の日付と時刻	89
設定	89
[基本] > [映像]	
映像のサイズや品質を設定する	91
映像全般	91
JPEG	92
H.264(1)	92
H.264(2)	93
[基本] > [ビューワー]	
ビューワーを設定する	94
全般	94
ビューワー設定	94
[カメラ] > [カメラ]	
カメラの制御全般を設定する	96
カメラ名	96
カメラ制御	96
デイナイト (オート設定時)	97
設置条件	97
カメラ位置制御	97
外部入力デバイス	98
外部出力デバイス	98
[カメラ] > [起動時設定]	
映像設定の初期値を設定する	99
カメラ位置	99
カメラ設定	100
[カメラ] > [パノラマ]	
パノラマ画像を作成する	106
パノラマ画像を作成する	106
パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルを開く	108
撮影時の設定	109
[カメラ] > [可視範囲]	
可視範囲を設定する	110
可視範囲を設定する	110
[カメラ] > [プリセット]	
プリセットを登録する	114
プリセットを登録する	114
[カメラ] > [プリセット巡回]	
プリセット巡回ルートを設定する	117
画面構成について	117
巡回ルートの設定	118
[映像と音声] > [ADSR]	
映像品質を部分的に下げてデータ量を低減する	120
指定領域	120

ADSR	121
[映像と音声] > [オンスクリーン表示]	
映像上に日時やテキストを表示する	123
オンスクリーン表示	123
[映像と音声] > [プライバシーマスク]	
プライバシーマスクを設定する	125
プライバシーマスクを登録する	125
プライバシーマスクを変更/削除する	127
[映像と音声] > [音声]	
音声の入出力について設定する	129
音声全般	129
音声サーバー	130
再生音ファイル登録1～3	130
[サーバー] > [サーバー]	
HTTP、SNMP、FTPの各サーバーについて設定する	132
HTTPサーバー	132
SNMPサーバー	132
SNMPv1, v2cサーバー	133
SNMPv3サーバー	133
FTPサーバー	133
WS-Security	134
[サーバー] > [映像サーバー]	
映像配信について設定する	135
映像サーバー	135
[サーバー] > [RTPサーバー]	
RTPの使用について設定する	136
RTPサーバー	136
音声マルチキャスト	136
RTPストリーム1～5	137
[映像記録] > [アップロード]	
HTTPやFTPでのアップロードについて設定する	139
映像記録設定	139
アップロード全般	139
HTTPアップロード	140
FTPアップロード	141
[映像記録] > [メール通報]	
メールでの通報を設定する	143
メール通報	143
[イベント] > [外部デバイス]	
外部デバイスからの入力があった場合の動作を設定する	145
外部デバイス出力	145
外部デバイス入力	146
[イベント] > [音声検知]	
異常な音声入力があった場合の動作を設定する	148
音量検知	148
[イベント] > [タイマー]	
指定時刻に実行する動作を設定する	150
タイマー 1～4	150

[イベント] > [インテリジェント機能]	
—概要—	152
インテリジェント機能とは	152
インテリジェント機能の設定・運用上の注意	155
プリセットを登録しておく	155
[イベント] > [インテリジェント機能]	
—映像検知—	156
映像検知設定の流れ	156
検知条件を設定する ([検知条件] タブ)	160
「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)	171
イベントの状態を確認する	171
検知領域/検知ライン、非検知領域、検知結果の表示を設定する (表示オプション)	171
照明変化の影響を軽減する (検知オプション設定)	172
右クリックメニューについて	172
[イベント] > [インテリジェント機能]	
—共通操作—	174
「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)	174
インテリジェント機能を再起動する	175
[イベント] > [デイナイト切り換え]	
デイナイト切り換え時にプリセットを実行する	176
デイナイト切り換え	176
[イベント] > [連結イベント]	
イベントを組み合わせて使用する	177
連結イベント1～4	177
連結イベントの動作例	179
[セキュリティ] > [ホストアクセス制限]	
アクセス制限を設定する	181
IPv4ホストアクセス制限	181
IPv6ホストアクセス制限	182
[セキュリティ] > [SSL/TLS]	
HTTP通信の暗号化を設定する	183
証明書	183
証明書の管理	184
暗号化通信	184
[セキュリティ] > [802.1X]	
ネットワークポートの認証について設定する	186
802.1X認証	186
認証方式	186
[セキュリティ] > [IPsec]	
IPsecを設定する	188
IPsec設定方法	188
自動鍵交換の設定	189
IPsecセット1～5	189
[メモリーカード]	
メモリーカードの操作と情報の表示を行う	192
映像記録設定	192
メモリーカードの操作	192
メモリーカードの情報	194

[メンテナンス] > [全般]	
カメラの機器情報の表示やメンテナンスを行う	196
機器情報	196
表示と実行	196
初期化	196
[メンテナンス] > [バックアップ/リストア]	
カメラの設定値を保存/復元する	198
バックアップ/リストア	198
[メンテナンス] > [ファームウェア更新]	
カメラのファームウェアを更新する	199
機器情報	199
ファームウェア更新	199
[メンテナンス] > [ログ]	
カメラのログ情報を確認/通知する	200
ログ表示	200
ログ通知	200

5章 付録

修飾子について	204
トラブルシューティング	206
ログメッセージ一覧	209
カメラのログメッセージ	209
エラーログ	209
警告ログ	213
通知ログ	217
ビューワーメッセージ一覧	221
インフォメーション表示に表示されるメッセージ	221
工場出荷設定に戻す	223
Web ブラウザーから初期設定に戻す	223
本体リセットスイッチで工場出荷設定に戻す	223
工場出荷設定一覧	225
索引	235

1章



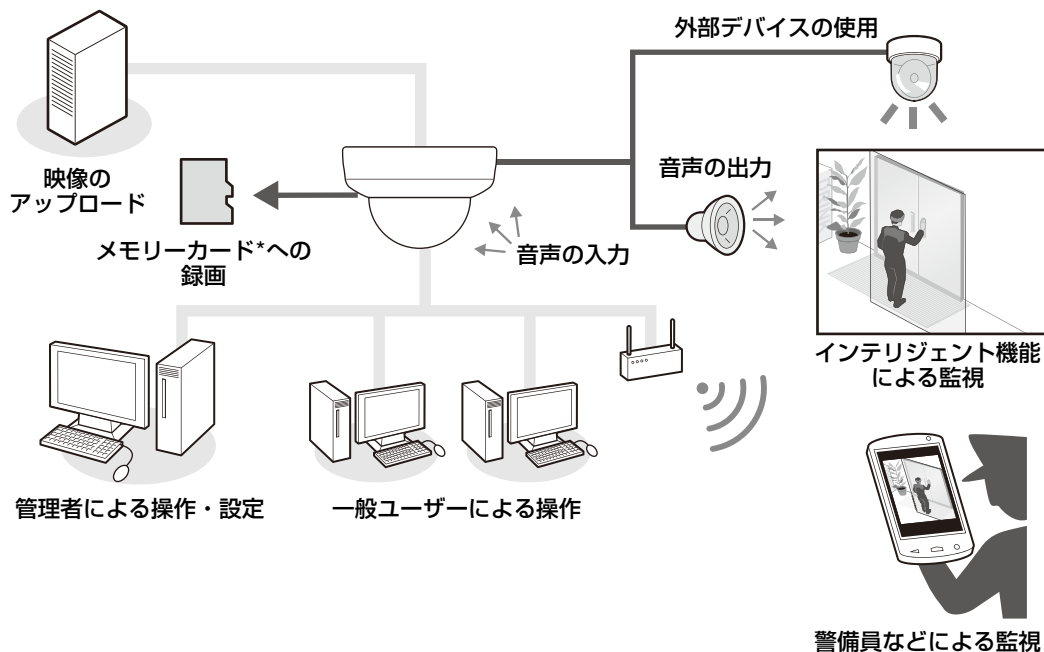
ご使用の前に

カメラの機能や使用するソフトウェア、カメラの動作環境について記載しています。
また、実際に運用するまでの準備・設定についての流れも説明します。

ネットワークカメラでできること

ネットワークカメラでは、カメラ操作だけでなく、映像の録画やアップロード、また、各種インテリジェント機能を使用した監視が可能です。

ただし、機種によって使用できる機能は異なります。機種による機能の違いについては、下表を参照してください。



* 本書では、カメラで使用できるメモリーカードのことを「メモリーカード」と表記します。



機種別機能対応表

機種によって搭載・非搭載の差分がある機能は、次のとおりです。

	S30VE	S800VE	S910F
パン・チルト	○	-	-
ズーム	○	-	○
フォーカス	○	-	○
プリセット巡回	-	○	-
イベントによるプリセット移動	○	-	○
パノラマ作成	○	-	-
可視範囲設定	○	-	○
映像表示の回転	-	○	○
プリセット最大登録数	65	21	

カメラのソフトウェア

カメラの設定や操作を効率よく行うソフトウェアには次のものがあります。

カメラの操作と設定

カメラの操作は、カメラビューワー / モバイルカメラビューワーを使います。

カメラの設定は、設定ページから各種設定をします。

■ カメラビューワー (P. 41) / モバイルカメラビューワー

カメラの制御や、映像・各種イベントをモニターします。

カメラビューワー (主にPC用)、モバイルカメラビューワー (主に、画面サイズが7インチ以下のデバイス用) があります。

ビューワーは、ユーザーの権限によって使用できる機能が異なります (P. 46)。

メモ

モバイルカメラビューワーの詳しい使いかたは、『モバイルカメラビューワー 操作ガイド』を参照してください。

■ 設定ページ (P. 75)

管理者がカメラの設定や管理に使用します。

セットアップCD-ROM収録のソフトウェア

同梱のセットアップCD-ROMから、PCにインストールして使用するソフトウェアです。

メモ

カメラマネジメントツールおよび録画映像ユーティリティを使用するには、.NET Framework 3.5 SP1 (Internet Explorer 9使用時) または .NET Framework 4.5 (Internet Explorer 10/11使用時) が必要です。

PCにインストールされていない場合、インストーラーを使用する際に自動的にインストールされます (P. 26)。

■ カメラマネジメントツール (P. 34)

カメラの初期設定からメンテナンスまで、複数台のカメラを一括管理するためのツールです。カメラマネジメントツールを使うと、カメラに対し次の設定・操作が可能です。

- カメラの検出
- カメラの各種設定
- ビューワーおよび設定ページの呼び出し
- ファームウェアの更新や設定値のバックアップ/リストア、メモリーカードの操作など、カメラの各種メンテナンス

本書では、このうちのカメラの初期設定方法を中心に説明しています (P. 34)。その他の使用方法や各種機能など、詳細情報は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

カメラマネジメントツールは、インストーラーからインストールできます。

インストーラーの保存先: セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > VBToolsInstall.exe

■ 録画映像ユーティリティ

カメラにマウントされているメモリーカードに記録された映像を、閲覧・管理するユーティリティです。録画映像ユーティリティを使うと、記録されている映像に対し次の設定・操作が可能です。

- 映像一覧の表示
- 映像の再生や削除
- 映像のPCへのダウンロード

使用方法や各種機能など、詳細情報は、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

録画映像ユーティリティは、インストーラーからインストールできます。

インストーラーの保存先：セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > VBToolsInstall.exe

■ オンスクリーン表示アシストツール

オンスクリーン表示機能 (P. 123) を使って映像上に任意の日本語文字列 (全角) を表示させるためのツールです。使用方法や各種機能など、詳細情報は、『オンスクリーン表示アシストツール 使用説明書』を参照してください。

オンスクリーン表示アシストツールは、インストーラーからインストールできます。

インストーラーの保存先：セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > VBToolsInstall.exe

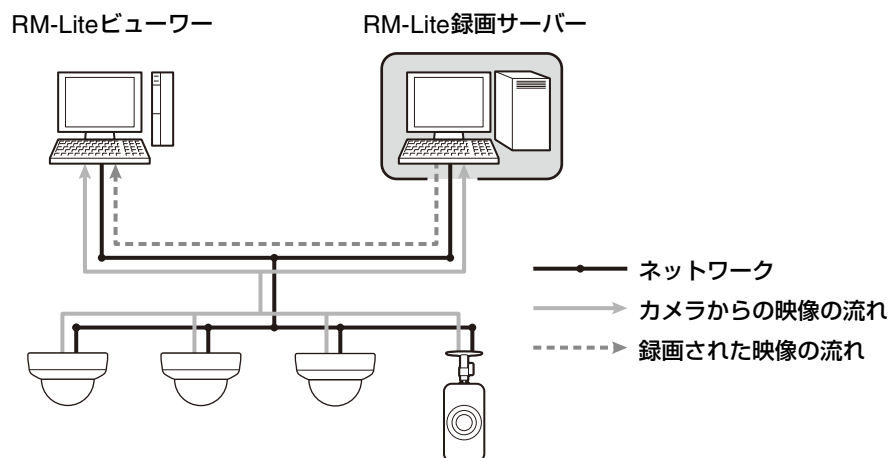
■ RM-Lite

ネットワーク経由で、最大4台のカメラの映像を表示・録画・再生できるソフトウェアです。

ソフトウェアの保存先：セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > RMLiteInstall.exe

RM-Liteのソフトウェア構成

種類	概要
RM-Lite録画サーバー	最大4台のカメラを登録して映像 (JPEG) を録画できます。
RM-Liteビューワー	録画サーバーに録画された映像の再生や、カメラのライブ映像 (JPEG/H.264) の表示ができます。 ビューワーに登録できるカメラは最大4台です。
RM-Liteマネージャー	カメラの登録や録画スケジュールの設定に使用します。



重要

RM-LiteビューワーおよびRM-Liteマネージャーを追加する場合は、RM-Lite-V (オプション) をお買い求めください。

 メモ

RM-Liteの使用方法、動作環境、機能などの詳細情報は、『システム管理者マニュアル』を参照してください。

オプションのソフトウェア/ライセンス

必要に応じて別途お買い求めください。

■ H.264追加ユーザーライセンス AUL-VB

複数のPCで、ビューワーおよび録画映像ユーティリティからH.264映像を見るための追加ライセンスです。
カメラ1台につき、1ライセンスは付いています。1台のカメラのH.264映像を複数のPCから見る場合に、追加が必要になります。

■ RM-64/RM-25/RM-9

ネットワークカメラを使用して複数拠点をモニタリングし、カメラからの映像を表示・録画・再生するソフトウェアです。

RM-64/RM-25/RM-9は登録可能なカメラの台数が異なり、それぞれ64台/25台/9台まで登録できます。複数の録画サーバーを使用して、最大512台のカメラに対応した監視システムを構築可能です。

 メモ

RM-9からRM-25またはRM-64、RM-25からRM-64にアップグレードするライセンスも用意されています。

■ RM-V

複数のPCにRM-64/RM-25/RM-9のRMマネージャーおよびRMビューワーをインストールするための追加ライセンスです。

複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

■ RM-Lite-V

複数のPCにRM-Lite ビューワーおよびRM-Lite マネージャーをインストールするための追加ライセンスです。

複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

動作環境

製品に関する最新情報（ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など）は、ホームページをご確認ください。

製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

PC環境詳細

CPU(推奨)	Intel Core i7-2600 以上	
グラフィックボード (推奨)	指定なし	
メモリー (推奨)	2 GB 以上	
ビューワー用ディスプレイ (推奨)	1920 x 1080 以上	
OSとWebブラウザ	Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium SP2 32/64-bit Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise/Home Premium SP1 32/64-bit Windows 8.1/Windows 8.1 Pro/Windows 8.1 Enterprise 32/64-bit* ¹ Windows 10 Pro/Windows 10 Enterprise/Windows 10 Education/Windows 10 Home 32/64-bit Windows Server 2008 Standard SP2 32/64-bit Windows Server 2008 R2 Standard SP1 64-bit Windows Server 2012 Standard 64-bit* ¹ Windows Server 2012 R2 Standard 64-bit* ¹ – JavaScript、IFRAME (HTMLタグ)、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	Internet Explorer 9 32-bit Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 50* ² Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 50* ² Internet Explorer 11 32/64-bit, Microsoft Edge* ² , Chrome 50* ² Internet Explorer 9 32-bit Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 50* ² Internet Explorer 10 32/64-bit, Chrome 50* ² Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 50* ²
OS言語	設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー： ドイツ語/英語/スペイン語/フランス語/イタリア語/ロシア語/タイ語/トルコ語/ 中国語 (簡体字)/日本語	

*1 スタート画面では動作しない

*2 映像表示 (H.264)、音声送受信は非対応

メモ

- カメラマネジメントツールの動作環境については、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- 録画映像ユーティリティの動作環境については、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。
- オンスクリーン表示アシストツールの動作環境については、『オンスクリーン表示アシストツール 使用説明書』を参照してください。

動作確認済モバイル端末 (設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー)

– 2016年5月時点

モバイル端末	OS	Web ブラウザー
Surface 3	Windows 10 Pro/Windows 10 Enterprise/Windows 10 Education/Windows 10 Home 64-bit – JavaScript、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	Internet Explorer 11, Microsoft Edge ^{*1}
iPad mini 3/iPad mini 4/ iPad Air/iPad Air 2/ iPhone 6/iPhone 6 Plus/ iPhone 6s/iPhone 6s Plus	iOS 8.4.1 iOS 9.3.2 – JavaScript、IFRAME (HTMLタグ)、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要 – 設定ページ、カメラビューワーは、iPhone非対応	Safari ^{*1}
Nexus 9	Android 6.0.1	Chrome 47 ^{*1}
Galaxy Tab S 8.4	Android 4.4.2	Chrome 46 ^{*1}
Galaxy Tab S 10.5	Android 4.4.2	Chrome 46 ^{*1}
Nexus 6 ^{*2}	Android 6.0.1	Chrome 50 ^{*1}
Galaxy S6 ^{*2}	Android 6.0.1	Chrome 50 ^{*1}

*1 映像表示 (H.264)、音声送受信は非対応

*2 設定ページ、カメラビューワーは非対応

カメラを使用するまでの流れ

Step 1 設置前の準備

カメラをネットワーク経由で操作できるように準備します。

必要なソフトウェアをPCにインストールする

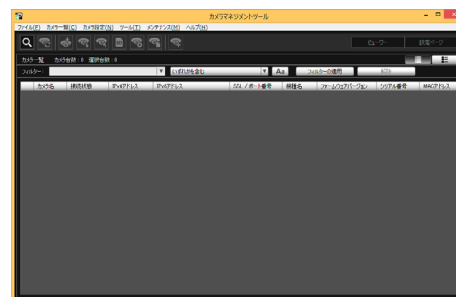
→ 「ソフトウェアをインストールする」(P. 26)

PCとWebブラウザのセキュリティを確認/設定する

→ 「セキュリティを確認/設定する」(P. 29)

カメラマネジメントツールを使用して、カメラを初期設定する

→ 「カメラを初期設定する」(P. 34)



カメラマネジメントツール

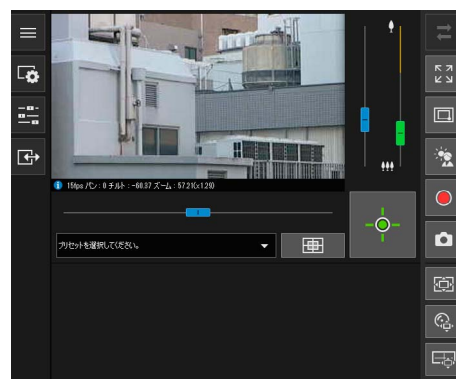
Step 2 カメラとの接続を確認する

PCからカメラにアクセスして、準備が正常に完了していることを確認します。

カメラにアクセスして映像を確認する

→ 「カメラマネジメントツールからアクセスする」(P. 37)

→ 「WebブラウザからIPアドレスを入力してアクセスする」(P. 42)



カメラビューワー

Step 3 カメラを設置する

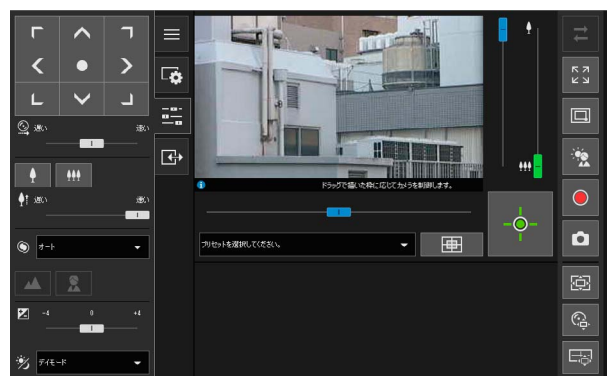
使用する環境に合わせてカメラを設置します。

→ 『設置ガイド』

Step 4 カメラビューワーを使う

ビューワーで映像を見ながらカメラを操作します。

→ 「カメラビューワー」(P. 41)



カメラビューワー

Step 5 運用に合わせて詳細設定する

設定ページで、カメラの運用に合わせて、カメラの制御やセキュリティなどを詳細に設定します。

なお、カメラマネジメントツールを使用して詳細設定することもできます (『カメラマネジメントツール 使用説明書』参照)。

→ 「設定ページ」(P. 75)

VB-S30VE	設定メニュー	ビューワー	言語 (日) / 日本語
基本	カメラを使用するための基本設定		
カメラ	解像度・パラメーターなどのカメラの設定		
映像と音声	映像と音声に関する設定		
サーバー	各種サーバー機能の設定		
映像記録	アップロード・メール送信などの映像記録に関する設定		
イベント	タイマーなどのイベントに関する設定		
セキュリティ	アクセス制限やセキュリティ通知に関する設定		
メモリーカード	メモリーカードの各種操作や設定		
メンテナンス	ログ・設定値一覧の表示・本体再起動などのカメラのメンテナンス		
ユーザーページ	ユーザーが追加できる設定ページ		

設定ページ

困ったときは

運用時のエラーメッセージやトラブルについては、「付録」(P. 203) を参照してください。

2章



カメラのセットアップ

カメラを使用できる状態にするため、必要なソフトウェアをPCにインストールし、Webブラウザのセキュリティとカメラの初期設定を行います。

初期設定が完了したら、カメラにアクセスして、映像が表示されるか確認します。

ソフトウェアをインストールする

カメラに同梱されているセットアップCD-ROMを使って、必要なソフトウェアをインストールします。

必要なソフトウェア

必要なソフトウェアは、次のとおりです。

- カメラマネジメントツール (P. 34)
- 録画映像ユーティリティ
- オンスクリーン表示アシストツール
- .NET Framework 3.5 SP1/.NET Framework 4.5 (PCにインストール済みの場合はインストール不要)

メモ

.NET Framework 3.5 SP1/.NET Framework 4.5は、PCにインストールされていない場合に、PCのInternet Explorerのバージョンに合わせて自動的にインストールされます。

インストール

■ インストール方法について

ソフトウェアのインストール方法には、ソフトウェアをまとめてインストールする [おまかせインストール] と、ソフトウェアを選択できる [選んでインストール] があります。

■ ソフトウェアのインストール

- 1 セットアップCD-ROMをPCのディスクドライブにセットする
- 2 他のすべてのアプリケーションが終了していることを確認する
- 3 CD-ROMアイコン > [Applications] フォルダ > [VBToolsInstall.exe] の順にダブルクリックする



インストール画面が表示されます。

メモ

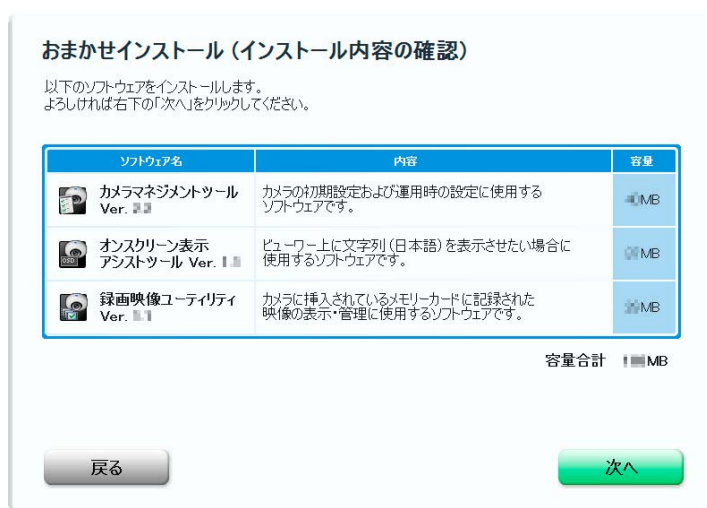
[ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] (または [続行]) をクリックしてください。

4 インストール方法を選択する

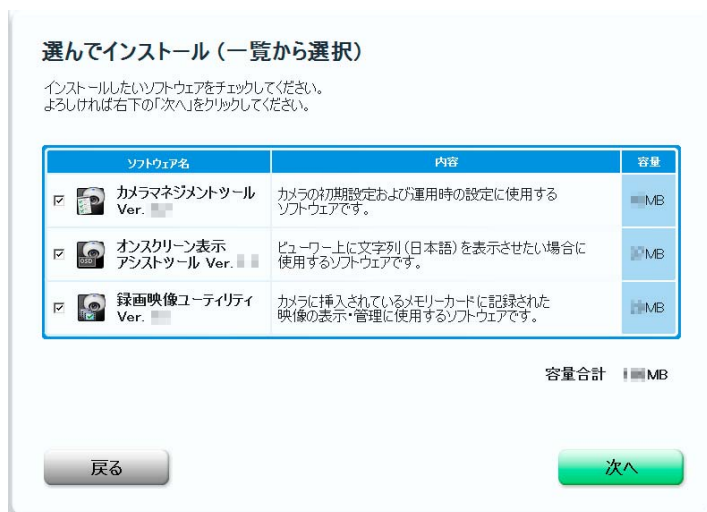


5 インストールされるソフトウェアを確認または選択する

[おまかせインストール] を選んだ場合、インストールされるソフトウェアを確認して [次へ] をクリックします。

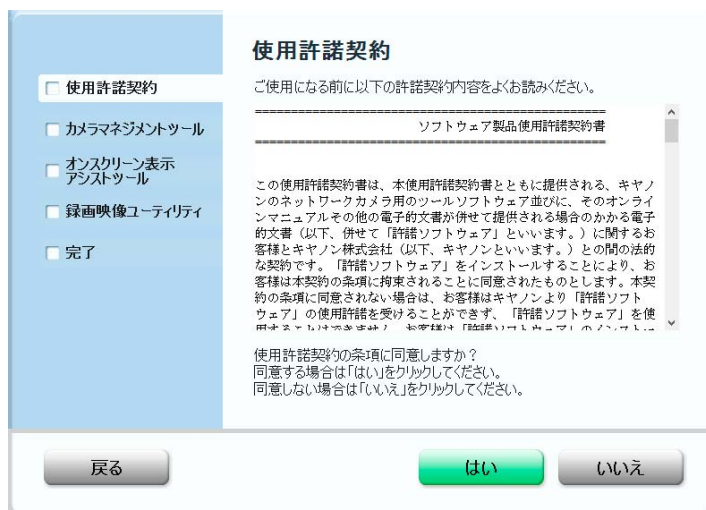


[選んでインストール] を選んだ場合、インストールしたいソフトウェアをチェックして [次へ] をクリックします。



使用許諾契約画面が表示されます。

6 使用許諾契約を読み、[はい] をクリックする



インストールが開始します。

7 [終了] または [再起動] をクリックする



デスクトップに、カメラマネジメントツール、録画映像ユーティリティ、オンスクリーン表示アシストツールのアイコンが表示されます。



セキュリティを確認/設定する

OSやWebブラウザのセキュリティ機能によって、カメラへの設定・操作がブロックされる場合があります。事前にセキュリティの設定を変更・確認してください。

ファイアウォールの設定を確認する

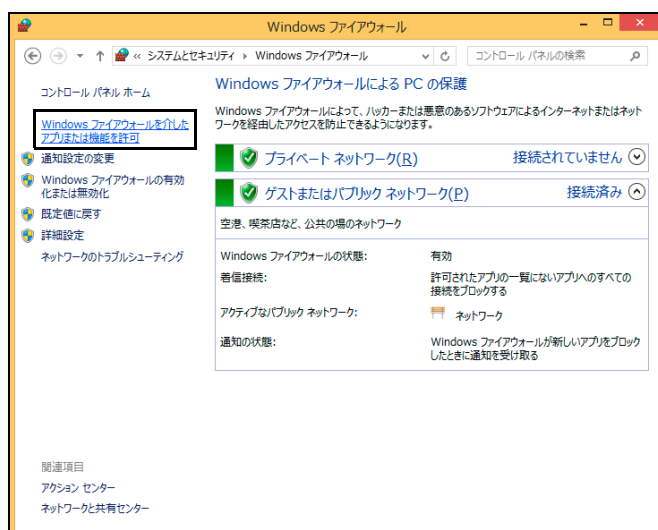
Windows ファイアウォールが有効になっているPCでセットアップCD-ROM収録のソフトウェアを使用するには、ファイアウォール経由での通信を許可するアプリケーションとして、各ソフトウェアを追加しておく必要があります。

メモ

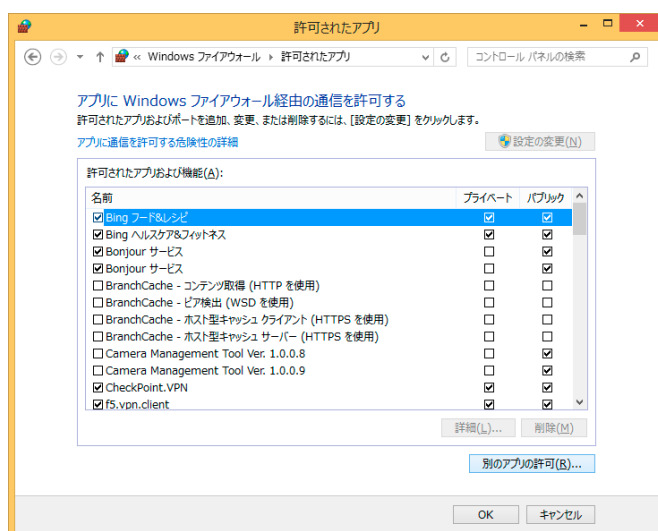
この手順で追加しなかった場合でも、セットアップCD-ROM収録のソフトウェア起動時に表示される [Windowsセキュリティの重要な警告] ダイアログで、許可するアプリケーションとして追加できます。

1 [コントロール パネル] の [システムとセキュリティ] > [Windows ファイアウォール] をクリックする

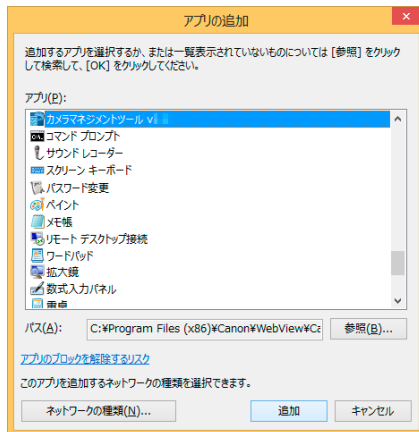
2 [Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] をクリックする



3 [設定の変更] > [別のアプリの許可] の順にクリックする



4 [カメラマネジメントツール] など、使用するソフトウェアを選択し、[追加] をクリックする



カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして追加する

インターネットサイトとイントラネットサイトのセキュリティレベルが、[高] に設定されている場合、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに追加しておく必要があります。

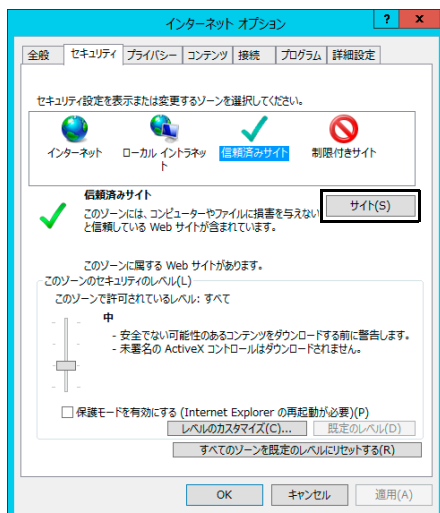
メモ

- カメラのIPアドレスは、カメラマネジメントツールで設定します (P. 36)。
- 信頼済みサイトの追加はカメラマネジメントツールでもできます (P. 37)。

1 [コントロール パネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネット オプション] をクリックする

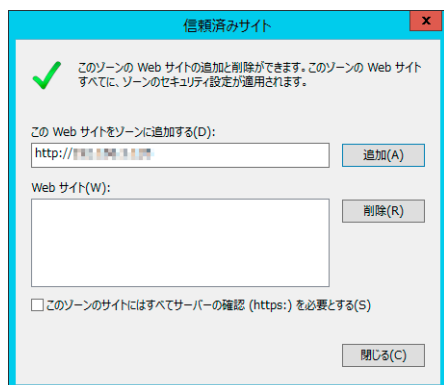
2 [セキュリティ] タブをクリックする

3 [信頼済みサイト] を選択し、[サイト] をクリックする



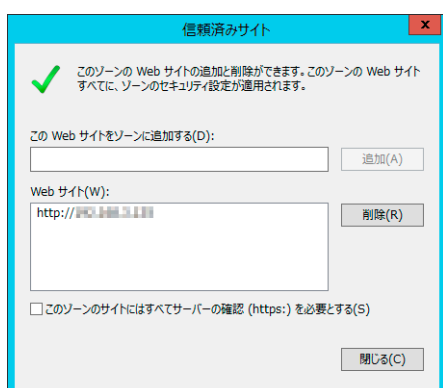
[信頼済みサイト] ダイアログが表示されます。

4 [このWebサイトをゾーンに追加する] にカメラのIPアドレスを入力し、[追加] をクリックする



メモ

- [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする] にチェックがついている場合は、外してください。[Web サイト] の一覧にカメラのIPアドレスが追加されます。



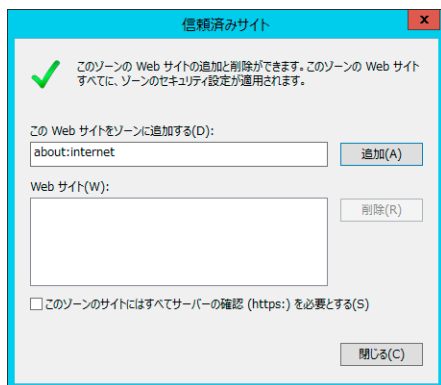
- IPアドレスの入力にワイルドカード (*) を使用することで、複数のカメラのIPアドレスを追加できます。
たとえば、「192.160.1.*」と入力すると、「192.160.1」部分が共通のカメラが、すべて信頼済みサイトに追加されます。

Windows Server使用時の設定

■ “about:internet” と、カメラのホスト名の追加

Windows Server 2008/Windows Server 2012 では、IE ESC (Internet Explorerのセキュリティ強化の構成) が有効になっている場合は、ビューワーおよび設定ページを起動できません。

事前に、Internet Explorerの「ローカル イントラネット」または「信頼済みサイト」に、“about:internet”と、接続先カメラのホスト名を追加してください。



重要

“about:internet”を追加すると、Windows 7などでInternet Explorerを使用する場合と同等のセキュリティレベルとなります。ビューワーおよび設定ページの使用後は、必要に応じて“about:internet”とカメラのホスト名の追加を解除し、元のセキュリティレベルに戻すことをお勧めします。

■ SSL/TLS接続時のセキュリティ設定

Windows Server 2008/Windows Server 2012でWebブラウザ (Internet Explorer 9/10/11) からカメラにSSL/TLS接続した場合、次の操作をするとコンテンツブロックのダイアログが表示され、実行できないことがあります。

- ビューワーおよび設定ページの起動
- ビューワーからの音声受信

これらはInternet Explorer 9/10/11のセキュリティ強化の構成 (IE ESC) が有効に設定されている場合に発生します。次の手順で設定を変更することで回避できます。

1 [コントロール パネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネット オプション] をクリックする

2 [詳細設定] タブをクリックする

3 [セキュリティ] の [暗号化されたページをディスクに保存しない] のチェックを外す

重要

Internet Explorerのセキュリティ強化の構成を変更して有効にした場合、上記の [暗号化されたページをディスクに保存しない] チェックボックスも再び有効になりますので、ご注意ください。

■ 音声機能を使用するためのサウンドの設定

Windows Server 2008/Windows Server 2012の初期設定では、サウンド機能が無効に設定されています。ビューワーで音声機能を使用するには、次の手順でサウンド機能を有効にしてください。

1 [コントロール パネル] の [ハードウェア] をクリックする

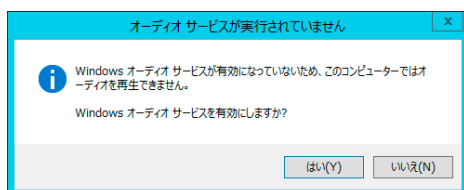


2 [サウンド] をクリックする



[オーディオ サービスが実行されていません] というメッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックする



[サウンド] ダイアログが表示されます。

4 [再生] タブで、オーディオデバイスがインストールされていることを確認する

オーディオデバイスがインストールされていない場合はご使用のPCの使用説明書をご確認ください。

カメラを初期設定する

カメラを使用するには、最初にカメラの管理者アカウントの設定を行い、次にネットワークの設定をして、PCとカメラをネットワーク経由で接続する必要があります。この設定には、カメラマネジメントツールを使用します。ここでは、工場出荷設定のカメラに、管理者アカウントの設定、ネットワーク設定など、カメラマネジメントツールを使ってカメラを初期設定する方法を説明します。

メモ

カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

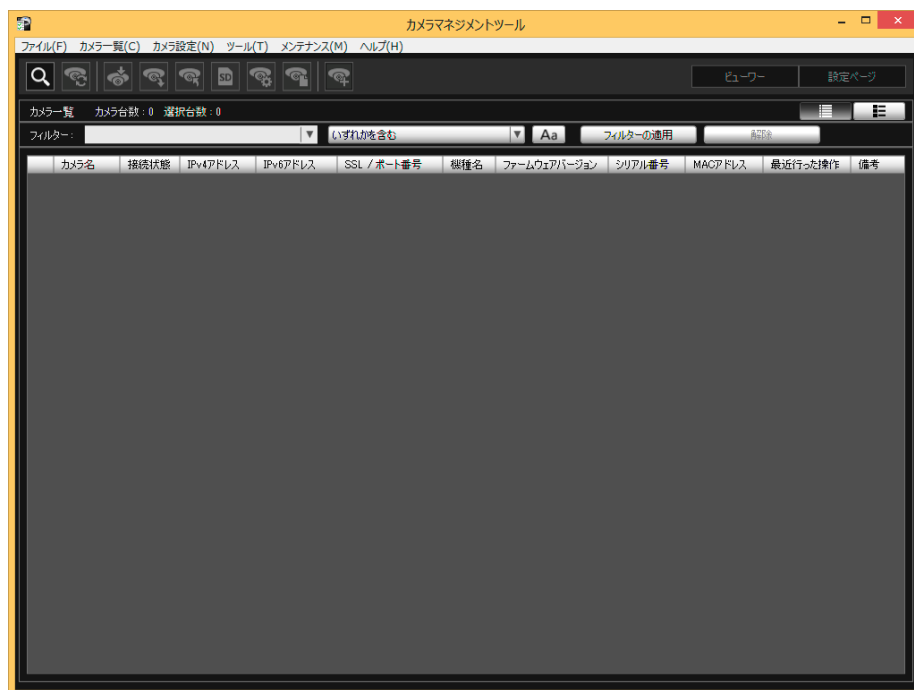
カメラマネジメントツールを起動する

セットアップCD-ROMからPCにインストールしたカメラマネジメントツールを起動します。

- 1 カメラとPCを同じネットワークに接続し、電源を入れる
- 2 デスクトップ上の [カメラマネジメントツール] のアイコンをダブルクリックする



カメラマネジメントツールが起動し、メイン画面が表示されます。



カメラを検出する

カメラマネジメントツールがインストールされているPCと同じネットワークに接続されているカメラを検索し、カメラ一覧に表示します。

メモ

工場出荷設定のカメラは、DHCPでIPアドレスを取得する設定になっています。カメラの検出は、DHCP環境で実行するか、もしくはIPv6環境で実行してください。

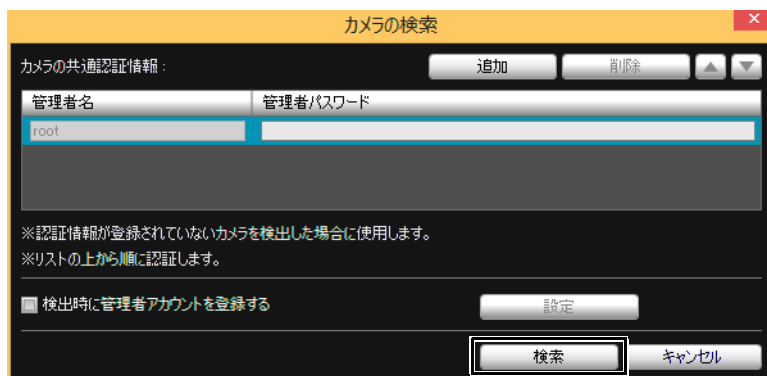
これらの環境以外で設定する場合は、「Web ブラウザーからカメラにアクセスする」(P. 38) を参照してください。

1 [カメラの検索] アイコンをクリックする



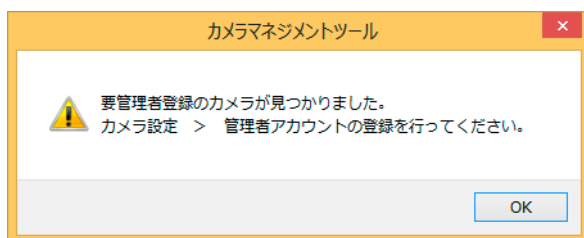
[カメラの検索] ダイアログが表示されます。

2 [検索] をクリックする



カメラ一覧に、検出したカメラが表示されます。

同時に、管理者の登録が必要なカメラを見つけた旨のダイアログが表示されますので、[OK] をクリックします。



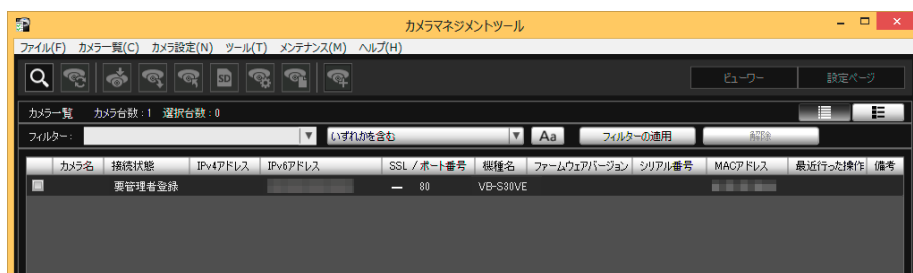
メモ

同じネットワークに接続しているにもかかわらず、カメラが検出されないときは、再度クリックして検索してください。

管理者アカウントを登録する

[接続状態] が [要管理者登録] のカメラに対して、管理者アカウントを登録します。

1 カメラ一覧でカメラを選択し、[カメラ設定] > [管理者アカウントの登録]をクリックする または、[接続状態] の [要管理者登録] をダブルクリックする



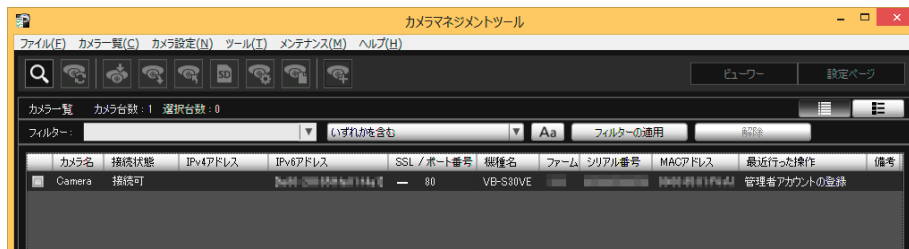
[管理者アカウントの登録] のダイアログが表示されます。

2 管理者名と管理者パスワードを設定する

- (1) [管理者名]
管理者名を半角英数字と“-”、“_”のみ入力できます。
- (2) [管理者パスワード]
管理者パスワードを入力します。
- (3) [管理者パスワード(確認用)]
確認用に管理者パスワードを再度入力します。

3 [OK] をクリックする

カメラの再起動を確認するダイアログが表示されます。
[OK] をクリックするとカメラが再起動します。
再起動後、カメラの [接続状態] が [接続可] になります。



ネットワークの設定をする

カメラのネットワーク設定をします。
カメラ一覧でカメラを選択し、[カメラ設定] > [カメラ基本設定] から、[ネットワーク] をクリックして、各項目を設定します。
カメラマネジメントツールでは、カメラ一覧から複数のカメラを選択し、まとめて設定することもできます。

信頼済みサイトに追加する

Internet Explorerにおけるインターネットサイトとイントラネットサイトのセキュリティレベルが、[高]に設定されている場合、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに追加しておく必要があります。

- 1 カメラ一覧でカメラを選択する
- 2 [メンテナンス]メニュー > [信頼済みサイトへの追加]をクリックする
確認のメッセージが表示されます。
- 3 [はい]をクリックする
Internet Explorerの信頼済みサイトに追加されます。

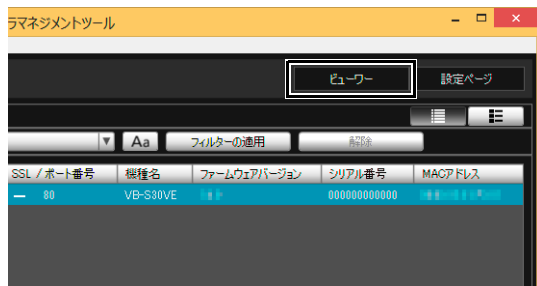
メモ

追加した内容は、Internet Explorerの起動時に読み込まれます。Internet Explorerを起動している場合は、再起動してください。

映像を確認する

カメラの初期設定終了後、カメラにアクセスし、映像が正しく表示されるか確認します。

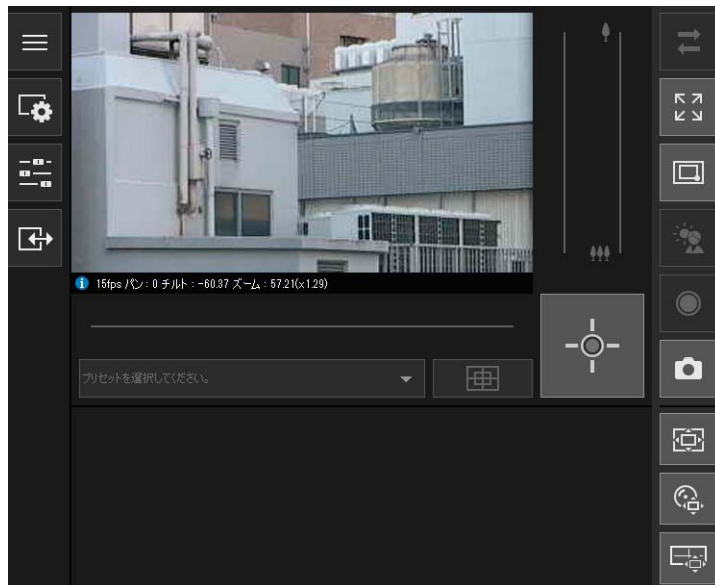
- 1 カメラマネジメントツールを起動する(P. 34)
- 2 カメラ一覧で、ビューワーを開くカメラを選択する
- 3 [ビューワー]をクリックする



ビューワーの認証画面が表示されます (P. 43)。

4 管理者名と管理者パスワード (P. 35) を入力し、[OK] をクリックする

Web ブラウザーが起動し、カメラのビューワーが表示されます。



メモ

カメラの [接続状態] が [接続可] または [接続可(エラー)] の場合のみ、Web ブラウザーが起動します。

Web ブラウザーからカメラにアクセスする

工場出荷設定のカメラは、DHCPでIPアドレスを取得する設定になっています。ただし、DHCPサーバーからの応答がないネットワーク環境にカメラを接続したときでも、特定のIPアドレス (192.168.100.1) を指定してカメラにアクセスすることができます。

重要

- 192.168.100.1のIPアドレスでアクセスできるのは、DHCPサーバーからの応答がないネットワーク環境にカメラを接続してから30秒後です。
- 30秒経過後、DHCPサーバーから応答があった場合には、DHCPサーバーから割り当てられたアドレスに切り換わります。
- Web ブラウザーで192.168.100.1を入力してカメラにアクセスするときは、PCを同じサブネット (255.255.255.0) のIPアドレスに設定してください。
- 同一ネットワーク上に複数の工場出荷設定のカメラがある場合、カメラにアクセスできません。

1 Web ブラウザーを起動する

2 192.168.100.1を入力し、Enterキーを押す

[初期設定]ページが表示されます。

初期設定  再起動

管理者アカウント

管理者名、管理者パスワードを設定してください。カメラの設定ができるようになります。

① 管理者名 8～15文字		 値が指定されていません。	
① パスワード 8～31文字			
① パスワード（確認用） 8～31文字			

 再起動

3 管理者名と管理者パスワードを入力し、[適用] をクリックする

カメラの再起動後、設定ページが表示され、各種設定が可能になります。

3章



カメラビューワー

Webブラウザを使用してカメラに搭載されているビューワーにアクセスすることで、カメラ操作やライブ映像の表示、イベントの状態が確認できます。

カメラビューワーで映像を見る

カメラビューワーを起動して、ユーザーを切り替えたり、カメラの状態や映像の表示を確認・設定します。

メモ

認証済みのWebページを表示したまま、別のウィンドウやタブを開いてカメラにアクセスすると、表示中のWebページの認証情報が破棄される場合があります。

その場合は、再度認証情報を入力してください。

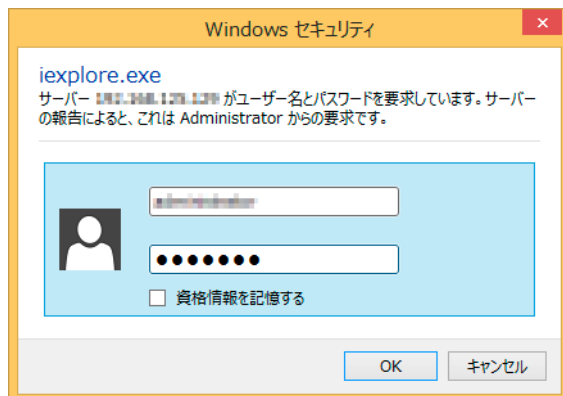
カメラビューワーを起動する

カメラマネジメントツールで設定したIPアドレス (P. 36) を、Web ブラウザーに直接入力してカメラの設定ページを表示し、設定ページからビューワーを起動できます。

メモ

カメラマネジメントツールでの設定の詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

- 1 Web ブラウザーを起動する
- 2 IPアドレスを入力し、Enterキーを押す
設定ページの認証画面が表示されます。
- 3 管理者名と管理者パスワード (P. 35) を入力し、[OK] をクリックする



設定メニューが表示されます。

メモ

設定メニューの [基本] > [ビューワー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューワーを表示] にすることで、デフォルトページをビューワーに設定できます。(P. 94)

- 4 [ビューワー] をクリックする

VB-S30VE 設定メニュー		ビューワー	言語 日本語
基本	カメラを使用するための基本設定		
カメラ	制御・パラメーターなどのカメラの設定		
映像と音声	映像と音声に関する設定		
サーバー	各種サーバー機能の設定		
映像記録	アップロード・メール通知などの映像記録に関する設定		
イベント	タイマーなどのイベントに関する設定		
セキュリティ	アクセス制限やセキュリティ通信に関する設定		
メモリーカード	メモリーカードの各種操作や設定		
メンテナンス	ログ・設定値一覧の表示・本体再起動などのカメラのメンテナンス		
ユーザーページ	ユーザーが追加できる設定ページ		

ビューワーの認証画面が表示されます。

5 管理者名と管理者パスワード (P. 35) を入力し、[OK] をクリックする

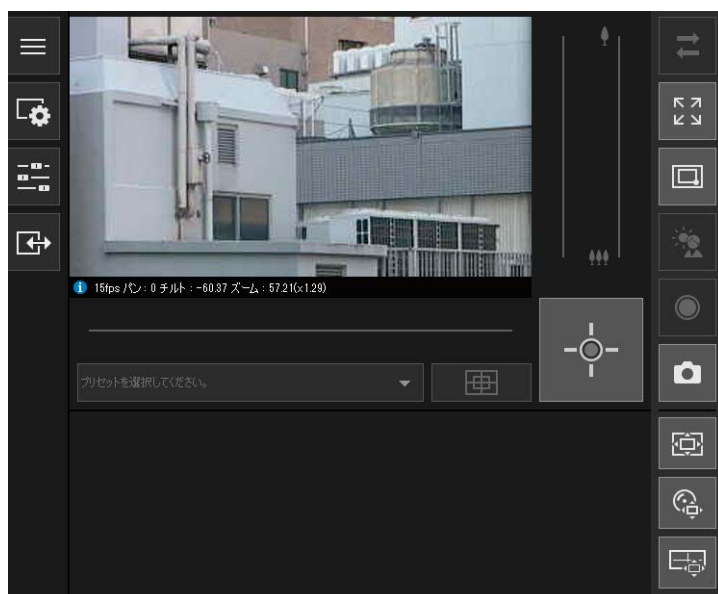
ユーザー認証が必要です

ユーザー名

パスワード

OK キャンセル

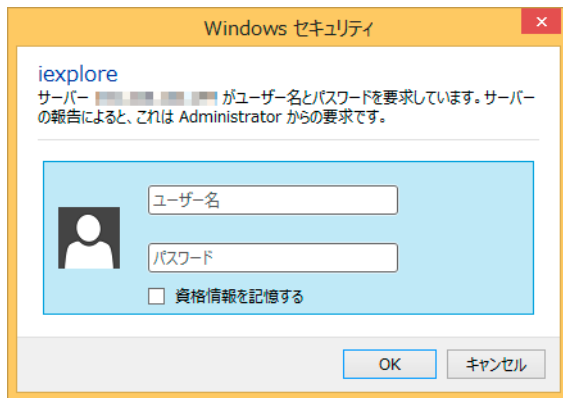
カメラのビューワーが表示されます。



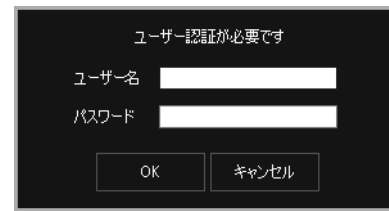
■ ユーザー認証について

ビューワーおよび設定ページを使用する際は、認証画面が表示され、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。ユーザー名またはパスワードの入力を間違えると、カメラへの接続ができません。正しいユーザー名およびパスワードを入力して接続してください。

設定ページの [基本] > [ビューワー] > [ビューワー設定] > [ユーザー認証] が [認証しない] に設定されている場合は、ビューワー接続時に認証画面が表示されません。



設定ページの認証画面



ビューワの認証画面

管理者名と管理者パスワードは、カメラマネジメントツールで設定します (P. 35)。

重要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは定期的に変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。
- 管理者アカウントを忘れてしまった場合は、工場出荷設定に戻してください (P. 223)。ただし、管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください (P. 34)。
- 同じPCを管理者と登録ユーザーが共有してビューワを使用する場合には、[資格情報を記憶する] のチェックを外すことを強くお勧めします。

メモ

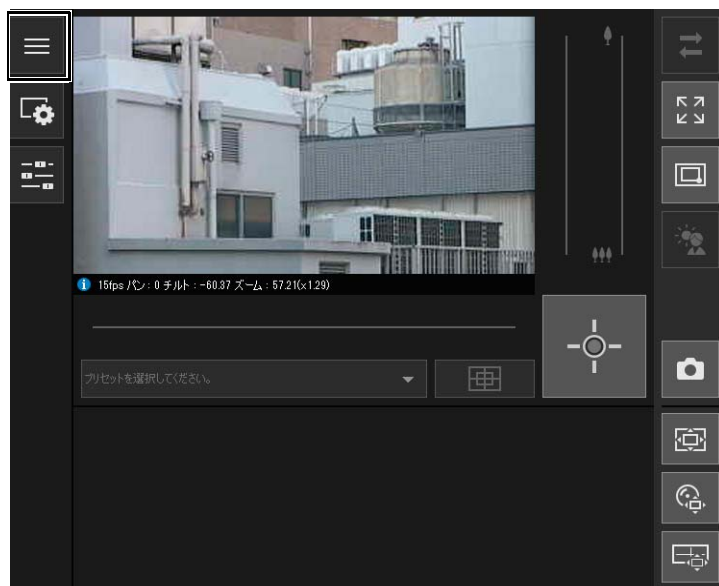
- 設定ページは、管理者のみ接続できます。
- Windows Server 2008/Windows Server 2012 で IE ESC (Internet Explorerのセキュリティ強化の構成) が有効に設定されている場合、設定ページやビューワにアクセスすると、コンテンツブロックのダイアログが表示されることがあります。その場合は、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに追加してください。 (P. 30)



管理者や登録ユーザーに切り替える

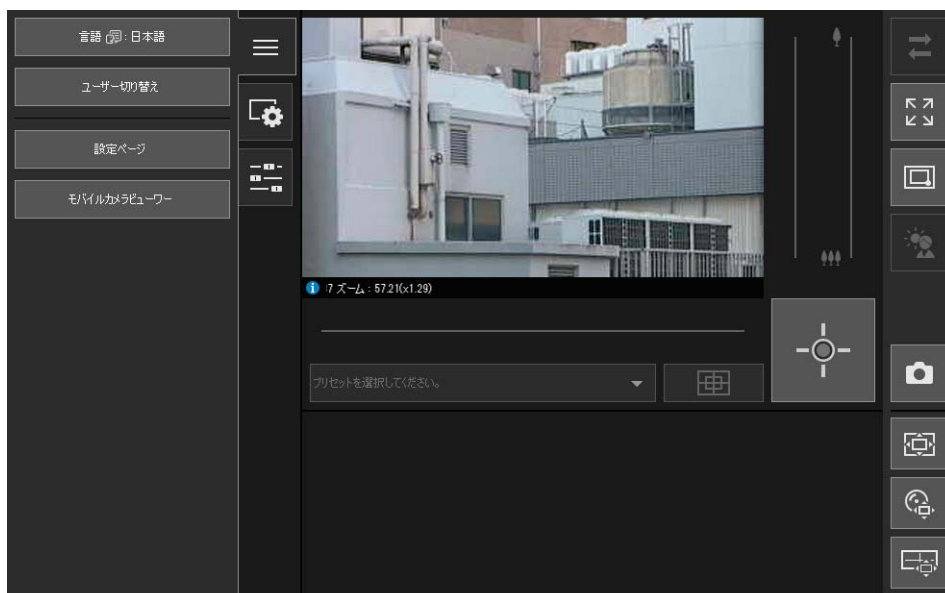
設定ページの [基本] > [ビューワ] > [ビューワ設定] > [ユーザー認証] が [認証しない] に設定されている場合は、ビューワ接続時に認証画面が表示されず、一般ユーザーとしてビューワを使用できます。一般ユーザーの場合、ビューワの一部の操作しかできませんが、あとからユーザーを切り替えて、管理者や登録ユーザーとしてビューワを使用することもできます。

1 [メイン] ボタンをクリックする



[メイン] メニューが表示されます。

2 [ユーザー切り替え] をクリックする



ユーザー認証の画面が表示されます。

3 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする

ユーザー認証が必要です

ユーザー名

パスワード

OK キャンセル

ユーザー認証で入力したユーザー用のビューワーが表示されます。

メモ

プロキシサーバーのない環境では、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] で、[設定を自動的に検出する] のチェックを外してください。

■ カメラビューワーのアクセス制限

ビューワーには、ユーザー認証が必要な登録ユーザーとユーザー認証が不要な一般ユーザーを設定できます。各ユーザーがカメラビューワーで利用できる機能は、付与される権限によって決まります (P. 88)。

管理者：

すべての権限が与えられたユーザーです。

管理者アカウントで登録した管理者名とパスワードで、ビューワーにアクセスします (P. 35)。

管理者は、登録ユーザーおよび一般ユーザーのすべての権限を無効にすることで、登録ユーザーおよび一般ユーザーのカメラへのアクセスを完全に禁止できます。

登録ユーザー：

登録ユーザーは一般ユーザーよりも上位の権限となります。

ユーザー名とパスワードを登録する必要があります (P. 87)。

一般ユーザー：

使用できる機能が限定されたユーザーです。

ユーザー認証なしでビューワーにアクセスできます。

ビューワーを操作するための権限には、特権カメラ制御、一般カメラ制御、映像配信、音声配信の4つがあります。各権限の内容と、ユーザーへの付与の可否は、次のとおりです。

権限	特権カメラ制御	一般カメラ制御	映像配信	音声配信
権限の内容	管理者に次ぐ権限で操作ができる	ビューワーの一部の操作ができる	ビューワーで映像を表示できる	ビューワーで音声を受信できる
登録ユーザーへの付与	可	可	可	可
一般ユーザーへの付与	不可	可	可	可

「特権カメラ制御」「一般カメラ制御」「映像配信」は、ある項目が「可」に設定された場合、その上および右側の権限付与もすべて「可」となります。同様に、ある項目が「不可」で設定された場合、その下および左側の権限付与もすべて「不可」となります。

横軸では、より強い左側の権限は、それより弱い右側の権限を伴います。ただし、音声配信は独立して設定できます。

縦軸では、登録ユーザー権限が、一般ユーザー権限以上の権限を持ちます。



重 要

- 1台のカメラに対して、同時に複数の管理者アカウントで接続はできません。
登録ユーザーや一般ユーザーアカウントでは同時に複数のPC からカメラに接続できます。ただし、カメラを制御する場合、登録ユーザーは制御権が後優先になり、一般ユーザーは順番待ちになります。
- 登録ユーザーおよび一般ユーザーがカメラに接続するためには、[基本] > [ビューワー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定する必要があります。



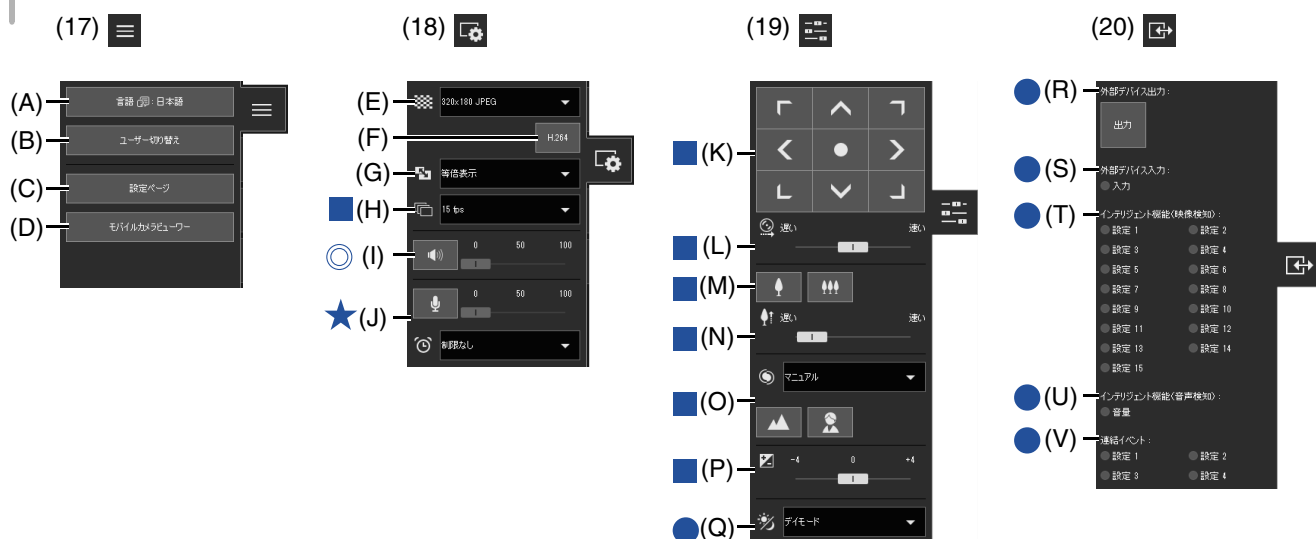
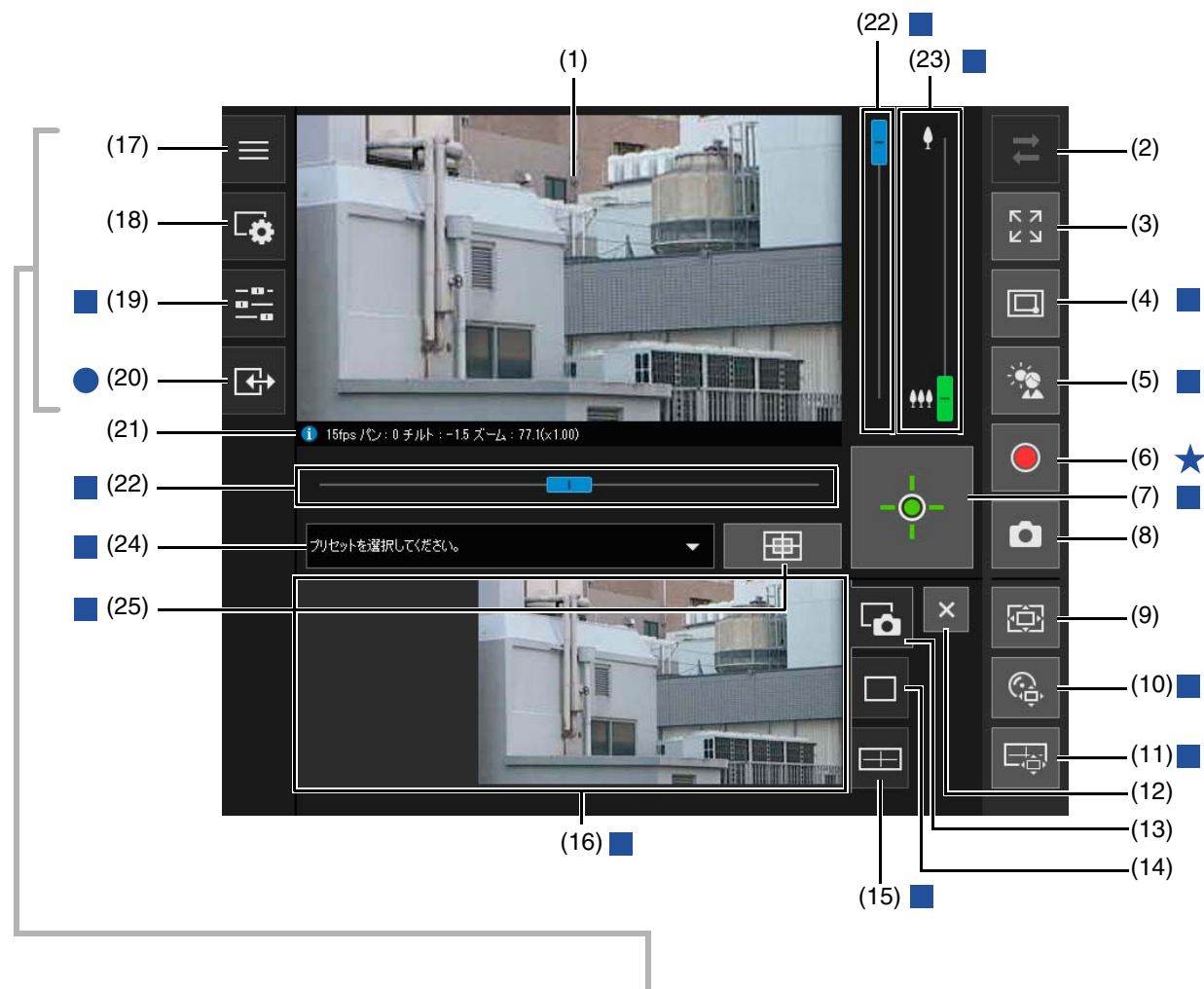
メ モ

- 工場出荷設定では、登録ユーザーに特権カメラ制御権が与えられています。
- 工場出荷設定では、一般ユーザーに一般カメラ制御、映像配信、音声配信権限が与えられています。

カメラビューワーの画面構成

ビューワーの操作に必要な権限を次のマークで示しています。

★	管理者権限
●	特権カメラ制御以上の権限
■	一般カメラ制御以上の権限
無印	映像配信以上の権限
◎	音声配信権限



(1) **映像表示部**

カメラから受信した映像を表示します。

(2) **[再接続] ボタン**

カメラに接続し直します。ビューワーがカメラに接続していない場合に操作できます。

(3) **[全画面表示] ボタン**

映像表示部を全画面で表示します (P. 54)。

(4) **[エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタン** **S30VE**

映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り換えます (P. 59)。

(5) **[逆光補正] ボタン**

逆光補正の入/切を選択します。映像が逆光で暗い場合に使用すると効果があります (P. 63)。

(6) **[メモリーカード録画] ボタン**

メモリーカードへの録画を開始/停止します (P. 70)。

(7) **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**

カメラ制御権を取得または解放します (P. 57)。

(8) **[スナップショット] ボタン**

クリックした瞬間の静止画を、コントロール表示部にスナップショットパネルを開いて表示します (P. 69)。

(9) **[ビューワー PTZ] ボタン**

ビューワー PTZを開始/終了します。開始すると、コントロール表示部にビューワー PTZパネルが表示されます (P. 65)。

(10) **[デジタルPTZ] ボタン**

デジタルPTZを開始/終了します。開始すると、コントロール表示部にデジタルPTZパネルが表示されます (P. 66)。

(11) **[パノラマ表示] ボタン** **S30VE**

コントロール表示部にパノラマ表示パネルを表示します (P. 62)。

(12) **[閉じる] ボタン**

コントロール表示部に表示された各種パネルを閉じます。

(13) **スナップショットタブ**

スナップショットタブのクリックで、コントロール表示部を、スナップショットパネルに切り替えます (P. 69)。

(14) **ビューワー PTZ/デジタルPTZタブ**

ビューワー PTZ/デジタルPTZタブのクリックで、コントロール表示部を、ビューワー PTZ/デジタルPTZパネルに切り替えます (P. 65)。

(15) **パノラマ表示タブ** **S30VE**

パノラマ表示タブのクリックで、コントロール表示部を、パノラマ表示パネルに切り替えます (P. 62)。

(16) **コントロール表示部**

(13)、(14)、(15) をクリックすると、それぞれスナップショットパネル、ビューワー PTZ/デジタルPTZパネル、パノラマ表示パネルを表示します。

(17) [メイン] メニュー

言語やユーザーの切り替え、設定ページやモバイルカメラビューワーへ移動します。



(A) 言語切り替えボタン

表示言語を切り替えます。

(B) [ユーザー切り替え]

管理者や登録ユーザーでログインしたい場合に使います (P. 44)。

(C) [設定ページ]

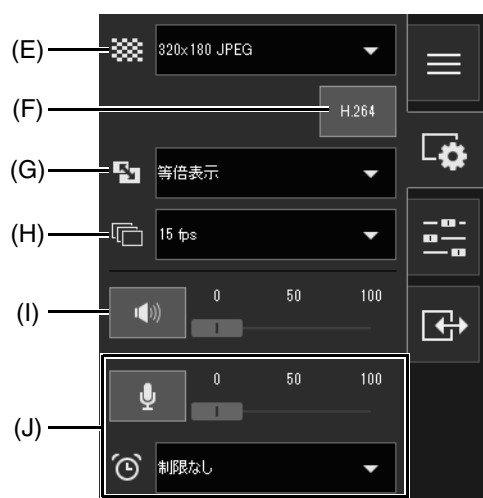
設定ページへ移動します (P. 76)。

(D) [モバイルカメラビューワー]

モバイルカメラビューワーへ接続を切り替えます。モバイルカメラビューワーの詳しい使いかたは、『モバイルカメラビューワー 操作ガイド』を参照してください。

(18) [映像と音声] メニュー

ビューワーの映像表示サイズや音声の送受信を設定します。



(E) 映像サイズ

カメラからの映像受信サイズと映像フォーマットを選択します (P. 53)。

(F) H.264受信

H.264映像受信の有効/無効を選択します (P. 53)。

一般ユーザーは、設定ページの [基本] > [ビューワー] > [ビューワー設定] > [一般ユーザーでのH.264の使用] を [使用する] (P. 95) に設定すると、[H.264] が表示されます。

(G) 表示サイズ

画面上の映像表示サイズを選択します (P. 53)。

(H) 最大フレームレート

JPEG映像の最大フレームレートを選択します (P. 54)。

(I) 音声受信

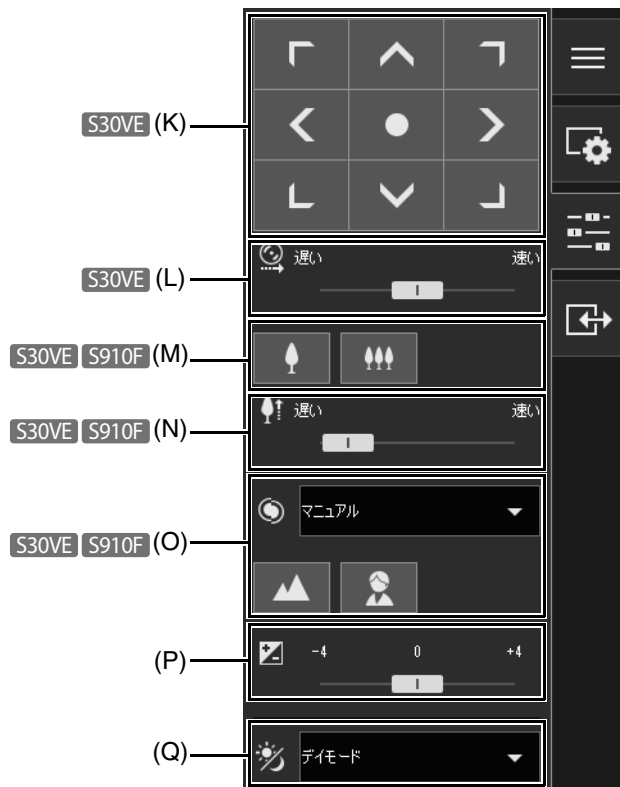
カメラからの音声受信の開始/終了、音量を設定します (P. 71)。

(J) 音声送信

カメラへの音声送信の開始/終了、音量、音声の送信時間を設定します (P. 71)。

(19) [カメラ操作] メニュー

カメラのパン・チルト・ズーム、フォーカス、露出、デイナイト切り換えを設定します。



(K) パン/チルト

ボタン操作により、各矢印の方向にアングルを移動します (P. 61)。

(L) パン/チルト速度

パン/チルトのボタン操作による動作速度を選択します (P. 61)。

(M) ズーム

ボタン操作により、ズームインまたはズームアウトします (P. 61)。

(N) ズーム速度

ズームのボタン操作による動作速度を選択します (P. 61)。

(O) フォーカス

被写体に焦点を合わせる設定をします (P. 62)。

(P) 露出補正

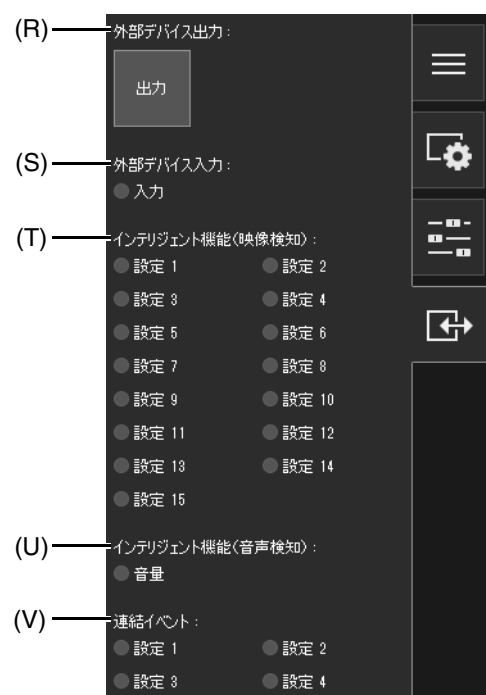
被写体の明るさに合わせて、露出を補正します (P. 63)。

(Q) デイナイト

カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します (P. 63)。

(20) [イベントと入出力] メニュー

外部デバイスの出力操作や入力状態の確認、インテリジェント機能の検知状態の確認、連結イベントの発生状況の確認ができます。



(R) 外部デバイス出力

外部デバイスの出力を操作します (P. 73)。

(S) 外部デバイス入力

外部デバイスによる入力信号の状態が、入力ごとに表示されます (P. 73)。

(T) インテリジェント機能(映像検知)

インテリジェント機能による映像検知の状態が、検知設定番号ごとに表示されます (P. 73)。

(U) インテリジェント機能(音声検知)

[音量検知] の状態が表示されます (P. 74)。

(V) 連結イベント

連結イベントの状態が表示されます (P. 74)。

(21) インフォメーション表示

情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージが表示されます (P. 52)。

(22) パン・チルトスライダー **S30VE** **S800VE**

つまみを動かして、カメラのパン (左右)、チルト (上下) を操作します (P. 58)。

(23) ズームスライダー

つまみを動かして、カメラのズームイン (望遠) /ズームアウト (広角) を操作します (P. 58)。

(24) プリセット選択ボックス

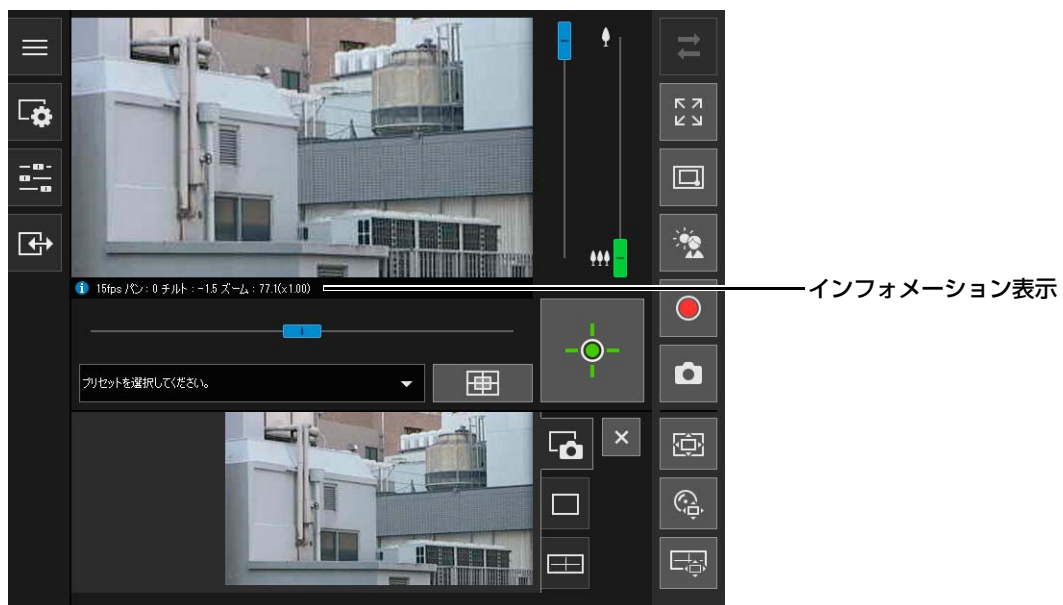
カメラにあらかじめ登録したプリセットを選択します (P. 64)。

(25) [ホームポジション] ボタン

カメラのアングルをホームポジションに移動します (P. 64)。

インフォメーションを確認する

インフォメーション表示には、フレームレートや、カメラのパン・チルト・ズーム値、各部の説明などが表示されます。また、カメラの動作やシステムに問題が発生した場合は、警告またはエラーメッセージが表示されます。



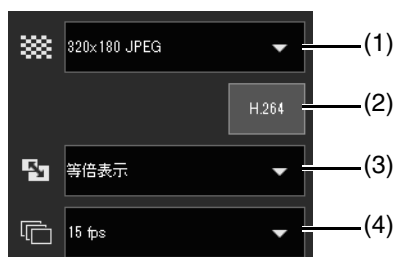
表示されるインフォメーションの内容については、「ビューワーメッセージ一覧」(P. 221) を参照してください。

受信映像サイズや表示画面サイズを変更する

カメラから受信する映像サイズや映像フォーマット、PC上の表示画面サイズを設定できます。

受信映像サイズ/フォーマット、表示画面サイズを変更する

 [映像と音声] メニューを開いて、カメラから受信する映像について設定します。



(1) 映像サイズ設定

カメラからの受信映像サイズおよび映像フォーマットを選択します。

選択できるサイズは、設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定によって変わります (P. 91)。

[映像サイズセット] の設定	選択できる映像サイズ	
	JPEG	H.264*
1920x1080/960x540/480x270	480x270 960x540 1920x1080	- 設定ページの [基本] > [映像] > [H.264(1)] および [H.264(2)] (P. 92) の [映像サイズ] で設定しているサイズがメニューに表示されます。 - 設定ページの [基本] > [映像] > [H.264(2)](P. 93) で[H.264(2)の使用] を [使用する] にしている場合に、[H.264(1)] と[H.264(2)] 両方の映像サイズがメニューに表示されます。
1280x720/640x360/320x180	320x180 640x360 1280x720	
1280x960/640x480/320x240	320x240 640x480 1280x960	

* [H.264] をオン (紫) にすると、H.264の映像サイズがメニューに追加表示されます。

(2) [H.264]

H.264映像を受信する場合、オン (紫) にします。

オフ (グレー) 状態でクリックすると、「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されます。契約書の条項に同意する場合は [はい] をクリックしてください。カメラからデコーダーがダウンロードされ、H.264映像の受信が可能になります。一般ユーザーは「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されません。

(3) 表示サイズ設定

設定できるサイズは、設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定によって変わります (P. 91)。

[映像サイズセット] の設定	選択できる表示サイズ	備考
1920x1080/960x540/480x270	等倍表示 480x270 960x540 1920x1080 自動調整	[等倍表示] は、映像サイズの大きさのままで表示します。 [自動調整] は、Web ブラウザーのウィンドウサイズに合わせて、最大のサイズで表示します。
1280x720/640x360/320x180	等倍表示 480x270 640x360 1280x720 自動調整	
1280x960/640x480/320x240	等倍表示 480x360 640x480 1280x960 自動調整	

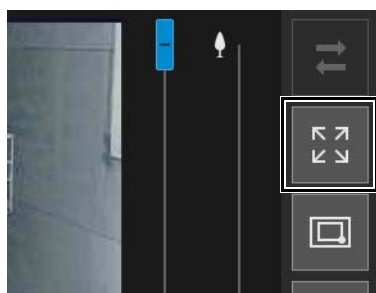
(4) 最大フレームレート(JPEG)

JPEG映像の最大フレームレートを選択できます。

映像表示部にH.264映像を表示している場合は選択できません。

全画面表示にする

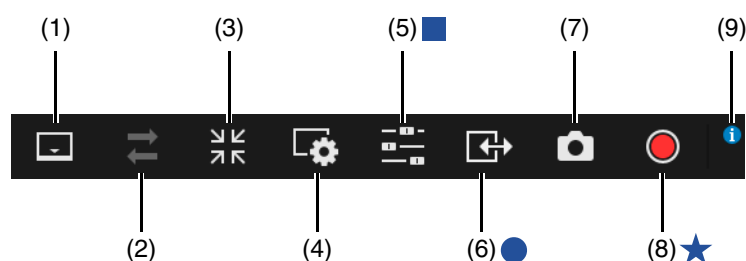
ビューワー右上の [全画面表示] ボタンをクリックすると、映像表示部がディスプレイ全体に表示されます。



メニューについて

全画面表示時は、カメラビューワー画面と同様にカメラの制御に必要なメニューパネルが画面下部に表示されます。メニューパネルの操作に必要な権限を次のマークで示しています。

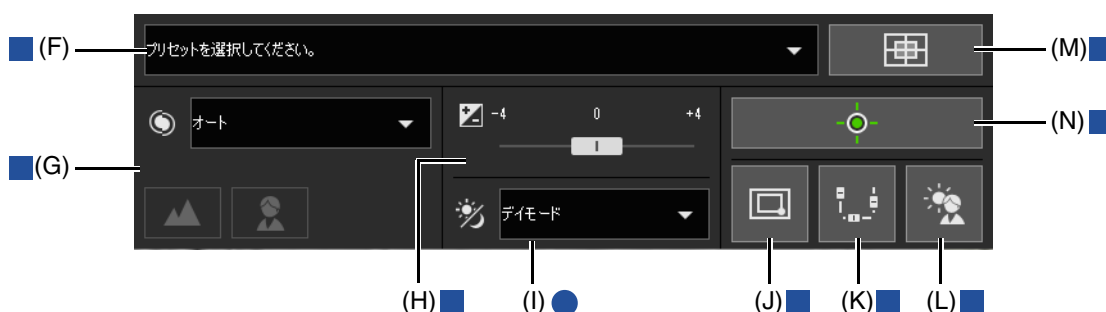
★	管理者権限
●	特権カメラ制御以上の権限
■	一般カメラ制御以上の権限
無印	映像配信以上の権限
◎	音声配信権限



- (1) [メニュー領域表示切替] ボタン
メニューバーの表示/非表示を切り替えます。
- (2) [再接続] ボタン
カメラに接続し直します。ビューワーがカメラに接続していない場合に操作できます。
- (3) [全画面表示終了] ボタン
映像表示部を通常表示に戻します。
- (4) [映像と音声] メニュー
ビューワーの映像表示サイズや音声の送受信を設定します。



- (A) 映像サイズ
カメラからの受信映像サイズを設定します (P. 53)。
- (B) H.264
H.264映像受信の有効/無効を選択します (P. 53)。
- (C) 最大フレームレート
JPEG映像の最大フレームレートを選択します (P. 53)。
- (D) 音声受信
受信した音声の再生/停止、音量を設定します (P. 71)。
- (E) 音声送信
送信する音声の再生/停止、音量、音声の送信時間を設定します (P. 71)。
- (5) [カメラ操作] メニュー
カメラの基本設定と操作を行います。



- (F) プリセット
カメラにあらかじめ登録したプリセットを選択します (P. 64)。
- (G) フォーカス S30VE S910F
被写体に焦点を合わせる設定をします (P. 62)。
- (H) 露出補正
被写体の明るさに合わせて、露出を補正します (P. 63)。
- (I) デイナイト
カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します (P. 63)。
- (J) エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え S30VE
映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り換えます (P. 59)。

(K) パン/チルト/ズーム

ボタンをオン (紫) にすると、パン/チルトスライダー **S30VE** **S800VE**、ズームスライダーが画面に表示され操作できます。

パンスライダーは画面下部に、チルトスライダーは画面左端に、ズームスライダーは画面右端に、それぞれ表示されます。

(L) 逆光補正

逆光補正の入/切を選択します (P. 63)。

(M) ホームポジション

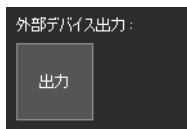
カメラのアングルをホームポジションに移動します (P. 64)。

(N) カメラ制御権取得/解放

カメラ制御権を取得または解放します (P. 57)。

(6) [イベントと入出力] メニュー

外部デバイスの出力を操作します (P. 73)。



(7) スナップショット

クリックした瞬間の静止画を、スナップショットパネルを開いて表示します (P. 69)。

(8) メモリーカード録画

メモリーカードへの録画を開始または停止します (P. 70)。

(9) インフォメーション表示

情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージが表示されます (P. 52)。

カメラを操作する

カメラ制御権の取得やカメラアングル、フォーカスの設定など、カメラを使用するのに必要な操作や設定について説明します。

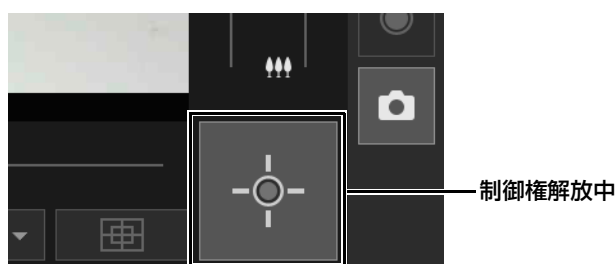
重要

この節で説明するカメラの操作や設定をするには、最初に説明する、カメラ制御権の取得が必要になります。

カメラ制御権を取得する

カメラを操作するには、ビューワーで制御権を取得する必要があります。

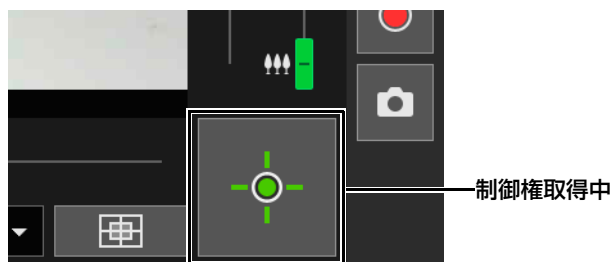
制御権を取得していない状態で、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックします。



制御権解放中

制御権が取得され、ビューワー各部のボタンが使用できるようになります。

制御権の取得中は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンの中心部が黄緑になります。



制御権取得中

■ カメラ制御権表示について

カメラ制御権の状態により、[カメラ制御権取得/解放] ボタンの表示は次のように変わります。

表示	制御権の状態	説明
	制御権解放中	カメラ制御権を取得していない状態です。
	制御権取得待ち	一般ユーザーが制御権の取得待ち状態に入った場合、残り待機時間がカウントダウンされます。
	制御権取得中	カメラ制御権を取得している状態です。
	制御権取得中 (制御時間カウント中)	一般ユーザーが制御権を取得後、他の一般ユーザーより優先的に制御権を保持できる時間がカウントダウンされます。

重要

- 制御権を複数のユーザーで同時に取得することはできません。
- 登録ユーザーおよび一般ユーザーは、設定ページの[基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限]の設定において、[一般カメラ制御]がチェックされている場合に、[カメラ制御権取得/解放] ボタンが表示されます。
- 管理者は、登録ユーザーまたは一般ユーザーが制御権取得中でも制御権を奪うことができます。同様に登録ユーザーは、一般ユーザーが制御権取得中でも制御権を奪うことができます。
より上位の権限を持ったユーザーがカメラ制御権を保持できますが、その間、下位のユーザーはカメラ制御権を取得できません。閲覧が終わった後は必ず終了するか、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を解放してください。

パン・チルト・ズームを操作する

カメラのパン・チルト・ズームを操作して、カメラアングルを設定します。

重要 S30VE

パン・チルト動作の耐久目安は、往復5万回です。

例えば、1日25往復の利用で6年程度です。

パン・チルト動作が耐久目安を超えると、フォーカス、ズームも正常に動作しなくなる場合があります。

メモ

- クリックやドラッグによるカメラ制御は、厳密な精度で制御されるものではありません。
- 管理者でビューワーを使用すると、可視範囲制限を無視してカメラを操作できます。登録ユーザーまたは一般ユーザーでビューワーを使用した場合は、可視範囲制限内のみで操作できます。 S30VE S910F

■ 映像表示部上のクリック、またはスライダーで操作する

クリックの操作

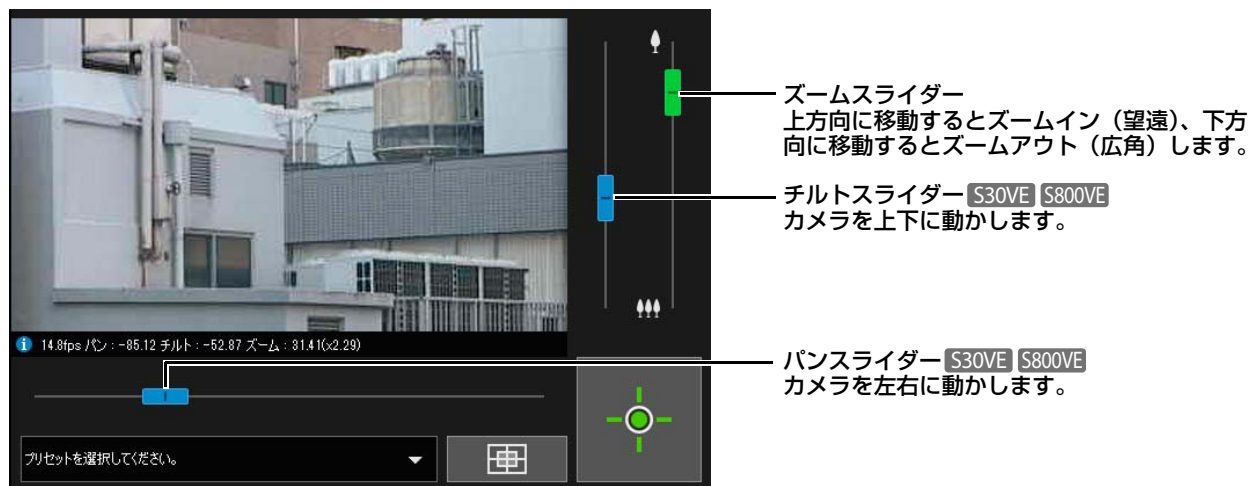
映像表示部上をクリックすると、クリックしたときのマウスポインターの位置が中心となるように、カメラアングルが移動します。1回のクリックで希望の位置が中心にならない場合は、繰り返し操作してください。

メモ

- ビューワー PTZまたはデジタルPTZ使用中は、映像表示部のクリック操作はできません。 S30VE
- ビューワー PTZまたはデジタルPTZを開始すると、映像表示部のクリック操作ができるようになります。 S800VE S910F

スライダーでの操作

パンスライダーおよびチルトスライダーのつまみをドラッグすると、パン・チルトが移動します。 S30VE S800VE
ズームスライダーのつまみをドラッグすると、ズームが変化します。
スライダーのつまみのない部分をクリックしても、つまみが移動します。



メモ S800VE

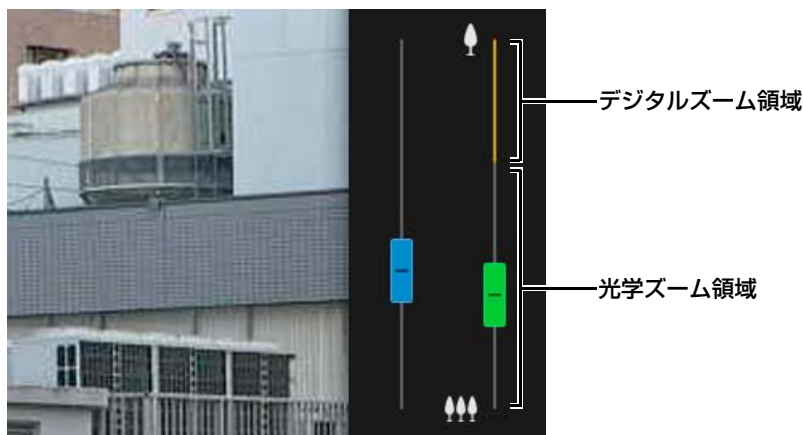
ビューワー PTZまたはデジタルPTZを開始しないと、スライダーは操作できません。

デジタルズーム使用時のスライダー S30VE S910F

設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] > [デジタルズーム] を [使用する] (P. 96) に設定すると、ズームスライダーにデジタルズーム領域 (橙色) が表示され、デジタルズーム操作が可能となります。

メモ

- ズーム倍率 (デジタルズーム倍率) は、インフォメーション表示に表示されます。
- デジタルズームは、ズーム倍率が高くなるに従い画質が低下します。



■ エリアズーム/ドラッグムーブで操作する

S30VE

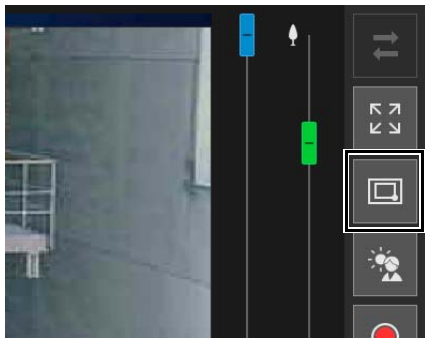
映像表示部上のドラッグ操作で、ズームイン/アウトやアングル移動ができます。

メモ

エリアズーム/ドラッグムーブともに、ビューワー PTZまたはデジタルPTZ使用中は操作できません。

エリアズームでのズームイン/アウト

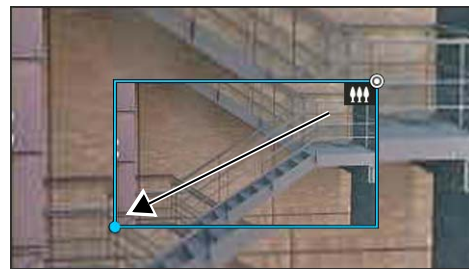
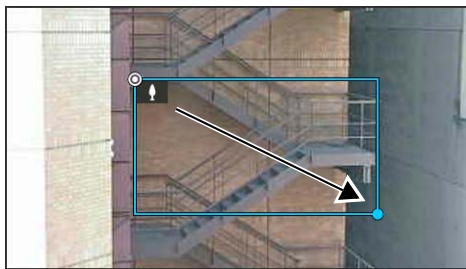
- 1 [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、 (エリアズーム) にする



2 映像表示部で、ドラッグする

ズームインの場合は、左から右方向にズームインするエリアを枠線で指定します。

ズームアウトの場合は、右から左方向に映像表示部の中心に表示させたいエリアを枠線で囲みます。



エリアズーム操作中は、枠線内にアイコン (ズームイン：👤、ズームアウト：👥) が表示されます。

枠線表示中にマウスの左ボタンを押したまま右ボタンをクリックすることで、エリアズームを中止できます。

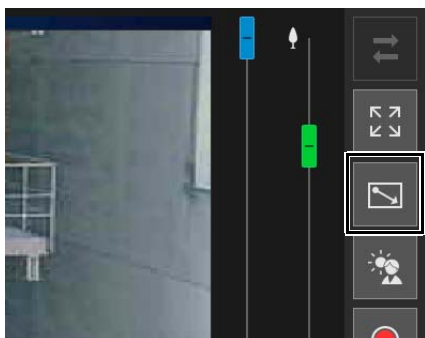
3 マウスボタンを放す

左から右方向の場合、枠線で囲んだ部分が映像表示部全域に表示されます。

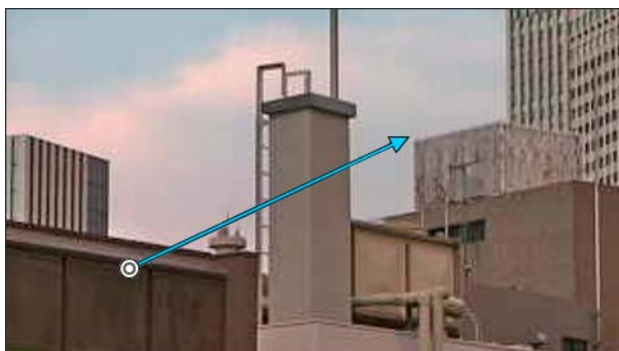
右から左方向の場合、枠線の中心が映像表示部の中心となるようにズームアウトします。

ドラッグムーブでのアングル移動

1 [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、📏 (ドラッグムーブ) にする



2 映像表示部で、カメラアングルを移動したい方向にドラッグして矢印を表示する



矢印の方向にカメラアングルが移動します。

矢印の最大長は映像表示部の幅・高さの半分で、矢印を長くすると、移動速度が速くなります。

メモ

ドラッグムーブ中は、パン・チルトスライダーのつまみは移動しません。

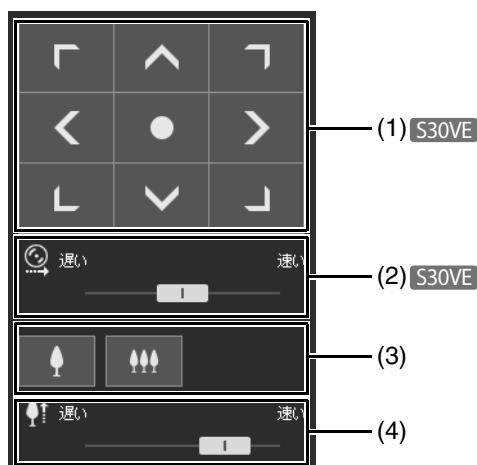
3 マウスボタンを放す

カメラが停止します。

■ [カメラ操作] メニューの [パン/チルト/ズーム] で操作する

S30VE S910F

[カメラ操作] メニューを開いて、カメラのパン・チルト・ズームを操作します。



(1) [パン/チルト] S30VE

各矢印の方向にアングルを移動します。押し続けると動作し、放すと停止します。

中心のボタンをクリックすると、カメラはパン/チルトそれぞれの可動範囲の中間位置に移動します。ただし、可視範囲制限が設定されていて (P. 110)、中間位置が可視範囲外になる場合は、可視範囲の端にカメラアングルが移動します。

(2) [パン/チルト速度] S30VE

[パン/チルト] のボタン操作による動作速度を設定します。

(3) [ズーム]

ボタンを押して、ズームインまたはズームアウトします。押し続けると動作し、放すと停止します。

(4) [ズーム速度]

[ズーム] のボタン操作による動作速度を設定します。

メモ

[パン/チルト速度]、[ズーム速度] の設定を変更しても、スライダーおよびパノラマ上でのパン・チルト・ズーム操作の速度は変更されません。

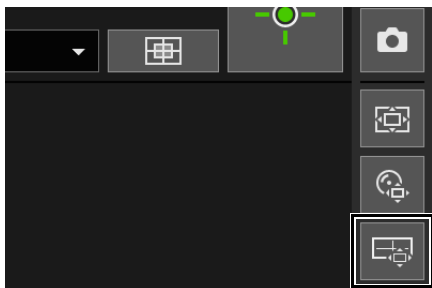
■ パノラマ表示パネルで操作する

S30VE

パノラマ表示パネルの枠を操作することにより、カメラを操作できます。

パノラマ表示パネルにパノラマ画像を表示するには、パノラマ画像を作成してカメラに保存しておく必要があります (P. 106)。

1 [パノラマ表示] ボタンをクリックする



コントロール表示部にパノラマ表示パネルが表示されます。

2 パノラマ表示パネル上の枠を操作して、パン・チルト・ズームする

表示される枠は、現在カメラが撮影している範囲を示しています。



ドラッグで移動/ズーム変更

枠内でマウスボタンを押してドラッグすると、パン・チルトが移動します。

枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しい枠が描けます。その枠内を撮影するようにパン・チルト・ズームが移動します。

枠線をドラッグして枠のサイズを変更すると、枠内が撮影されるようにズーム倍率が変わります。

クリックで移動

枠の外側をクリックすると、クリックした場所が中心となるように枠が移動し、パン・チルトが移動します。

映像を調整する

[カメラ操作] メニューを開いて、フォーカス、露出補正、デイナイトを操作します。

■ フォーカスを合わせる

S30VE S910F

被写体に焦点を合わせます。



[オート]

自動的にフォーカスを合わせます。

[マニュアル]

▲ (遠) ● (近) ボタンを押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調整します。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

メモ

- フォーカス使用についての注意事項は、P. 101 の重要をご確認ください。
- フォーカスの合う範囲については、P. 101の表を参照してください。

露出補正を設定する

映像の明暗を調節します。

映像を暗くしたい場合はマイナスの値へ、明るくしたい場合はプラスの値へスライダーを動かします。

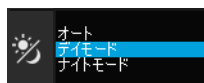


重要

- 設定ページの [露出] (P. 101) が [マニュアル] のときは設定できません。
- 設定ページの [スマートシェード補正] (P. 103) が [オート] の場合は設定できません。

デイナイトを切り換える

カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します。



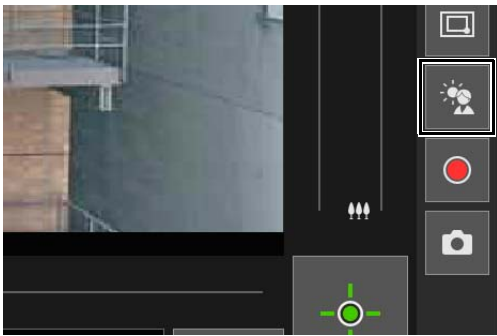
機能の詳細は、設定ページの「デイナイト」(P. 105) を参照してください。

重要

- デイナイトは管理者および特権制御権限を持った登録ユーザーが設定できます。
- デイナイト使用についての注意事項は、P. 105 の重要をご確認ください。

逆光補正を使用する

映像が逆光で暗い場合、[逆光補正] ボタンをクリックすると、暗かった映像が明るくなります。



逆光補正中は、[逆光補正] ボタンがアクティブ (紫) に変わります。
もう一度ボタンをクリックすると解除されます。

重要

- 設定ページの [スマートシェード補正] が [オート] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。
- 設定ページの [露出] が [マニュアル] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。

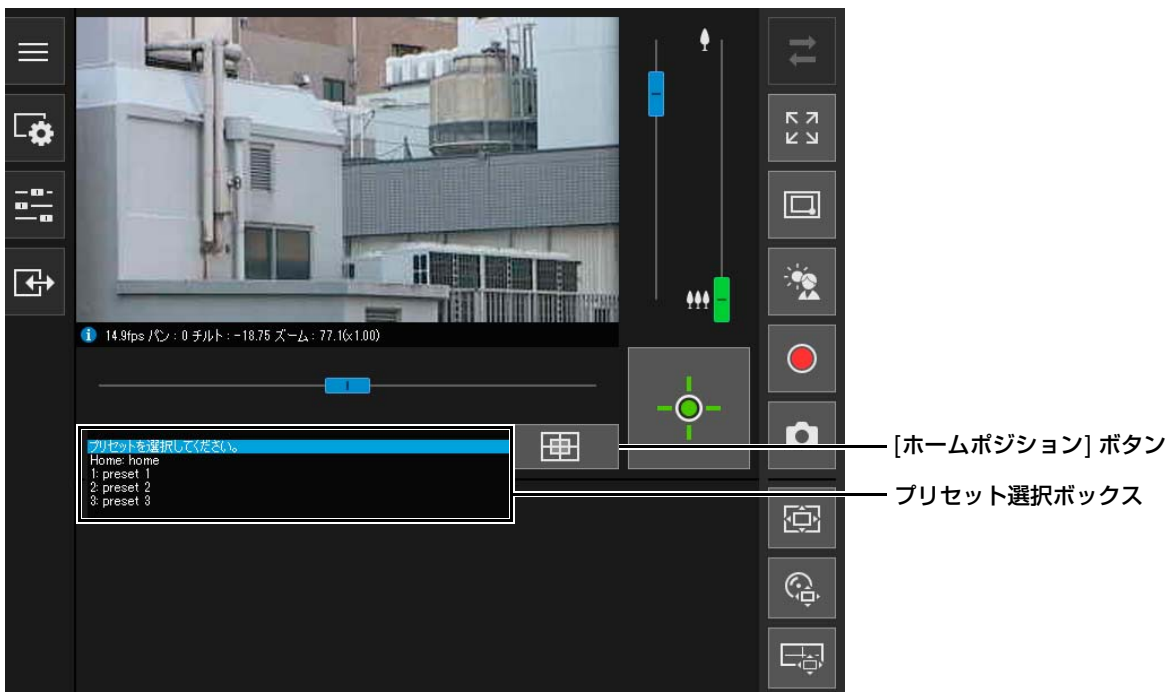
メモ

明るい部分の白飛びが気になる場合は、設定ページの [スマートシェード補正] を使用してください。

プリセット/ホームポジションを使用する

カメラにあらかじめ登録したプリセットやホームポジションにより、カメラを制御できます。
プリセット選択ボックスをクリックし、表示されたリストからプリセットを選択すると、選択したプリセットの登録内容に切り替わります。

また、[ホームポジション] ボタンのクリックで、カメラアングルがホームポジションの登録内容に切り替わります。



メモ

プリセットやホームポジションは、あらかじめ設定ページの [カメラ] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 114) で登録してください。
登録したプリセットが、プリセット選択ボックスに表示されます。

ビューワー PTZとデジタルPTZ

ビューワー PTZとデジタルPTZは、どちらもデジタルズーム機能を利用した簡易的なパン・チルト・ズーム機能です。下記の相違点があります。

ビューワー PTZ	デジタルPTZ
カメラから配信された映像のうち、指定した部分をビューワー上で拡大して表示	撮影可能な全体画像のうち、切り出した映像のみを配信
受信データサイズ大	受信データサイズ小
カメラ制御権が不要	カメラ制御権が必要
ビューワーごとに独立してPTZ操作が可能	ビューワーごとの独立したPTZ操作が不可能 (複数のビューワーが接続されている場合、他のビューワーでも同じ表示が適用される)
切り出しサイズは任意	切り出しサイズは5段階

映像の一部を拡大して表示する (ビューワー PTZ)

カメラ位置を固定したまま映像の一部を拡大 (デジタルズーム) するには、ビューワー PTZを使用します。カメラのパン・チルト・ズーム機能を使用しないため、インテリジェント機能の使用時など、カメラ位置を変更したくないときに活用できます。



重要 S30VE

ビューワー PTZの使用中は、映像表示部のクリック/ドラッグによるカメラ操作は行えません。



メモ

- ビューワー PTZによる拡大映像は、録画できません。
- ビューワー PTZ使用時は、全画面表示でも拡大映像が表示されます。

1 [ビューワー PTZ] ボタンをクリックする



[ビューワー PTZ]ボタンがアクティブ (紫) に変わり、コントロール表示部にビューワー PTZパネルが表示されます。

初期状態では、映像全体をプレビュー枠 (水色) が囲んでいます。

2 ビューワー PTZパネルで、プレビュー枠の枠線をドラッグして縮小する

縮小したプレビュー枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



3 拡大したい部分にプレビュー枠を移動、リサイズする

ドラッグで移動/サイズ変更

枠内でマウスボタンを押してドラッグすると、プレビュー枠が移動します。

枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しいプレビュー枠が描けます。

枠線をドラッグしてプレビュー枠のサイズを変更すると、拡大または縮小します。

クリックで移動

枠の外側をクリックすると、クリックした場所が中心となるようにプレビュー枠が移動します。

スライダーで移動/サイズ変更 **S800VE**

映像表示部のパン・チルトスライダー操作で、プレビュー枠を移動できます。ズームスライダー操作で、プレビュー枠を拡大または縮小できます。

メモ

ビューワー PTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

ビューワー PTZを終了するには

以下の操作をすると、ビューワー PTZが終了します。

- [ビューワー PTZ] ボタンをクリックして、[ビューワー PTZ] ボタンをOFFにする
- [デジタルPTZ] ボタンをクリックして、デジタルPTZを起動する

メモ

以下の操作をしても、[ビューワー PTZ] ボタンがアクティブ (紫) の間はビューワー PTZは終了せずに映像表示部の拡大表示が保持されます。

- コントロール表示部の [閉じる] ボタンをクリックして、ビューワー PTZパネルを閉じる
- スナップショットタブまたはパノラマ表示タブ **S30VE** をクリックして、コントロール表示部のパネルを切り替える

映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ)

デジタルPTZパネルを使用すると、カメラ映像の一部を映像表示部に切り出して表示できます。

メモ

H.264映像受信中にデジタルPTZを有効にすると、受信映像はJPEGに切り換わります。

デジタルPTZパネルで映像を切り出す

1 [デジタルPTZ] ボタンをクリックする



[デジタルPTZ]ボタンがアクティブ (紫) になり、コントロール表示部にデジタルPTZパネルが表示されます。

2 デジタルPTZパネル上のプレビュー枠を移動、サイズ変更する

プレビュー枠の操作方法是ビューワー PTZと同じです (P. 65)。

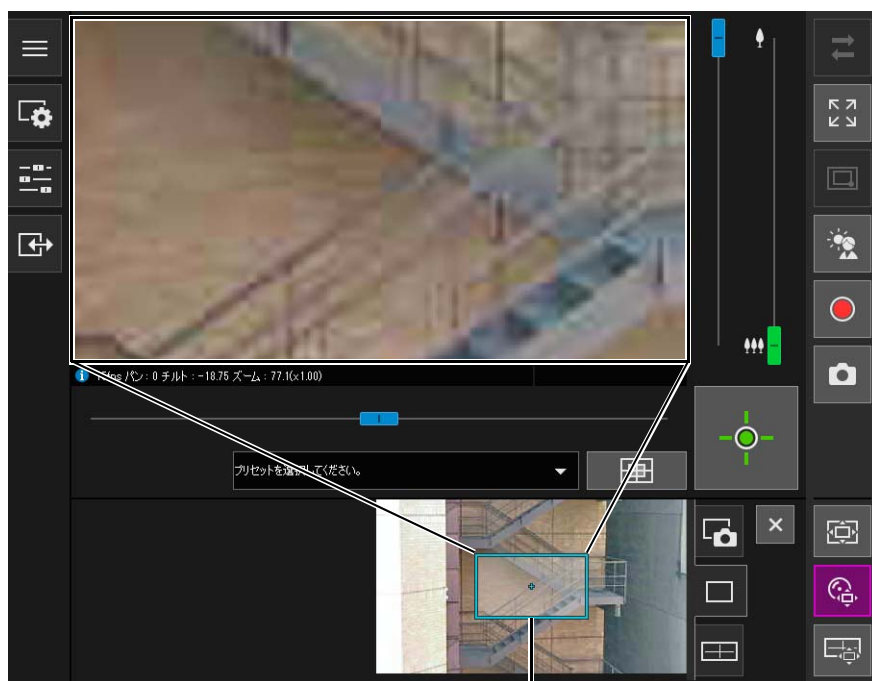
プレビュー枠のサイズは、5段階で変更できます。設定できるサイズは、設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定 (P. 91) によって、次のように変わります。

- アスペクト比が16:9の場合：640x360、512x288、384x216、256x144、128x72
- アスペクト比が4:3の場合：640x480、512x384、384x288、256x192、128x96

メモ

プレビュー枠は段階的に移動します。細かい位置合わせはできません。

操作したプレビュー枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



プレビュー枠

重要 S30VE S910F

スライダー操作やプリセットにより、カメラのアングルが変わっても、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠位置は固定です。

メモ

デジタルPTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

プリセット/ホームポジションを使用する S800VE

登録されているプリセットやホームポジションを使用して、デジタルPTZの範囲を指定できます。

プリセットを選択すると、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠がプリセット位置に移動し、枠内の映像が映像表示部に表示されます。

メモ

プリセットは、あらかじめ設定ページの [カメラ] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 114) で登録してください。

デジタルPTZを終了するには

以下の操作をすると、デジタルPTZが終了します。

- [デジタルPTZ] ボタンをクリックして、[デジタルPTZ] ボタンをOFFにする
- [ビューワー PTZ] ボタンをクリックして、ビューワー PTZを起動する

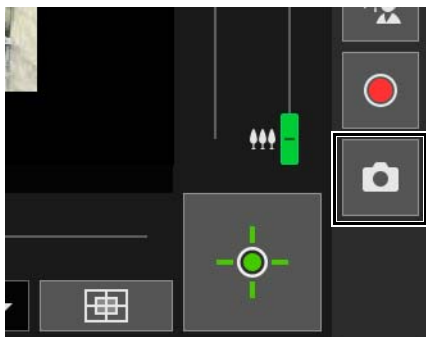
メモ

- 以下の操作をしても、[デジタルPTZ] ボタンがアクティブ (紫) の間はデジタルPTZは終了せずに継続されます。
 - コントロール表示部の[閉じる] ボタンをクリックして、デジタルPTZパネルを閉じる
 - スナップショットタブまたはパノラマ表示タブ S30VE をクリックして、コントロール表示部のパネルを切り替える

スナップショットを保存する

映像表示部で映像を確認しながら、スナップショットを取得します。

1 静止画を撮りたいタイミングで、[スナップショット] ボタンをクリックする



コントロール表示部にスナップショットパネルが開き、クリックした瞬間の静止画が表示されます。
この状態で [スナップショット] ボタンをクリックすると、スナップショットパネルに表示される映像が更新されます。

2 静止画を保存する場合は、スナップショットパネル上でマウスを右クリックする



3 メニューの [名前を付けて画像を保存] をクリックする

4 任意のファイル名を付けて保存する

メモ

- スナップショットはJPEGファイルで保存されます。
- 保存されるスナップショットのサイズは、受信映像サイズです。

メモリーカードに映像を記録する

映像表示部に表示中の映像を、カメラにセットしたメモリーカードに手動で録画します。

メモ

- 次の条件を満たしている場合に、手動録画できます。
 - カメラにセットしたメモリーカードがマウントされている
 - 設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] (P. 192) で、[動作設定] を [ログと映像を保存する] に設定している
- メモリーカードに録画される映像フォーマットと映像サイズは、設定ページの設定に従います。
 - 映像フォーマット：[メモリーカード] > [メモリーカードの操作] の [映像フォーマット] (P. 193)
 - 映像サイズ：JPEG [基本] > [映像] > [JPEG] の [映像サイズ：アップロード / メモリーカード]
H.264 [基本] > [映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の [映像サイズ]

映像を手動録画する

1 カメラの制御権を取得していない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を取得する

2 [メモリーカード録画] ボタンをクリックする



録画中は、[メモリーカード録画] ボタンの表示が変わります。



録画中



録画中 (カメラ制御権解放中)



録画していない状態 (カメラ制御権取得中)



録画していない状態 (カメラ制御権解放中、または、カメラにメモリーカードをマウントしていない状態)

3 録画を停止するには、もう一度 [メモリーカード録画] ボタンをクリックする



重要

- メモリーカードへの手動録画は、録画開始から300秒が経過した時点で停止します。
- 手動録画中は、[設定ページ] の各設定を変更しないでください。録画が停止する場合があります。
- メモリーカード手動録画中に、制御権を解放したり、カメラの接続を切断しても、継続して録画されます。

録画した映像を確認する

メモリーカードに手動録画した映像は、録画映像ユーティリティで確認および再生できます。

詳細は、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

音声を受信・送信する

[映像と音声] メニューを開いて、カメラからの音声受信とビューワーからの音声送信、およびそれぞれの音量を設定します。

音声を受信する

内蔵マイクから入力された音声を受信し、ビューワーで再生します。

1 [映像と音声] メニューの [音声受信] ボタンをクリックする



音声受信が開始されます。

音声受信中は、[音声受信] ボタンがアクティブ (紫) に変わります。

2 [出力音量] のスライダーで適切な音量に調節する

メモ

- 音声を受信するには、設定ページの [映像と音声] > [音声] > [音声全般] (P. 129) で、[音声入力の使用] を [使用する] に設定し、[映像と音声] > [映像] > [音声サーバー] (P. 130) > [カメラからの音声送信] を [送信する] に設定する必要があります。
- アイコンがアクティブ (紫) の間は、[映像と音声] メニューを閉じていても常に音声を受信されます。
ただし、アイコンがアクティブの間でも、次の場合はカメラから無音を送信されるため、マイクからの入力音声は聞こえません。
 - 設定ページの [映像と音声] > [音声] > [音声全般] (P. 130) で、[パン・チルト中のミュート] を [ミュートする] に設定時、カメラのパン・チルトが動作している間 **S30VE**
 - 設定ページの [映像と音声] > [音声] > [音声全般] (P. 130) で、[音声通信方式] を [半二重] に設定時、管理者が音声を送信している間
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を使用する場合、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシサーバーを使用する] をチェック > [詳細設定] > [例外] に、カメラのIPアドレスを指定する必要があります。

音声を送信する

PCに接続した外部デバイスから入力した音声を、カメラに接続したアンプ付きスピーカーで出力できます。

1 [映像と音声] メニューの [音声データ送信時間] で、音声を送信する最大時間を選択する



2 [音声送信] ボタンをクリックする

音声送信が開始されます。

音声送信中は、[音声送信] ボタンのアイコンがアクティブ (紫) に変わります。



3 [入力音量] のスライダーで適切な音量に調節する

メモ

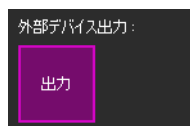
- 音声を送信するには、あらかじめ設定ページの [映像と音声] > [音声] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] を [受信する] に設定する必要があります (P. 130)。
- アイコンがアクティブ (紫) の間は、[映像と音声] メニューを閉じてても常に音声を送信されます。
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を使用する場合、Internet Explorerの [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシサーバーを使用する] をチェック > [詳細設定] > [例外] に、カメラの IPアドレスを指定する必要があります。
- ビューワーからの音声送信は管理者のみが可能です。
- 設定ページの [映像と音声] > [音声] > [音声全般] (P. 130) で [音声通信方式] を [半二重] に設定していると、管理者が音声を送信している間は、他のユーザーにはカメラから無音を送信されます。そのため、[音声受信] ボタン (P. 71) がアクティブ (紫) でも、マイクからの入力音声は聞こえません。

イベント検知の状態を確認する

☞ [イベントと入出力] メニューで、外部デバイスの出力操作や外部デバイスの入力状態、インテリジェント機能の検知状態、連結イベントの発生状態を確認できます。

外部デバイス出力を操作する

設定ページの [イベント] > [外部デバイス] (P. 145) で設定された、外部デバイスの出力を操作します。アイコンをクリックすると、アクティブ (紫)/インアクティブ (グレー) の状態を切り換えることができます。

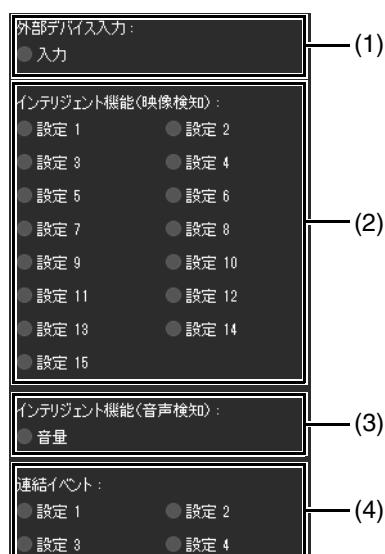


出力：出力アクティブ状態

メモ

外部デバイス出力を操作するには、カメラ制御権を取得する必要があります。

イベント検知の状態を確認する



(1) [外部デバイス入力]

設定ページの [イベント] > [外部デバイス] (P. 146) で設定された、外部デバイスの入力状態が表示されます。外部デバイスによる接点入力信号を受けると、入力がアクティブとなりアイコンが緑色になります。

例:



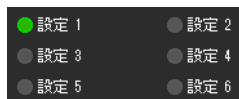
入力：入力アクティブ状態

(2) [インテリジェント機能(映像検知)]

設定ページの [イベント] > [インテリジェント機能] の映像検知 (P. 156) で設定された、映像検知の状態が、検知設定番号ごとに表示されます。インテリジェント機能 (動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知、侵入検知) の検知設定で、検知あり状態になると、そのアイコンが緑色になります。

設定ページの [イベント] > [インテリジェント機能] の [検知設定名] (P. 161) に名前が入力されている場合は、[設定 1] ~ [設定 15] に、その名前が表示されます。

例:



設定1：映像検知状態 ON

他の設定：映像検知状態 OFF

メモ

検知あり状態を示すアイコン表示は、最大で約5分間です (動体検知を除く)。

(3) [インテリジェント機能(音声検知)]

設定ページの [イベント] > [音声検知] (P. 148) で設定された、[音量検知] の状態が表示されます。検知あり状態になると、アイコンが緑色になります。

例:



音量：音量検知状態 ON

(4) [連結イベント]

設定ページの [イベント] > [連結イベント] (P. 177) で設定された、連結イベントの状態が表示されます。連結イベントありの状態になると、アイコンが緑色になります。

例:



設定2：連結イベント状態 ON

他の設定：連結イベント状態 OFF

4章



設定ページ

設定ページでは、カメラを使用するのに必要なすべての設定を行います。カメラ運用開始前に、カメラの使用状況に合わせて設定ページで各種設定をしてください。

また、カメラのメンテナンスなど、運用中に行うメニューも用意されています。

設定ページの使いかた

設定ページを表示するまでの操作と、設定ページの共通操作について説明します。

メモ

- 設定ページは、管理者のみ操作できます。
- 事前にカメラマネジメントツールで管理者アカウントとネットワークの設定を行ってください (P. 35)。

設定ページにアクセスする

カメラマネジメントツールで設定したIPアドレス (P. 36) を、Web ブラウザーに直接入力してカメラの設定ページを表示します。

メモ

設定ページは、カメラマネジメントツールからアクセスすることもできます。詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

1 Webブラウザを起動する

2 IPアドレスを入力し、Enterキーを押す

ユーザー認証の画面が表示されます。

3 管理者名と管理者パスワード (P. 35) を入力し、[OK] をクリックする

設定メニューが表示されます。

メモ

設定メニューの [基本] > [ビューワー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定した場合は、ビューワーが表示されます (P. 94)。

■ 設定メニューについて



(1) [ビューワー] ボタン

カメラビューワーを起動します (P. 43)。

(2) 言語切り換えボタン

画面に表示する言語設定します。

(3) 設定メニュー

クリックすると、[メモリーカード]、[ユーザーページ] 以外のメニューでは、サブメニュー (P. 80)が表示されます。サブメニューをクリックして、各設定ページに移動します。



重要

- 認証済みのWebページを表示したまま、別のウィンドウやタブを開いてカメラにアクセスすると、表示中のWebページの認証情報が破棄される場合があります。その場合は、再度認証情報を入力してください。
- セキュリティを確保するため、設定ページによる設定の完了後、およびカメラビューワーの使用後は、Web ブラウザーを終了してください。
- 1つのカメラに対しては、同時に複数の設定ページを開いて変更操作を行わないでください。

設定ページ共通の操作

設定ページの基本的な操作と、各設定ページで共通な操作について説明します。



メモ

Web ブラウザーでダイアログを表示しない設定を有効にすると、設定ページの操作ができなくなる場合があります。その場合は、Web ブラウザーを終了し、再度起動してください。

■ 設定変更の適用について

各設定ページ内で設定を変更すると、設定ページ右上および右下に表示されている [適用] のグレースアウトが解除され、クリックできるようになります。



この状態で [適用] をクリックすると、変更した設定が適用されます。
[クリア] をクリックすると、変更する前の設定に戻ります。

■ 再起動が必要な設定変更

変更した設定を適用するために、カメラを再起動させる必要がある設定項目には、右端にオレンジの [再起動] 記号が付いています。



[再起動] 記号がある項目を変更すると、設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、[適用して再起動] に変わります。



[適用して再起動] をクリックすると、変更内容が適用され、カメラが再起動します。
[クリア] をクリックすると、変更する前の設定に戻ります。



重要

[適用] または [適用して再起動] をクリックせずに別の設定ページへ移動すると、変更内容が失われてしまいます。変更内容を適用するには、必ず [適用] または [適用して再起動] をクリックしてください。ただし、[起動時設定] は変更内容を [適用] せずにページを移動した場合でも変更が保持されるため、設定を破棄したい場合は、[クリア] をクリックしてください。

■ 設定メニューに戻る

各設定ページから設定メニューに戻る場合は、右上に表示されている [設定メニュー] をクリックします。



重要

Webブラウザの [戻る]・[進む] ボタンによる設定ページの移動は行わないでください。変更した設定が元に戻ってしまうことや、意図しない変更が適用されてしまう可能性があります。

■ ヘルプについて

設定項目先頭にある  [Help] をクリックすると、設定項目の詳細説明が表示されます。

■ 設定範囲や文字数の制限について

数値入力や文字入力を行う設定項目には、設定可能範囲や文字数の制限が表示されています。
表示されている範囲内で入力してください。

 最大パケットサイズ

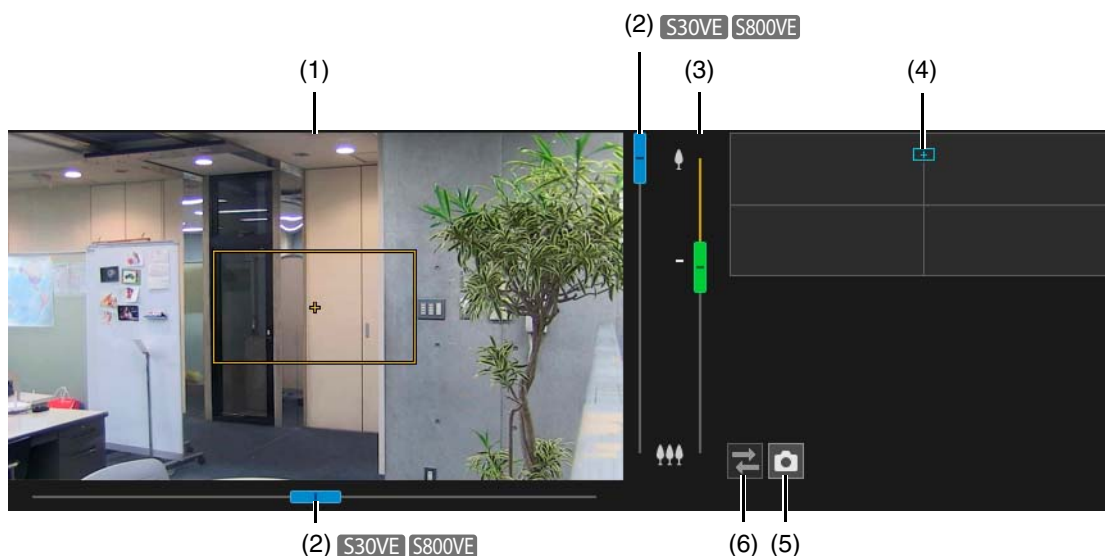
 パスワード

映像表示部の操作について

[起動時設定]、[プリセット]、[インテリジェント機能] など、一部の設定ページでは映像表示部を使って設定を行います。

メモ

- 設定ページによって、表示される項目が変わります。
- 設定ページで映像表示中は、他のユーザーはビューワーにアクセスできなくなります。また、ビューワーに管理者が接続中は、設定ページの映像表示ができなくなり、設定できません。





(1) 映像表示部

現在のカメラ映像が表示されます。

マウス操作で、領域などを設定します。映像表示部の操作はビューワーと同じです。

S30VE

設定ページによっては、映像表示部上でカーソルが [+] のとき次の操作ができます。

- クリックした位置にカメラアングルをセンタリング (P. 58)
- エリアズーム操作 (P. 60)

(2) パン・チルトスライダー **S30VE S800VE**

映像表示部で行うカメラのパン・チルト操作は、ビューワーと同じです (P. 58)。

(3) ズームスライダー

映像表示部で行うカメラのズーム操作は、ビューワーと同じです (P. 58)。

(4) パノラマ画面 **S30VE** / 全体画面 **S800VE S910F**

カメラの可動範囲を全体に表示します。設定ページによっては、マウス操作で、領域などを設定できます。

S30VE

カメラにパノラマ画像が登録されている場合 (P. 106) は、パノラマ画像が表示されます。

(5) [スナップショット] ボタン

クリックした瞬間の静止画を、スナップショットウィンドウを開いて表示します (P. 69)。

(6) [再接続] ボタン

カメラに接続し直します。カメラに接続していない場合に操作できます。

(7) [画面サイズ切り換え] ボタン

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のサイズを大小で切り換えます。

(8) [マウス操作切り換え] ボタン **S30VE**

ボタンをクリックし、ボタンが紫色のあいだ、マウスを使って映像表示部上でカメラのパン・チルト操作ができます。

(9) [カメラ制御権取得/解放] ボタン

カメラ制御権 (P. 57) を取得または解放します。

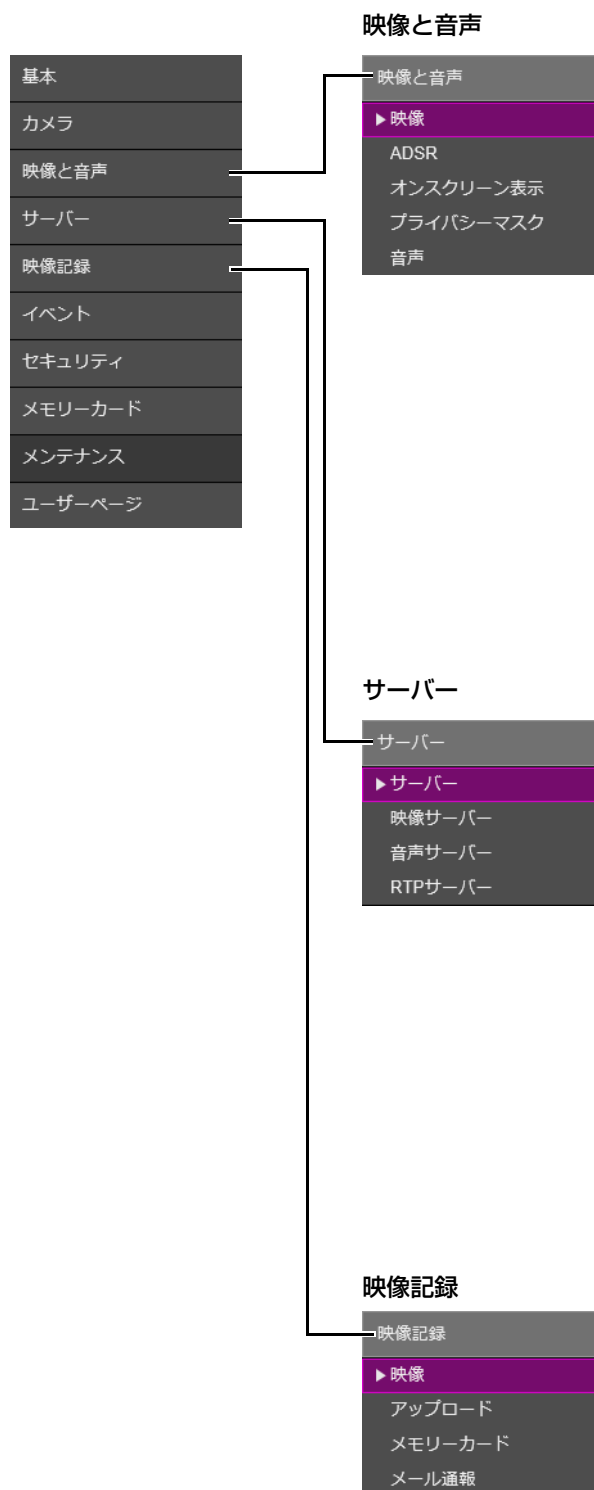
各設定ページについて

設定メニューの各項目の概要と、それぞれのサブメニューの一覧を紹介します。

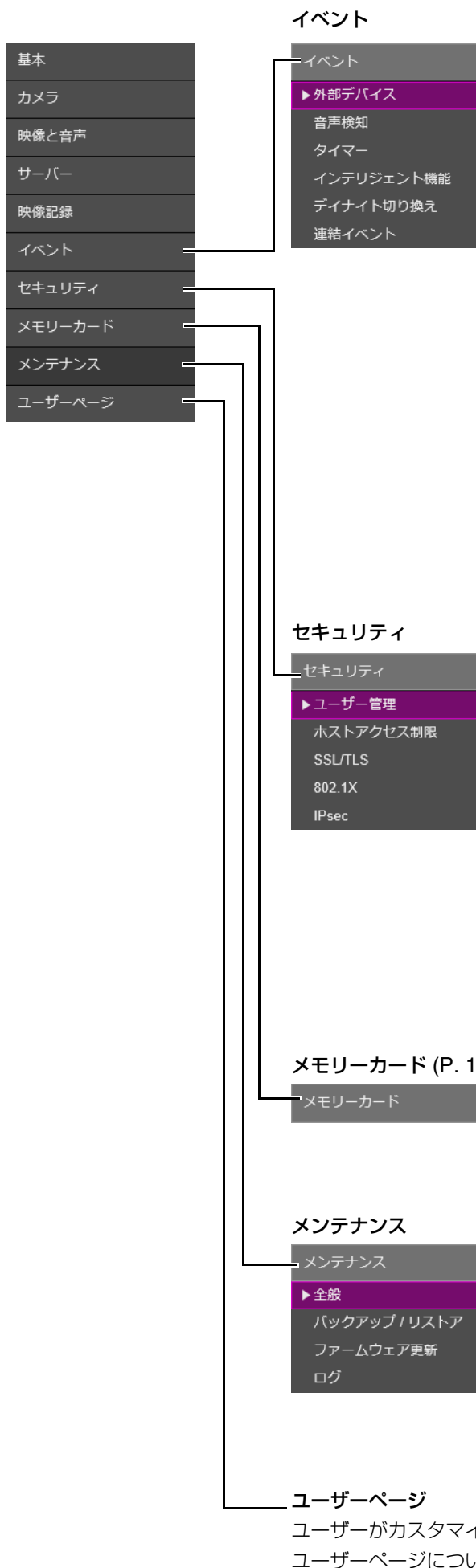
なお、[基本]、[映像と音声] または [映像]、[映像記録] の各メニューには、それぞれ [映像] サブメニューがありますが、機能はすべて共通です。どのメニューからの操作でも、機能を設定でき、すべての [映像] サブメニューに設定が反映されます。



- **ネットワーク (P. 83)**
カメラを接続するネットワークについて設定します。
- **ユーザー管理 (P. 87)**
管理者のアカウント情報や登録ユーザーの追加・削除、操作権限を設定します。
この項目の内容は、[セキュリティ] > [ユーザー管理] と共通です。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。
- **日付と時刻 (P. 89)**
カメラの日付と時刻に関して設定します。
- **映像 (P. 91)**
カメラから送信する映像のサイズや品質など、映像の全般的な設定をします。
- **ビューワー (P. 94)**
ビューワーの起動、認証、表示に関する設定を行います。
- **カメラ (P. 96)**
カメラ名や外部入力/出力デバイス名の設定、およびカメラの動作、設置について設定します。
- **起動時設定 (P. 99)**
カメラ起動時の画質補正などの初期値を設定します。
- **パノラマ (P. 106) S30VE**
パノラマ画像の作成・管理について設定します。
- **可視範囲 (P. 110) S30VE S910F**
カメラで撮影できる範囲を設定します。
- **プリセット (P. 114)**
一連の設定をプリセット登録します。
- **プリセット巡回 (P. 117) S800VE**
登録済みの複数のプリセットを自動で巡回するための設定を行います。



- **映像 (P. 91)**
- **ADSR (P. 120)**
ADSRとはArea-specific Data Size Reductionの略です。指定領域以外の映像品質を下げて、H.264映像の送信データ量を低減できます。
- **オンスクリーン表示 (P. 123)**
ビューワー上に、日付や時刻、カメラ名、任意の文字列を表示します。
- **プライバシーマスク (P. 125)**
カメラ映像の見せたくない領域にマスクを設定します。
- **音声 (P. 129)**
内蔵マイクからの入力音声送信や、ビューワーからの出力音声受信、再生音ファイルの設定をします。
[音声サーバー]項目の内容は、[サーバー] > [音声サーバー]と共通です。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。
- **サーバー (P. 132)**
HTTPサーバー、SNMPサーバー、FTPサーバーの使用と、WS-Securityの時刻チェックについて設定します。
- **映像サーバー (P. 135)**
映像サーバーに接続できるクライアントについて設定します。
- **音声サーバー (P. 130)**
カメラからPCへの音声送信と、PCからカメラへの音声受信について設定します。
この項目の内容は、[映像と音声] > [音声] > [音声サーバー]と共通です。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。
- **RTPサーバー (P. 136)**
RTPを使用した配信について設定します。
- **映像 (P. 91)**
- **アップロード (P. 139)**
イベントの発生時に、HTTPまたはFTPで映像をアップロードするための設定を行います。
- **メモリーカード (P. 192)**
メモリーカードの各種操作や設定を行います。
この項目の内容は、[メモリーカード]メニューと共通です。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。
- **メール通報 (P. 143)**
イベント発生時に、指定した宛先にメールを送信して通報するための設定を行います。



- **外部デバイス (P. 145)**
外部デバイス出力の動作と、外部デバイスからの入力イベントで実行する動作について設定します。
- **音声検知 (P. 148)**
内蔵マイクからの入力音声の変化を検知して、映像記録やメール通報などの動作を実行できます。
- **タイマー (P. 150)**
タイマー機能を使用してイベントを発生させ、映像記録やメール通報などの動作を一定間隔で実行できます。
- **インテリジェント機能 (P. 152)**
動体検知やいたずら検知、侵入検知などインテリジェント機能の設定をします。
- **デイナイト切り換え (P. 176)**
デイモードとナイトモードが切り換えられるタイミングで、カメラアングルをプリセット位置に移動させることができます。
- **連結イベント (P. 177)**
2種類のイベントを組み合わせ、1つのイベントを発生させます。
- **ユーザー管理 (P. 87)**
この項目の内容は、[基本] メニューの [ユーザー管理] と共通です。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。
- **ホストアクセス制限 (P. 181)**
IPv4、IPv6のそれぞれのアドレスからのアクセスに対して、個別にアクセス制御を行うことができます。
- **SSL/TLS (P. 183)**
証明書の作成および管理、暗号化通信について設定します。
- **802.1X (P. 186)**
802.1X認証の設定と認証状態の表示、証明書の管理を行います。
- **IPsec (P. 188)**
IPsecを使用する場合の設定を行います。
- **メモリーカード (P. 192)**
イベントの発生時に、映像をメモリーカードに記録するための設定を行います。
この項目の内容は、[映像記録] > [メモリーカード] と共通です。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。
- **全般 (P. 196)**
機器情報や設定、ライセンスの確認、再起動や初期化などを行います。
- **バックアップ / リストア (P. 198)**
バックアップやリストアを実行します。
- **ファームウェア更新 (P. 199)**
ファームウェア更新を実行します。
- **ログ (P. 200)**
ログの表示やログ通知の設定をします。

[基本] > [ネットワーク] ネットワークを設定する

カメラを接続するネットワークについて設定します。

ネットワーク		再起動	適用	クリア
LAN				
① LANインターフェース	オート			
① 最大パケットサイズ	576~1500	1500		
IPv4				
① IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定			
① IPv4アドレス	172.23.1.1			
① サブネットマスク	255.255.255.0			
① IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	172.23.1.255			
① AutoIPの使用	使用する			
① IPv4アドレス (AutoIP)	192.168.1.100			
IPv6				
① IPv6の使用	使用する			
① 自動設定 (RA)	有効			
① 自動設定 (DHCPv6)	有効			
① IPv6アドレス (マニュアル設定)				
① プレフィックス長	16~128	64		
① IPv6デフォルトゲートウェイアドレス				
① IPv6アドレス (自動設定)				

ここでは次の設定ができます。

- LAN
- IPv4
- IPv6
- DNS
- mDNS

DNS	
① ネームサーバーアドレス 1	
① ネームサーバーアドレス 2	
① ネームサーバーアドレスの自動設定	DHCP / DHCPv6を使用する
① ネームサーバーアドレス (DHCP)	
① ネームサーバーアドレス (DHCPv6)	
① ホスト名 (63文字以内)	
① ホスト名のDDNS登録	登録しない
① サーチドメイン (63文字以内)	
① サーチドメインリスト	
mDNS	
① mDNSの使用	使用する

重要

ネットワークの接続に関わる設定を変更すると、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性があります。この場合、[適用] または [適用して再起動] をクリックすると、確認のダイアログが表示されます。変更結果を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。

設定変更によるカメラの再起動後、Webブラウザからカメラに再接続できない場合、カメラに再接続するためのURIの候補があれば、メッセージとともに表示されます。表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

LAN

LANの通信方式と、カメラからの送信データサイズを設定します。

[LANインターフェース]

カメラを接続する機器のインターフェースに合わせて選択します。通常は [オート] を使用してください。

[最大パケットサイズ]

カメラが送信するパケットの最大サイズを入力します。通常は1500から変更する必要はありません。

IPv6を使用する場合は、1280以上に設定する必要があります。

ADSLをご利用の場合、この数値を少し下げると、送信効率が上がる場合があります。

IPv4

カメラへの接続にIPv4を使用する場合に設定します。IPv4のアドレスは、DHCPサーバーから自動で取得するか、手動で設定できます。

重要

- IPv4をマニュアル設定する場合の [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。
- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] の設定のいずれかに誤りがある場合、ネットワーク経由でアクセスできなくなることがあります。この場合はカメラマネジメントツールを用いて、再度アドレスを設定してください (P. 36)。

[IPv4アドレス設定方式]

IPv4アドレスの設定方式を選択します。

[マニュアル設定] の場合は、[IPv4アドレス] に固定のIPv4アドレスを入力します。

[自動設定(DHCP)] の場合は、[IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] にDHCPサーバーから取得した値が自動的に設定されます。

重要

IPv4アドレス設定を [自動設定(DHCP)] で使用する場合、DHCPサーバーとカメラの間にルーターがあるような環境では、IPv4アドレスが正しく割り振られない場合があります。その場合は、[マニュアル設定] を選択して固定のIPv4アドレスを設定してください。

[IPv4アドレス]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合、固定のIPv4アドレスを入力します。

127.0.0.1 のように 127. から始まるIPアドレスは設定できません。

[サブネットマスク]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合、ネットワークごとに指定されたサブネットマスク値を入力します。

[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合に入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

[AutoIPの使用]

AutoIPの使用の有無を選択します。

[IPv4アドレス(AutoIP)]

[AutoIPの使用] が [使用する] の場合、自動的に設定されたIPアドレスが表示されます。

IPv6

カメラへの接続にIPv6を使用する場合に設定します。IPv6のアドレスは、RAまたはDHCPv6サーバーから自動で取得するか、手動で設定できます。

重要

IPv6を手動設定する場合の [IPv6アドレス (マニュアル設定)]、[プレフィックス長]、[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。

[IPv6の使用]

IPv6の使用の有無を選択します。

[自動設定(RA)]

RA (Router Advertisement、ルーターから自動的に送信されるネットワーク情報) を利用してアドレスを自動で設定する場合は、[有効] を選択します。

[自動設定(DHCPv6)]

DHCPv6を利用してアドレスを自動で設定する場合は、[有効] を選択します。

[IPv6アドレス(マニュアル設定)]

アドレスを手動で設定する場合、固定のIPv6アドレスを入力します。

[プレフィックス長]

[自動設定(RA)] が [無効] の場合、プレフィックス長を入力します。

[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス]

[自動設定(RA)] が [無効] の場合、デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

[IPv6アドレス(自動設定)]

[IPv6の使用] が [使用する] で、[自動設定(RA)] と [自動設定(DHCPv6)] が [有効] の場合、自動的に取得したアドレスが表示されます。

メモ

IPv6が使用できない環境では、IPv6を [使用する]、自動設定を [有効] に設定した場合、[IPv6アドレス(自動設定)] 表示欄にはリンクローカルアドレスのみが表示されます。

DNS

DNSサーバーのアドレスを設定します。DNSサーバーのアドレスは手動設定するか、DHCP/DHCPv6サーバーから自動で取得します。

[ネームサーバーアドレス1]、[ネームサーバーアドレス2]

登録したいネームサーバーアドレスを入力します。1つしか登録しない場合は、[ネームサーバーアドレス 2] は空欄のままにしてください。

メモ

[ネームサーバーアドレス 1] が使用できない場合は、[ネームサーバーアドレス 2] にアクセスします。ただし、[ネームサーバーアドレス 2] が事前に設定されていることが前提です。

[ネームサーバーアドレスの自動設定]

ネームサーバーアドレスを自動で設定する場合、使用するサーバーを選択します。

[DHCPを使用する] に設定する場合、[IPv4アドレス設定方式] を [自動設定(DHCP)] (P. 84) にしてください。

[DHCPv6を使用する] に設定する場合、[IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定(DHCPv6)] を [有効] (P. 84) にしてください。

[ネームサーバーアドレス(DHCP)]

[ネームサーバーアドレスの自動設定] が [DHCPを使用する] または [DHCP/DHCPv6を使用する] の場合、DHCPサーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

[ネームサーバーアドレス(DHCPv6)]

[ネームサーバーアドレスの自動設定] が [DHCPv6を使用する] または [DHCP/DHCPv6を使用する] の場合、DHCPv6サーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

[ホスト名]

カメラのホスト名を、ネームサーバーに半角英数字で登録できます。

Internet Explorer 9/10/11では、ホスト名に “_” (アンダースコア) を使用しないでください。

[ホスト名のDDNS登録]

[ホスト名] を入力して [登録する] を選択すると、ホスト名がネームサーバーに登録されます。

[IPv4アドレス設定方法] を [自動設定(DHCP)] (P. 84) にして運用する場合、ホスト名をDDNSへ登録すると便利です。あらかじめDNSサーバーに登録を行うための設定が必要です。DNSサーバーの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。

[サーチドメイン]

サーチドメインリストにドメイン名を追加する場合、ドメイン名を入力して [追加] をクリックします。

サーチドメインリストにドメイン名が指定されていると、アップロードなどのサーバー指定でドメイン名なしのホスト名を指定するだけで、ホスト名+ドメイン名の形で扱われます。

Internet Explorer 9/10/11では、ドメイン名に “_” (アンダースコア) を使用しないでください。

[サーチドメインリスト]

[サーチドメイン] で追加されたドメイン名が一覧表示されます。

DNSサーバーに対して、このリストのドメイン名の上から順に問い合わせが行われます。

右側の▲▼ボタンでドメイン名の並び順を変更することができます。

ドメイン名を削除する場合は、ドメイン名を選択して [削除] をクリックします。

mDNS

マルチキャストDNSの使用について設定します。mDNSを使用すると、カメラのIPアドレスとホスト名の情報を、ネットワーク上の他のホストに通知します。

[mDNSの使用]

mDNSの使用の有無を選択します。

[基本] > [ユーザー管理] アカウント、権限について設定する

管理者アカウントの変更、登録ユーザーの新規追加と、登録ユーザーおよび一般ユーザーの権限設定を行います。

ユーザーの権限については、「カメラビューワーのアクセス制限」(P. 46)を参照してください。

[ユーザー管理] は、[セキュリティ] > [ユーザー管理] と共通です。一方のページで設定すると、もう一方の [ユーザー管理] にも反映されます。

ここでは次の設定ができます。

- 管理者アカウント
- 登録ユーザーアカウント
- ユーザー権限

管理者アカウント

管理者のアカウント情報を変更する場合に設定します。

重要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは定期的に変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。
- 管理者パスワードを忘れてしまった場合は、工場出荷設定に戻してください (P. 223)。ただし、カメラの管理者アカウント・ネットワーク情報・時刻情報も含めたすべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。

[管理者名]

管理者名を半角英数字と“-”、“_”のみ入力できます。

[パスワード]

管理者パスワードを半角英数字で入力します。

カメラビューワーなどが接続している場合は、接続を終了してからパスワードを変更してください。

[パスワード(確認用)]

上と同じパスワードを確認のため入力します。

登録ユーザーアカウント

登録ユーザーを追加します。

[ユーザー名]、[パスワード]

ユーザー名とパスワードを入力して [追加] をクリックすると、登録ユーザーが追加されます。

ユーザー名には、半角英数字と“-”、“_”のみ入力できます。

パスワードは、半角英数字で入力します。

最大50の登録ユーザーを追加できます。

[ユーザーリスト]

追加された登録ユーザーが一覧表示されます。

右側の▲▼ボタンでリストの並べ替えができます。

リストでユーザーを選択して、[削除] をクリックすると、登録ユーザーが削除されます。

ユーザー権限

登録ユーザーと一般ユーザーの権限を設定します。カメラビューワーのアクセス制限を、この設定でかけることができます (P. 46)。

[特権カメラ制御]、[一般カメラ制御]、[映像配信]、[音声配信]

各ユーザーに付与する権限の項目をチェックします。

登録ユーザーは一般ユーザーよりも上位の権限となります。

[基本] > [日付と時刻] 日付/時刻を設定する

カメラの日付と時刻に関して設定します。

日付と時刻		適用	クリア
現在の日付と時刻			
① 日付 yyyy/mm/dd	2016/08/13		
② 時刻 hh:mm:ss	10:10:05		
設定			
① 設定方法	手動で設定する ▼		
② 日付 yyyy/mm/dd	2016/08/13		
③ 時刻 hh:mm:ss	10:10:05		
④ タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京 ▼		
⑤ サマータイム	自動調整しない ▼		

ここでは次の設定ができます。

- 現在の日付と時刻
- 設定

現在の日付と時刻

カメラに設定されている日付と時刻が表示されます。

設定

カメラの日付と時刻の設定方法、タイムゾーン、サマータイムを設定します。

[設定方法]

日付と時刻の設定方法を選択します。

[手動で設定する]

[日付]、[時刻]で任意の日付と時刻を設定します。
時刻は24時間制で<時:分:秒>の順に入力します。

[NTPサーバーに合わせる]

表示される [NTPサーバーの自動設定] で、設定方法を選択します。

[使用しない]

[NTPサーバー] に、NTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。

[DHCPを使用する]

DHCPサーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。[NTPサーバー (DHCP)] には、取得したNTPサーバーのアドレスが表示されます。

設定するには、[ネットワーク] > [IPv4] > [IPv4アドレス設定方式] を [自動設定(DHCP)] にする必要があります (P. 84)。

[DHCPv6を使用する]

DHCPv6サーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。[NTPサーバー (DHCPv6)] には、取得したNTPサーバーのアドレスが表示されます。

設定するには、[ネットワーク] > [IPv6] > [IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定(DHCPv6)] を [有効] にする必要があります (P. 84)。

[DHCP/DHCPv6を使用する]

DHCPサーバーまたはDHCPv6サーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。

DHCPサーバー (IPv4) とDHCPv6サーバーの両方からNTPサーバーのアドレスが取得できる場合は、DHCPサーバー (IPv4) から取得したNTPサーバーのアドレスが使用されます。

[同期間隔 (分)]

設定したNTPサーバーへの問い合わせ間隔を入力します。

[最終同期時刻]

設定したNTPサーバーと最後に同期をした時刻が表示されます。

[このコンピューターに合わせる]

日付と時刻を、現在カメラにアクセスしているコンピューターに合わせます。[適用] をクリックした後は、[設定方法] が [手動で設定する] になります。

[タイムゾーン] は自動的に選択されませんので、必要に応じて別途設定を行ってください。

メモ

- NTPサーバーのIPアドレスが正しくないなど、NTPサーバーに接続できない場合は、[最終同期時刻] が更新されない、または、空欄となります。
- カメラの時刻とNTPサーバーの時刻の差が大きい場合は、同期に時間がかかります。

[タイムゾーン]

グリニッジ標準時との時差を選択します。

タイムゾーンを変更し [適用] すると、指定したタイムゾーンに合わせて、日付と時刻の表示が自動的に変更されます。

[サマータイム]

サマータイムを、タイムゾーンに合わせて自動調整するかしないかを選択します。

[基本] > [映像] 映像のサイズや品質を設定する

カメラから送信する、JPEG/H.264のそれぞれの映像サイズや品質など、映像の全般的な設定をします。

[映像] は、[映像と音声] および [映像記録] にある [映像] と共通です。いずれかのページで設定すると、他のすべての [映像] にも反映されます。

映像 🔄 再起動 適用 クリア

映像全般

① 映像サイズセット 1920x1080 / 960x540 / 480x270

JPEG

① 映像品質 : 480x270 6

① 映像品質 : 960x540 6

① 映像品質 : 1920x1080 6

① 映像品質 : デジタルPTZ 6

① 映像サイズ : 映像送信 1920x1080

① 最大フレームレート : 映像送信 0.1~30 15.0

① 映像サイズ : アップロード / メモリーカード 480x270

ここでは次の設定ができます。

- 映像全般
- JPEG
- H.264(1)
- H.264(2)

H.264 (1)

① 映像サイズ 1920x1080

① ビットレート制御 ビットレート制御する

① 目標ビットレート (kbps) 3072

① フレームレート (fps) 15

① Iフレーム間隔 (秒) 1

H.264 (2)

① H.264 (2) の使用 使用する

① 映像サイズ 480x270

① ビットレート制御 ビットレート制御する

① 目標ビットレート (kbps) 1024

① フレームレート (fps) 15

① Iフレーム間隔 (秒) 1

📖 重要

- 映像サイズや映像品質、目標ビットレートを高めに設定すると、1 フレームあたりのデータ容量が大きくなり、ネットワーク負荷が高くなることで、次の現象が起こることがあります。
 - JPEG：フレームレートが低下する場合があります
 - H.264：映像が一時的に途切れる場合があります
- H.264映像の場合、映像サイズを大きめに設定し、目標ビットレートを低めの設定にすると、ブロックノイズが目立つことがあります。
- 被写体の種類や、被写体の動きによってはデータ容量が大きくなる場合があります。フレームレートの低下などが長時間にわたって継続する場合は、映像サイズや映像品質を低く設定してください。
- 同梱のRM-Lite での録画は、JPEG映像のみです。

映像全般

カメラで使用する映像サイズのセットを設定します。

ここで設定した映像サイズセットによって、[映像] サブメニューすべての設定項目と、設定ページにあるすべての [映像サイズ] で選択できるサイズセットが決まります。

また、各ビューワーで選択できる映像サイズおよび表示画面サイズも決まります。

[映像サイズセット]

映像サイズの各セットにより、系列およびアスペクト比が異なります。

[映像サイズセット]	系列	アスペクト比
[1920x1080/960x540/480x270]	1080p	16:9
[1280x720/640x360/320x180]	720p	16:9
[1280x960/640x480/320x240]	4:3	4:3

重要

[映像サイズセット] の選択を変更して [適用して再起動] をクリックした場合、いったん接続が切断され、すべての映像サイズが変更されます。そのため、カメラに接続しているユーザーは、再接続を行う必要があります。

また、[映像サイズセット] の設定変更後は、次の設定を見直し、動作の確認を行ってください。

- ADSR (P. 121)
- プライバシーマスク (P. 125)
- インテリジェント機能 (P. 152)
- プリセット (P. 114)
- 可視範囲 (P. 110) **S30VE** **S910F**

JPEG

カメラから送信するJPEG映像の品質や映像サイズ、および、カメラの映像を記録する際の映像サイズを設定します。
ここで設定・選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

[映像品質]

カメラから送信する映像の品質を、映像サイズセットのサイズごとに選択します。
値が大きいほど高画質になります。

[映像品質：デジタルPTZ]

デジタルPTZでの映像品質を選択します。

[映像サイズ：映像送信]

ビューワーで映像サイズを指定しない場合に、カメラから送信するデフォルトの映像サイズを選択します。

[最大フレームレート：映像送信]

1秒間に送信する最大フレームレートを制限することにより、ビューワーの負荷を軽減します。最大30フレーム/秒まで設定できます。

[映像サイズ：アップロード/メモリーカード]

アップロード機能使用時 (P. 139)、またはメモリーカード記録時 (P. 192) の送信映像サイズを選択します。

映像をアップロードするかメモリーカードに記録するかは、[映像記録] > [アップロード] または [メモリーカード] > [映像記録動作] (P. 139) で設定します。

H.264(1)

カメラから送信するH.264(1)映像について設定します。

ここで選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

[映像サイズ]

カメラから送信する映像サイズを選択します。

[ビットレート制御]

映像のビットレートについて設定します。

[ビットレート制御する] を選択した場合は [目標ビットレート(kbps)] を、[ビットレート制御しない] を選択した場合は [映像品質] を設定してください。

[目標ビットレート(kbps)]

[ビットレート制御] が [ビットレート制御する] の場合、目標ビットレートを選択します。

[映像品質]

[ビットレート制御] が [ビットレート制御しない] の場合、映像の品質を選択します。
値が大きいほど高画質になります。

[フレームレート(fps)]

映像のフレームレートを選択します。

[Iフレーム間隔(秒)]

H.264映像にIフレームを挿入する間隔 (秒) を選択します。

重要

- [H.264(1)] または [H.264(2)] の映像を、メモリーカード記録およびアップロードに使う場合、設定が次のように制限されます。
 - [ビットレート制御] : [ビットレート制御する] のみ
 - [目標ビットレート(kbps)] : [3072]以下
 - [Iフレーム間隔(秒)] : [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかのみ
- H.264 映像を2 ストリーム配信する場合、H.264(1)とH.264(2)の映像サイズを次の組み合わせで設定すると、フレームレートが最大 15 fpsに制限されます。それ以外の組み合わせの場合、フレームレートは30 fpsまで選択できます。

H.264(1)	H.264(2)
1920x1080	すべてのサイズ
すべてのサイズ	1920x1080
1280x960	1280x 960
1280x720	1280X720

H.264(2)

カメラから送信するH.264(2)映像について設定します。

ここで選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

[H.264(2)の使用]

H.264映像を2ストリーム送信する場合、[使用する] を選択します。

[映像サイズ]、[ビットレート制御]、[目標ビットレート(kbps)]、[映像品質]、[フレームレート(fps)]、[Iフレーム間隔(秒)]「H.264(1)」の各項目を参照してください。

[基本] > [ビューワー] ビューワーを設定する

ビューワーの起動、認証、表示に関する設定を行います。



ここでは次の設定ができます。

- 全般
- ビューワー設定

全般

[デフォルトページ]

カメラに接続したときに、最初に表示させるページを設定ページまたはビューワーのどちらかに設定します。
管理者以外のユーザーがビューワーを使用する場合は、[デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定してください。

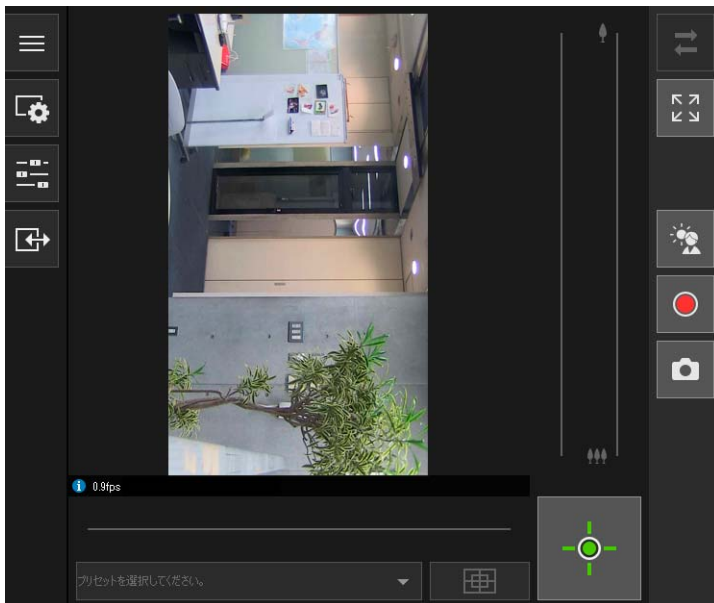
ビューワー設定

[ユーザー認証]

ビューワーに接続するときに、ユーザー認証画面を表示させるための設定です (P. 43)。**[認証する]** を選択すると、管理者または登録ユーザー (P. 87) のみが接続可能になります。

[映像表示の回転] **S800VE** **S910F**

[右へ90度] または **[左へ90度]** を選択すると、縦長の映像がカメラビューワーに表示されます。カメラを90度回転させて、縦長に撮影したい場合に使用します。



[右へ90度] に設定したときのカメラビューワーの映像

メモ

- 映像表示の回転は、ビューワー上での回転です。設定ページの映像表示部の映像は、回転しません。また、アップロードやメモリーカード記録の映像も、回転しません。
- 映像表示を回転すると、オンスクリーン表示も一緒に回転します。

[一般ユーザーでのH.264の使用]

一般ユーザーでH.264映像を受信するための設定です。[使用する] を選択すると、一般ユーザーでビューワーに接続した場合でも、[H.264] ボタンが表示されます (P. 49)。

[使用する] を選択すると、「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されます。契約書の条項に同意する場合は [はい] をクリックしてください。



重要

複数のPCでH.264映像を受信する場合は、H.264追加ユーザーライセンスが必要です (P. 19)。カメラに不特定多数のユーザーがアクセスする場合など、ライセンス管理ができない環境では、[使用しない] を選択してください。

[カメラ] > [カメラ] カメラの制御全般を設定する

カメラ名や外部入力/出力デバイス名の設定、およびカメラの動作、設置について設定します。

カメラ		適用	クリア
カメラ名			
① カメラ名 (半角英数字) 15文字以内	Camera		
① カメラ名 (日本語) 15文字以内			
カメラ制御			
① デジタルズーム	使用しない		
① スマートシェード補正強度 (オート)	中		
① かすみ補正強度 (オート)	中		
① 動き補正ノイズリダクション	使用しない		
① パン・チルト速度制御	ズーム位置に応じて制御		
デイナイト (オート設定時)			
① 切り換える明るさ	標準		
① 応答性 (秒)	20		

ここでは次の設定ができます。

- カメラ名
- カメラ制御
- デイナイト (オート設定時)
- 設置条件
- カメラ位置制御
- 外部入力デバイス
- 外部出力デバイス

設置条件	
① LEDの点灯	点灯する
① 映像反転	反転しない
カメラ位置制御	
① プリセットに限定	限定しない
① 制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない
外部入力デバイス	
① デバイス名 (半角英数字) 15文字以内	
① デバイス名 (日本語) 15文字以内	
外部出力デバイス	
① デバイス名 (半角英数字) 15文字以内	
① デバイス名 (日本語) 15文字以内	

カメラ名

カメラ名を設定します。

[カメラ名(半角英数字)]/[カメラ名(日本語)]

任意のカメラ名を入力します。[カメラ名(半角英数字)] は必ず入力してください

[カメラ名(日本語)] を入力した場合、RMビューワーには [カメラ名(日本語)] が優先して表示されます。

カメラ制御

映像を見やすくするための各種制御を設定します。

[デジタルズーム] **S30VE** **S910F**

デジタルズームの使用の有無を選択します。

[使用する] を選択した場合、ビューワーのズームスライダーに、デジタルズームを示す領域が表示されます (P. 59)。

デジタルズームは、光学ズームと異なり、ズーム倍率が高くなるに従って画質が低下します。

[スマートシェード補正強度(オート)]

[スマートシェード補正] (P. 103) を [オート] に設定した場合の、補正の強さを選択します。

- [弱]：ノイズが目立つ場合に選択
- [中]：オートモードで使用する場合の推奨設定 (初期設定)
- [強]：暗部の視認性を上げたい場合に選択

[かすみ補正強度(オート)]

[かすみ補正] (P. 105) を [オート] に設定した場合の、補正の強さを選択します。

メモ

[かすみ補正] を [オート] に設定し、[かすみ補正強度(オート)] を [強] に設定すると、被写体にかすみがかかっていない状態では、明暗の差が強く出る場合があります。このような場合は、[かすみ補正強度(オート)] を [弱] に設定してください。

[動き適応ノイズリダクション]

[使用する] を選択した場合、動きに応じて、ノイズリダクションを自動的に調整します。動きが少ないシーンではノイズリダクションを強くデータサイズが小さくなります。

重要

被写体の大きさや動く速度によっては、意図した効果が得られない場合があります

[パン・チルト速度制御] S30VE

パン・チルトの動作を制御するモードを選択します。

[ズーム位置に応じて制御] に設定した場合、パン・チルト速度は、テレ側では遅く、ワイド側では速くなります。

デイナイト (オート設定時)

[デイナイト] を [オート] に設定している場合に、デイモード/ナイトモードを切り換える条件を設定します。

[切り換える明るさ]

[デイナイト] が、[オート] に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える明るさを設定します。

できるだけカラーで撮影したい場合は [暗い] を選択してください。

ノイズ感を軽減したい場合は [明るい] を選択してください。ただし白黒に切り換えるタイミングが早くなります。

[応答性(秒)]

[デイナイト] が、[オート] に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える判断をするために要する秒数を選択します。選択した秒数の間、継続して [切り換える明るさ] で設定した明るさを超えるか、または下回ると、デイモード/ナイトモードを切り換えます。

カメラの前を光源が通過するなど、明るさの変化が頻繁な場合は、[30] や [60] を選択してください。明るさの変化が少ない場合は、[5]、[10] を選択してください。

設置条件

設置場所に合わせて、カメラの使用状態を設定します。

[LEDの点灯]

カメラの動作状態を表すLEDの点灯の有無を選択します。

[点灯する] に設定した場合は、電源投入時、再起動時、通常使用時にLEDが点灯します。

[消灯する] に設定した場合は、起動時にLEDが数秒間点灯後、消灯します。

いずれの設定でも、設定値初期化中はLEDが点滅します。

[映像反転]

映像表示を上下反転するかしないかを選択します。

天吊りで使用する場合や、机の上に置いて使用する場合など、設置方法に応じて設定してください。

カメラ位置制御

ユーザーのカメラ制御制限や、制御権要求がない場合のカメラ動作について設定します。

[プリセットに限定] S30VE S910F

管理者以外がカメラビューワーなどでカメラ制御をする場合のカメラアングルを、ホームポジションを含むプリセット位置に限定できます。

[制御権を持たない時の動作]

カメラの制御権を誰も取得していない場合のカメラの動作を選択します。

[ホームポジションへ移動する] を選択する場合は、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 114) でカメラのホームポジションを設定しておく必要があります。

外部入力デバイス

接続した外部入力デバイスを識別するため、デバイス名を入力します。

[デバイス名(半角英数字)]/[デバイス名(日本語)]

外部入力端子に接続したデバイス名を入力します。

[デバイス名(日本語)] を入力した場合、RMビューワーやカメラビューワーの [イベントと入出力] メニューには [デバイス名(日本語)] が優先して表示されます。

外部出力デバイス

接続した外部出力デバイスを識別するため、デバイス名を入力します。

[デバイス名(半角英数字)]/[デバイス名(日本語)]

外部出力端子に接続したデバイス名を入力します。

[デバイス名(日本語)] を入力した場合、RMビューワーやカメラビューワーの [イベントと入出力] メニューには [デバイス名(日本語)] が優先して表示されます。

[カメラ] > [起動時設定] 映像設定の初期値を設定する

カメラ起動時の画質補正などの初期値を設定します。設定値を変更すると、[適用] をクリックしなくても、映像表示部やビューワーに変更が即座に反映されます。

[起動時設定] にアクセスした段階で、現在のカメラの状態と、起動時設定として登録されている値が異なる場合は、現在のカメラの状態で起動時設定を表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

このメッセージで [OK] をクリックした場合、現在のカメラの状態で起動時設定が表示されます。[キャンセル] をクリックした場合は、現在のカメラの状態が破棄され、起動時設定として登録されている値が表示されます。



ここでは次の設定ができます。

- カメラ位置
- カメラ設定

カメラ設定	
① 簡単カメラ設定	種類を選択してください
① フォーカス	マニュアル
① ワンショットAF	実行
① フォーカス調整	遠 近
① 露出	オート
① AGCリミット	6
① シャッターリミット (低速)	1/30
① シャッターリミット (高速)	1/16000
① 露出補正	0
① 測光方式	中央部重点
① スマートシェード補正	使用しない
① ホワイトバランス	マニュアル
① ワンショットWB	実行
① Rゲイン 0~1023	281
① Bゲイン 0~1023	240
① ノイズリダクション	標準
① シャープネス	3
① 色の濃さ	4
① かすみ補正	マニュアル
① かすみ補正レベル	4
① デイナイト	デイモード

カメラ位置

起動時のカメラ位置を設定します。

[パン・チルト・ズーム位置] S30VE

現在のパン・チルト・ズーム位置を起動時設定に登録します。映像表示部や、パノラマ画面上の枠を操作することで、パン・チルト・ズームの操作ができます。

[登録しない] に設定すると、次回起動時のカメラアングルはホームポジションに移動します。ホームポジションが設定されていないときは、工場出荷設定のホームポジションに移動します。ホームポジションの設定については、P. 114を参照してください。

メ モ S30VE

[デジタルPTZ位置] が [登録しない] の場合、映像表示部でエリアズーム (P. 59) によるパン・チルト・ズーム操作ができます。

[ズーム位置] S910F

現在のズーム位置を起動時設定に登録します。ズーム位置はスライダーや、右側の全体画面で操作できます。

[登録しない] に設定すると、次回起動時は、電源OFF時のズーム位置が適用されます。

[デジタルPTZ位置]

現在のデジタルPTZ位置を起動時設定に登録します。

[登録する] を選択すると、映像表示部に黄色い枠が表示されます。枠を操作して起動時のデジタルPTZ切り出し位置を指定します。

 メモ

起動時のデジタルPTZ切り出し枠 (黄色) は、段階的なサイズでの設定になります。設定できるサイズは、ビューワの [デジタルPTZ] と同じです (P. 67)。

カメラ設定

起動時のカメラの各種設定項目を設定します。

[簡単カメラ設定]

選択した種類に応じて、[カメラ設定] の各項目に推奨値が一括で表示されます。必要に応じて、各項目を推奨値から変更して、[適用] することもできます。

種類	動き優先	高感度	データサイズ低減	標準設定
利用撮影シーン	動きのある被写体に対して、ブレを抑制する	暗い被写体に対して、感度を上げて明るくする	低照度時のデータサイズを抑制する	シーン設定を解除して、工場出荷設定に戻す
[露出]	オート	オート	オート	オート
[AGCリミット]	6	6	4	6
[シャッターリミット (低速)]	1/250 (秒)	1/8 (秒)	1/8 (秒)	1/30 (秒)
[シャッターリミット (高速)]	1/16000 (秒)	1/16000 (秒)	1/16000 (秒)	1/16000 (秒)
[スマートシェード補正]	使用しない	使用しない	使用しない	使用しない
[ノイズリダクション]	弱	強	強	標準
[シャープネス]	3	3	3	3
[色の濃さ]	4	4	2	4
[かすみ補正]	使用しない	使用しない	使用しない	使用しない

 重要

[簡単カメラ設定]では、次の留意点があります。

- [動き優先]: 低照度時において [標準設定] と比べて映像が暗くなったり、ノイズが増える場合があります。
蛍光灯などの影響によりフリッカーが発生する場合があります。
- [高感度]: 暗いシーンでは、動きのある被写体に残像が出やすくなります。
- [データサイズ低減]: 暗いシーンでは、動きのある被写体に残像が出やすくなります。

[フォーカス] S30VE S910F

フォーカスを選択します。

[オート]

自動的にフォーカスを合わせます。

[マニュアル]

[フォーカス調整] の [遠]、[近] ボタンを押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調整します。
[ワンショットAF] の [実行] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後に、マニュアルモードになります。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

重要 S30VE S910F

- 設定したフォーカスは、ほかのユーザーにも適用されます。
- 照明によっては、[デイモード] と [ナイトモード] の切り換え時にフォーカスが合わない場合があります。
- [露出] で、[マニュアル] を選択してシャッタースピードを [1/1秒] に設定すると、[オート] ではフォーカスが合いません。その場合は、[マニュアル] でフォーカスを合わせてください。
- フォーカスを [マニュアル] で設定すると、フォーカスが固定されたままになるのでご注意ください。
- 室内から窓ガラス越しに屋外を撮影するような条件では、ガラス面に塵や水滴が付着していると、ガラス面にフォーカスが合ってしまう場合があります。ガラス面とカメラをなるべく短い距離で設置してご使用ください。

メモ S30VE S910F

- 次のような被写体は、[オート] ではフォーカスが合いにくいことがあります。

フォーカスが合いにくい被写体



- カメラの再起動後は、フォーカスが合っているか確認することをお勧めします。
- [デイナイト] の設定により、フォーカスの合う範囲 (目安) は次の表のようになります。

フォーカス	デイモード/ナイトモード	
	ワイド端	テレ端
オート/マニュアル	0.3 m ~ ∞	0.3 m ~ ∞
無限遠固定	無限遠近傍	

[ワンショットAF] S30VE S910F

[フォーカス] が [マニュアル] の場合に使用します。[実行] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後、マニュアルモードになります。

[フォーカス調整] S30VE S910F

[フォーカス] が [マニュアル] の場合に、[遠] および [近] を押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調節します。

[露出]

露出モードを選択します。

メモ

[デイナイト] を [オート] にしている場合、[露出] は [オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(フリッカーレス2)]、[オート(シャッター優先)] のいずれかを選択してください。

[オート]

自動的に露出を制御します。

[オート(フリッカーレス)]

蛍光灯などの影響による画面の輝度むらを低減します。使用環境の明るさに応じて、シャッタースピードを自動で調節します。

[オート (フリッカーレス2)]

[オート (フリッカーレス)] を選択しても輝度むらの低減効果が得られない場合に、本モードをご使用ください。ただし、本モードはシャッタースピードの自動調整範囲が1/100秒より速くならないように抑えられるため、適正な露出にならない (明るくなり過ぎる) 場合があります。

[オート(シャッター優先)]

指定した [シャッタースピード] に応じて、ゲインを自動で調節します。

[マニュアル]

[シャッタースピード]、[ゲイン] を手動で設定します。

[スマートシェード補正] が [オート] の場合は設定できません。



重要

[オート(フリッカーレス)] または [オート(フリッカーレス2)] でも、不安定な光源下では、画面のちらつきが残ることがあります。

[AGCリミット]

低照度時にゲインを上げて映像を明るくするAGC(オートゲインコントロール)の上限値を選択します。

数値が大きいほど感度が高くなりますが、映像のノイズが増えます。



重要

- [AGCリミット] は、[露出] を [マニュアル]、[オート(フリッカーレス)] または [オート(フリッカーレス2)] にした場合、機能しません。
- [AGCリミット] を設定すると、最低被写体照度が変わる可能性があります。

[シャッターリミット (低速)]

[露出] が [オート]、[オート (フリッカーレス)] または [オート (フリッカーレス2)] の場合に、シャッタースピードの下限を選択できます。

[シャッターリミット (高速)]

[露出] が [オート] または [オート (フリッカーレス)] の場合に、シャッタースピードの上限を選択できます。

[シャッタースピード]

[露出] が [オート (シャッター優先)] または [マニュアル] の場合、シャッタースピードを固定できます。



メモ

- シャッタースピードを低速にするほど、動きのある被写体では残像が発生します。
- 動きのある被写体を撮影する場合、速いシャッタースピードを選択することで像ブレを少なくできます。

[露出] の設定により、シャッタースピードの選択範囲は次の表のようになります。

[露出]	[シャッターリミット (低速)]	[シャッターリミット (高速)]	[シャッタースピード]
[オート]	1/2 ～ 1/16000 (秒)	1/2 ～ 1/16000 (秒)*	-
[オート(フリッカーレス)]	1/2 ～ 1/50 (秒)	1/100 ～ 1/16000 (秒)	-
[オート(フリッカーレス2)]	1/2 ～ 1/50 (秒)	-	-
[オート(シャッター優先)]	-	-	1/2 ～ 1/16000 (秒)
[マニュアル]	-	-	1/1 ～ 1/16000 (秒)

* [シャッターリミット (低速)] より遅い速度は選択できません。

重要

- 信号機や電光掲示板などを撮影した場合、映像が点滅して表示されることがあります。この場合、露出を [オート(シャッター優先)] に設定して、1/100より低速のシャッタースピードを選択すると、現象が緩和される場合があります。
- シャッタースピードを低速にすると、インテリジェント機能が正しく検知できない場合があります。撮影シーンと目的に合わせて選択してください。

[ゲイン]

[露出] が [マニュアル] の場合、明るさに対する感度を設定します。

スライダーを左に動かすほど映像が暗くなり、右に動かすほど明るくなります。

[露出補正]

[露出] が [マニュアル] 以外の場合、露出の補正値を選択して、映像の明暗を調節できます。

重要

[スマートシェード補正] が [オート] の場合は設定できません。

[測光方式]

[露出] が [マニュアル] 以外の場合、測光方式を選択できます。

[中央部重点]

画面中央部に重点をおきながら、画面全体を測光します。

画面周辺に多少明暗があっても、中央付近の被写体は適正な露出が得られます。

被写体が画面中央付近の場合に使用してください。

[平均]

画面全体を平均して測光します。

画面内の明暗差が大きい撮影環境でも、安定した露出が得られます。

車の通過、人の出入りがあるシーンなどで露出を安定させたい場合に使用してください。

[スポット]

画面中央部を測光する方式です。

画面周辺の明暗に左右されることなく、画面中央部の被写体は適正な露出が得られます。

被写体にスポット光が当たっている場合や、逆光の場合などで画面中央部に露出を合わせたいときに使用してください。

[スマートシェード補正]

背景が明るくて被写体が見にくい場合に、明るい部分はそのまま、暗い部分を明るく補正して見やすくします。

逆光補正 (P. 63) とは異なり、明るい部分の白飛びを抑え、暗い部分の黒つぶれを補正します。

重要

- [露出] が [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は [オート] に設定できません。
- [かすみ補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は使用できません。

[マニュアル]

[スマートシェード補正レベル] で、補正の強さを設定します。

[オート]

スマートシェード補正機能と露出補正機能を併用し、白飛びや黒つぶれのない映像に自動制御します。

[スマートシェード補正レベル]

[スマートシェード補正] が [マニュアル] の場合、補正の強弱を設定します。

メモ

- [スマートシェード補正] を [オート] または [マニュアル] に設定すると、映像のデータサイズが大きくなります。
- [スマートシェード補正] を [マニュアル] にし、補正強度を強めに設定すると、画面ノイズが増える場合があります。ノイズが気になる場合は、補正強度を弱めに設定してください。

[ホワイトバランス]

自然な色合いの映像になるように、光源に応じたホワイトバランスを選択します。

重要

- 単一色の被写体や低照度時、ナトリウム灯や水銀灯、一部の蛍光灯を使用する環境下では、[オート] で適切な色合いに調節できないことがあります。
- [オート] の状態で、水銀灯光源下で画面が緑色を帯びる場合は、[水銀灯] を選択してください。また、[水銀灯] を選択しても水銀灯光源下で画面が適切な色にならない場合は [マニュアル] を選択して、[ワンショットWB] を使用してください。
- 光源選択は代表的な特性に合わせていますので、お使いの光源によっては、適切な色合いにならない場合があります。その場合は [マニュアル] を選択して、[ワンショットWB] を使用してください。

[オート]

自動的にホワイトバランスを調節します。

[マニュアル]

[ワンショットWB]、[Rゲイン]、[Bゲイン] を操作して、マニュアルでホワイトバランスを設定します。

[蛍光灯 昼光色] (約6,100K ~ 約6,600K)

昼光色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 白色] (約4,100K ~ 約5,000K)

昼白色蛍光灯、白色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 暖色] (約2,500K ~ 約3,000K)

暖色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[水銀灯] (約4,300K)

水銀灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ナトリウム灯] (約2,000K)

オレンジ色のナトリウム灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ハロゲン灯] (約2,700K ~ 約3,200K)

ハロゲン灯、白熱電球のもとで撮影する場合に選択してください。

[ワンショットWB]

[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、ホワイトバランスを光源に強制的に合わせて固定します。

設定方法例：

白い被写体 (白い紙など) を光源で照らし、被写体を画面いっぱいに撮影した状態で [実行] をクリックします。

[Rゲイン]

[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、Redのゲイン値を設定します。

[Bゲイン]

[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、Blueのゲイン値を設定します。

重要

- [デイナイト] が [ナイトモード] になっている場合 ([オート] に設定されていて、ナイトモードと判定されている場合を含む) は、ホワイトバランス機能は使用できません。
- 屋外での昼夜連続撮影など、光源が徐々に変化する場所で、変化が少ない被写体を撮影する場合、適切な色合いにならないことがあります。この場合は [ワンショットWB] を実行するなど撮影される映像に変化を与えると適切な色になります。

[ノイズリダクション]

ノイズリダクションのレベルを選択します。主に低照度時に効果が高くなります。

[強] にするとノイズリダクションの効果が高くなりますが、動いている被写体の残像が見えやすくなります。

[弱] にするとノイズリダクションの効果が低くなり、解像感が高くなりますが、映像のファイルサイズが増えます。

[シャープネス]

シャープネスのレベルを選択します。

[強] にするほどシャープな映像になり、[弱] にするほどソフトな映像になります。

[強] にするほど映像のファイルサイズが増えます。

[色の濃さ]

色の濃さを選択します。

[かすみ補正]

被写体にかすみがかかったような場合に、被写体を見やすいように映像のコントラストを補正します。

[マニュアル]

[かすみ補正レベル] で補正の強さを設定します。

[オート]

自動的にかすみ補正を行います。[かすみ補正強度 (オート)] で、補正の強さを設定します (P. 96)。

**重 要**

[スマートシェード補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[かすみ補正] は使用できません。

**メ モ**

- [かすみ補正] を [オート] または [マニュアル] に設定すると、映像のデータサイズが大きくなる場合があります。
- [かすみ補正] を使用して、映像に明暗の差が強くなる場合は、[かすみ補正] を [マニュアル] にし、[かすみ補正レベル] を弱く設定してください。

[かすみ補正レベル]

[かすみ補正] が [マニュアル] の場合、補正の強弱を設定します。

[デイナイト]

設置環境の明るさに応じて撮影モードを選択します。

[オート]

明るさに応じて自動的にデイモードとナイトモードを切り換えます。

[デイモード]

通常のカラ映像を撮影します。

[ナイトモード]

映像が白黒になります。

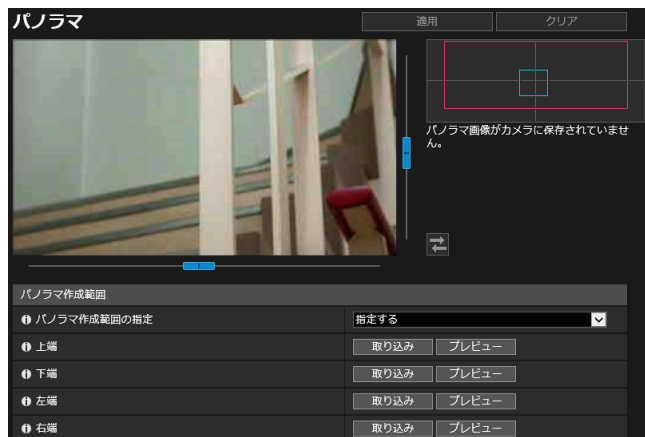
**重 要**

- [オート] でご使用の場合は、事前に十分な運用テストを行い、有効性を確認したうえでご利用ください。
- [オート] でご使用の場合は、[露出] の設定を、[オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)]、[オート (シャッター優先)] のいずれかにしてください。ただし、[オート (シャッター優先)] のときはシャッタースピードによって、[デイナイト] を [オート] に設定してもナイトモードにならない場合があります。
- [デイモード] または [ナイトモード] に設定したままビューワーを終了させると、[デイナイト] が [オート] に設定されていても、[デイモード] または [ナイトモード] の状態が続きます。
オートデイナイトを有効にするには、[デイナイト] を [オート] に設定してからビューワーを終了してください。
- カメラにはIRカットフィルターが採用されていますが、挿抜機構がないため、赤外光による照明効果は得られません。

[カメラ] > [パノラマ] パノラマ画像を作成する

S30VE

カメラが撮影可能な全領域を撮影する、パノラマ画像を作成できます。
作成したパノラマ画像は、ビューワーや設定ページの一部で表示されます。



ここでは次の設定ができます。

- パノラマ作成範囲
- パノラマ画像
- 撮影時の設定

パノラマ画像	
① 作成開始	実行
① 作成終了	実行
① 削除	実行
① ファイルから読み込み	実行
① ファイルに保存	実行
撮影時の設定	
① 端のロック	パノラマの中心
① ホワイトバランスのロック	ロックしない
① フォーカスのロック	ロックしない

重要

- [プライバシーマスク]でプライバシーマスクの設定を変更した場合、パノラマ画像に新しいプライバシーマスク設定を反映させるため、パノラマ画像の再作成をお勧めします。
- カメラの設置方法の設定を変更した場合は、パノラマ画像を撮影し直してください。

パノラマ画像を作成する

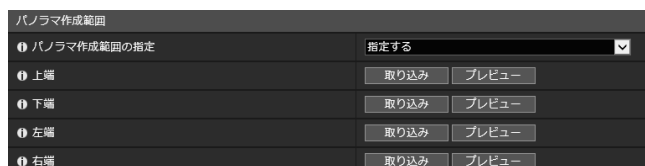
パノラマ画像を撮影後、[適用] してカメラに保存することで、ビューワーやプライバシーマスクなどで使用できるようになります。

メモ

- パノラマ画像の作成中は、次のユーザーの接続は切断されます。
 - 管理者以外のユーザー
 - RTPで接続していないユーザー
- [映像] > [JPEG] > [最大フレームレート：映像送信] (P. 92) の値を小さく設定すると、パノラマ撮影が遅くなります。

1 [パノラマ作成範囲] を設定する

パノラマ作成する範囲を設定します。パノラマ作成時間が短縮できます。



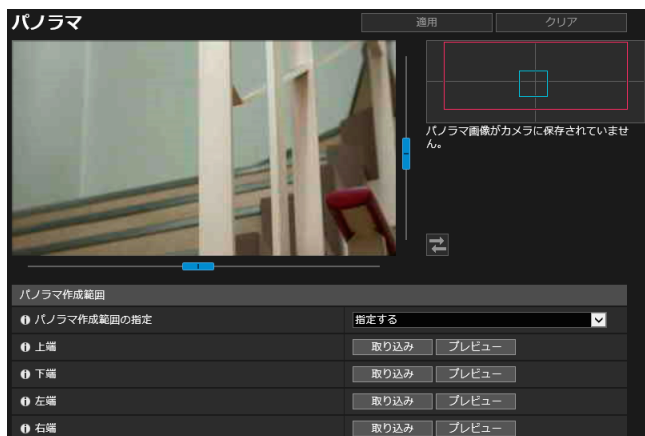
[パノラマ作成範囲の指定]

[指定する] を選択すると、撮影可能な領域内で範囲指定したパノラマ画像を作成します。[指定しない] を選択すると、撮影可能な全領域でパノラマ画像を作成します。

[指定しない] を選択した場合は、手順3に進みます。

2 映像表示部を使って、作成範囲を設定する

映像表示部を使ってカメラアングルを操作し、その位置を取り込んで、パノラマ作成範囲を指定します。

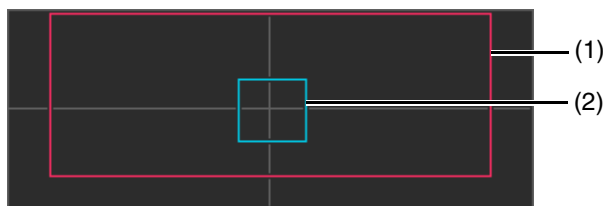


[上端]/[下端]/[左端]/[右端]

映像表示部を使って、設定したい上端・下端・左端・右端のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。各位置で [取り込み] をクリックすると、パノラマ作成範囲枠に反映されます。

[上端]/[下端]/[左端]/[右端] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在のパノラマ作成範囲枠の上端・下端・左端・右端の各位置にプレビュー枠が移動し、映像表示部に表示されます。

パノラマ画面には、2種類の枠が表示されます。



(1) パノラマ作成範囲枠 (赤色枠)

パノラマ画像の撮影範囲を示しています。パノラマ作成範囲枠をドラッグして、パノラマ画像の撮影範囲を設定することもできます。

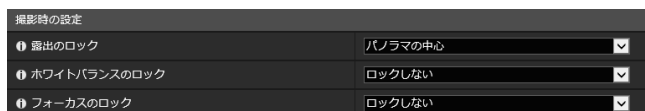
メモ

変形させたパノラマ作成範囲枠の外にプレビュー枠が位置された場合、カメラ位置はパノラマ作成範囲枠内に移動します。

(2) プレビュー枠 (青色枠)

映像表示部に表示されている現在位置を示しています。

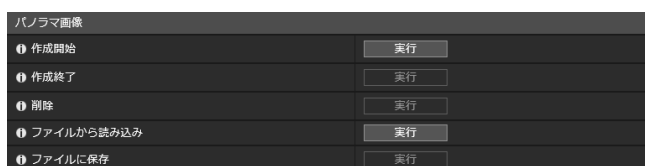
3 必要に応じて、[撮影時の設定] を設定する



設定の詳細は、「撮影時の設定」(P. 109) を参照してください。

[撮影時の設定] は、パノラマ撮影開始時に適用され、パノラマ撮影終了後には撮影前の設定に戻ります。

4 [作成開始] の [実行] をクリックする



撮影が開始され、パノラマ画像が作成されます。

途中で撮影を中止したい場合は、[キャンセル] をクリックします。

部分的に撮り直すには：

作成されたパノラマ画像に、格子枠が表示されます。

撮り直したい部分にマウスポインターを合わせ右クリックし、[再撮影] を選択すると、その部分のみ再撮影されます。

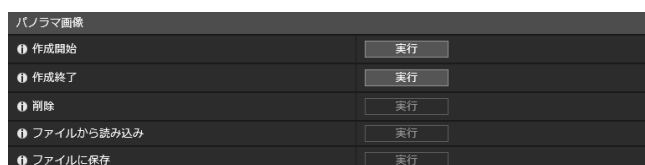


パノラマ画像全体を撮り直すには：

再度 [作成開始] の [実行] をクリックします。

5 [作成終了] の [実行] をクリックする

この時点ではまだ、作成した画像はカメラに保存されていません。



6 [適用] をクリックする

パノラマ画像がカメラに保存され、他の設定に反映されます。

■ パノラマ画像をカメラから削除する

カメラに保存されているパノラマ画像を削除します。

1 [削除] の [実行] をクリックする

表示されているパノラマ画像がクリアされます。

2 [適用] をクリックする

確認のメッセージが表示されます。

3 [OK] をクリックする

カメラに保存されたパノラマ画像が削除されます。

パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルを開く

撮影したパノラマ画像を画像ファイルとして保存したり、画像ファイルのパノラマ画像として開いたりできます。扱える画像ファイルはJPEG形式のみです。

画像ファイルとして保存する

1 パノラマ画像作成終了後に、[ファイルに保存] の [実行] をクリックする

2 表示されたダイアログで、保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力する

3 [保存] をクリックする

指定した場所に、画像ファイルが保存されます。

画像ファイルを開く

1 [ファイルから読み込み] の [実行] をクリックする

2 表示されたダイアログで、使用する画像ファイルを選択し、[開く] をクリックする

パノラマ画像が表示されます。

撮影時の設定

これらの設定は、パノラマ撮影開始時に適用され、パノラマ撮影終了後は撮影前の設定に戻ります。

[露出のロック]

選択した設定の位置で自動調節した露出値に固定して撮影します。

[ホワイトバランスのロック]

選択した設定の位置で自動調節したホワイトバランス値に固定して撮影します。

[フォーカスのロック]

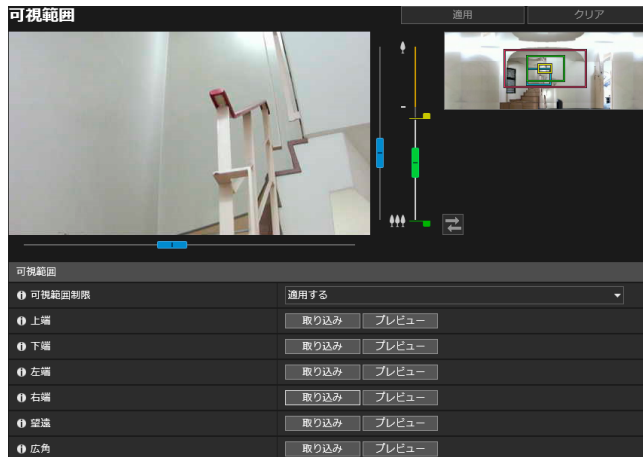
画面全体を、選択した設定の位置で自動調節したフォーカスに固定して撮影します。

[カメラ] > [可視範囲] 可視範囲を設定する

S30VE S910F

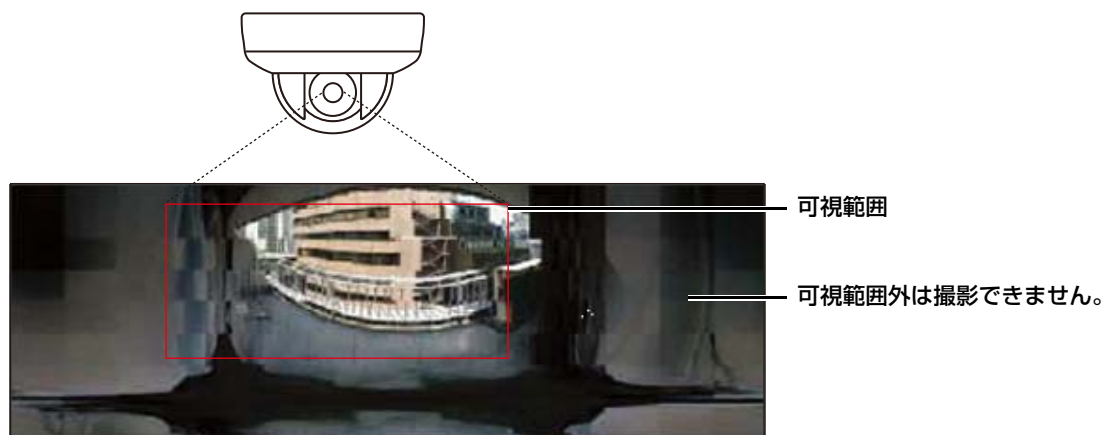
カメラで撮影できる範囲を設定します。

ライブ映像公開などで、ズームや一部の視野に制限をかけたいようなケースに使用できます。



ここでは次の設定ができます。

- 可視範囲



可視範囲設定の適用範囲

可視範囲による制限は次の場合に適用されます。

- 登録ユーザーまたは一般ユーザー権限でカメラビューワーにアクセスした場合
- RM-Liteでアクセスした場合
- プリセットの設定、およびプリセットへの移動を行う機能

メモ

可視範囲を設定していても、可視範囲の境界付近にカメラを制御した場合、一瞬可視範囲外が映り込むことがあります。

可視範囲を設定する

可視範囲を設定後、[適用] することで、カメラビューワーの撮影範囲が制限されるようになります。

重要

- カメラの設置方法の設定を変更した場合は、可視範囲設定を見直してください。
- 設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] を変更した場合は、可視範囲を見直してください。
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] > [デジタルズーム] を変更した場合は、可視範囲設定を再度確認してください。

1 [可視範囲制限] で [適用する] を選択する



可視範囲設定を解除する場合は、[適用しない] を選択して、[適用] をクリックします。

2 映像表示部やパノラマ画面上の枠を使って、可視範囲を設定する

映像表示部を使ってカメラアングルを操作し、その位置を取り込んで、可視範囲を指定します。



[上端]/[下端]/[左端]/[右端] S30VE

映像表示部を使って、設定したい上端・下端・左端・右端のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。

各位置で [取り込み] をクリックすると、パン・チルトプレビュー枠に反映されます。

[上端]/[下端]/[左端]/[右端] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在のパン・チルトプレビュー枠の上端・下端・左端・右端の各位置にプレビュー枠が移動し、映像表示部に表示されます。

[望遠]/[広角]

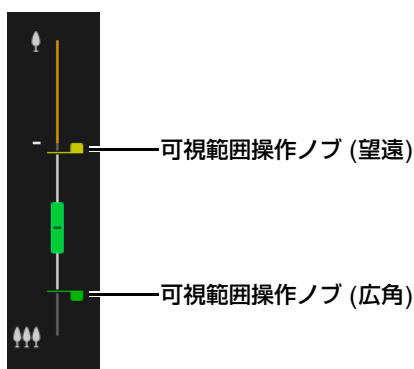
映像表示部を使って、設定したい望遠・広角のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。

各位置で [取り込み] をクリックすると、望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠に反映されます。

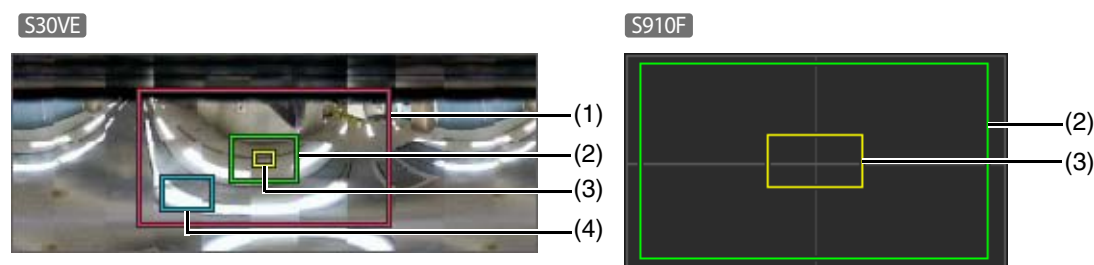
[望遠]/[広角] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在の望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠の望遠・広角端の範囲にプレビュー枠が変形し、映像表示部に表示されます。

ズームスライダーにある可視範囲操作ノブを直接上下に移動させることでも、望遠・広角端の範囲を設定できます。この場合も、現在の望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠の望遠・広角端の範囲にプレビュー枠が変形し、映像表示部に表示されます。

望遠ノブを上端、広角ノブを下端までドラッグした場合は、それぞれの端の可視範囲制限は無効 (制限なし) となります。



パノラマ画面に表示される枠をドラッグして変形させ、可視範囲を設定します。



(1) パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠) S30VE

カメラが上・下・左・右に動ける範囲を表します。パン・チルトプレビュー枠をドラッグして、可視範囲を直接変更できます。

パン・チルトプレビュー枠をパノラマ領域の外枠までドラッグした場合は、それぞれの端の可視範囲制限は無効 (制限なし) になります。

(2) 広角プレビュー枠 (緑色枠)

パン・チルトプレビュー枠内で、広角にできる限界を表します。広角プレビュー枠をドラッグして、範囲を直接変更できますが、縦横比は変えられません。

(3) 望遠プレビュー枠 (黄色枠)

広角プレビュー枠内で、望遠にできる限界を表します。望遠プレビュー枠をドラッグして、範囲を直接変更できますが、縦横比は変えられません。

(4) プレビュー枠 (青色枠) S30VE

映像表示部に表示されている現在位置を示しています。

メモ S30VE

- 変形させたパン・チルトプレビュー枠 (赤色枠) の外にプレビュー枠 (青色枠) が位置された場合、カメラ位置は可視範囲内に移動します。
- パン・チルトプレビュー枠を変更すると、変更した端にプレビュー枠が移動します。また、広角・望遠プレビュー枠の範囲を変更すると、プレビュー枠の広角・望遠端も変更されます。

3 [適用] をクリックする

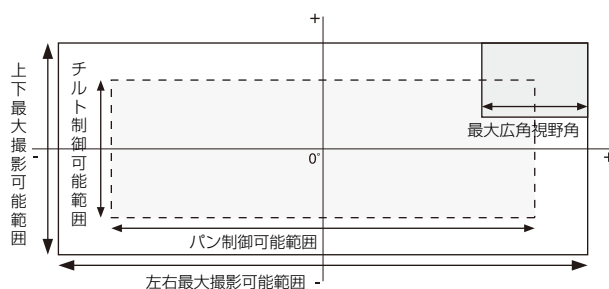
設定値がカメラに保存されます。

重要 S30VE

パノラマ画面は実際の映像と若干異なる場合があります。可視範囲設定を行ったのち、必ずカメラビューワーで可視範囲設定が正しく反映されているかを確認してください。可視範囲設定の映像表示部には可視範囲制限が適用されません。

メモ S30VE

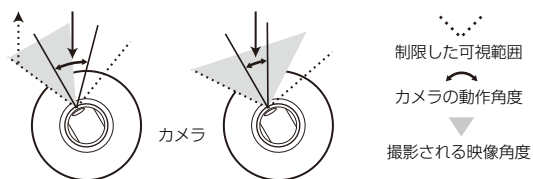
- 制御可能範囲と撮影可能範囲は次のようになっています。



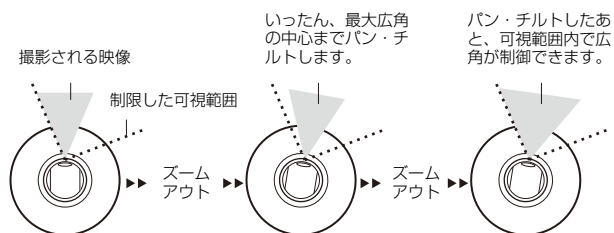
- パンおよびチルトの範囲はズーム倍率 (視野角) によって変わります。

可視範囲を設定すると、自動的にカメラの動作角度が制限されます。

広角にした場合、カメラの動作角度がそのままだと、可視範囲を超えて撮像してしまうので、自動的に動作角度は小さくなります。



- ズームを広角側に制御することで可視範囲を超えてしまう場合は、カメラはいったん、ワイド端が可視範囲内に収まる位置までパン・チルトします。その後、可視範囲内で広角側の制御が可能となります。



- 可視範囲を狭くするとそれに伴ってズームの範囲も狭くなることがあります。

[カメラ] > [プリセット] プリセットを登録する

カメラアングルや、露出などのカメラ設定をプリセット登録しておくことで、ビューワーなどから簡単にプリセットを呼び出し、登録した設定が実行できます。



ここでは次の設定ができます。

- カメラ設定
- プリセット登録



重要

- インテリジェント機能に使用するカメラ位置を、プリセットとして登録しておくことを強く推奨します。
- デジタルズーム領域で登録したプリセットを使用すると、登録時のカメラ位置を高い精度で再現できない場合があります。そのため、インテリジェント機能では、光学ズーム領域で登録したプリセットの使用を推奨します。**S30VE S910F**
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [設置条件] > [映像反転] (P. 97) を変更した場合は、プリセットを設定し直してください。
- 設定ページの [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] (P. 91) を変更した場合は、プリセットの設定を見直してください。

■ プリセットの利用

プリセットには、ビューワーの操作時に、登録したカメラアングルや、露出などのカメラ設定をすぐに実行させるだけでなく、次のような使用方法があります。

- デイモード/ナイトモードの切り換え時に、プリセット登録した設定内容を実行できます (P. 176)。
- 複数のプリセットを、設定した時間に決まった順序で、自動的に巡回できます (プリセット巡回) (P. 117)。**S800VE**
- インテリジェント機能の使用時に、監視位置をプリセット登録したカメラアングルに固定できます (P. 156)。

プリセットを登録する

カメラアングルやカメラ設定をプリセットとして登録できます。

登録できるプリセット数は次のとおりです。

- 最大65個 (ホームポジション含む) **S30VE**
- 最大21個 (ホームポジション含む) **S800VE S910F**

1 映像表示部を操作して、プリセットとして登録したいアングルを設定する

次の画面からでもカメラアングルを操作できます。



2 必要に応じて[カメラ設定]をクリックして開き、各項目を設定する

プリセットに適用する項目を設定します。各項目の説明は、「カメラ設定」(P. 100)を参照してください。

3 プリセット登録の項目を設定する



[パン・チルト・ズーム位置] S30VE/[ズーム位置] S910F/[デジタルPTZ位置] S800VE

現在のカメラアングルをプリセットとして登録する場合は、[登録する]を選択します。

メモ

プリセットリストで、[Home] (ホームポジション) を選択した場合は、[パン・チルト・ズーム位置]/[ズーム位置]/[デジタルPTZ位置] は必ず登録されます。

[カメラ設定]

現在の [カメラ設定] をプリセットとして登録する場合は、[登録する]を選択します。

[プリセット名 (半角英数字)]/[プリセット名 (日本語)]

プリセット名を入力します。[プリセット名 (半角英数字)] は必ず入力してください。

[プリセット名 (日本語)] を入力した場合、ビューワーや設定ページのプリセットリストには、[プリセット名 (日本語)] が優先して表示されます。

[ビューワーでの使用]

[使用する] を選択すると、プリセットがカメラビューワーで使用できるようになります。

4 [登録] をクリックする

 メモ S30VE S910F

プリセットの位置が可視範囲外にある場合は、左に  (警告アイコン) が表示されます。

5 複数のプリセットを登録する場合は、1～4を繰り返す

6 [適用] をクリックする

プリセットがカメラに保存されます。

 メモ

設定した内容を破棄して、カメラに保存されている設定内容に戻す場合は、[クリア] をクリックします。ただし、プリセットリストに [登録] しただけのプリセットは、すべて破棄されますのでご注意ください。

■ プリセットを削除する

プリセットリストから、削除するプリセットを選択し、[削除] をクリックします。[適用] をクリックすると、プリセットがカメラから削除されます。ただし、[Home] (ホームポジション) は削除できません。

■ プリセットをプレビューする

プリセットリストからプリセットを選択した後、[プレビュー] をクリックします。映像表示部にプリセットの設定が反映されます。

■ プリセットの詳細情報を確認する

カメラに登録されているプリセットの情報を表示します。

プリセットリストから、詳細情報を確認するプリセットを選択し、[詳細情報を表示] をクリックします。



詳細情報を確認した後、[OK] をクリックします。

[カメラ] > [プリセット巡回] プリセット巡回ルートを設定する

S800VE

登録済みの複数のプリセットを自動で巡回して、監視を行うことができます。



ここでは次の設定ができます。

- ルート
- 巡回ルート編集

4

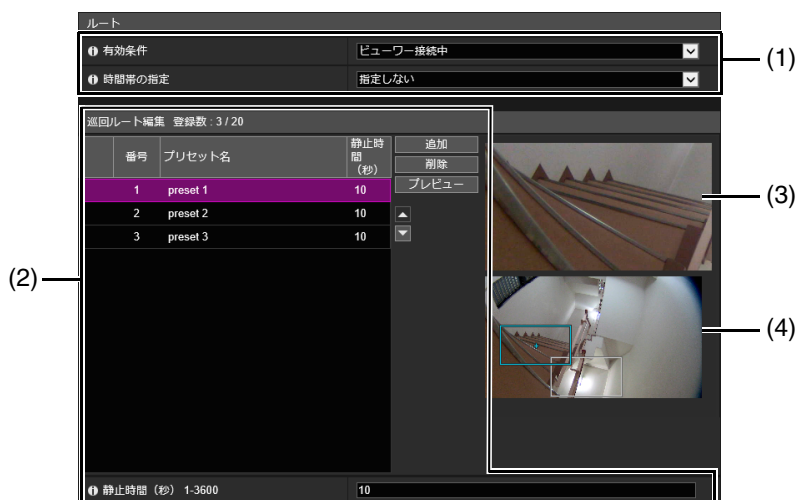
設定ページ

メモ

- カメラビューワーで制御権が取得されているとき、または設定ページで映像表示をしているときは、プリセット巡回は行われません。
- RM-Liteで制御権が取得されているときは、プリセット巡回は行われません。

画面構成について

画面構成は次のようになります。



(1) 巡回条件の設定

巡回する場合の条件を設定します (P. 118)。

(2) [巡回ルート編集]

巡回するプリセットが一覧表示されます。一覧の上から順に巡回します。

プリセットの並び順を変えたり、プリセット位置に停止する時間などを設定することができます。

(3) 映像表示部

カメラの現在の映像を表示します。

(4) 全体画面

[プリセット巡回] を起動したときにカメラが取得する全体映像が表示されます。



(a) プレビュー枠 (青色枠)

映像表示部に現在切り出している位置を表します。

(b) プリセットプレビュー枠 (白色枠)

現在選択中のプリセット・ホームポジションを表します。

巡回ルートの設定

1ルート内で巡回できるプリセット数は、最大20プリセットです。

1 巡回ルートの動作を設定する

有効条件	ビューワー接続中
時間帯の指定	指定する
開始時刻 h:mm	00:00
終了時刻 h:mm	00:00

[有効条件]

プリセット巡回が作動する条件を選択します。

[使用しない]

プリセット巡回は作動しません。

[ビューワー接続中]

ビューワーでカメラに接続しているときに作動します。

[常時]

プリセット巡回は常に作動します。

メモ

[使用しない] を選択しているとき、以降のプリセット巡回ルートの設定はできません。

[時間帯の指定]

決まった時刻に巡回を行う場合は、[指定する] を選択し、巡回の開始時刻と終了時刻を設定します。

[有効条件] に [ビューワー接続中] が選択されている場合、巡回の開始時刻にビューワーがカメラに接続されているときにプリセット巡回は作動します。[有効条件] に [常時] を設定している場合、プリセット巡回は常に作動します。

2 [巡回ルート編集] の [追加] をクリックする

3 [プリセット一覧] で、巡回させるプリセットをチェックする

プリセットは複数指定できます。



4 [追加] をクリックする

[巡回ルート編集]にプリセットが追加されます。

[巡回ルート編集] で、プリセットを選択し、[▲] または [▼] をクリックすると、リストの順番が移動します。

[巡回ルート編集] で、プリセットを選択し、[削除] をクリックすると、プリセットが削除されます。

[プリセッダー一覧] または [巡回ルート編集] リスト上のプリセット名を選択し、[プレビュー] をクリックすると、プリセットの設定が、映像表示部と全体画面で確認できます。

メモ

すでに [巡回ルート編集] にプリセットが追加されている場合、[プリセッダー一覧] リストからプリセットを追加すると、[巡回ルート編集] で選択しているプリセットの下に追加されます。

5 プリセットの停止時間を設定する

[巡回ルート編集] で、設定するプリセットを選択し、巡回動作を設定します。

静止時間 (秒) 1-3600 1

[静止時間(秒)]

プリセット位置にカメラが停止している時間を入力します。

6 [適用] をクリックする

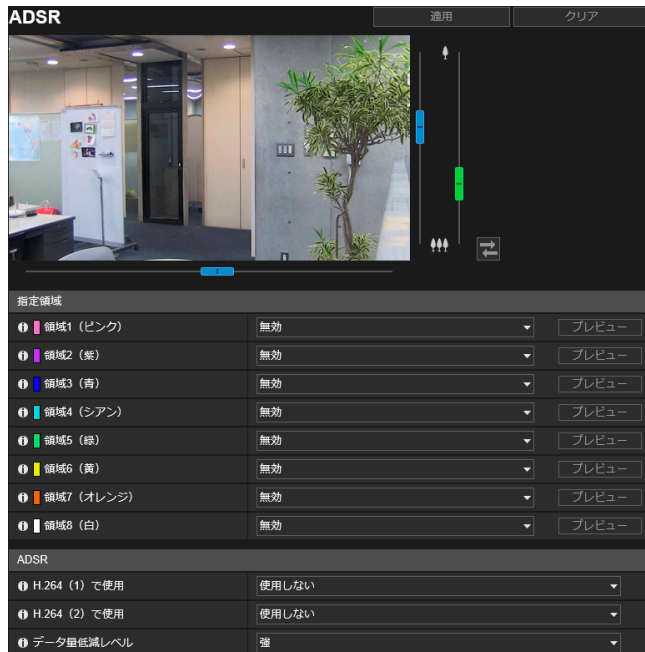
ルートの設定が完了したら、[適用] をクリックしてください。カメラに設定値が保存されます。

メモ

設定したルートをやり直す場合は、[クリア] をクリックします。カメラに保存されている設定内容に戻ります。ただし、[巡回ルート編集] に [追加] しただけのプリセットは、すべて破棄されますのでご注意ください。

[映像と音声] > [ADSR] 映像品質を部分的に下げてデータ量を低減する

H.264映像を送信する場合、天井や空など被写体がない部分の映像品質を下げて送信データ量を低減できます。
ADSRとはArea-specific Data Size Reduction の略です。



ここでは次の設定ができます。

- 指定領域
- ADSR

重要

映像のシーンや指定領域の設定によっては、低減効果が得られない場合があります。事前に低減効果を確認してからご使用ください。

メモ

- 指定領域の画質は、[映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の [ビットレート制御] の設定によって異なります。
 - [ビットレート制御する] の場合：目標ビットレートになるようシーンに応じて画質を調整します。
 - [ビットレート制御しない] の場合：[映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の設定が保持されます。
- 指定領域外の画質は、[データ量低減レベル]に応じて低下します。

S30VE **S910F**

- 指定領域は、カメラのパン・チルト・ズーム動作 (**S910F** はズームのみ) を行っても、カメラの動きに追従して移動します。
- 指定領域は、可視範囲設定内のみ設定可能です。

指定領域

映像品質を落とさない領域を指定します。

指定領域は、最大8箇所、異なる色の枠線で設定できます。

重要

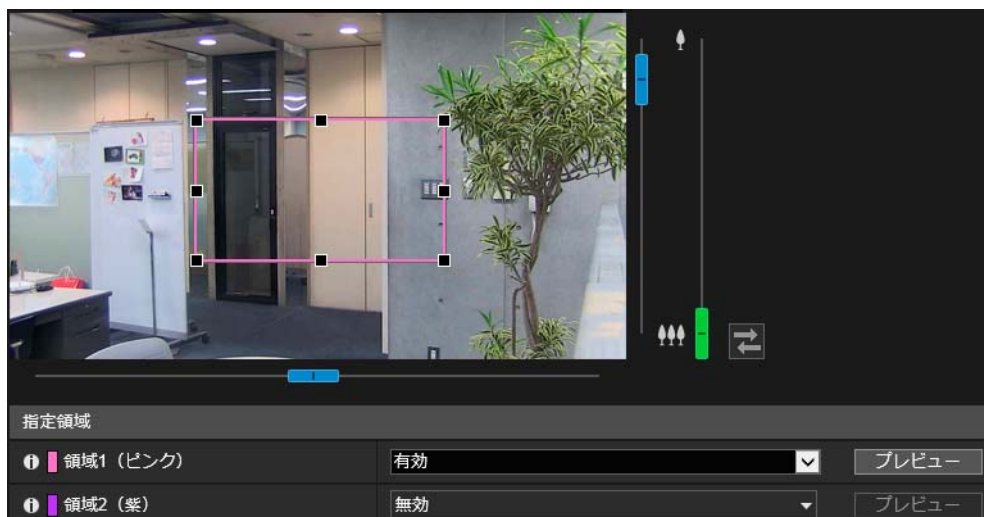
- [カメラ] > [設置条件] で [映像反転] の設定を変更した場合、指定領域設定を見直してください。
- [映像] > [映像全般] で [映像サイズセット] を変更した場合は、指定領域設定を見直してください。

S30VE S910F

- 指定領域は大きめに設定してください。
- ズーム位置によっては、指定領域が若干ずれることがあります。
- 指定領域は光学ズーム領域でのみ設定できます。デジタルズーム領域 (P. 59) では設定できません。

1 指定領域の枠線に使用する色の領域を [有効] にする

映像表示部に指定領域の枠線が表示されます。



2 指定領域を設定する

映像表示部で次のように操作して、指定領域を設定します。

- 枠線内をドラッグして、領域を移動
- 枠線の8箇所の■をドラッグして、サイズを変更
- カメラアングルを変更する場合は、スライダーで操作 S30VE S910F

3 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

メモ

ADSRの設定が反映された映像は、カメラビューワーで確認できます。指定領域外は、データ量軽減効果により映像が粗くなります。

[プレビュー] S30VE

設定した指定領域の [プレビュー] をクリックすると、指定領域の位置にカメラが移動します。

メモ S30VE

領域内を操作するまえにカメラアングルを変更すると、領域枠が非表示になる場合があります。領域枠を再表示させるには、対象の指定領域の [プレビュー] をクリックするか、領域枠が完全に表示される位置へカメラアングルをスライダーで移動してください。

ADSR

[指定領域] 外のデータ量低減について設定します。

[H.264(1)で使用]

H.264(1)映像で、[指定領域]外の映像品質を下げる場合は、[使用する] に設定します。

[H.264(2)で使用]

H.264(2)映像で、[指定領域]外の映像品質を下げる場合は、[使用する] に設定します。

[データ量低減レベル]

[指定領域] 外のデータ量軽減レベルを設定します。[弱] を選択すると、データ量低減効果が低くなります。[強] を選択すると、データ量低減効果が高くなります。

[映像と音声] > [オンスクリーン表示] 映像上に日時やテキストを表示する

映像上に、日付や時刻、カメラ名、任意の文字列を表示します。

オンスクリーン表示	
オンスクリーン表示	表示する
日付表示	表示する
日付表示位置	左上
日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
時刻表示	表示する
時刻表示位置	左上
テキスト表示	指定文字列を表示する
テキスト表示位置	左上
テキスト文字列 15文字以内	
文字の色	白
背景の色	黒
文字と背景の濃さ	文字と背景を塗りつぶす

ここでは次の設定ができます。

- オンスクリーン表示



重要

オンスクリーン表示される時刻は、高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、参考情報としてご活用ください。



メモ

- 映像品質の設定によっては、オンスクリーン表示が判読しづらくなる場合があります。実際の映像をご確認のうえ、設定してください。
- デジタルPTZで、水平方向のサイズが384 pixel以下の切り出し映像には、オンスクリーン表示されません。

オンスクリーン表示

[日付表示]

映像上に日付を表示するかを選択します。

[日付表示位置]

日付を表示する映像上の位置を選択します。

[日付表示フォーマット]

年/月/日の並び順を選択します。

[時刻表示]

映像上に時刻を表示するかを選択します。

[時刻表示位置]

時刻を表示する映像上の位置を選択します。

[テキスト表示]

映像上に表示する文字列を選択します。

[指定文字列を表示する]

下記の [テキスト文字列] に入力した文字列が表示されます。

[カメラ名を表示する]

[カメラ名 (半角英数字)] (P. 96) に入力したカメラ名が表示されます。

[テキスト表示位置]

テキスト文字を表示する映像上の位置を選択します。

[テキスト文字列]

[テキスト表示] が [指定文字列を表示する] の場合、映像上に表示する文字列を半角英数字で入力します。

メモ

英語以外の文字列を表示する場合は、オンスクリーン表示アシストツールを使用します (ただし、タイ語には対応していません)。詳細については、『オンスクリーン表示アシストツール 使用説明書』を参照してください。

[文字の色]

文字の色を8色の中から選択します。

[背景の色]

文字の背景の色を8色の中から選択します。

[文字と背景の濃さ]

文字と背景の濃さ (塗りつぶし、透明、半透明) の組み合わせを選択します。

[映像と音声] > [プライバシーマスク] プライバシーマスクを設定する

カメラ映像の任意の領域にマスクをかけることができます。カメラの映像を確認しながら、8箇所までマスクを設定できます。

カメラのパン・チルト・ズーム動作を行った場合でも、プライバシーマスク領域はカメラ画像に追従します。S30VE S910F



ここでは次の設定ができます。

- プライバシーマスク
- マスク領域
- プライバシーマスク全般

重要

- プライバシーマスクは、カメラから配信されるすべての画像（ライブ映像、アップロード画像、録画映像、メモリーカードに記録される画像）に適用されます。
- 次の場合は、プライバシーマスク機能は動作しません。
 - 電源投入直後のカメラ起動時
 - パノラマ画像作成中 S30VE
- プライバシーマスク領域もインテリジェント機能の検知対象となります。[インテリジェント機能] 設定ページでは、検知された物体の輪郭枠などがマスク上に表示され、被写体の動きが分ることがあります。

プライバシーマスクを登録する

マウス操作でプライバシーマスク領域の位置とサイズを設定し、設定をカメラに保存します。

1 映像表示部に、マスク領域を追加したい部分の映像を表示する S30VE S910F

スライダーを使ってカメラアングルを操作します。

S30VE

◀ [マウス操作切り換え] ボタンをクリックして、ボタンが紫色のあいだ、次の操作ができます。

- 映像表示部上でクリックした位置にカメラアングルをセンタリング (P. 58)
- エリアズーム操作 (P. 59)

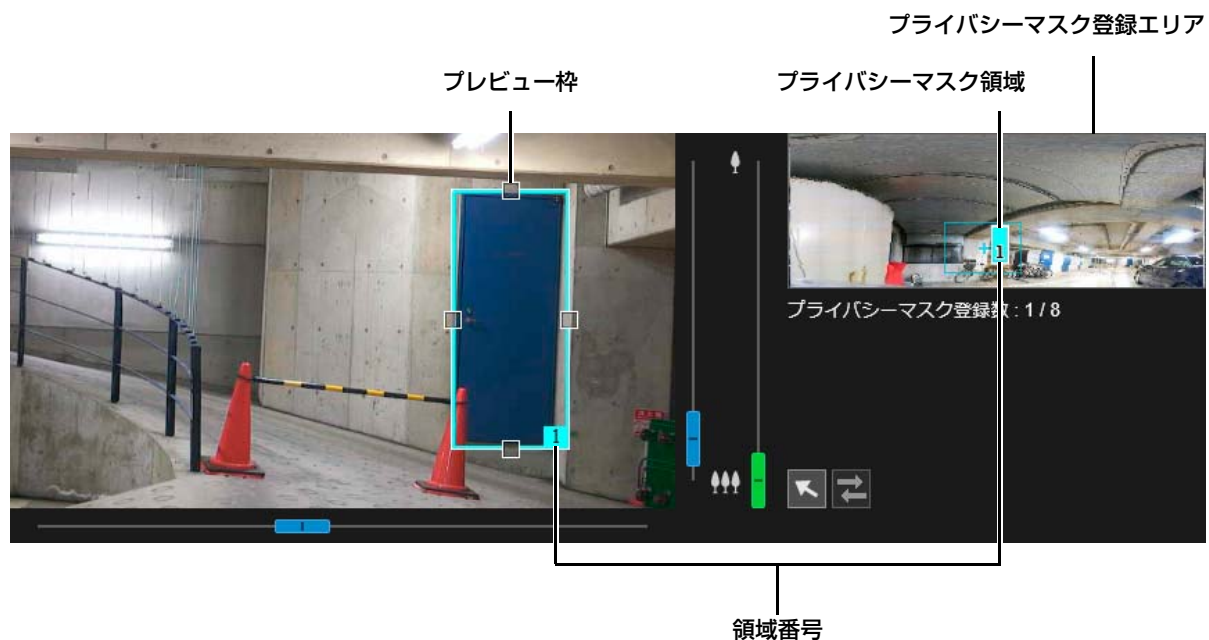
メモ

[マウス操作切り換え] ボタンが紫色のあいだは、映像表示部にプレビュー枠が表示されません。



2 [マスク領域の追加] の [追加] をクリックする

映像表示部に領域番号が付いたプレビュー枠が表示され、プライバシーマスク登録エリアにも対応する番号のプライバシーマスク領域が表示されます。



3 映像表示部で、プレビュー枠の位置とサイズを設定する

映像表示部に表示されているプレビュー枠をドラッグして、隠したい部分に移動します。
プレビュー枠の四辺の□をドラッグして、サイズを変更します。



重要 S30VE S910F

プライバシーマスク領域は、隠したい領域より大きめに設定してください。

4 [マスク領域] を [有効] に設定する

プライバシーマスク領域の設定が有効になります。

[マスク領域] を [無効] に設定すると、プライバシーマスク領域を削除せずに、一時的に無効にできます。このとき、プライバシーマスク登録エリアのプライバシーマスク領域は斜線入りの枠表示になります。

5 必要に応じて [色] で、プライバシーマスク領域の色を変更する

ここで選択した色は、すべてのプレビュー枠とプライバシーマスク領域に反映されます。

6 別のプライバシーマスク領域を追加する場合は、1～5を繰り返す

最大8個のプライバシーマスクを保存できます。

7 [適用] をクリックする

プライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

保存したプライバシーマスク領域は、映像表示部とプライバシーマスク登録エリアに表示されます。

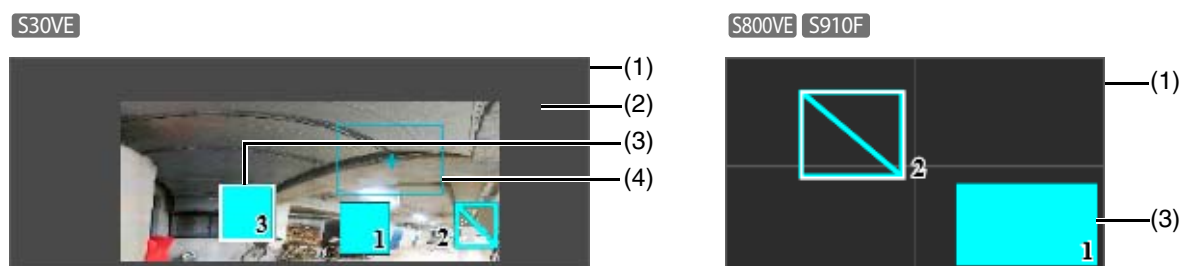
重要

- [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] を変更した場合は、プライバシーマスク設定を見直してください。
- [カメラ] > [カメラ] > [設置条件] > [映像反転] の設定を変更した場合、プライバシーマスクの位置を設定し直す必要があります。
- プライバシーマスクの登録後は、カメラのパン・チルト・ズーム (S910F はズームのみ) を実際に動かして、カメラアングルが変わっても隠したい領域が見えないことを確認してください。S30VE
- ズーム位置によっては、プライバシーマスクが指定位置から若干ずれることがあります。S30VE S910F
- [パノラマ] でパノラマ画像を保存したあとでプライバシーマスクの設定を変更した場合は、[パノラマ] でパノラマ画像を作成し直してください (P. 106)。S30VE

プライバシーマスクを変更/削除する

■ プライバシーマスク登録エリアについて

カメラが撮影可能な全領域中のプライバシーマスク領域の位置が表示されます。



(1) カメラが撮影可能な全領域

物理的に撮影可能な領域を表します。

S30VE

カメラにパノラマ画像が登録されている場合、ここに表示されます。

(2) 可視範囲制限領域 S30VE

可視範囲 (P. 110) を設定した場合に、可視範囲制限エリアがグレーで表示されます。

(3) プライバシーマスク領域

[マスク領域] が [有効] (P. 126) に設定されているプライバシーマスク領域は、枠内が塗りつぶされて表示されます。

[マスク領域] が [無効] (P. 126) に設定されているプライバシーマスク領域は枠内に斜線が表示されます。

(4) プレビュー枠 S30VE

映像表示部に表示されている現在のカメラ位置です。

■ 位置・サイズを変更する

プライバシーマスクの選択方法

プライバシーマスク領域の選択には、次の方法があります。

- プライバシーマスク登録エリアで、選択したいプライバシーマスク領域をクリックする

- 表示したいマスク領域の [プレビュー] をクリックする
- 映像表示部に表示されているプライバシーマスク領域をクリックする

1 変更したいプライバシーマスク領域を選択する

2 プライバシーマスク領域の位置・サイズを変更する

プレビュー枠をドラッグして移動したり、プレビュー枠の四辺の□をドラッグしてサイズを変更します。



メモ

変更内容を破棄してカメラに保存されている設定内容に戻す場合は、[クリア] をクリックします。ただし、まだ [適用] せずカメラに保存できていないマスク領域の設定は、すべて破棄されますのでご注意ください。

3 [適用] をクリックする

変更したプライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

■ カメラから削除する

削除したいプライバシーマスクの [マスク領域] の [削除] をクリックした後、[適用] をクリックします。
選択したプライバシーマスク領域が、カメラから削除されます。

[映像と音声] > [音声] 音声の入出力について設定する

内蔵マイクからの入力音声や、ビューワーからの出力音声について設定します。また、イベント発生時に出力する再生音のファイルを登録します。

[音声サーバー] は、[サーバー] > [音声サーバー] と共通です。一方のページで設定すると、もう一方の [音声サーバー] にも反映されます。

音声		適用	クリア
音声全般			
① 音声入力の使用	使用する		
① 入力音量 1～100	50		
① 現在の音量レベル			
① 低域カット	有効		
① パン・チルト中のミュート	ミュートしない		
① 出力音量 1～100	50		
① 音声送信方式	全二重		
音声サーバー			
① カメラからの音声送信	送信しない		
① 無音検出	検出しない		
① ビューワーからの音声受信	受信しない		
再生音ファイル登録 1			
① 参照ファイル		参照...	追加
① 再生音名 15文字以内			削除
再生音ファイル登録 2			
① 参照ファイル		参照...	追加
① 再生音名 15文字以内			削除
再生音ファイル登録 3			
① 参照ファイル		参照...	追加
① 再生音名 15文字以内			削除

ここでは次の設定ができます。

- 音声全般
- 音声サーバー
- 再生音ファイル登録1～3



重要

- 最大30 クライアントに対して、映像と音声を配信できます。ただし、配信するクライアントが多い場合やSSL/TLS通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり、音声が途切れたりする場合があります。
- 映像と音声は、同期しないことがあります。
- 音量検知 (P. 148) を設定した後に、[入力音量] の設定を変更した場合は、検知設定を見直してください。
- 音量検知 (P. 148) を設定した後に、[低域カット] の設定を変更した場合は、検知設定を見直してください。
- 使用するPCの性能やネットワーク環境によっては、音声が途切れることがあります。
- ウイルス対策ソフトウェアをご使用の場合、音声が途切れることがあります。
- LANケーブルの抜き差しなどで、通信が一時的に途切れると、音声が切断されます。その場合は、ビューワーから再接続してください。
- カメラに接続するスピーカーは、アンプ付きのものを使用してください (『設置ガイド』参照)。

音声全般

入出力音声の音量や、内蔵マイクによる音声入力の動作を設定します。

[音声入力の使用]

内蔵マイクからの音声使用の有無を選択します。[使用する] を選択すると [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] (P. 130)、[イベント] > [音声検知] > [音量検知イベント] (P. 148) など音声入力にかかわる機能が使用できます。

[使用しない] を選択し [適用] すると、次の設定項目が固定となり、音声入力機能が無効になります。

- [映像と音声] > [音声] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] > [送信しない]
- [サーバー] > [RTPサーバー] > [RTPストリーム1]～[RTPストリーム5] > [音声送信] > [使用しない]
- [イベント] > [音声検知] > [音量検知] > [音量検知イベント] > [使用しない]

[入力音量]

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に、内蔵マイクから入力する音量を設定します。

[音声サーバー] > [カメラからの音声送信] (P. 130) が [送信する] の場合に適用されます。

[現在の音量レベル]

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に、現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。

[低域カット]

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に、入力音声の低域をカットする機能の有無を選択します。[有効] を選択すると、マイクに風が当たるときに発生する風切り音などを軽減し、会話が聞き取りやすくなります。

[無効] を選択すると、交通音や雑踏音などの環境音が、より忠実に音声入力されます。

[パン・チルト中のミュート] S30VE

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に設定します。[ミュートする] を選択すると、パン・チルト動作中の入力音声を消音します。

[出力音量]

カメラに接続したスピーカーにビューワーから出力する音量を設定します。

[音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] (P. 130) が [受信する] の場合に適用されます。

[音声通信方式]

音声送受信方法を選択します。

[半二重]

マイクとスピーカーが近くにある場合に発生するハウリングを防ぐことができます。ただし、カメラがビューワーからの音声を受信しているときや、音声ファイル再生中は、カメラからビューワーへの音声送信が無音になります。

[全二重]

カメラがビューワーからの音声を受信しているときでも、カメラからビューワーへ音声送信ができます。

音声サーバー

内蔵マイクからの音声送信と、ビューワーからカメラへの音声受信について設定します。

[カメラからの音声送信]

カメラに内蔵されたマイクからの音声を、ビューワーに送信する場合に、[送信する] を選択します。

[映像と音声] > [音声] > [音声全般] > [音声入力の使用] が [使用しない] に設定されている場合、[送信する] には設定できません。



[無音検出]

マイクからの音声について無音を検出するか選択します。

[検出する] に設定すると、カメラからの音声入力が無くなった場合に、音声データの送信を一時的に停止します。これにより、使用するネットワークの負荷を減らすことができます。

[ビューワーからの音声受信]

カメラビューワーやRMビューワーからの音声を受信するか選択します。

受信した音声は、カメラにアンプ付きスピーカーを接続して出力できます。



再生音ファイル登録1～3

イベント発生時に再生する音声ファイルを、3つまで登録できます。

メモ

再生音は、[イベント] > [外部デバイス] > [外部デバイス入力] (P. 146)、または [イベント] > [インテリジェント機能] の [イベント] タブ (P. 174) で音声再生を設定する際に使用されます。

[参照ファイル]

登録する音声ファイルを指定し、[追加] をクリックします。

登録できる音声ファイルには、次の条件があります。

- 再生時間：20秒以内
- ファイル形式：「.wav」(μ-law PCM 8bit。サンプリング周波数8000Hz、モノラル)

音声ファイルのサンプルが、セットアップCD-ROMのSOUNDフォルダに収録されています。

空欄のまま [適用] をクリックした場合、カメラに登録した再生音は削除されます。

[追加] した音声ファイルを削除するには、削除したい再生音名の横にある [削除] をクリックします。

[再生音名]

登録する音声ファイルに名前を入力します。

再生音名は、必ず設定してください。

[サーバー] > [サーバー] HTTP、SNMP、FTPの各サーバーについて設定する

HTTPサーバー、SNMPサーバー、FTPサーバーの使用と、WS-Securityの時刻チェックについて設定します。

サーバー		再起動	適用	クリア
HTTPサーバー				
① 認証方式	Digest認証			
② HTTPポート番号 80,1024~65535	80			
③ HTTPSポート番号 443,1024~65535	443			
SNMPサーバー				
① SNMPv1, v2cの使用	使用する			
② SNMPv3の使用	使用する			
③ 管理者連絡先 63文字以内				
④ 管理用の機器名称 31文字以内	VB-S30VE			
⑤ 設置場所 31文字以内				
SNMPv1, v2cサーバー				
① コミュニティ名 31文字以内	community name			
SNMPv3サーバー				
① ユーザー名 31文字以内	username			
② セキュリティレベル	認証あり、暗号化あり			
③ 認証アルゴリズム	MD5			
④ 認証パスワード 8~31文字	*****			
⑤ 暗号化アルゴリズム	DES			
⑥ 暗号化パスワード 8~31文字	*****			

ここでは次の設定ができます。

- HTTPサーバー
- SNMPサーバー
- SNMPv1, v2cサーバー
- SNMPv3サーバー
- FTPサーバー
- WS-Security

FTPサーバー	
① FTPサーバーの使用	使用する
② ユーザー名 5~15文字	username
③ パスワード 8~31文字	*****
WS-Security	
① 認証時の時刻チェック	チェックする

HTTPサーバー

認証方式やHTTPポート番号について設定します。

重要

[HTTPポート番号] または [HTTPSポート番号] の設定を変更した際、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性がある場合は、確認のダイアログが表示されます。変更した設定を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。
カメラの再起動後、Webブラウザからカメラに再接続できない場合、メッセージとともに、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。

表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

[認証方式]

HTTPサーバーで使用する認証方式を選択します。

[HTTP ポート番号]

HTTPポート番号を入力します。

通常は、[80] (工場出荷設定) を使用してください。

[HTTPSポート番号]

HTTPSポート番号を入力します。

通常は、[443] (工場出荷設定) を使用してください。

SNMPサーバー

SNMPの使用に必要な設定を行います。

メモ

- SNMPマネージャーから参照するカメラの情報は、読み取り専用です。
- SNMP MIB2 (RFC1213対応) がサポートされているSNMPマネージャーをお使いください。

[SNMPv1, v2cの使用]

[使用する] を選択すると、SNMPv1, v2cを使用して、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

[SNMPv3の使用]

[使用する] を選択すると、SNMPv3を使用して、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

[管理者連絡先]

カメラの管理者連絡先 (メールアドレスなど) を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

[管理用の機器名称]

カメラの管理用機器名称を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

空白にした場合、カメラの機種名が使用されます。

[設置場所]

カメラの設置場所の情報を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

SNMPv1, v2cサーバー

[コミュニティ名]

[SNMPv1, v2cの使用] で [使用する] を選択した場合、SNMPv1とv2cで使用するコミュニティ名を入力します。工場出荷設定は空値です。

SNMPv3サーバー

[ユーザー名]

[SNMPv3の使用] で [使用する] を選択した場合、SNMPv3で使用するユーザー名を設定します。

[セキュリティレベル]

SNMPv3で使用するセキュリティレベルを選択します。

[認証アルゴリズム]

[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化なし] または [認証あり、暗号化あり] を選択した場合、認証アルゴリズムを選択します。

[認証パスワード]

[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化なし] または [認証あり、暗号化あり] を選択した場合、認証パスワードを設定します。

[暗号化アルゴリズム]

[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化あり] を選択した場合、暗号アルゴリズムを選択します。

[暗号化パスワード]

[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化あり] を選択した場合、暗号化パスワードを設定します。

FTPサーバー

[FTPサーバーの使用]

FTPサーバーを使用するための設定です。

[ユーザー名]

FTP接続を許可するユーザー名を設定します。

[パスワード]

FTP接続を許可するユーザーのパスワードを設定します。

重 要

- FTPソフトウェアを使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。
- ユーザー名を変更する際は、必ずパスワードも一緒に変更してください。
- システムで使用しているユーザー名と同一のユーザー名を設定すると、「ユーザー名が不正です。」とメッセージが表示されます。その場合は、別のユーザー名を設定してください。

WS-Security

[認証時の時刻チェック]

クライアントから送信されたデータの時刻情報をチェックするかを選択します。

[サーバー] > [映像サーバー] 映像配信について設定する

映像サーバーに接続できるクライアントについて設定します。

映像サーバー		適用	クリア
映像サーバー			
① 最大クライアント数 0~30	30		
② 最大制御権待ち数 0~30	30		
③ 最大接続時間(秒) 0~65535	0		
④ カメラ制御時間(秒) 1~3600	20		

ここでは次の設定ができます。

- 映像サーバー

映像サーバー

[最大クライアント数]

カメラに同時に接続できるクライアント数の最大値を入力します。

[0] にすると、管理者以外の接続が禁止されます。



重要

配信するクライアントが多い場合やSSL/TLS通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり、音声が途切れたりする場合があります。

[最大制御権待ち数]

カメラビューワーからのカメラ制御権要求に対して、カメラ制御権待ちとして受け付けるクライアント数の最大値を入力します。

[0] にすると、管理者以外のカメラ制御権待ちは禁止されます。

[最大接続時間(秒)]

個々のクライアントがカメラに接続できる最大時間を秒単位で入力します。

[0] にすると、接続時間は無制限となります。

[カメラ制御時間(秒)]

カメラビューワーがカメラ制御権を保持できる最大時間を入力します。

[サーバー] > [RTPサーバー] RTPの使用について設定する

RTPを使用した映像および音声配信について設定します。

RTPサーバー		適用	クリア
RTPサーバー			
① RTPの使用	使用する		
① RTSP認証方式	Digest認証		
① RTSPポート番号	554, 1024～65535	554	
音声マルチキャスト			
① マルチキャストアドレス	0.0.0.0		
① マルチキャストポート番号	0, 1024～65534(偶数)	0	
① マルチキャストTTL	0～255	1	
RTPストリーム 1			
① 映像サイズ	480x270 JPEG		
① フレームレート	1～30	5	
① マルチキャストアドレス	0.0.0.0		
① マルチキャストポート番号	0, 1024～65534(偶数)	0	
① マルチキャストTTL	0～255	1	
① 音声送信	使用しない		

ここでは次の設定ができます。

- RTPサーバー
- 音声マルチキャスト
- RTPストリーム1～5

RTPサーバー

RTPの使用、RTSPの認証方式とポート番号について設定します。

[RTPの使用]

RTPの使用の有無を選択します。

[RTSP認証方式]

RTSPの認証方式を選択します。RTSPの認証方式はHTTPサーバーの認証方式とは独立して設定されるため、それぞれの認証方式について設定する必要があります。

[RTSPポート番号]

RTSPポート番号を入力します。

通常は、[554] (工場出荷設定) を使用してください。

音声マルチキャスト

音声送信のマルチキャストについて設定します。

[マルチキャストアドレス]

音声送信のマルチキャストアドレスを、次のように入力します。

IPv4：224.0.0.0～239.255.255.255の範囲

IPv6：ff00::/8 で始まるアドレス

マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0]、IPv6では [::0(::)] に設定します。

[マルチキャストポート番号]

音声送信のマルチキャストポート番号を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

[マルチキャストTTL]

マルチキャスト配信の有効範囲を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

マルチキャスト配信の有効範囲を表すTTL (Time To Live) は、ルーターを越えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを越えて配信することはできません。

例えば、TTLを [1] に設定すると、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを越えて配信することはできません。

RTPストリーム1～5

RTPストリーム1～5セッションのRTPストリーム配信について、ストリームごとに設定します。

[映像サイズ]

RTPストリームの映像フォーマット (JPEGまたはH.264) と映像サイズを選択します。

JPEGの映像サイズは、設定している [映像サイズセット] (P. 91)によって異なります。

H.264の映像サイズは、[映像] (P. 92)の [H.264(1)]、[H.264(2)] のそれぞれの設定が使用されます。

なお、[H.264(2)] を複数のRTPストリームには設定できません。

[フレームレート]

RTPストリームがJPEGの場合、フレームレートを入力します。

H.264の場合は設定できません。[映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の [フレームレート] の設定が使用されます。

[マルチキャストアドレス]

RTPストリームのマルチキャストアドレスを、次のように入力します。

IPv4 : 224.0.0.0～239.255.255.255の範囲

IPv6 : ff00::/8 で始まるアドレス

マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0]、IPv6では [::0(::)] に入力します。

[マルチキャストポート番号]

RTPストリームのマルチキャストポート番号を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

[マルチキャストTTL]

RTPストリームのマルチキャスト配信の有効範囲を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

マルチキャスト配信の有効範囲を表すTTL (Time ToLive) は、ルーターを越えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを越えて配信することはできません。

例えば、TTLを [1] に設定すると、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを越えて配信することはできません。

[音声送信]

RTPストリームの音声送信を使用するか選択します。

[映像と音声] > [音声] > [音声全般] > [音声入力の使用] が [使用しない] に設定されている場合、[使用する] には設定できません。



メモ

- RTPストリームのURL

rtsp://IPアドレス:ポート番号/rtpstream/config1(～5)=rlulm

[=rlulm] は省略できます。指定する場合にはいずれか1つを指定してください。

r: RTP over TCPを要求

u: RTP over UDPを要求

m: multicastを要求

例: RTPストリーム1をRTP over TCPで要求

rtsp://192.168.100.1:554/rtpstream/config1=r

注意: 実際の動作はRTPクライアントアプリケーションに依存するため、必ずしも指定の方式で送信されるわけではありません。

- H.264の場合、ビットレート制御、映像品質は、[映像] (P. 92) での各設定が使用されます。
- [基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [映像配信] および [音声配信] は、RTPには反映されません。
- プロキシサーバーやファイアウォールを使用している環境では、RTPストリームの映像が表示されないことがあります。この場合は、システム管理者にお問い合わせください。
- RTP over UDPでストリーム配信中のクライアントにホストアクセス制限が適用された場合は、配信停止まで数秒から数十秒時間がかかる場合があります。

- [映像と音声] > [音声] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] の設定にかかわらず、音声のRTP配信は行われます。

[映像記録] > [アップロード] HTTPやFTPでのアップロードについて設定する

イベントの発生時に、HTTPまたはFTPで映像をアップロードするための設定を行います。
アップロードに使用するHTTPサーバーまたはFTPサーバーについては、[サーバー] > [サーバー] (P. 132) で設定してください。

アップロード		適用	クリア
映像記録設定			
① 映像記録動作	アップロード		
アップロード全般			
① アップロードの動作	HTTPでアップロード		
① 映像フォーマット	JPEG		
① フレームレート 1~10	1		
① イベント前バッファ (枚数) 0~100	0		
① イベント後バッファ (枚数) 0~100	0		
HTTPアップロード			
① 通知内容	HTTPで通知のみ行う		
① URI 255文字以内	http://192.168.1.1:8080/		
① ユーザー名 31文字以内			
① パスワード 31文字以内	*****		
① プロキシサーバー 63文字以内			
① プロキシポート番号 1~65535	80		
① プロキシユーザー名 31文字以内			
① プロキシパスワード 31文字以内	*****		
① パラメーター (query string) 127文字以内			
① HTTPアップロードテスト	実行		

ここでは次の設定ができます。

- 映像記録設定
- アップロード全般
- HTTPでアップロード
- FTPでアップロード

FTPアップロード	
① 通知内容	映像をFTPする
① FTPサーバー 63文字以内	192.168.1.1:8080
① ユーザー名 31文字以内	administrator
① パスワード 63文字以内	*****
① PASVモード	使用する
① ファイルアップロードパス 255文字以内	
① ファイル名記録方式	年月日時分秒ms
① FTPアップロードテスト	実行

重要

- アップロード機能またはメモリーカード記録を使用するには、各イベントに応じて次の設定が必要になります。
 - [イベント] > [タイマー] での [映像記録] の設定
 - [イベント] > [外部デバイス]、[音声検知]、[連結イベント] での [映像記録] の設定
 - インテリジェント機能の [イベント] タブの設定 (P. 174)
- アップロード実行中またはメモリーカード記録中は、[設定ページ] の各設定を変更しないでください。動作が停止する場合があります。
- HTTPまたはFTPでのアップロードと、テキストと映像によるメール通報を両方使用する場合は、[映像] > [JPEG] > [映像サイズ：アップロード/メモリーカード] (P. 92) を小さいサイズに設定してください。
- HTTPアップロードは、SSL/TLSには対応しません。
- アップロードやメール通報を連続して行うよう設定した場合、映像の大きさ、サーバーまでのネットワークの状況により、映像やメールが送られなくなる可能性があります。その場合は、ログ (P. 200) にメッセージが表示されます。
- HTTPまたはFTPでのアップロード、メール通報先にWindows系OSを設定する場合、IPsec通信は対応しません。

映像記録設定

イベント発生時に、カメラからの映像を、HTTPまたはFTPでアップロードするか、メモリーカードに記録するかを設定します。

この項目は、[メモリーカード] サブメニュー (P. 192) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。

[映像記録動作]

映像をアップロードする場合、[アップロード] を選択します。

アップロード全般

アップロードの方式と、アップロードする映像のフォーマットについて設定します。

[アップロードの動作]

HTTPでアップロードするか、FTPでアップロードするかを選択します。

[映像フォーマット]

アップロードする映像のフォーマットを選択します。

アップロードされる映像サイズと映像品質は、[映像] (P. 91) の設定に従います。



重要

- H.264(1) または H.264(2) を設定するには、[映像] > [H.264(1)] (P. 92)、[H.264(2)] (P. 93) で次のように設定する必要があります。
 - [ビットレート制御]：[ビットレート制御する]
 - [目標ビットレート(kbps)]：[3072] 以下
 - [1フレーム間隔(秒)]：[0.5]、[1]、[1.5] のいずれか
- [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] > [映像フォーマット] (P. 193) と異なる H.264 は設定できません。

[フレームレート]

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合、アップロードする映像の最大フレームレートを入力します。

[イベント前バッファ (枚数)] (JPEGの場合) / [イベント前バッファ (秒)] (H.264の場合)

イベント発生前に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] または [H.264(2)] の場合は秒数の最大値を入力します。

[イベント後バッファ (枚数)] (JPEGの場合) / [イベント後バッファ (秒)] (H.264の場合)

イベント発生後に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] または [H.264(2)] の場合は秒数の最大値を入力します。



重要

映像バッファの最大容量は、約5MBです。映像サイズを大きく設定していると、フレームレート、イベント前バッファ、イベント後バッファが、設定通りに実行できない場合があります。
設定通りバッファが実行できない場合、ログ (P. 200) にメッセージが表示されます。ログにメッセージが表示されていないことを確認して、使用してください。



メモ

アップロードの設定により、サーバーまたはネットワークの負荷が高くなると、映像のフレームレートが低下する場合があります。このような場合は、次の設定を見直して、アップロードされるデータのサイズを小さくしたり、頻度を下げたりしてください。

- [JPEG] の [映像サイズ：アップロード/メモリーカード] を小さなサイズにする (P. 92)。
- [イベント前バッファ]、[イベント後バッファ] の枚数または秒数を少なくする。
- [音量検知イベント] 有効時、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[ONイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 148)。
- インテリジェント機能の [イベント] タブで、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[検知あり状態時の動作] のいずれかを無効にする (P. 174)。
- [外部デバイス入力イベント] 有効時、[アクティブイベント時の動作]、[インアクティブイベント時の動作]、[アクティブイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 146)。
- [タイマーイベント] 有効時、[繰り返し間隔] を長くする (P. 150)。

HTTPアップロード

[アップロードの動作] を [HTTPでアップロード] に設定した場合、HTTPのアップロード機能を設定します。

HTTPアップロードは、ネットワークカメラのイベントに応じてHTTPによる通知、あるいはHTTPによる画像を送信する機能です。

HTTPアップロード機能や設定の詳細については、お客様相談センターにお問い合わせください。

[通報内容]

HTTPアップロードを行う場合に、イベント情報のみを通知するか、通知とともに映像ファイルを添付するかを選択します。

[URI]

アップロードするHTTPサーバーのURIを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]

認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

Digest認証には、対応していません。

[プロキシサーバー]

プロキシサーバーを使用する場合、プロキシサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[プロキシポート番号]

プロキシサーバーを使用する場合、プロキシサーバーのポート番号を入力します。

[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード]

プロキシサーバーでユーザー名とパスワードを使用する場合に入力します。

Digest認証には、対応していません。

[パラメーター (query string)]

リクエストパラメーターを入力します。

「%」文字によるパラメーター記述が可能です(P. 204)。

[HTTPアップロードテスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。

JPEG 1 枚のみアップロードされますが、このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、

[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

**重 要**

[プロキシサーバー]、[プロキシポート番号]、[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード] は、プロキシサーバー経由で接続する場合にのみ入力してください。

FTPアップロード

[アップロードの動作] を [FTPでアップロード] に設定した場合、FTPのアップロード機能を設定します。

[通報内容]

[映像をFTPする] に設定されます。

[FTPサーバー]

FTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]

認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[PASVモード]

FTPサーバーに接続する際に、PASVモードを使用するかを選択します。

[ファイルアップロードパス]

映像ファイルのアップロード先のパス名 (ディレクトリ名) を入力します。

[ファイル名記録方式]

アップロードファイルの命名規則を選択します。

[年月日時分秒ms]

“{年}{月}{日}{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg”というファイル名で映像をアップロードします。

(例 : 20160123112122000.jpg)

[年月日ディレクトリ/時分秒ms]

“{年}{月}{日}”という名前のサブディレクトリを作成した上で“{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg”というファイル名で映像をアップロードします。

(例 : 20160123/112122000.jpg)

[ループ]

0000. から[最大ループ数]の設定値を上限として、順番に付けた番号をファイル名としてアップロードします (例: 0000.jpg、0001.jpg)。最大ループ数まで達したら、0000に戻ります。

すでに存在するファイル名でアップロードを行った場合の動作は、使用するFTPサーバーによって次のように異なるため、設定前にFTPサーバーの仕様を確認する必要があります。

- 同じファイル名は上書きされる
- 自動的に別のファイル名が付加される
- エラーとなる

[最大ループ数]

[ファイル名記録方式] を [ループ] にした場合、最大ループ値を入力します。

[ユーザー設定]

[作成サブディレクトリ名] と [作成ファイル名] で指定されたファイル名で映像をアップロードします。

[作成サブディレクトリ名]、[作成ファイル名]

[ファイル名記録方式] を [ユーザー設定] にした場合、作成するサブディレクトリ名および作成ファイル名を入力します。入力には、「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 204)。

[FTPアップロードテスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。

JPEG 1 枚のみアップロードされますが、このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、

[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

[映像記録] > [メール通報] メールでの通報を設定する

イベント発生時に、指定した宛先にメールを送信して通報するための設定を行います。

メール通報		適用	クリア
メール通報			
① 通報内容	テキストのみ ▼		
① メール設定のコピー	実行		
① メールサーバー 63文字以内			
① メールポート番号 1~65535	25		
① 差出人メールアドレス (From) 63文字以内			
① 宛先メールアドレス (To) 63文字以内			
① メール認証方式	POP before SMTP ▼		
① ユーザー名 31文字以内	admin		
① パスワード 31文字以内	*****		
① POPサーバー 63文字以内			
① 表題 31文字以内			
① 本文 255文字以内			
① メール通報テスト	実行		

ここでは次の設定ができます。

- メール通報

メール通報

メール通報に使用するメールサーバーと、送信するメールの内容を設定します。

[通報内容]

テキストとは、[表題] と [本文] です。

[テキストと映像] に設定すると、イベント直前に取得した画像データ (JPEG形式) を1枚添付します。

[メール設定のコピー]

[メンテナンス] > [ログ] > [ログ通知] (P. 200) で使用しているメール設定をコピーします。ただし、[パスワード] はコピーされません。

[メールサーバー]

SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[メールポート番号]

SMTPサーバーのポート番号を入力します。

[差出人メールアドレス(From)]

メール発信するアドレスを入力します。

[宛先メールアドレス(To)]

メール受信するアドレスを入力します。

[メール認証方式]

送信先SMTPサーバーに合わせて、認証方式を選択します。

[ユーザー名]、[パスワード]、[POPサーバー]

メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]

メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[表題]

メール送信時の表題を半角英数字で入力します。

[本文]

メール送信時の本文 (テキスト) を、半角英数字で入力します。
テキストには「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 204)。

[メール通報テスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してメール通報テストを行います。
このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

[イベント] > [外部デバイス] 外部デバイスからの入力があった場合の動作を設定する

外部デバイス出力の動作と、外部デバイスからの入力イベントで実行する動作について設定します。

外部デバイス		適用	クリア
外部デバイス出力			
① 動作モード	ノーマルオープン		
① アクティブ出力の形式	連続		
① パルスの出力時間 (秒) 1~120	1		
外部デバイス入力			
① 外部デバイス入力イベント	使用する		
① 動作モード	ノーマルオープン		
① アクティブイベント時の動作	有効		
① インアクティブイベント時の動作	無効		
① アクティブイベント中の動作	無効		
① プリセット	指定しない		
① 映像記録	実行しない		
① メール通報	実行しない		
① アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効		
① インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効		
① アクティブイベント時の音声再生	再生する		
① インアクティブイベント時の音声再生	再生しない		
① 再生音	Sample		
① 音量 1~100	50		
① デイナイト切り換え	無効		

ここでは次の設定ができます。

- 外部デバイス出力
- 外部デバイス入力

外部デバイス出力

外部デバイスへの出力動作について設定します。

メモ

外部デバイスへの出力は、カメラビューワーの [外部デバイス出力] (P. 73) でアクティブ/インアクティブを切り換えることができます。

[動作モード]

出力端子の接点が、通常時にオープンかクローズかを選択します。

[ノーマルオープン] に設定すると、出力端子の接点が閉じた場合にアクティブイベントが発生し、開いた場合にインアクティブイベントが発生します。

[ノーマルクローズ] に設定すると、出力端子の接点が開いた場合にアクティブイベントが発生し、閉じた場合にインアクティブイベントが発生します。

ノーマルオープン



ノーマルクローズ



[アクティブ出力の形式]

外部デバイス出力がアクティブの状態になったときの出力形式を選択します。

[パルスの出力時間(秒)]

[アクティブ出力の形式] が [パルス] の場合、出力を維持する時間 (秒) を入力します。

重要

[アクティブ出力の形式] を [パルス] に設定してタイマーを使用する場合 (P. 150) は、タイマーの開始時刻に1回のみ接点出力が制御されます。

外部デバイス入力

外部デバイス入力イベントがあった場合の動作について設定します。

メモ

外部デバイス入力イベントがあった場合は、カメラビューワーの [イベントと入出力] メニューにアイコンで表示されます (P. 73)。

[外部デバイス入力イベント]

接続されたセンサーなどの外部デバイスからの入力を、イベントとして使用するかを選択します。

[動作モード]

接続されている外部機器からの入力信号に合わせて、回線状態を選択します。

[ノーマルオープン] に設定すると、外部機器の接点が閉じた場合にアクティブイベントが発生し、開いた場合にインアクティブイベントが発生します。

[ノーマルクローズ] に設定すると、外部機器の接点が開いた場合にアクティブイベントが発生し、閉じた場合にインアクティブイベントが発生します。

[アクティブイベント時の動作]

アクティブイベント時の動作を選択します。

[有効] に設定すると、イベント発生 (アクティブイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[インアクティブイベント時の動作]

インアクティブイベント時の動作を選択します。

[有効] に設定すると、イベント終了 (インアクティブイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[アクティブイベント中の動作]

アクティブイベントが継続している間の動作を選択します。[アクティブイベント時の動作] が [有効] の場合のみ設定できます。

[有効] に設定すると、アクティブイベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] S30VE S910F

プリセットを指定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 114) で設定しておく必要があります。

重要 S30VE S910F

カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によってプリセット移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 139) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 143) を設定しておく必要があります。

[アクティブイベント時の外部デバイス出力]

アクティブイベント時の外部デバイス出力を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択します。

[インアクティブイベント時の外部デバイス出力]

インアクティブイベント時の外部デバイス出力を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択します。

[アクティブイベント時の音声再生]

[再生する] を選択すると、外部デバイス入力のアクティブイベント時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

[インアクティブイベント時の音声再生]

[再生する] を選択すると、外部デバイス入力のインアクティブイベント時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

[再生音]

[アクティブイベント時の音声再生] または [インアクティブイベント時の音声再生] が [再生する] の場合、再生音を選択します。

再生音は、あらかじめ [映像と音声] > [音声] の再生音ファイル登録1～3 (P. 130) で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を入力します。

[デイナイト切り換え]

外部デバイス入力イベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。

[デイモードに切り換え] に設定すると、アクティブイベント発生時にデイモード、インアクティブイベント時にナイトモードに切り換えます。

[ナイトモードに切り換え] に設定すると、アクティブイベント時にナイトモード、インアクティブイベント時にデイモードに切り換えます。



重 要

- [カメラ] > [起動時設定] > [デイナイト] が [オート] に設定されている場合 (P. 105)、外部デバイス入力イベント発生時に [デイナイト切り換え] は実行されません。
- カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り換えられた場合、カメラ制御権は解放されます。

[イベント] > [音声検知] 異常な音声入力があった場合の動作を設定する

内蔵マイクから、大きな音や悲鳴が入力された場合、または入力されるはずの音声途絶えた場合に、映像記録やメール通報などの動作を実行できます。

音声検知		適用	クリア
音声検知			
① 音量検知イベント	使用する		
② 検知条件	基準音量レベル以上		
③ 基準音量レベル 1~100	50		
④ 現在の音量レベル	0 50 100		
⑤ 検知条件の継続時間 (秒) 0~10	0		
⑥ ONイベント時の動作	有効		
⑦ OFFイベント時の動作	無効		
⑧ ONイベント中の動作	無効		
⑨ プリセット	指定しない		
⑩ 映像記録	実行しない		
⑪ メール通報	実行しない		
⑫ ONイベント時の外部デバイス出力	無効		
⑬ OFFイベント時の外部デバイス出力	無効		

ここでは次の設定ができます。

- 音量検知



重要

音声検知の注意事項については、「安全にお使いいただくために」の「カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意」(P. 7)を参照してください。



メモ

音声検知の状態は、カメラビューワーの[イベントと入出力]メニューで確認できます (P. 74)。

音量検知

入力音声の音量が基準値を上回った、または下回ったことを検知して、音量検知イベントを発生します。
音量検知イベントを発生させる条件や、イベントによって実行する動作を設定します。



重要

- イベントによる音声ファイル再生時とビューワーからの音声送信時は、一時的に音量検知機能が無効になります。
- [映像と音声] > [音声] > [音声全般] > [パン・チルト中のミュート] が [ミュートする] に設定されているとき、カメラがパンやチルトの動作中は、一時的に音量検知機能が無効になります。S30VE

[音量検知イベント]

音量検知イベントを使用するかを選択します。

[映像と音声] > [音声] > [音声全般] > [音声入力の使用] が [使用しない] に設定されている場合、[使用する] には設定できません。

[検知条件]

音量検知イベントを発生する条件を選択します。

[基準音量レベル]

検知の基準となる音量レベルを入力します。

基準音量レベルは、[現在の音量レベル] で確認しながら実際にテストを行ったうえで設定してください。



メモ

- [映像と音声] > [音声] > [音声全般] > [低域カット] (P. 130) の設定を変更した場合は、[基準音量レベル] の設定を見直してください。
- [基準音量レベル] を低く設定した場合、ズームやフォーカスの駆動音を誤って検知する場合があります。S30VE S910F

[現在の音量レベル]

現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。

[基準音量レベル] で設定したレベルには赤色の目印が表示され、[基準音量レベル] より低いレベルは青色、[基準音量レベル] 以上のレベルは赤色で表示されます。

[検知条件の継続時間(秒)]

音量検知条件を満たした状態が継続時間以上続いた場合に、ONイベントが発生します。

[ONイベント時の動作]

[有効] に設定すると、音量検知イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[OFFイベント時の動作]

[有効] に設定すると、音量検知イベント終了 (OFFイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[ONイベント中の動作]

ONイベントが継続している間の動作を選択します。[ONイベント時の動作] が [有効] の場合に設定できます。

[有効] に設定すると、音量検知イベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] S30VE S910F

プリセットを指定すると、音量検知イベント発生時に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 114) で設定しておく必要があります。



重要

S30VE S910F

カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によって音量検知イベント時の動作でカメラがプリセット位置に移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

音量検知イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、音量検知イベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 139) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

音量検知イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、音量検知イベント発生時に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 143) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]

ONイベント時の外部デバイス出力の動作を選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力]

OFFイベント時の外部デバイス出力の動作を選択します。

[イベント] > [タイマー] 指定時刻に実行する動作を設定する

タイマー機能を使用してイベントを発生させ、映像記録やメール通報などの動作を一定間隔で実行できます。
設定できるタイマーは、次の2種類です。

- 指定した時刻から24時間連続
- 指定した時間内のみ

いずれの場合も、タイマーイベントを繰り返し発生させる間隔を設定できます。

タイマー	
	適用
タイマー 1	
① タイマーイベント	使用する ▼
② 24時間連続設定	無効 ▼
③ 開始時刻 h:mm	00:00
④ 終了時刻 h:mm	00:00
⑤ 繰り返し間隔	なし ▼
動作	
⑥ 開始時刻のプリセット	指定しない ▼
⑦ 映像記録	実行しない ▼
⑧ メール通報	実行しない ▼
⑨ 外部デバイス出力	無効 ▼
⑩ デイナイト切り換え	無効 ▼

ここでは次の設定ができます。

- タイマー 1～4
- 動作

タイマー 2	
① タイマーイベント	使用しない ▼
タイマー 3	
① タイマーイベント	使用しない ▼
タイマー 4	
① タイマーイベント	使用しない ▼

タイマー 1～4

タイマーイベントは、4つまで登録できます。

[タイマーイベント]

タイマーイベントを使用するかを選択します。

[24時間連続設定]

[有効] に設定すると、[開始時刻] から24時間連続で、[繰り返し間隔] の間隔でタイマーイベントを繰り返します。
[有効] にした場合、動作は [映像記録] のみ実行できます。

[開始時刻]

タイマーイベントの開始時刻を、24時間制で入力します。開始時刻にタイマーイベントが発生します。

[終了時刻]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベントの終了時刻を、24時間制で入力します。

[繰り返し間隔]

タイマーイベントを繰り返す間隔を選択します。選択した間隔ごとに、タイマーイベントが発生します。

動作

タイマーイベント発生時の動作を設定します。

[開始時刻のプリセット] S30VE S910F

[24時間連続設定] が [無効] の場合、プリセットを指定すると、[開始時刻] で設定した時刻に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 114) で設定しておく必要があります。



重要

S30VE S910F

カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[開始時刻のプリセット] の指定によってカメラアングルが移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

タイマーイベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、タイマーイベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 139) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、タイマーイベント発生時に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 143) を設定しておく必要があります。

[外部デバイス出力]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーの [開始時刻] および [終了時刻] に、外部デバイス出力を、アクティブまたはインアクティブに制御します。

[繰り返し間隔] には対応しません。

[デイナイト切り換え]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。[タイマー 1] でのみ設定できます。

[デイモードに切り換え] に設定すると、[開始時刻] にデイモード、[終了時刻] にナイトモードになります。

[ナイトモードに切り換え] に設定すると、[開始時刻] にナイトモード、[終了時刻] にデイモードになります。

[繰り返し間隔] には対応しません。



重 要

- [開始時刻] と [終了時刻] を設定し、[開始時刻のプリセット] でプリセットを選択した場合、デイナイトは [カメラ] > [プリセット] > [カメラ設定] の [デイナイト] (P. 114) の設定が優先されます。したがって、[デイナイト切り換え] で [デイモードに切り換え] または [ナイトモードに切り換え] に設定していても、[プリセット] の [カメラ設定] がその逆の設定の場合、[デイナイト切り換え] の設定は無効になります。S30VE S910F
- [カメラ] > [起動時設定] > [デイナイト] が [オート] に設定されている場合 (P. 105)、タイマーイベント発生時に [デイナイト切り換え] は実行されません。
- カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り換えられた場合、カメラ制御権は解放されます。

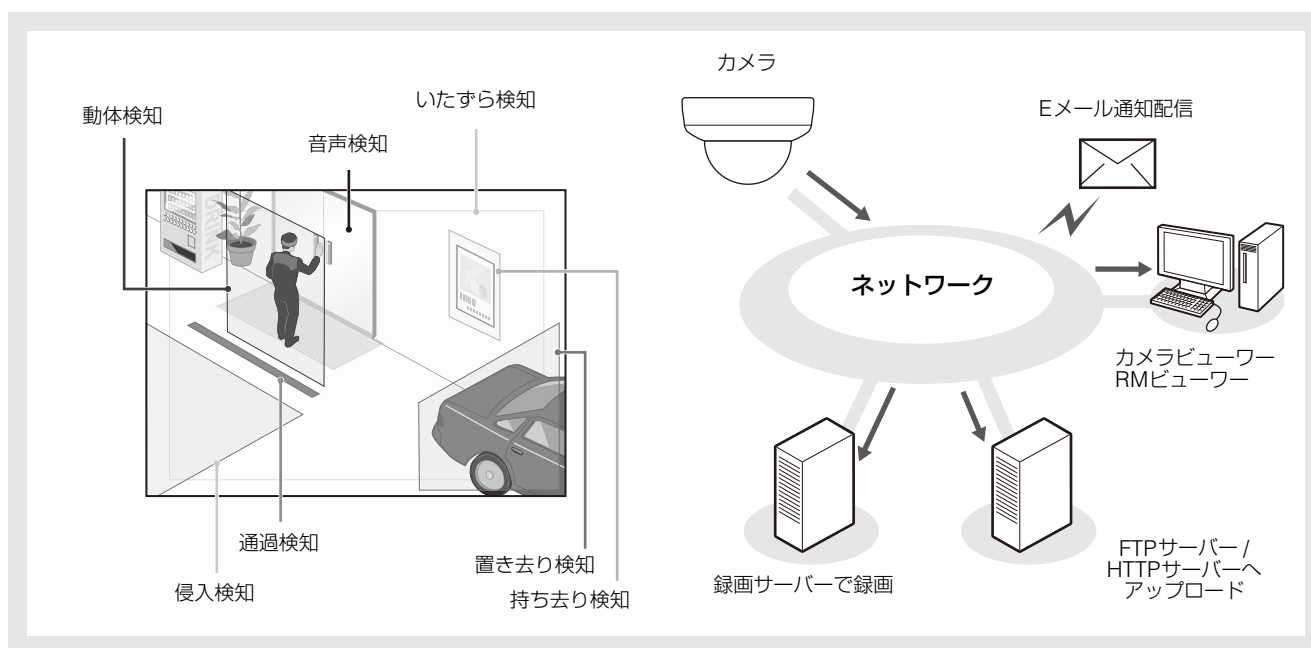
[イベント] > [インテリジェント機能] —概要—

インテリジェント機能とは

インテリジェント機能は、被写体が動くことで映像に変化があった場合に、映像の録画やメール通知、音声の再生などのイベントを開始する機能です。

インテリジェント機能には、次の動作モードがあります。

- 映像検知
- 音声検知



カメラご利用上の注意事項

インテリジェント機能は高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、使用しないことをお勧めします。インテリジェント機能の動作の結果生じた事故、損害などについて、弊社では一切の責任を負いかねます。

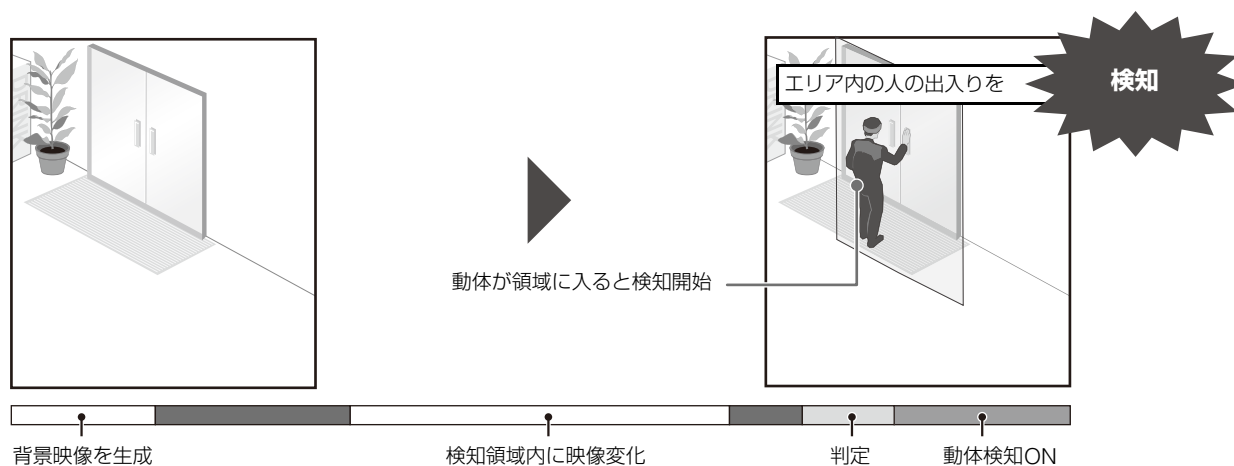
映像検知とは

設定した検知領域内の映像の変化を検知します。6つの検知種別があり、目的に合わせて設定できます。

動体検知

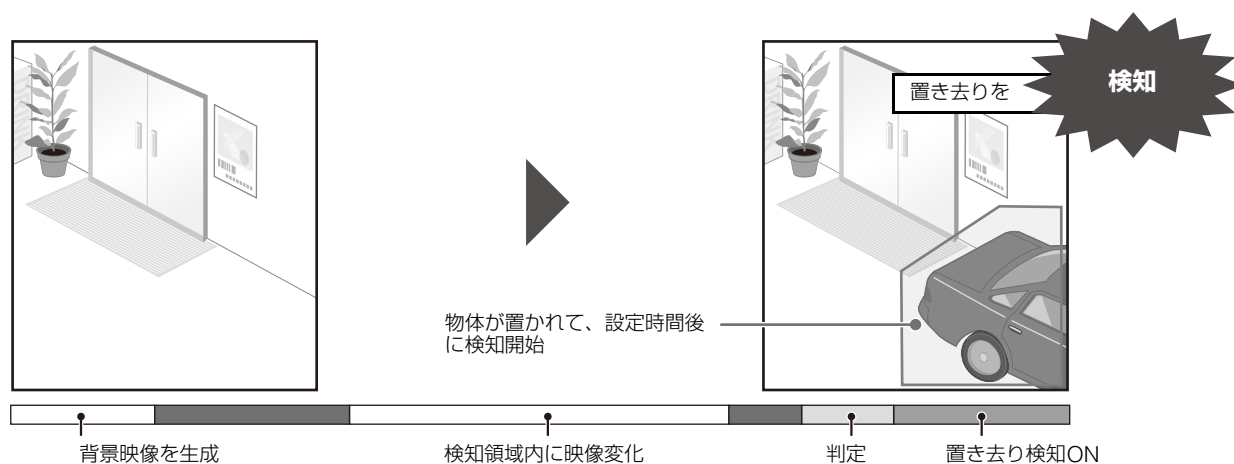
動いている物体を検知します。来訪者や不審者の検知に利用できます。

検知領域内に動く物体が入っている間、動体検知になります。



置き去り検知

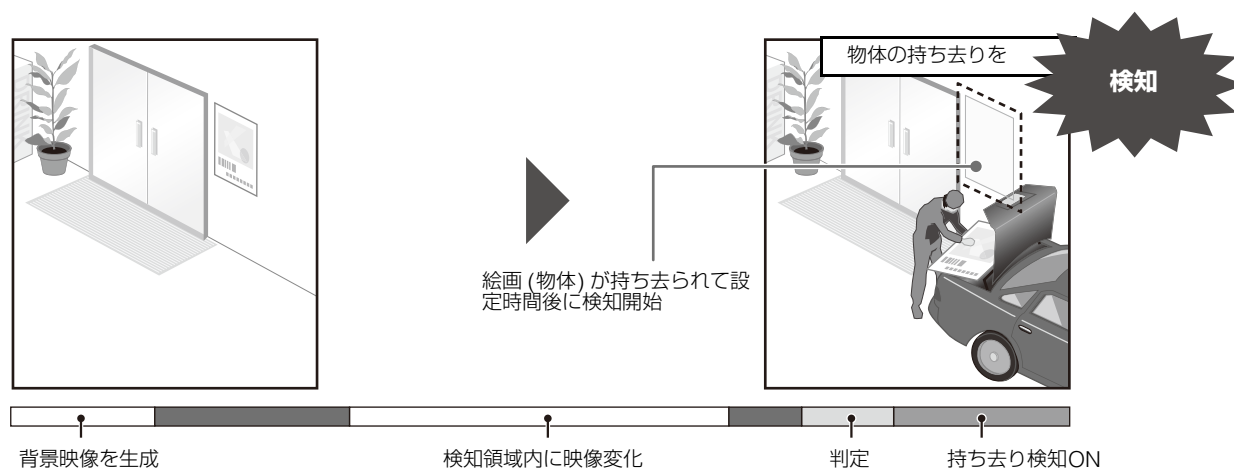
持ち込まれた物体が、一定時間以上置かれたままであることを検知します。置き去りにされた不審物の検知に利用できます。検知領域内に物体が置かれ、そのまま判定時間を経過すると、置き去りと判定します。



持ち去り検知

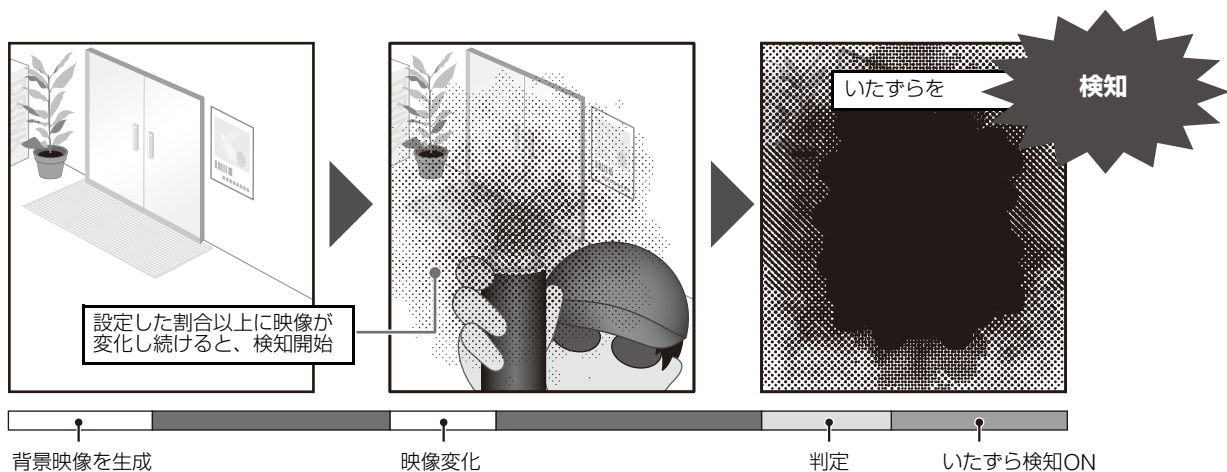
物体が持ち去られたことを検知します。貴重品などの持ち去り行為の検知に利用できます。

検知領域内の物体が持ち去られ、そのまま判定時間を経過すると、持ち去りと判定します。



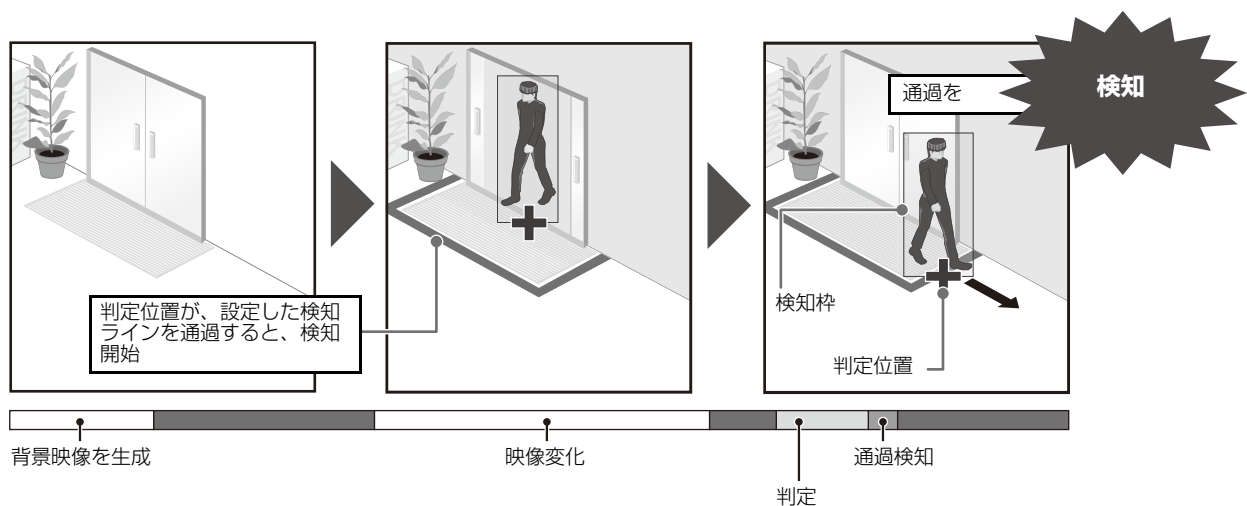
いたずら検知

撮影が妨げられたことを検知します。カメラの向きを変えたり、スプレーなどで映像表示を妨害したりする行為の検知に利用できます。設定した割合より広い領域が物体などで変化し続けると、いたずらと判定します。



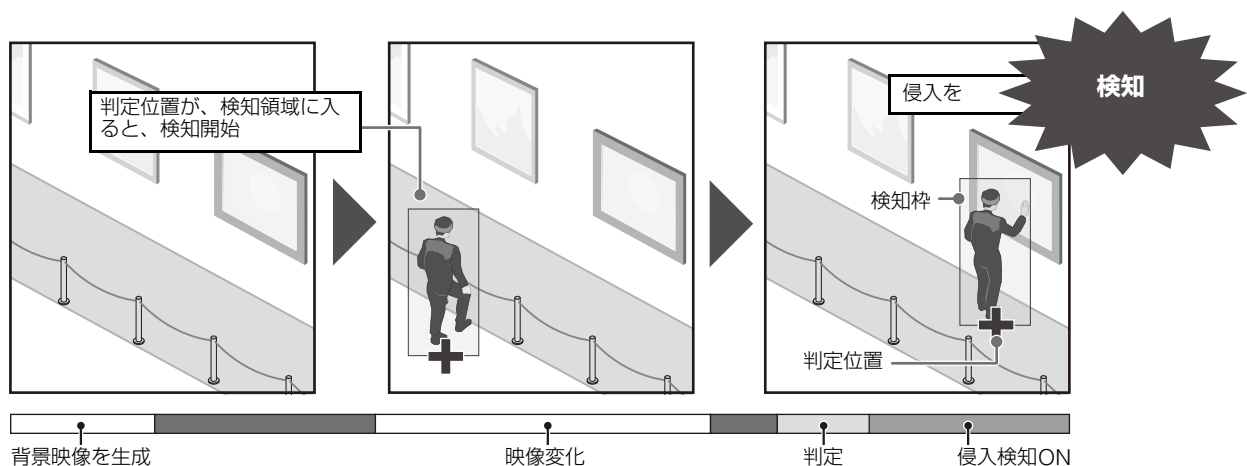
通過検知

人や動いている物体が、指定されたラインを越えたことを検知します。
物体の検知枠上の判定位置が検知ラインを越えると、通過と判定します。



侵入検知

人や動いている物体が指定領域内に入ったことを検知します。美術館などの立ち入り禁止の柵を乗り越えて侵入する行為の検知に利用できます。物体の検知枠上の判定位置が検知領域に入り、判定時間を経過すると、侵入と判定します。



■ 音声検知とは

カメラに入力される音声を検知する機能です。

[インテリジェント機能]ではなく、[イベント] > [音声検知] (P. 148) で設定します。

[音量検知]：音量レベルが、設定した基準値以上または以下になったことを検知します。

インテリジェント機能の設定・運用上の注意

- インテリジェント機能を設定するにあたっては、実際にテストを行い、正しく検知できるか確認してください。
- 画面全体に急激な明暗の変化が発生した場合、最長5分間、意図通りに検知されないことがあります。
- インテリジェント機能の再起動中は、検知が実行されません。
- インテリジェント機能の設定中や動作中にカメラを操作した場合は、[インテリジェント機能の再起動中です。しばらくお待ちください。]と表示され、インテリジェント機能が再起動します。
- デイモード/ナイトモードの切り換えが行われると、[インテリジェント機能の再起動中です。しばらくお待ちください。]と表示され、インテリジェント機能が再起動します。
- 設定ページの[基本] > [映像] > [映像全般]で[映像サイズセット]を変更した場合は、必ずプリセット位置の設定(S30VE S910F)と、インテリジェント機能の設定を変更し、動作の確認を行ってください。設定によっては、インテリジェント機能が動作しない場合があります。

S30VE S910F

- ズーム倍率を高くしてテレ側に設定している場合は、意図通りに検知できないことがあります。
- カメラ操作で画角を変更した場合や、カメラ位置を固定しているプリセットやホームポジションを変更した場合は、インテリジェント機能設定を見直してください。
- カメラ位置固定時で、[検知設定]の[状態]に[有効]な検知設定がある場合、特権カメラ制御権を持たないユーザーが接続したビューワー、およびRMビューワーでは制御権が取得できなくなります。
- デジタルズーム領域で登録したプリセットを使用すると、登録時のカメラ位置を高い精度で再現できない場合があります。そのため、インテリジェント機能では、光学ズーム領域で登録したプリセットの使用を推奨します。

■ 苦手被写体

次の被写体は、検知されなかったり、誤って検知されたりする場合があります。

- 背景との、明るさや色の違いが少ない物体および部分は、検知されない場合があります。
- 画面上の小さな物体や変化は、検知されない場合があります。
- 画面全体や一部の明るさの変化が検知される場合があります。
- 複数の物体が重なると、検知状態が変化する場合があります。特に、通過が検知できなくなる場合や、検知のタイミングが異なる場合があります。
- 画面内に動体の数が多い場合は、正しく検知されない場合があります。

プリセットを登録しておく

S30VE S910F

あらかじめカメラのアングルをプリセット登録しておき、映像検知の使用時はカメラをプリセット位置に固定することを強く推奨します。また、対象となる物体が大きく撮影される画角をお勧めします。

プリセットの登録については、「[カメラ] > [プリセット] プリセットを登録する」(P. 114)を参照してください。

[イベント] > [インテリジェント機能] —映像検知—

映像検知では、検知したい種別を選び、映像変化に対し、検知する領域などを、映像で確認しながら設定します。また、変化を検知したときにどのような動作（メールで知らせる、映像を録画する、カメラに接続したスピーカーから音声を出すなど）を行うかを設定します。



ここでは次の設定ができます。

- 検知設定 (リスト)
- 非検知設定 (リスト)
- 表示オプション
- カメラ位置設定
- 検知設定 (詳細)
- 非検知設定 (詳細)

映像検知設定の流れ

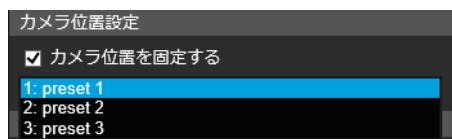
映像の検知をする領域と、必要に応じて検知をしない領域 (非検知領域) をそれぞれ設定します。

■ 検知領域を設定する

検知領域の基本的な設定方法は、次のとおりです。検知種別ごとの詳しい設定は、「検知条件を設定する ([検知条件] タブ)」(P. 160) を参照してください。

1 [カメラ位置設定] の [カメラ位置を固定する] をチェックし、プリセットを選択する S30VE S910F

プリセットの設定方法については、「[カメラ] > [プリセット] プリセットを登録する」(P. 114) を参照してください。



メモ

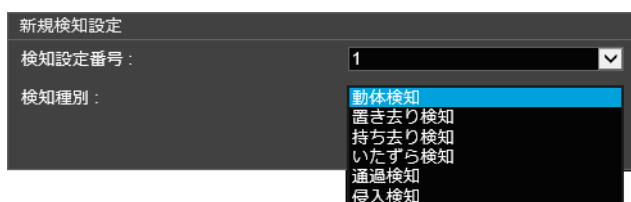
選択できるプリセットは、次の条件を満たしたものです。

- 可視範囲内に設定されている
- [プリセット登録] で、パン・チルト・ズーム値が設定されている (空ではない) (P. 115) S30VE
- [プリセット登録] で、ズーム値が設定されている (空ではない) (P. 115) S910F

2 [検知設定] の [追加] をクリックする



3 追加する検知設定に付ける [検知設定番号] (1～15) と、[検知種別] を選択する



メモ

検知設定は、最大15個登録できます。

4 [OK] をクリックする

[検知設定] に追加した検知設定が表示され、[この検知設定を有効にする] がチェックされます。



メモ

- 検知設定を無効にするには、[この検知設定を有効にする] のチェックを外します。
- 必要に応じて、[検知設定名] を入力します。(P. 161)
- 検知設定を削除するには、削除したい検知設定を選択して検知設定 (リスト) の [削除] をクリックします。

5 検知条件を設定する

映像表示部や [検知条件] タブで設定します (P. 160)。検知条件は、検知種別によって異なります。

6 イベントを設定する

映像検知したときの動作を [イベント] タブで設定します (P. 174)。

7 複数の検知設定を登録する場合は、2～6を繰り返す

8 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

メモ

設定をやり直す場合は、適用前に [クリア] をクリックします。設定した内容を破棄して、カメラに保存されている設定内容に戻します。ただし、検知設定領域に [追加] しただけの検知設定は、すべて破棄されますのでご注意ください。

9 検知結果を確認する

設定した検知設定の検知状況は、映像表示部や [検知設定] の [イベント] 列、または、カメラビューワの [イベントと入出力] メニュー (P. 73) で確認できます。

■ 非検知領域を設定する

誤検知や検知漏れを防ぐために、変化を検知しない領域を設定します。

重要

- 非検知設定で設定した非検知領域は、すべての検知設定に反映されます。
- 検知設定の領域と非検知設定の領域が重なる場合は、非検知設定が優先されます。

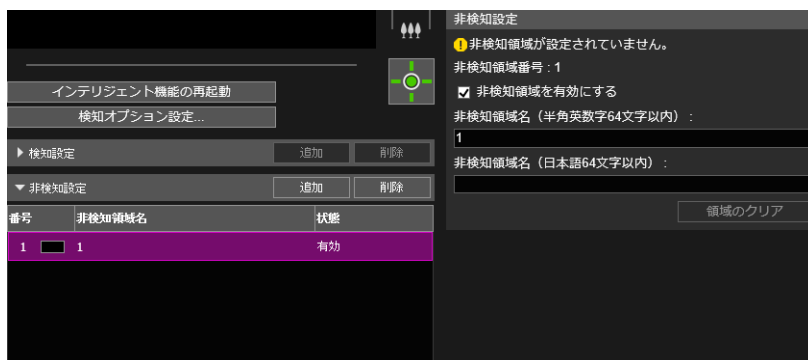
1 [非検知設定] をクリックし、非検知設定一覧を表示する



2 [追加] をクリックする



[非検知設定] に追加した非検知設定が表示され、[非検知領域を有効にする] がチェックされます。



メモ

- 非検知設定は、最大5個登録できます。
- 非検知設定を無効にするには、[非検知領域を有効にする] のチェックを外します。
- 非検知設定を削除するには、削除したい非検知設定を選択して非検知設定 (リスト) の [削除] をクリックします。

3 映像表示部で非検知領域を設定する

マウスをクリックして多角形を作成します。作成方法については、「[多角形] での設定方法」(P. 161) を参照してください。



メモ

- 最大32頂点の多角形の領域を作成できます。直線のみ(non-detection)領域は、設定できません。
- 設定した非検知領域をやり直す場合は、[領域のクリア] をクリックします。
- 必要に応じて、[非検知領域名(半角英数字)]、[非検知領域名(日本語)]を入力します。
- 非検知領域は映像表示部に黒で表示されます。表示色は選べません。

4 複数の非検知領域を設定する場合は、2～3を繰り返す

5 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

メモ

設定した内容を破棄して、カメラに保存されている設定内容に戻す場合は、[クリア] をクリックします。ただし、非検知設定領域に [追加] しただけの検知設定は、すべて破棄されますのでご注意ください。

6 検知結果を確認する

設定した非検知検知設定の状態は、映像表示部や [非検知設定] の [状態] 列で確認できます。

[非検知領域を有効にする] のチェックが外れている場合は、[非検知設定] の [状態] 列が [無効] となり、映像表示部に非検知領域が表示されません。

重要

- 検知設定と非検知設定との領域で、意図しない重なりとなっていないか、映像表示部で必ず確認してください。
- 検知設定の領域と非検知設定の領域を近接して設定すると、正しく検知されない場合があります。

検知条件を設定する ([検知条件] タブ)

検知条件を、検知種別ごとに映像表示部で操作、確認しながら設定します。

重要

検知条件の設定は、できる限り実際の運用に近い状態で設定することをお勧めします。

■ 各検知種別で共通の設定

検知条件	イベント
検知設定名（半角英数字64文字以内）： 1	(1)
検知設定名（日本語64文字以内）： (空欄)	
領域の形状： ☐ 四角形 ☒ 多角形 領域のクリア	
表示色： 物体の大きさ（％）： 20.00	(2) (3)

(1) [検知設定名(半角英数字64文字以内)]/[検知設定名(日本語64文字以内)]

検知設定名を入力します。[検知設定名(半角英数字64文字以内)] は必ず入力してください。

[検知設定名(日本語64文字以内)] を入力した場合、検知設定名の表示は [検知設定名(日本語64文字以内)] が優先されます。

(2) [領域の形状]

検知領域を、四角形で設定するか、自由な形状の多角形で設定するか選択します。

メモ

いたずら検知の [領域の形状] は選択できません。

[四角形] での設定方法

映像表示部に表示される四角形を、移動・リサイズ・変形して、検知領域を設定します。



領域をドラッグして移動、頂点をドラッグしてリサイズできます。

[多角形] での設定方法

映像表示部でクリックした場所に多角形の頂点が設定されます。

順番に頂点を設定し、最初の頂点をもう一度クリックするか、最後の頂点でダブルクリックすると、多角形の検知領域が設定されます。



領域をドラッグして移動、頂点をドラッグして変形できます。

最大32頂点の多角形の領域を指定できます。

メモ

検知領域を設定した後に、形状を変更すると、設定されていた領域が削除され、新しい形状の設定開始に変わります。

[領域のクリア]

[多角形] で設定した検知領域を削除します。

(3) [表示色]

検知領域と検知ラインの表示色を選択します。

■ 動体検知の設定方法

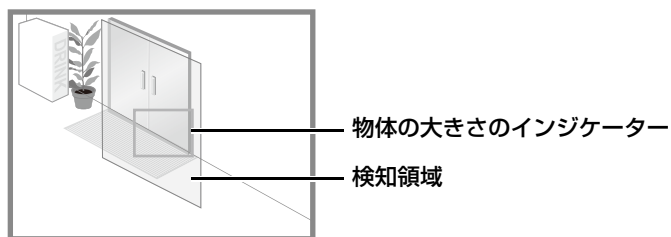
動いている物体を検知したい領域を、検知領域に設定します。

1 [四角形] または [多角形] を選択する

2 映像表示部で、動く物体を検知したい領域を描画する (P. 161)

3 [物体の大きさ(%)] で、検知する物体の大きさを設定する

手順2で設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体が動けば動体検知と判定するかを設定します。数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。

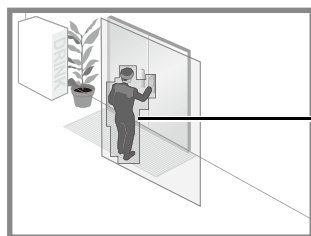


動体検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] より動体が小さい場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[物体の大きさ(%)] より動体が大きい場合は、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



検知された物体の輪郭線

メモ

動体検知の検知領域内で置き去りまたは持ち去りが行われると、動体検知は「検知あり」状態になります。

置き去り検知の設定方法

物体が置かれたことを検知したい領域を、検知領域に設定します。

検知設定番号: 1
 検知種別: 置き去り検知
☒ この検知設定を有効にする

検知条件 イベント

検知設定名 (半角英数字64文字以内):
 1

検知設定名 (日本語64文字以内):

領域の形状: ☐ 四角形 ☒ 多角形

領域のクリア

表示色:

物体の大きさ (%):
 20.00 0 50 100

判定時間 (秒):
 10 1 150 300

- 1 [四角形] または [多角形] を選択する
- 2 映像表示部で、置き去りにされた物体を検知したい領域を描画する (P. 161)
- 3 [物体の大きさ(%)] で、検知する物体の大きさを設定する

手順2で設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体が置き去りにされると置き去り検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケータが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



物体の大きさのインジケータ

検知領域

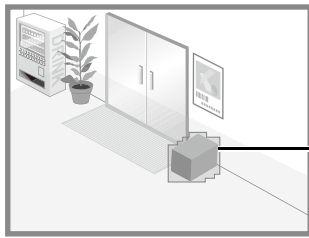
- 4 [判定時間(秒)]で、物体が置かれてから置き去り検知と判定するまでの経過時間を設定する

置き去り検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] を満たさない場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] の両方を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



置き去り検知された物体の輪郭線

■ 持ち去り検知の設定方法

持ち去りを検知したい物体を検知領域に設定します。持ち去り検知の設定は次の方法があります。

- 持ち去りを検知する領域を大まかに設定する
- 持ち去りを検知したい物体の輪郭を指定する

いずれかの設定方法で、意図したとおりに検知できない場合は、もう一方の設定方法をご使用ください。

持ち去りを検知する領域を大まかに設定する

検知設定番号 : 1
検知種別 : 持ち去り検知
☒ この検知設定を有効にする

検知条件 イベント

検知設定名 (半角英数字64文字以内) :
1

検知設定名 (日本語64文字以内) :

領域の形状 : ☐ 四角形 ☒ 多角形

表示色 : 領域のクリア

物体の大きさ (%) :
0.00 0 50 100

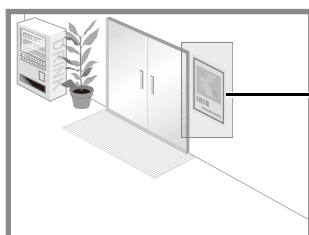
判定時間 (秒) :
3 1 150 300

☒ 輪郭を指定して検知する

[輪郭を指定して検知する] のチェックは外したまま、次の設定をしてください。

1 [四角形] または [多角形] を選択する

2 映像表示部で、持ち去られたくない物体の領域をおおまかに描画する(P. 161)



設定した検知領域

3 [物体の大きさ(%)] で、検知する物体の大きさを設定する

手順2で設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体が持ち去られると持ち去り検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケータが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。

持ち去られた物体が、[物体の大きさ (%)] の設定値を超えた場合、持ち去り検知対象となります。

4 [判定時間(秒)] で、物体が持ち去られてから持ち去り検知と判定するまでの経過時間を設定する

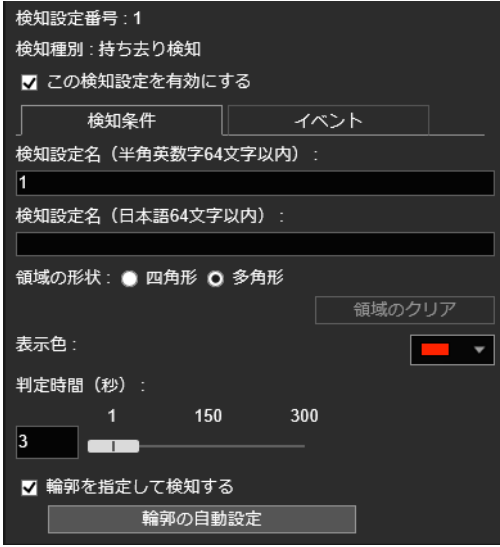
5 [適用] をクリックする

重要

- 次の場合、持ち去り検知と判定されない場合があります
 - 細長い物体が持ち去られた場合
 - 同じ物体が連続して置かれている一部が持ち去られた場合
 - 同一形状のものが重なって置かれている一部が持ち去られた場合
- 検知領域内で対象物以外でも映像が変化すると、持ち去り検知と判定される場合があります。

持ち去りを検知したい物体の輪郭を指定する

1 [輪郭を指定して検知する]をチェックする



2 [四角形] または [多角形] を選択する

3 映像表示部で、持ち去られたくない物体の輪郭に沿って領域を描画する (P. 161) または次の手順で輪郭を自動設定する

持ち去りを検知したい物体を、いったん映像表示部の外へ出す



[インテリジェント機能の再起動] (P. 175) をクリックする

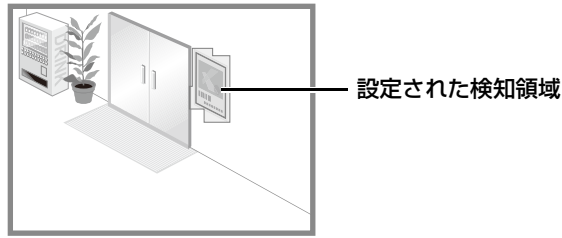
背景画像が生成されます。

▼
持ち去りを検知したい物体を元の位置に戻す

▼
[輪郭の自動設定] をクリックする

物体の輪郭線が最大32頂点の多角形で描画されます。

複数の物体を検出した場合は、面積が最も大きい物体の輪郭線が描画されます。



▼
再度 [インテリジェント機能の再起動] をクリックする

重要

検知領域は、対象物の外形に沿って正確に設定してください。対象物の影や隣接する物体の影響で、対象物が実際より大きな物体として認識され、持ち去りを検知できない場合があります。その場合は、対象物と認識された輪郭に沿って、検知領域を再設定してください。

4 「持ち去りを検知する領域を大まかに設定する」の手順4～5 (P. 165) を操作する

持ち去り検知の検知状態

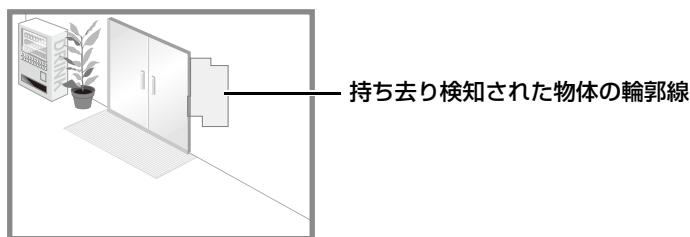
動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] と [判定時間(秒)] を設定した場合は、次のとおりです。

- [物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] を満たさない場合、輪郭線は白の線で表示されます。
- [物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] の両方を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

[輪郭を指定して検知する] で持ち去り検知を設定した場合は、次のとおりです。

- [判定時間(秒)] に達しない場合、輪郭線は白の線で表示されます。
- [判定時間(秒)] を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



■ いたずら検知の設定方法

[いたずら検知] の場合、映像表示部全体が検知領域になります。領域は変更できません。

検知設定

検知設定番号: 1

検知種別: いたずら検知

☒ この検知設定を有効にする

検知条件 イベント

検知設定名 (半角英数字64文字以内):

1

検知設定名 (日本語64文字以内):

領域の形状: ☐ 四角形 ☒ 多角形

領域のクリア

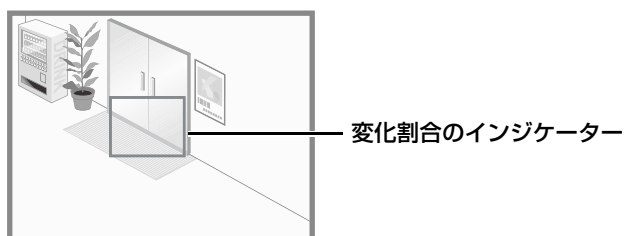
表示色: ■

変化割合 (%):

50.00 0 50 100

[変化割合(%)] で、映像表示部全体に対し、どの程度の割合の画面変化があると、いたずら検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、映像表示部全体に占める割合を表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、確認しながら設定してください。

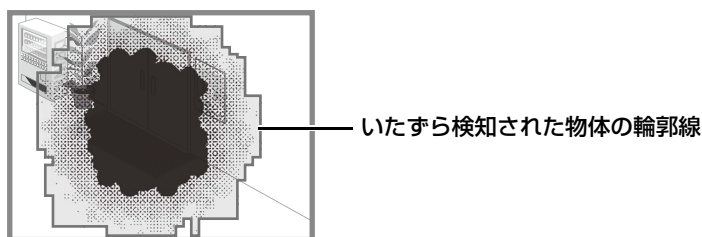


いたずら検知の検知状態

動きが検出された物体に、輪郭線が表示されます。

[変化割合(%)] 未満の大きさの場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[変化割合(%)] 以上の面積で映像が妨げられた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



メモ

いたずら検知の変化割合を変更した直後、および他の検知設定からいたずら検知が設定された検知設定に切り換えた直後の3秒間は、検知あり状態になりません。

通過検知の設定方法

物体が通過する検知ラインを、その通過する方向と物体の判定位置で設定します。

検知設定番号：1
 検知種別：通過検知
☒ この検知設定を有効にする

検知条件 イベント

検知設定名（半角英数字64文字以内）：
 1

検知設定名（日本語64文字以内）：

表示色：
 ラインのクリア

通過方向：

判定位置：

物体の大きさ（%）：
 0 15 30
 0.00

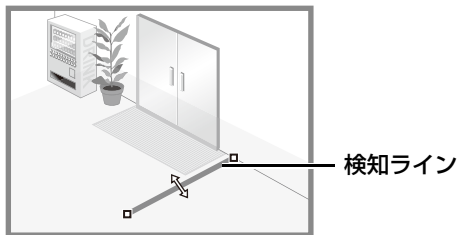
1 次の手順で、映像表示部に通過検知ラインを設定する

映像表示部で、検知ラインの始点とする位置をクリックする

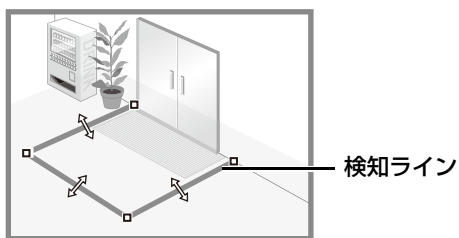


別の場所をクリックする

始点と次にクリックした点の間に検知ラインが設定されます。



折れ線の検知ラインを設定する場合は、折れ線の頂点を順番にクリックする



最大32頂点の折れ線で検知ラインを設定できます。



すでに設定したいいずれかの頂点をクリックする

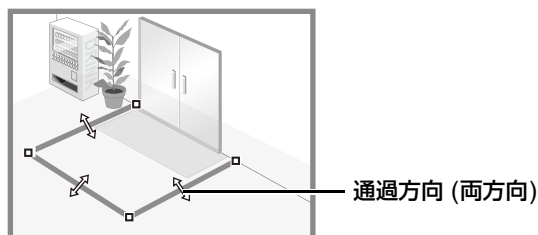
検知ラインが確定されます。

メモ

- 検知ラインを確定した後も、各頂点をドラッグして検知ラインの形状を変更したり、頂点間のラインをドラッグして検知ライン全体を移動したりできます。
- [ラインのクリア] をクリックすると、検知ラインはクリアされます。

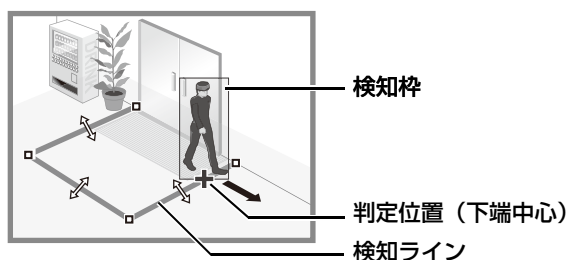
2 [通過方向] で、検知ラインに対して動体が通過する方向を選択する

選択した通過方向と同じ方向で動体が検知ラインを越えたときに、「通過した」と検知されます。
選択した通過方向は、映像表示部の検知ライン上にプレビュー表示されます。



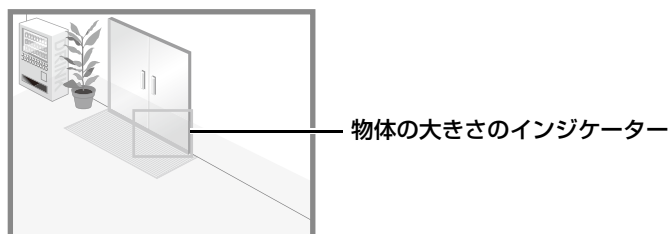
3 [判定位置] で、動体が検知ラインを通過する際に、動体のどの位置で通過と判定するかを選択する

ここで選択した判定位置が検知ラインを越えたときに、「通過した」と検知されます。
判定位置は、動体の検知枠に十字の記号で表示されます。



4 [物体の大きさ(%)] で、検知する動体の大きさを設定する

画面全体に対する、動体の大きさの割合を設定します。
動体が、[物体の大きさ(%)] の設定値を超えた場合、通過検知対象となります。
数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



メモ

通過検知の [物体の大きさ(%)] で指定できる割合は、30%までです。

通過検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、白い輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] を満たした動体の [判定位置] が、[通過方向] の方向で検知ラインを通過したとき、輪郭線が検知ラインと同じ色で表示され、「検知あり」状態となります。

通過検知イベントが通知されるのは、通過の瞬間だけです。イベント時の動作を設定する際はご注意ください。



重要

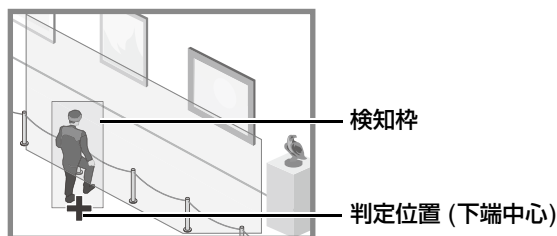
通過検知の設定後は、検知テストを行って、動体の検知枠が継続して表示されることを確認してください。

■ 侵入検知の設定方法

侵入を検知したい領域を、検知領域に設定します。

- 1 映像表示部で、侵入する動体を検知したい領域を描画する (P. 161)
- 2 [判定時間(秒)] で、動体が侵入してから侵入検知と判定するまでの経過時間を設定する
- 3 [判定位置] で、動体が検知領域に侵入する際に、動体のどの位置で侵入と判定するかを選択する

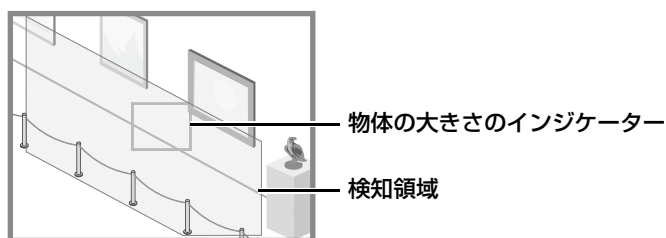
判定位置は、動体の検知枠に十字の記号で表示されます。



- 4 [物体の大きさ(%)] で、検知する動体の大きさを設定する

画面全体に対する、動体の大きさの割合を設定します。

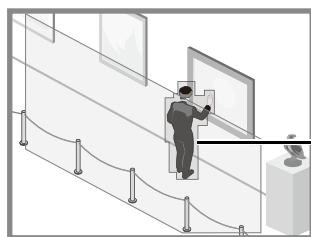
数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



侵入検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] を満たした動体の [判定位置] が検知領域に入り、[判定時間(秒)] を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



重要

侵入検知の設定後は、検知テストを行って、動体の検知枠が継続して表示されることを確認してください。

「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)

被写体の変化を検知した際の動作を設定します。

設定内容については、「「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)」(P. 174) を参照してください。

イベントの状態を確認する

インテリジェント機能 (動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知、侵入検知) の検知設定で、検知あり状態になると、その行のイベントアイコンが緑色になります。

映像検知の検知状態は、カメラビューワーの [イベントと入出力] メニューでも確認できます (P. 73)。

▼ 検知設定			
		追加	削除
番号	検知種別	状態	イベント
1	動体検知	有効	●
2	動体検知	有効	●
3	通過検知	有効	●

番号1：映像検知状態 ON

番号2、3：映像検知状態 OFF

検知領域/検知ライン、非検知領域、検知結果の表示を設定する (表示オプション)

検知領域/検知ライン、非検知領域、検知結果の、映像表示部への表示について設定します。

表示オプション	
検知領域 / 検知ライン :	
選択中の検知設定のみ	▼
非検知領域 :	
有効な非検知領域のみ	▼
検知結果 :	
選択中の検知設定のみ	▼

[検知領域/検知ライン] と [検知結果] のいずれも、次の設定値を選択できます。

[選択中の検知設定のみ]

検知設定 (リスト) で選択している検知設定の検知領域 / 検知ラインまたは検知結果のみ表示します。

[すべての検知設定]

検知設定 (リスト) のすべての検知設定の検知領域/検知ラインまたは検知結果を表示します。

[同じ検知種別の検知設定]

検知設定 (リスト) で選択している検知設定と同じ種別の検知設定の検知領域/検知ライン、または検知結果を表示します。

[表示しない]

すべての検知領域/検知ラインまたは検知結果を表示しません。

[非検知領域] は、次の設定値を選択できます。

[選択中の非検知領域のみ]

非検知設定 (リスト) で選択している非検知設定の非検知領域のみ表示します。

[すべての非検知領域]

非検知設定 (リスト) のすべての非検知設定の非検知領域を表示します。

[有効な非検知領域のみ]

非検知設定 (リスト) で [状態] が [有効] の非検知設定の非検知領域のみ表示します。

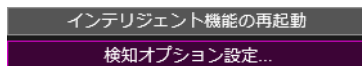
[表示しない]

すべての非検知領域を表示しません。

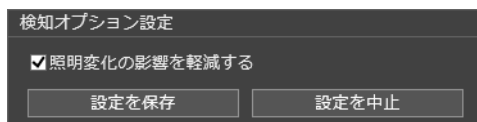
照明変化の影響を軽減する (検知オプション設定)

室内照明の点灯・消灯など、画面全体の照明が急激に変化する場合、インテリジェント機能が働かないことがあります。検知オプションの設定を変更することで、この現象を軽減できることがあります。

1 [検知オプション設定] をクリックする



2 [照明変化の影響を軽減する] をチェックする



3 [設定を保存] をクリックする

設定が保存され、インテリジェント機能が再起動されます。

重要

- インテリジェント機能の再起動には数十秒かかります。再起動中は、検知が実行されません。
- [照明変化の影響を軽減する] を設定しても、ご使用の環境によっては正しく働かないことがあります。また急激な明暗の変化が連続する場合も同様です。実際に検知テストを行い、正しく働くかご確認ください。

右クリックメニューについて

映像表示部、検知設定 (リスト)、非検知設定 (リスト) 上で右クリックすると、メニューが表示され、次の機能が使用できます。右クリック時に使用できない機能は、グレー表示されます。

[検知領域/検知ラインをコピー]

設定中の検知設定の検知領域/検知ラインを、クリップボードにコピーします。

[検知領域/検知ラインを貼り付け]

クリップボードにコピーされている検知領域/検知ラインを、設定中の検知設定に貼り付けます。いたずら検知には貼り付けられません。

検知ラインは、コピー元と貼り付け先がどちらも通過検知の場合のみ可能です。

[検知領域/検知ラインをクリア]

設定中の検知設定の検知領域/検知ラインを削除します。領域の形状が四角形の場合、または、いたずら検知の検知領域は、削除できません。

[検知条件の設定値をコピー]

設定中の検知設定の検知条件を、クリップボードにコピーします。なお、検知設定名および表示色はコピーされません。

[検知条件の設定値を貼り付け]

クリップボードにコピーされている検知条件を、設定中の検知設定に貼り付けます。コピー元と貼り付け先の検知種別が同一の場合のみ可能です。

[イベントの設定値をコピー]

設定中の検知設定のイベント設定を、クリップボードにコピーします。

[イベントの設定値を貼り付け]

クリップボードにコピーされているイベント設定を、設定中の検知設定に貼り付けます。

[非検知領域をコピー]

設定した非検知設定の非検知領域を、クリップボードにコピーします。

[非検知領域を貼り付け]

クリップボードにコピーされている非検知領域を、設定中の非検知設定に貼り付けます。

[非検知領域をクリア]

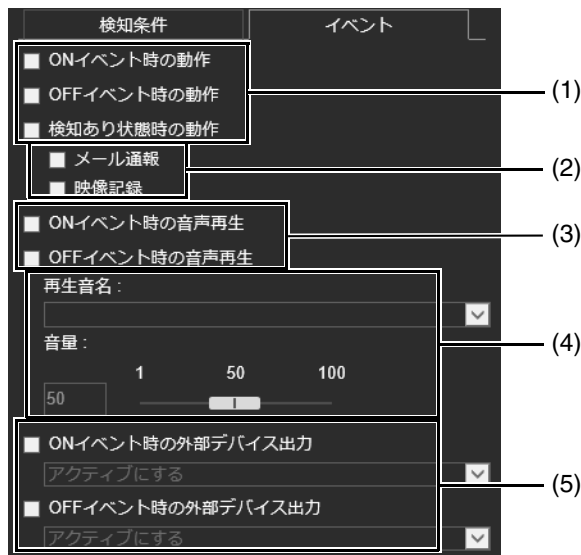
設定中の非検知設定の非検知領域を削除します。

[イベント] > [インテリジェント機能] — 共通操作 —

映像検知に共通している機能について説明します。

「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)

被写体の変化を検知した際の動作を設定します。



(1) 動作のタイミングの指定 (複数指定可能)

[ONイベント時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態になったとき、(2) で設定した処理を行います。

[OFFイベント時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態が終了したとき、(2) で設定した処理を行います。

[検知あり状態時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態が続く間、(2) で設定した処理を行います。

(2) [イベント時の動作の指定 (複数指定可能)

[メール通報]

チェックすると、(1) で設定したタイミングでメール通報を行います。あらかじめ、設定ページの [映像記録] > [メール通報] を設定しておく必要があります (P. 143)。

[映像記録]

チェックすると、(1) で指定したタイミングで映像記録を行います。あらかじめ、設定ページの [映像記録] > [アップロード] (P. 139) または [メモリーカード] > [映像記録設定] (P. 192) を設定しておく必要があります。

(3) 音声再生のタイミングの指定

[ONイベント時の音声再生]

チェックすると、「検知あり」の状態になったとき、(4) で設定した音声を再生します。

[OFFイベント時の音声再生]

チェックすると、「検知あり」の状態が終了したとき、(4) で設定した音声を再生します。

(4) 再生音の設定

[再生音名]

再生する音声を選択します。再生音は、あらかじめ、設定ページの [映像と音声] > [音声] の再生音ファイル登録1～3 (P. 130) で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を設定します。

(5) 外部デバイス出力の動作

[ONイベント時の外部デバイス出力]

「検知あり」の状態になったときに、外部デバイスへの出力を開始または停止する場合にチェックし、動作 (アクティブまたはインアクティブ) を選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力]

「検知あり」の状態が終了したときに、外部デバイスへの出力を開始または停止する場合にチェックを入れ、動作 (アクティブまたはインアクティブ) を選択します。

インテリジェント機能を再起動する

設定中に背景の映像が変化してしまったときや、設定どおりの検知結果にならない場合は、インテリジェント機能を再起動してください。

- 1 カメラの制御権を取得していない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして取得する
- 2 [インテリジェント機能の再起動] をクリックする

インテリジェント機能の再起動



重要

インテリジェント機能の再起動には数十秒かかります。再起動中は、検知が実行されません。

[イベント] > [デイナイト切り換え] デイナイト切り換え時にプリセットを実行する

イベントによるデイナイト切り換えが行われるタイミングで、あらかじめ登録したプリセットを実行し、カメラアングルや画質設定などを切り換えることができます。

デイナイト切り換え		適用	クリア
デイナイト切り換え			
① デイモード切り換え時のプリセット	指定しない		
② ナイトモード切り換え時のプリセット	指定しない		

ここでは次の設定ができます。

- デイナイト切り換え

デイナイト切り換え

[デイモード切り換え時のプリセット]

デイモードに変わったタイミングで、指定したプリセットを実行します。

[ナイトモード切り換え時のプリセット]

ナイトモードに変わったタイミングで、指定したプリセットを実行します。



重要

カメラビューワーなどでカメラ制御権が取得されている場合、[デイモード切り換え時のプリセット]、[ナイトモード切り換え時のプリセット] は実行されません。



メモ

- あらかじめ、[カメラ] > [プリセット] (P. 114) で、プリセットを設定しておく必要があります。
- イベントによるデイナイト切り換えのタイミングは、[外部デバイス入力] (P. 146)、[タイマー] (P. 150) の各 [デイナイト切り換え] で設定できます。

[イベント] > [連結イベント] イベントを組み合わせて使用する

2種類のイベントを組み合わせて、1つのイベントを発生させます。イベントの連結方法には、AND/ORが選択できます。連結イベント発生時の動作に、映像記録やメール通報などを設定できます。

連結イベント	
適用 クリア	
連結イベント 1	
① 連結イベント	使用する
① イベント連結方法	AND
① イベント順序	指定しない
① イベント間隔(秒) 0~60	2
イベント 1	
① イベント種別	外部デバイス入力
① 外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
① イベント種別	インテリジェント機能
① インテリジェント機能	設定1
① インテリジェント機能状態	ON

ここでは次の設定ができます。

- 連結イベント1~4
- イベント1~2
- 動作

動作	
① ONイベント時の動作	有効
① OFFイベント時の動作	無効
① ONイベント中の動作	無効
① 映像記録	実行しない
① メール通報	実行しない
① ONイベント時の外部デバイス出力	無効
① OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
① ONイベント時の音声再生	再生する
① OFFイベント時の音声再生	再生する
① 再生音	Sample
① 音量 1~100	50

メモ

連結イベントの状態は、カメラビューワーの[イベントと入出力]メニューで確認できます(P. 74)。

連結イベント1~4

連結イベントは、4つまで登録できます。

組み合わせられるイベントは、[音量検知]、[外部デバイス入力]、[タイマー]、[インテリジェント機能]です。

[連結イベント]

連結イベントを使用するかを選択します。

[イベント連結方法]

イベントの組み合わせ条件を選択します。

[AND]：[イベント1]と[イベント2]で選択したイベント種別が両方発生すると、新たな連結イベントを発生させます。この場合、[イベント順序]と[イベント間隔]を設定します。

[OR]：[イベント1]と[イベント2]で選択したイベント種別のいずれかが発生すると、新たな連結イベントを発生させます。

[イベント順序]

[イベント連結方法]が[AND]の場合、2つのイベントの発生順序を選択できます。

[指定しない]に設定した場合は、順序は考慮されません。

[イベント間隔(秒)]

[イベント連結方法]が[AND]の場合、2つのイベントの発生間隔を入力します。

1つ目のイベントが発生してから、指定時間(秒)以内に2つ目のイベントが発生した場合、新たな連結イベントが発生します。

■ イベント 1、2

連結する2つのイベントを指定します。設定内容はどちらも同じです。

[イベント種別]

組み合わせるイベントの種別を選択します。

[音量検知]

[音量検知状態] で、ONイベント、OFFイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

[外部デバイス入力]

[外部デバイス入力状態] でアクティブイベント、インアクティブイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

[タイマー]

[タイマー] で、使用するタイマーイベントの番号を選択します。

[インテリジェント機能]

[インテリジェント機能] で使用するインテリジェント機能の検知設定番号 (P. 157) を選択し、[インテリジェント機能状態] でONイベント、OFFイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。



メモ

[イベント1] と [イベント2] の両方に同じイベント種別を指定することはできません。ただし、[タイマー] は [タイマー 1] ~ [タイマー 4] の組み合わせで指定可能です。

動作

連結イベント発生時の動作を設定します。

[ONイベント時の動作]

[有効] に設定すると、連結イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット] **S30VE S910F**、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[OFFイベント時の動作]

[有効] に設定すると、連結イベント終了 (OFFイベント) 時に、[プリセット] **S30VE S910F**、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[ONイベント中の動作]

ONイベントが継続している間の動作を選択します。

[有効] に設定すると、連結イベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] **S30VE S910F**

プリセットを指定すると、連結イベントが発生した場合に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 114) で設定しておく必要があります。



メモ **S30VE S910F**

[プリセット] は、[イベント種別] に [インテリジェント機能] が含まれる場合は設定できません。

[映像記録]

連結イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、連結イベントが発生した場合に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 139) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

連結イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、連結イベントが発生した場合に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 143) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]

ONイベント時の外部デバイス出力の動作を選択します。

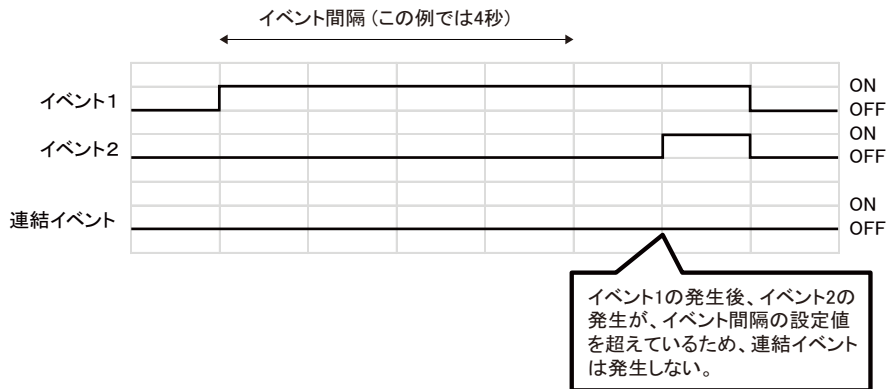
[OFFイベント時の外部デバイス出力]

OFFイベント時の外部デバイス出力の動作を選択します。

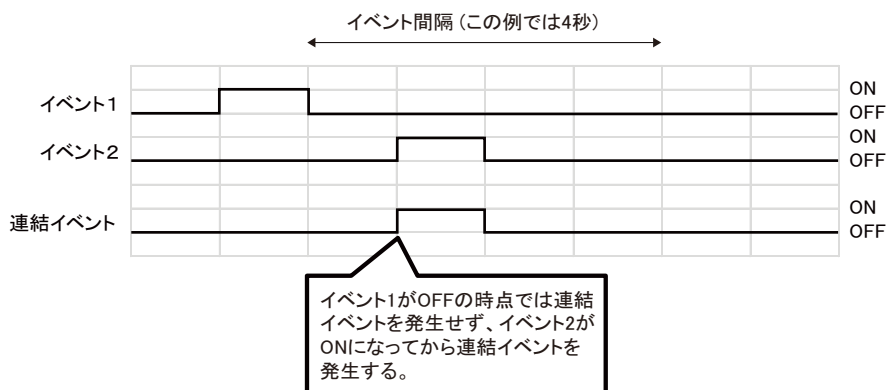
イベント発生順序が 2→1→2 のケース



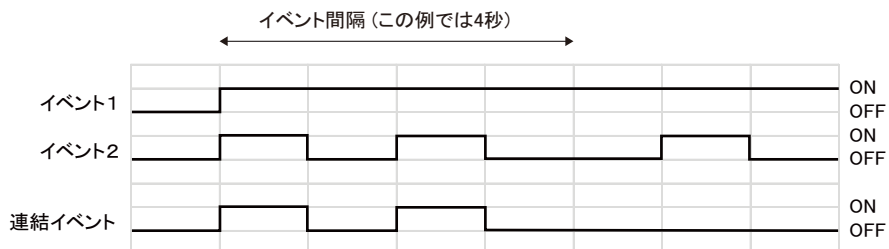
イベント2の発生がイベント間隔の設定値 ([4] 秒) を超えた場合



イベント1の [状態] が [OFF] に設定されていて、イベント2がONになるケース



片方のイベントがON/OFFを繰り返すケース



[セキュリティ] > [ホストアクセス制限] アクセス制限を設定する

IPv4、IPv6のそれぞれのアドレスからのアクセスに対して、個別にアクセス制御を行うことができます。

ホストアクセス制限 適用 クリア

IPv4ホストアクセス制限

① ホストアクセス制限の適用 適用する

① デフォルトポリシー アクセスを許可する

ネットワークアドレス/サブネット	01:	02:	03:	04:	05:	06:	07:	08:	09:	10:	11:	12:	13:	14:	15:	16:	17:	18:	19:	20:
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		
	/ 32	許可																		

ここでは次の設定ができます。

- IPv4ホストアクセス制限
- IPv6ホストアクセス制限

IPv6ホストアクセス制限

① ホストアクセス制限の適用 適用する

① デフォルトポリシー アクセスを許可する

プレフィックス/プレフィックス長	01:	02:	03:	04:	05:	06:	07:	08:	09:	10:	11:	12:	13:	14:	15:	16:	17:	18:	19:	20:
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		
	/ 128	許可																		

重要

- HTTP接続でプロキシサーバー経由のアクセスを禁止するには、プロキシサーバーのアドレスを設定する必要があります。
- 誤ったホスト制限設定を行うと、設定ページへのアクセス自体が禁止され、工場出荷設定に戻す以外に復旧する手段がなくなることがありますので、ご注意ください。

メモ

同じアドレスが設定された場合、リスト上位の設定が適用されます。

IPv4ホストアクセス制限

IPv4のアクセスを許可するホストと禁止するホストを指定します。

[ホストアクセス制限の適用]

IPv4ホストアクセス制限を適用するかを選択します。

[デフォルトポリシー]

[ネットワークアドレス/サブネット] に指定していないIPv4アドレスからのアクセスを許可するか、禁止するかを選択します。

[ネットワークアドレス/サブネット]

IPv4のネットワークアドレスをリストに入力し、それぞれアドレスについて、アクセスの [許可] または [禁止] を選択します。

サブネットを指定することで、ネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。

[禁止] に設定すると、すべてのポートに対するアクセスが禁止されます。

IPv6ホストアクセス制限

IPv6のアクセスを許可するホストと禁止するホストを指定します。

[ホストアクセス制限の適用]

IPv6ホストアクセス制限を適用するかを選択します。

[デフォルトポリシー]

[プレフィックス/プレフィックス長] に指定していないIPv6アドレスからのアクセスを許可するか、禁止するかを選択します。

[プレフィックス/プレフィックス長]

IPv6のネットワークアドレス (プレフィックス) をリストに入力し、それぞれアドレスについて、アクセスの [許可] または [禁止] を選択します。

プレフィックス長を指定することで、ネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。

[禁止] に設定すると、すべてのポートに対するアクセスが禁止されます。

[セキュリティ] > [SSL/TLS] HTTP通信の暗号化を設定する

証明書の作成および管理、暗号化通信について設定します。

SSL/TLS	
証明書	
① 自己証明書の作成	実行
① 証明書の状態	インストールされていません
① 国名 (C) 2文字	
① 都道府県名 (ST) 128文字以内	
① 市区町村名 (L) 128文字以内	
① 組織名 (O) 64文字以内	
① 組織単位名 (OU) 64文字以内	
① 一般名 (CN) 64文字以内	
① 有効期間開始日 yyyy/mm/dd	
① 有効期間終了日 yyyy/mm/dd	

ここでは次の設定ができます。

- 証明書
- 証明書の管理
- 暗号化通信

証明書の管理	
① 証明書署名要求の生成	実行
① 証明書署名要求の表示	実行
① サーバー証明書のインストール	参照... 実行
① 中間層の証明書のインストール	参照... 実行
① サーバー証明書の削除	実行
① 中間層の証明書の削除	実行
① サーバー証明書内容の表示	実行
① 自己CA証明書の表示	実行
① バックアップ	実行
① リストア	参照... 実行

暗号化通信	
① HTTPS接続ポリシー	HTTP

証明書

SSL/TLS証明書を作成します。



重要

自己証明書は、完全なセキュリティが確保されていなくても問題ない動作テストなどの場合に使用してください。システム運用時には、CA局から発行される証明書を取得し、インストールすることを推奨します。

[自己証明書の作成]

以降の各項目を入力し、[適用] 後に [実行] をクリックすると、自己証明書を作成します。

表示されるメッセージに従って、再起動してください。作成された証明書は、再起動後に有効になります。



メモ

証明書の作成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

[証明書の状態]

証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[国名(C)]

ISO3166-1 alpha-2 の国名コードを入力します。

[都道府県名(ST)]、[市区町村名(L)]、[組織名(O)]、[組織単位名(OU)]、[一般名(CN)]

都道府県名、市区町村名、組織名、組織単位名、一般名を半角英数字 (スペースまたは印字可能文字) で入力します。一般名 (必須) には、FQDN形式のホスト名などを設定します。

[有効期間開始日]、[有効期間終了日]

作成する証明書の有効期間を設定します (自己証明書の作成時は必須)。

証明書管理

SSL/TLS証明書を管理します。

[証明書署名要求の生成]

[実行] をクリックすると、サーバー秘密鍵を作成し、証明書署名要求を生成します。
処理が終わると、別ウィンドウに証明書署名要求が表示されます。

メモ

証明書署名要求の生成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

[証明書署名要求の表示]

[実行] をクリックすると、証明書署名要求の内容が表示されます。

[サーバー証明書のインストール]

サーバー証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。
インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

[中間層の証明書のインストール]

中間層の証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。
インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

メモ

中間層証明書とともにクロスルート証明書もインストールする場合は、あらかじめクロスルート証明書と中間層証明書をテキストエディターなどで1つのファイルに連結し、中間層証明書としてインストールしてください。

[サーバー証明書の削除]

[実行] をクリックすると、サーバー証明書を削除します。

ただし、SSL/TLS通信を行う設定になっていると証明書の削除はできないため、[HTTPS接続ポリシー] を [HTTP] に設定してから実行してください。

削除は、再起動後に有効になります。

[中間層の証明書の削除]

[実行] をクリックすると、中間層証明書とともにクロスルート証明書を削除します。

ただし、SSL/TLS通信を行う設定になっていると証明書の削除はできないため、[HTTPS接続ポリシー] を [HTTP] に設定してから実行してください。

削除は、再起動後に有効になります。

[サーバー証明書内容の表示]

[実行] をクリックすると、サーバー証明書の内容が表示されます。

[自己CA証明書の表示]

SSL/TLS通信のテストなどの目的で使いますが、通常は使用しません。

[バックアップ]

[実行] をクリックすると、証明書と秘密鍵をバックアップします。[HTTPS接続ポリシー] を、[HTTPS] または [HTTP と HTTPS] に設定し、SSL/TLS通信している場合のみ実行できます。

[リストア]

バックアップされている証明書と秘密鍵をインストールします。

[参照] でバックアップファイルを指定し、[実行] をクリックします。[HTTPS接続ポリシー] を、[HTTPS] または [HTTP と HTTPS] に設定し、SSL/TLS通信している場合のみ実行できます。

リストアした証明書は、再起動後に有効になります。

暗号化通信

暗号化通信の使用について設定します。

[HTTPS接続ポリシー]

HTTPS接続によるSSL/TLS通信の使用について設定します。

SSL/TLS通信を行わないときは [HTTP] を選択します。

SSL/TLS通信を行うときは [HTTPS] または [HTTP とHTTPS] を選択します。再起動後にSSL/TLSを使用した接続が可能となります。

[HTTPS] を選択したときは、HTTP アクセス時にもHTTPSにリダイレクトされ、SSL/TLS通信が行われます。

重要

- ここでSSL/TLS通信を行う設定をしても、証明書をインストールしていないと、SSL/TLS通信は行われません。
- SSL/TLS通信時は、映像配信性能が低下します。また、[HTTPS] に設定した場合、RMとは接続できません。

メモ

- SSL/TLS鍵生成には数分かかる場合があります。
- カメラにインストールされる証明書の種類によっては、Web ブラウザーが証明書を受け入れるかどうかのダイアログを表示することがないため、接続できないことがあります。この場合は、CA局の証明書をWebブラウザに登録してください。

[セキュリティ] > [802.1X] ネットワークポートの認証について設定する

802.1X認証の設定と認証状態の表示、証明書管理を行います。

802.1X		適用	クリア
802.1X認証			
① 802.1X認証の使用	使用しない		
① 認証の状態	停止		
認証方式			
① 認証方式	EAP-TLS		
① ユーザー名	83文字以内		
証明書情報			
① CA証明書の状態	インストールされていません		
① クライアント証明書の状態	インストールされていません		
① クライアント秘密鍵の状態	インストールされていません		
証明書の管理			
① CA証明書のインストール		参照...	実行
① クライアント証明書のインストール		参照...	実行
① クライアント秘密鍵のインストール		参照...	実行
① クライアント秘密鍵のパスワード	1~254文字		
① 証明書の削除		実行	

ここでは次の設定ができます。

- 802.1X認証
- 認証方式
- 証明書情報
- 証明書の管理

802.1X認証

802.1X認証の使用の有無と状態の表示を行います。

[802.1X認証の使用]

802.1X認証の使用の有無を選択します。

[認証の状態]

802.1X認証の状態を表示します。[認証済み]、[未認証]、[停止] の3つの状態があります。

認証方式

802.1X認証で使用する認証方式を設定します。

[認証方式]

802.1X認証で使用する認証方式を [EAP-MD5]、[EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] から選択します。

[ユーザー名]

認証に使用するユーザー名を入力します。

[パスワード]

認証に必要なパスワードを入力します。

[認証方式] が [EAP-MD5]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

■ 証明書情報

[認証方式] が [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

[CA証明書の状態]

CA証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、CA証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[クライアント証明書の状態]

クライアント証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、クライアント証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵の状態]

クライアント秘密鍵がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、クライアント秘密鍵をインストールした場合は、[インストールされています] と表示されます。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

■ 証明書の管理

[認証方式] が [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。



重要

- 証明書のインストール時に、すでに CA 証明書、クライアント証明書、またはクライアント秘密鍵が存在する場合は破棄され、新たにインストールされます。
- インストールする証明書または秘密鍵のフォーマットが不正な場合はエラーとなります。
- クライアント証明書とクライアント秘密鍵はインストール時にペアチェックを行い、一致しない場合はエラーとなります。
- 802.1Xで使用する証明書と秘密鍵は、SSL/TLSでの証明書インストール状況にかかわらず、別な物としてインストールを行う必要があります。

[CA証明書のインストール]

CA証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

[クライアント証明書のインストール]

クライアント証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵のインストール]

クライアント秘密鍵をインストールします。

[参照] でインストールする秘密鍵ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵のパスワード]

クライアント秘密鍵のパスワードを入力します。

クライアント秘密鍵にパスワードが設定されている場合にのみ必要です。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[証明書の削除]

インストールされているCA証明書、クライアント証明書、クライアント秘密鍵をすべて削除します。

[認証方式] が [EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合、「CA証明書」しか表示されませんが、クライアント証明書およびクライアント秘密鍵がインストールされていれば、それらも削除されます。

[セキュリティ] > [IPsec] IPsecを設定する

IPsecを使用する場合の設定を行います。

IPsec		再起動	適用して再起動	クリア
IPsec設定方法				
IPsec設定方法	自動鍵交換			
自動鍵交換の設定				
IPsec SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES			
IPsec SA 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96			
IPsec SA 有効期間 (分)	10~1440	480		
ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES			
ISAKMP SA 認証アルゴリズム	SHA1			
DHグループ	グループ14->グループ5->グループ2			
ISAKMP SA 有効期間 (分)	10~1440	480		

ここでは次の設定ができます。

- IPsec設定方法
- 自動鍵交換の設定
- IPsecセット1~5

IPsec設定方法	
IPsec設定方法	手動設定
IPsec セット 1	
IPsecセットの使用	IPv4で使用する
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
送信元IPv4アドレス	
IPsecプロトコル	ESPとAH
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
接続先のサブネットマスク長	1~32
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	04459619097935037353
SA ESP 認証鍵 (送信)	0148530
SA ESP SPI (送信)	255以上
SA ESP SPI (送信)	2000
SA ESP 暗号鍵 (受信)	0922825
SA ESP 認証鍵 (受信)	706639081
SA ESP SPI (受信)	255以上
SA ESP SPI (受信)	4000
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (送信)	5000
SA AH SPI (送信)	255以上
SA AH SPI (送信)	7000
SA AH 認証鍵 (受信)	6000
SA AH SPI (受信)	255以上
SA AH SPI (受信)	4000

重要

- カメラをIPsecで運用するためには、あらかじめ通信相手やネットワークの設定が必要です。これらの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。
- IPsecで接続するには、カメラのIPアドレスをマニュアル設定してください。
接続元IPv4アドレスでは、[基本] > [ネットワーク] > [IPv4] の [IPv4アドレス設定方式] を [マニュアル設定] にして設定したIPv4アドレスを使用してください。
接続元IPv6アドレスでは、[基本] > [ネットワーク] > [IPv6] の [IPv6アドレス (マニュアル設定)] で設定したIPv6アドレスを使用してください。
- IPsecの設定を変更したとき、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性がある場合は、確認のダイアログが表示されます。変更結果を適用するときは、[OK] をクリックしてください。
カメラの再起動後、Webブラウザからカメラに再接続できない場合、メッセージとともに、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。
表示されたURIでカメラに接続できないときは、システム管理者にお問い合わせください。

メモ

IPsec使用時は、映像配信性能が低下します。

IPsec設定方法

[IPsec設定方法]

IPsecを使用する場合の鍵の交換方法を選択します。

自動鍵交換の設定

[IPsec SA 暗号化アルゴリズム]

IPsec SAの暗号化アルゴリズムを選択します。

設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な暗号化アルゴリズムが選択されます。

[IPsec SA 認証アルゴリズム]

IPsec SAの認証アルゴリズムを選択します。

設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な認証アルゴリズムが選択されます。

[IPsec SA 有効期間(分)]

IPsec SAの有効時間を入力します。

[ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム]

自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA暗号化アルゴリズムを選択します。

[ISAKMP SA 認証アルゴリズム]

自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA認証アルゴリズムを選択します。

[DHグループ]

自動鍵交換プロトコルIKEによる鍵交換で使用する、DHアルゴリズムで使用する鍵生成情報を選択します。グループ番号が大きいほど、セキュリティ強度が高くなります。

[ISAKMP SA 有効期間(分)]

ISAKMP SAの有効時間を入力します。

IPsecセット1～5

自動鍵交換または手動設定で、最大5つの通信相手のIPsecを設定できます。

■ 自動鍵交換



重要

自動鍵交換を使用した通信中にカメラの再起動を行うと、再起動後、接続エラーが発生する場合があります。その場合は、再度接続を行ってください。



メモ

自動鍵交換を使用すると、カメラとの通信が開始するまでに、5～10秒程度かかります。

[IPsecセットの使用]

IPsec設定セットをIPv4とIPv6のどちらで使用するか、または使用しないかを選択します。

[IPsec動作モード]

IPsecの動作モードを選択します。

[接続先IPv4アドレス]、[接続先IPv6アドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[送信元IPv4アドレス]、[送信元IPv6アドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[IPsecプロトコル]

使用するIPsecプロトコルを選択します。

[ESP] を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。

[AH] を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。

[ESPとAH] を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

[セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス]、[セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス]

[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを入力します。

[接続先のサブネットマスク長 (IPv4)]、[接続先のプレフィックス長 (IPv6)]

[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合に、サブネットマスク長 (IPv4) またはプレフィックス長 (IPv6) を入力します。

[IKE事前共有鍵]

IKE (自動鍵交換) で使用する事前共有鍵を入力します。

■ 手動設定

[IPsecセットの使用]

IPsec設定セットをIPv4とIPv6のどちらで使用するか、または使用しないかを選択します。

[IPsec動作モード]

IPsecの動作モードを選択します。

[接続先IPv4アドレス]、[接続先IPv6アドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[送信元IPv4アドレス]、[送信元IPv6アドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[IPsecプロトコル]

使用するIPsecプロトコルを選択します。

[ESP] を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。

[AH] を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。

[ESPとAH] を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

[セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス]、[セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス]

[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを入力します。

[接続先のサブネットマスク長 (IPv4)]、[接続先のプレフィックス長 (IPv6)]

[IPsec動作モード] を [トンネルモード] に設定した場合に、サブネットマスク長 (IPv4) またはプレフィックス長 (IPv6) を入力します。

[IPsecプロトコル] で “ESP” を含む設定にした場合

[SA ESP 暗号化アルゴリズム]

ESPの暗号化アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている暗号化アルゴリズムに合わせて選択します。

通常は [AES] または [3DES] での運用をお勧めします。

[SA ESP 認証アルゴリズム]

ESPの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムに合わせて選択します。

[ESP] のみを使用する場合、[認証なし] は選択できません。

[SA ESP 暗号鍵 (送信)]

送信用SAの暗号鍵を入力します。

[SA ESP 暗号化アルゴリズム] が [AES] の場合は128bit、[3DES] の場合は192bit、[DES] の場合は64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

[SA ESP 認証鍵 (送信)]

送信用SAの認証鍵を入力します。

[SA ESP 認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

[SA ESP SPI (送信)]

送信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

[SA ESP 暗号鍵 (受信)]

受信用SAの暗号鍵を入力します。

[SA ESP 暗号化アルゴリズム] が [AES] の場合は128bit、[3DES] の場合は192bit、[DES] の場合は64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

[SA ESP 認証鍵 (受信)]

受信用SAの認証鍵を入力します。

[SA ESP 認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

[SA ESP SPI (受信)]

受信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

設定値はSAを識別するためのID番号として使用されるので、受信用のSPIとして、他のESPのSPIと同じ値を指定しないようにご注意ください。

[IPsecプロトコル] で “AH” を含む設定にした場合**[SA AH 認証アルゴリズム]**

AHの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムに合わせて選択します。

[SA AH 認証鍵 (送信)]

送信用SAの認証鍵を入力します。

[SA AH 認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。

[SA AH SPI (送信)]

送信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

[SA AH 認証鍵 (受信)]

受信用SAの認証鍵を入力します。

[SA AH 認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。

[SA AH SPI (受信)]

受信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

設定値はSAを識別するためのID番号として使用されるので、受信用のSPIとして、他のAHのSPIと同じ値を指定しないようにご注意ください。

[メモリーカード] メモリーカードの操作と情報の表示を行う

カメラにセットしたメモリーカードに、映像を記録するための設定を行います。また、メモリーカードの状態を見ることもできます。

[メモリーカード] は、[映像記録] > [メモリーカード] と共通です。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。

メモリーカード		適用	クリア
映像記録設定			
① 映像記録動作	メモリーカードに記録		
メモリーカードの操作			
① マウント/アンマウント	アンマウント実行		
① 動作設定	ログと映像を保存する		
① 映像フォーマット	JPEG		
① イベント前バッファ (枚数) 0~100	0		
① イベント後バッファ (枚数) 0~100	0		
① 映像の上書き	無効		
① 映像の自動削除	有効		
① 保存日数 1~90	30		
① 削除時刻 h:mm	00:00		
① 映像管理情報の再作成	実行		
① フォーマット	実行		

ここでは次の設定ができます。

- 映像記録設定
- メモリーカードの操作
- メモリーカードの情報

メモリーカードの情報	
① メモリーカードの認識	マウントされています
① メモリーカードの操作状態	操作可能
① 映像管理情報の状態	正常
① 映像保存	保存可
① メモリーカード容量	62848900KB (59.9GB)
① 使用容量	6174160KB (5.8GB)

重要

メモリーカードに記録された情報内容は、「個人情報」に該当する場合があります。カメラが廃棄、譲渡、修理などで第三者に渡る場合には、その取り扱いに十分にご注意ください。

メモ

- メモリーカードの映像は、録画映像ユーティリティを使用して見たり、管理することができます。録画映像ユーティリティの操作やダウンロードしたデータについては、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。
- メモリーカードに大量の映像ファイルを記録すると、録画映像ユーティリティで映像一覧を表示する際に、ファイル数に比例して時間がかかるようになります。[映像の自動削除] で保存期間を短く設定したり、録画映像ユーティリティで定期的に手動で削除するなど、不要な映像ファイルはできる限り削除するようにしてください。
また、メモリーカードに記録する映像フォーマットにH.264を指定すると、JPEGで記録するときよりも映像ファイル数を抑えることができます。
- 使用できるメモリーカードは、次のとおりです。
 - microSDメモリーカード、microSDHCメモリーカード、microSDXCメモリーカード
- メモリーカードの出し入れの操作は、『設置ガイド』を参照してください。
- カメラで初めて使用するメモリーカードは、カメラにセットした後、最初にフォーマットしてください (P. 194)。

映像記録設定

カメラからの映像を、メモリーカードに記録するか、HTTPまたはFTPでアップロードするかを設定します。
この項目は、[映像記録] > [アップロード] (P. 139) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。

[映像記録動作]

メモリーカードに記録する場合、[メモリーカードに記録] を選択します。

メモリーカードの操作

メモリーカードの状態 (アンマウント/マウント) によって、設定項目が変わります。

重要

カメラの電源を切る場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウント処理を行ってください。アンマウントしていない場合、管理ファイル異常となることや、メモリーカードへのアクセスができなくなることがあります。

カメラマネジメントツール (P. 17) を使用すると、複数カメラのメモリーカードを一括してマウント/アンマウントの処理が行えます。

メモリーカードをカードスロットにセットすると、自動的にマウントされます。また、起動時にカメラにメモリーカードがセットされている場合も、自動的にマウントされます。

[マウント/アンマウント]

[アンマウント実行] をクリックすると、メモリーカードがアンマウント状態になります。

カメラの電源を切る場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウントしてください。

同様に、メモリーカードをセットした状態で [マウント実行] をクリックすると、メモリーカードがマウント状態になります。

[動作設定]

メモリーカードに保存するデータを選択します。

[ログと映像を保存する] に設定した場合、次のデータが自動的に保存されます。

- ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像 (JPEGのみ)
- HTTP/FTPアップロードに失敗した映像
- カメラビューワーからのユーザーによる手動記録映像
- [外部デバイス入力]、[音声検知]、[インテリジェント機能] によるイベント発生時の記録映像
- タイマーによる記録映像
- ログ
- ONVIFによる記録映像

メモ

メモリーカードの空き領域がなくなった場合、新しいファイルは保存されません。[映像の上書き] を [有効] にすると、古い映像を削除し、新しい映像を保存することができます (P. 194)。

[映像フォーマット]

メモリーカードに記録する映像フォーマットを選択します。

[映像記録動作] を、[メモリーカードに記録] に設定した場合、ここで設定されたフォーマットで映像が記録されます。

記録される映像のサイズと映像品質は、[映像] (P. 91) の設定に従います。

重要

- [H.264(1)] または H.264(2) を設定するには、[映像] > [H.264(1)] (P. 92)、H.264(2) (P. 93) で次のように設定する必要があります。
 - [ビットレート制御]: [ビットレート制御する]
 - [目標ビットレート(kbps)]: [3072]以下
 - [フレーム間隔(秒)]: [0.5]、[1]、[1.5] のいずれか
- [映像記録] > [アップロード] > [アップロード全般] > [映像フォーマット] (P. 140) と異なる H.264 は設定できません。

メモ

- [JPEG] に設定した場合、アップロードエラー発生時に JPEG で記録される映像のフレームレートは常に 1 fps となります。
- ネットワークに異常が発生したために配信できなかった録画ストリームの映像は、[映像フォーマット] の設定にかかわらず JPEG で保存されます (フレームレートは 1fps 固定です)。

[イベント前バッファ (枚数)] (JPEG の場合) / [イベント前バッファ (秒)] (H.264 の場合)

イベント発生前に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] または [H.264(2)] の場合は秒数の最大値を入力します。

ただし、状況によっては、設定した枚数または秒数で保存できない場合があります。

[イベント後バッファ (枚数)] (JPEG の場合) / [イベント後バッファ (秒)] (H.264 の場合)

イベント発生後に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] または [H.264(2)] の場合は秒数の最大値を入力します。

ただし、状況によっては、設定した枚数または秒数で保存できない場合があります。

[映像の上書き]

イベント発生時にメモリーカードに映像を記録する際、メモリーカードの空き容量がなくなった場合に、映像の上書き保存を許可するかを選択します。

[有効] を選択すると、イベント、タイマー、ONVIFによる記録映像は古いファイルから上書きされます。

[無効] にしている場合は、不要になった映像を録画映像ユーティリティで削除してください。操作方法は『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

[映像の自動削除]

保存日数を過ぎた映像を、自動的にメモリーカードから削除するか選択します。

[有効] に設定した場合、[保存日数] と [削除時刻] を設定します。

[保存日数]

映像をメモリーカードに保存する日数を入力します。

[削除時刻]

保存日数を過ぎた映像を削除する時刻を入力します。

[映像管理情報の再作成]

[実行] をクリックすると、メモリーカード内に作成されている記録映像の管理ファイルを再作成します。

再作成中は、メモリーカードにアクセスできません。また、映像配信やアップロードなどの処理は、再作成中に実行しないことをお勧めします。

なお、映像管理情報の再作成は、該当するファイル数が多いほど時間がかかるため、場合によって数時間かかることがあります。

[フォーマット]

[実行] をクリックすると、メモリーカードをフォーマットします。

フォーマットすると、メモリーカード内のすべてのファイルとディレクトリが削除されます。



メモ

フォーマットは、クイックフォーマットで行われます。

メモリーカードの情報

カメラにセットされているメモリーカードの現在の状態や、容量に関する情報が表示されます。

[メモリーカードの認識]

現在のメモリーカードの状態が表示されます。

[メモリーカードの操作状態]

メモリーカードの操作の状態を表示します。

[操作可能]：各種操作が可能な状態。

[映像管理情報を再作成中]：映像管理情報の再作成が行われています。他の操作はできません。

[映像削除中]：映像を削除しています。他の操作はできません。

[映像管理情報の状態]

映像管理情報の状態を表示します。

[正常]：映像管理情報は正常です。

[映像管理情報の再作成が必要]：記録映像の管理ファイルが壊れているか、保存されている映像と管理ファイルとの整合性がとれない状態です。

[映像管理情報の再作成] の [実行] をクリックして、管理ファイルを再作成する必要があります。

[映像管理情報の再作成] を実行しても復旧しない場合は、[フォーマット] (P. 194) が必要です。

[映像保存]

メモリーカードへの映像の保存が可能かを表示します。

[保存不可] の場合は、次の理由が考えられます。

- メモリーカードがマウントされていない

- 映像管理ファイルが壊れている
- [映像の上書き] が [無効] になっていて、メモリーカードの保存容量がいっぱいである

[メモリーカード容量]

メモリーカードの容量が表示されます。

[使用容量]

メモリーカードの使用容量が表示されます。

[メンテナンス] > [全般] カメラの機器情報の表示やメンテナンスを行う

ファームウェアバージョンなどのカメラ情報の確認や、カメラのシステムのメンテナンスを行えます。

全般		再起動
機器情報		
機種名	VB-S30VE	
ファームウェアバージョン	[バージョン]	
シリアル番号	[シリアル番号]	
ビルド番号	[ビルド番号]	
MACアドレス	[MACアドレス]	
表示と実行		
① 現在の設定を見る	表示	
① ライセンスを見る	表示	
① 再起動	実行	再起動
初期化		
① ネットワーク設定	保持する	▼
① 初期設定に戻す	実行	初期化

ここでは次の設定ができます。

- 機器情報
- 表示と実行
- 初期化

機器情報

[機種名]、[ファームウェアバージョン]、[シリアル番号]、[ビルド番号]、[MACアドレス]
カメラの各情報が表示されます。

表示と実行

カメラの設定やライセンスの表示、および、再起動をします。

[現在の設定を見る]

設定ページの現在の各設定を一覧表示します。

[ライセンスを見る]

第三者ソフトウェアのライセンス情報を一覧表示します。

[再起動]

カメラを再起動します。

初期化

カメラの初期化をします。

注意



禁止

- [初期設定に戻す]の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。
- 一度 [OK] をクリックすると、初期設定に戻す処理は中断できません。

[ネットワーク設定]

[保持する] に設定した場合、次の設定を残して初期化します。

- 管理者名
- パスワード
- ネットワーク設定
- タイムゾーン
- 証明書

- 秘密鍵

[保持しない] に設定した場合、上記設定も含めて初期化します。

管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください (P. 34)。

[初期設定に戻す]

再起動後、[ネットワーク設定] の選択に従って、初期設定に戻します。

メモ

- [初期設定に戻す] の[実行] をクリックする前に、現在の各設定値をバックアップすることをお勧めします。
- リセットスイッチを使用して工場出荷設定に戻すことができますが、カメラの日付と時刻を除くすべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください (P. 223)。

[メンテナンス]>[バックアップ/リストア] カメラの設定値を保存/復元する

カメラのすべての設定値を保存/復元します。

ここでは次の設定ができます。

- バックアップ/リストア

バックアップ/リストア

バックアップとリストアに関する設定をします。

注意



禁止

[設定値のバックアップ] または [設定値のリストア] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に動作しなくなる場合があります。

[保存先]

バックアップ時のカメラの設定値の保存先を選択します。

[設定値のバックアップ]

日付と時刻以外のすべての設定値をバックアップします。管理者アカウント、SSL/TLS、802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてバックアップを行います。

[設定値のリストア]

日付と時刻以外のすべての設定値を、[設定値のバックアップ] で作成したバックアップファイルからリストアします。

[保存先] で [PC] を選択した場合は、[参照] をクリックしてバックアップファイルを指定します。

管理者アカウント、IPアドレス、SSL/TLSおよび802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてリストアします。

リストア後、カメラは再起動します。



重要

- 別のカメラのバックアップファイルからリストアした場合、ネットワーク上でアドレスが衝突したり、異なる管理者パスワードに上書きされ、カメラに接続できなくなるなどの問題が発生する可能性がありますのでご注意ください。
- 設定値をリストアするときは、リストアするカメラより新しいファームウェアバージョンで作成したバックアップファイルを使用しないでください。

[暗号化パスワード]

バックアップおよびリストア時に使用するパスワードを設定します。バックアップデータそのものを暗号化するためのパスワードです。

暗号化されたバックアップデータからリストアするときは、バックアップ時に設定したパスワードを入力します。



メモ

バックアップ時に設定されたパスワードとリストア時に設定されたパスワードが一致しない場合は、リストア処理は行われません。

[メンテナンス] > [ファームウェア更新] カメラのファームウェアを更新する

ファームウェアの更新を行います。

ファームウェア更新		再起動
機器情報		
機種名	VB-S30VE	
ファームウェアバージョン	Ver. 1.0.0	
ファームウェア更新		
初期設定に戻す	戻さない ☐	
ファームウェア更新	参照...	実行 再起動

ここでは次の設定ができます。

- ファームウェア更新

機器情報

[機種名]、[ファームウェアバージョン]

カメラの情報が表示されます。

ファームウェア更新

ファームウェア更新に関する設定をします。

注意	
 禁止	[ファームウェア更新]の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に動作しなくなる場合があります。

[初期設定に戻す]

ファームウェアの更新時に初期設定に戻します。

[戻す] に設定した場合、次の設定を残して初期化します。

- 管理者名
- パスワード
- ネットワーク設定
- タイムゾーン
- 証明書
- 秘密鍵

[ファームウェア更新]

[参照] をクリックして、更新用のファームウェアファイルを指定し、[実行] をクリックします。確認メッセージが表示されるので、[OK] をクリックするとファームウェア更新が始まります。

ファームウェアの更新後、カメラは再起動します。

[メンテナンス]>[ログ] カメラのログ情報を確認/通知する

カメラの動作や接続の履歴を確認したり、ログメッセージのメール送信を設定します。

ログ		適用	クリア
ログ表示			
① ログを見る	表示		
ログ通知			
① ログ通知の使用	使用する		
① 通知レベル	エラー		
① メール設定のコピー	実行		
① メールサーバー	63文字以内		
① メールポート番号	1~65535		
① 差出人メールアドレス (From)	63文字以内		
① 宛先メールアドレス (To)	63文字以内		
① メール認証方式	POP before SMTP		
① ユーザー名	31文字以内		
① パスワード	31文字以内		
① POPサーバー	63文字以内		
① 表題	31文字以内		
① ログ通知テスト	実行		

ここでは次の設定ができます。

- ログ表示
- ログ通知

ログ表示

カメラの動作および接続の履歴を表示します。

[ログを見る]

[表示] をクリックすると、カメラ起動時からのログメッセージが表示されます。
ログメッセージについては、「ログメッセージ一覧」(P. 209) を参照してください。

ログ通知

ログ通知に使用するメールサーバーとメールアドレスを設定します。

[ログ通知の使用]

[使用する] を選択すると、ログ通知に関する以下の設定項目が表示されます。

[通知レベル]

ログの通知レベルを選択します。
ログメッセージのレベルは「カメラのログメッセージ」(P. 209) を参照してください。

[メール設定のコピー]

[映像記録]>[メール通報](P. 143) で使用しているメール設定をコピーします。ただし、[パスワード] はコピーされません。

[メールサーバー]

SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[メールポート番号]

SMTPサーバーのポート番号を入力します (工場出荷設定は [25])。

[差出人メールアドレス (From)]

メール発信するアドレスを入力します。

[宛先メールアドレス (To)]

メール受信するアドレスを入力します。

[メール認証方式]

送信先SMTPサーバーに合わせて、認証方式を選択します。

[ユーザー名]、[パスワード]、[POPサーバー]

メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[表題]

メール送信時の表題を半角英数字で入力します。

[ログ通知テスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してログ通知テストを行います。

[メール認証方式] が [なし] 以外の場合、[パスワード] を入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

5章



付録

カメラの機能に関する補足事項と、カメラの使用時にトラブルが発生した場合やメッセージなどが表示された場合の対処方法を説明します。また、カメラを工場出荷時の設定にリセットする方法も説明します。

修飾子について

設定項目によっては、修飾子‘% 文字’によるパラメーター記述が可能です。

修飾子	意味	記入される文字列の内容
%n	撮影理由 (番号)	0 (テスト) 1 (外部デバイス入力) 33 (タイマー 1) 34 (タイマー 2) 35 (タイマー 3) 36 (タイマー 4) 145 (音量検知) 161 (インテリジェント機能検知設定1) 162 (インテリジェント機能検知設定2) 163 (インテリジェント機能検知設定3) 164 (インテリジェント機能検知設定4) 165 (インテリジェント機能検知設定5) 166 (インテリジェント機能検知設定6) 167 (インテリジェント機能検知設定7) 168 (インテリジェント機能検知設定8) 169 (インテリジェント機能検知設定9) 170 (インテリジェント機能検知設定10) 171 (インテリジェント機能検知設定11) 172 (インテリジェント機能検知設定12) 173 (インテリジェント機能検知設定13) 174 (インテリジェント機能検知設定14) 175 (インテリジェント機能検知設定15) 201 (連結イベント1) 202 (連結イベント2) 203 (連結イベント3) 204 (連結イベント4)
%N	撮影理由 (文字列)	<外部デバイス入力名 (半角英数字)> インテリジェント機能検知設定名 (半角英数字) NULL (空白文字/インターバルタイマー・テストの場合)
%O	撮影理由 (ON/OFF)	OFF ON
%X	画像の幅	横方向の画素数
%Y	画像の高さ	縦方向の画素数
%C	カメラ番号	1
%D	カメラ名	[カメラ名 (半角英数字)] の設定値
%P	パン位置	S30VE -175.00 ~ 175.00 S800VE S910F 0
%T	チルト位置	S30VE -90.00 ~ 0.00 S800VE S910F 0
%Z	ズーム位置	0.01 ~ 300.00
%R	ローテーション位置	0
%V	カメラサーバー	VB-S30VE/VB-S800VE/VB-S910F
%y	撮影時刻の年	2001 ~ 2031
%m	撮影時刻の月	01 ~ 12
%d	撮影時刻の日	01 ~ 31
%w	撮影時刻の曜日	0 ~ 6 (日曜~土曜に対応)
%H	撮影時刻の時	00 ~ 23
%M	撮影時刻の分	00 ~ 59
%S	撮影時刻の秒	00 ~ 59
%s	撮影時刻のミリ秒	000 ~ 999
%z	撮影時刻のタイムゾーン	-1200 ~ +1300
%a	撮影時刻の曜日名	Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat
%b	撮影時刻の月名	Jan Feb Mar Apr May Jun Jul Aug Sep Oct Nov Dec
%h	ホスト名	

メモ

- 不整合があれば実行時エラーとなります。
- 未定義の文字については、‘%’が削除されます。

■ 利用可能な修飾子について

各設定項目で利用可能な修飾子は、次のとおりです。

【HTTPアップロード】(P. 140)

[パラメーター (query string)]

すべての修飾子が利用可能です。

【FTPアップロード】(P. 141)

[作成サブディレクトリ名]

利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%h、%n のみです。

[作成ファイル名]

利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%M、%S、%s、%n のみです。

【メール通報】(P. 143)

[本文]

すべての修飾子が利用可能です。

トラブルシューティング

販売店やお客様相談センターに連絡する前に、次のことを確認してください。ログメッセージが表示されている場合は、ログメッセージ一覧の内容と対策を参考にしてください。

メモ

カメラマネジメントツール、録画映像ユーティリティ、オンスクリーン表示アシストツール、モバイルカメラビューワーのトラブルシューティングについては、各使用説明書を参照してください。

問題	対処方法
カメラが起動しない	- LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。 - 電源を入れ直してください(『設置ガイド』参照)。
カメラに接続できない	- LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 - カメラのネットワークが正しく設定されているか確認してください。特にIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスについては利用しているネットワークで使用可能な設定か確認してください。 - IP アドレスの変更を行った場合には、カメラが再起動するまで有効になりません。 - Web ブラウザーに入力しているURI (カメラのIP アドレス) が正しいか確認してください (P. 36)。 - 設定ページの [セキュリティ] > [ホストアクセス制限] (P. 181) で、アクセスが禁止されたPCから接続していないか確認してください。 - 設定ページの [セキュリティ] > [802.1X] (P. 186) で、使用する認証方式や、[ユーザー名]、[パスワード]、証明書の組み合わせが、接続するネットワークルールに合っているか、システム管理者に確認してください。
カメラビューワーが起動できない	「ご使用のWebブラウザには対応していません。」と表示される場合は、Internet Explorer 9以降、もしくはChromeの弊社動作確認済みバージョンをご使用ください。 「JavaScriptが使用できないが無効化されています。」と表示される場合は、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネット オプション] > [セキュリティ] > [レベルのカスタマイズ] をクリックし、[アクティブ スクリプト] を [有効にする] に設定してください。 - 登録ユーザーおよび一般ユーザーがカメラビューワーを使用するには、設定ページで次の設定をしてください。 - [基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] で一般ユーザー / 登録ユーザーに [一般カメラ制御] もしくは [映像配信] を付与する - [基本] > [ビューワー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定する - 一般ユーザーも使用できるようにするには、[基本] > [ビューワー] > [ビューワー設定] > [ユーザー認証] で [認証しない] に設定する
カメラビューワーで一部機能が使用できない	「カメラのIP アドレスを信頼済みサイトとして追加する」(P. 30) の手順に従い、[セキュリティ] 設定で、このWebサイトを [信頼済みサイト] に追加してください。 - Internet Explorer以外のWebブラウザをお使いの場合、もしくは、Internet Explorerで、Canon Network Camera Addon Moduleが正しくインストールされていない場合は、次の機能を使用できません。 - 音声の受信/送信 - H.264映像の受信/再生

問題	対処方法
映像が表示されない	- カメラに同時にアクセスできるビューワーの数は、設定ページの [サーバー] > [映像サーバー] の [最大クライアント数] の設定で制限されます (最大30まで指定可能)。制限を超えた場合には映像が表示されずにメッセージが表示されます。 - 登録ユーザーや一般ユーザーで [映像配信] の権限が付与されていない場合は、映像を表示できません。管理者に問い合わせ、設定ページの [基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [映像配信] を付与してもらうようにしてください。 64-bit OSでInternet Explorer 10または11を使用している場合、信頼済みサイトに追加し拡張保護モードを有効にすると、H.264映像は受信および再生できないことがあります。その場合は、信頼済みサイトに追加し、信頼済みサイトの保護モードを無効にしてください。
音声を利用できない	- 音声を利用できない場合は、設定ページの [映像と音声] > [音声] の設定を確認していただくとともに、PC のサウンドとオーディオデバイスの設定もご確認ください。 - カメラビューワーを管理者権限で使用する場合、RMビューワーなどの管理者権限で音声を使用するビューワーがカメラに接続していないか確認してください。 - 登録ユーザーや一般ユーザーで [音声配信] の権限が付与されていない場合は、音声を利用できません。管理者に問い合わせ、設定ページの [基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [音声配信] を付与してもらうようにしてください。 64-bit OSでInternet Explorer 10または11を使用している場合、拡張保護モードを有効にすると、音声を受信および送信できないことがあります。その場合は、信頼済みサイトに追加し、信頼済みサイトの保護モードを無効にしてください。 - 次の状態のとき、カメラから無音が発信されるため、マイクからの入力音声は聞こえません。 - 設定ページの [映像と音声] > [音声] > [音声全般] で、[パン・チルト中のミュート] を [ミュートする] に設定時、カメラのパン・チルトが動作している間 S30VE - 設定ページの [映像と音声] > [音声] > [音声全般] で、[音声通信方式] を [半二重] に設定時、ビューワーからカメラに音声を送信している、または音声ファイル再生中
カメラ制御ができない	- カメラビューワーに管理者として接続すると、カメラ制御権を占有します。登録ユーザーまたは一般ユーザーとして接続すると、管理者がカメラ制御権を解放しない限り、カメラ制御ができません (P. 46)。管理者に相談してください。 - パン・チルト動作の耐久目安を超えると、パン、チルト、フォーカス、ズームが正常に動作しなくなる場合があります (P. 58)。S30VE
ビューワーの接続が切れる	- ネットワークやPC に異常がないか確認してください。 - PC を再起動し、接続してください。 - パノラマ画像の作成中は、登録ユーザーまたは一般ユーザーからの接続は切断されます。S30VE
管理者パスワードを忘れてしまった	リセットスイッチ (P. 223) を用いて、カメラの日付と時刻以外のすべての設定を初期化できます。初期化後は、カメラマネジメントツールを使って、管理者アカウントを再登録してください。また、ネットワーク設定も初期化されますので、IP アドレスやサブネットマスクなどの再設定も必要です。
アップロードできない	- 設定ページの [映像記録] > [アップロード] でのアップロード先の設定と、[イベント] メニューでのイベントに対するアップロード動作の両方の設定が、正しくされているか確認してください。 - 適用済みのアップロード先の設定は、設定ページの [映像記録] > [アップロード] にある、各サーバーのアップロードテスト (P. 139) を実行することで、動作確認できます。 [メンテナンス] > [ログ] > [ログ表示] の [ログを見る] やサーバー側のログを見て、詳細な動作環境を確認してください。[ログを見る] については、「ログメッセージ一覧」の「アップローダーエラー」(P. 212)、「アップローダー警告」(P. 215)、「アップローダー通知」(P. 219) を参照してください。また、P. 139 の「重要」も参照してください。 - サーバー側の設定については、システム管理者にお問い合わせください。

問題	対処方法
メモリーカードに映像を記録できない	● 設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの情報] (P. 194) を確認してください。 ● メモリーカードの空き容量が不足していて、かつ、設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] > [映像の上書き] (P. 194) が [無効] になっている場合は、映像を記録できません。[映像の上書き] を [有効] にするか、不要になった映像を録画映像ユーティリティで削除してください。 ● イベント発生時にメモリーカードに記録する場合は、設定ページの [メモリーカード] > [映像記録設定] で、[映像記録動作] の設定を確認してください。[映像記録動作] が [アップロード] になっている場合は、[メモリーカードに記録] に変更してください。 ● ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像、またはHTTP/FTPアップロードに失敗した映像がメモリーカードに記録されていない場合は、設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] で、[動作設定] の設定を確認してください。[動作設定] が [ログを保存する] になっている場合は、[ログと映像を保存する] に変更してください。 ● 手動でメモリーカードに記録するときは、カメラ制御権を取得してください。
ファイルが保存できない	● OSが、一部のフォルダへの保存を禁止しているため、ファイルの保存に失敗する場合があります。[ドキュメント] や [ピクチャ] など、ほかのフォルダを指定してください。

ログメッセージ一覧

カメラのログメッセージ

設定ページの [メンテナンス] > [ログ] > [ログ表示] の [ログを見る] (P. 200) で表示されるログメッセージの一覧です。
ログメッセージは、次のように分類されています。

分類	レベル	コード	障害の程度
crit	エラー	4xx	ソフトレベルの異常 (タスク動作停止)
err	エラー	3xx	動作に支障のある異常 (動作継続)
warning	警告	2xx	動作に支障のない異常
notice	警告	1xx	システム外部の異常
info	情報	0xx	正常動作に関する情報

メモ

約2時間ログに記録される内容がない場合は、メッセージエリアに "-- MARK --" と記録されます。

エラーログ

■ システムエラー

S302 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update system settings (S302)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S303 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update files of system settings (S303)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S307 設定値の保存エラー [err]

内容	(vbadmin.c XXX) Can't update system settings (S307)
意味	設定プロトコルで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S310 イベントサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work event [%1][%2][%3] (S310)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	イベントサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S311 外部入出力サービスの動作エラー [err]

内容	cannot work extio [%1][%2][%3] (S311)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	外部入出力デバイスサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S312 タイマーサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work timer [%1][%2][%3] (S312)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	タイマーサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S320 PAN/TILT動作エラー [err]

内容	%1 error occurred. [%2] (S320)
%1	PAN TILT
%2	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時にエラーを検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。 接触などの問題がない場合は故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S410 イベントサービスの初期化エラー [crit]

内容	event initialization error [%1][%2] (S410)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	イベントサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S411 外部入出力サービスの初期化エラー [crit]

内容	extio initialization error [%1][%2] (S411)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	外部入出力デバイスサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S412 タイマーサービスの初期化エラー [crit]

内容	timer initialization error [%1][%2] (S412)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	タイマーサービスの初期化エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S413 タイマーサービスのランタイムエラー [crit]

内容	timer working error [%1] (S413)
%1	エラー番号
意味	タイマーサービス動作中にエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S420 外部接点制御デバイスの故障 [crit]

内容	external io controller is broken.(S420)
意味	外部接点制御デバイスの故障。
対策	外部接点制御デバイスのファームウェアアップデートが必要。ファームウェアアップデート後も検出される場合、故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ オーディオサーバーエラー

B301 オーディオデバイス異常 [err]

内容	cannot use audio device for %1[%2:%3] (B301)
%1	送受信種別 (rx tx)
%2	エラー処理 (open write flush)
%3	エラー番号
意味	オーディオデバイスの異常を検出した。
対策	自動的に復旧しなければ、販売店へ連絡が必要。

B402 オーディオサーバー初期化失敗 [err]

内容	wvaudio initialization error [%1] (B402)
%1	エラー番号
意味	オーディオサーバーの初期化に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

B403 設定変更失敗 [err]

内容	cannot set config [%1:%2] (B403)
%1	エラー通番
%2	エラー番号
意味	設定値の更新に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ ビデオエラー

V300 ビデオ入力のエラー [err]

内容	video %1 warning - %2 (V300)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力カメラの動作に支障のある異常を検出した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V320 インテリジェントサービスの内部エラー [err]

内容	cannot work intelligent [%1][%2][%3]. (V320)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	インテリジェントサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V321 インテリジェントサービス仮設定モードエラー [err]

内容	pseudo mode setting fail. (V321)
意味	インテリジェントサービスの仮設定モードの設定変更に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V400 ビデオ入力の初期化エラー [crit]

内容	video %1 initialization failure - %2(%3) (V400)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力の初期化に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V401 ビデオ入力のコマンドエラー [crit]

内容	video %1 command error - %2(%3) (V401)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力のコマンド処理に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V402 ビデオ入力停止 [crit]

内容	video %1 stalled (V402)
%1	ビデオ番号
意味	ビデオ入力からの映像が停止したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V403 ビデオ入力のエラー [crit]

内容	video %1 fatal error - %2 (V403)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧不可能なエラーを検出したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V420 インテリジェントサービスの起動失敗 [crit]

内容	intelligent initialization error [%1][%2]. (V420)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの初期化に失敗した
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V421 インテリジェントサービスのエラー [crit]

内容	intelligent working error [%1][%2]. (V421)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの動作中に復旧不可能なエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アップローダーエラー

A470 アップローダー初期化失敗 [crit]

内容	uploader initialization failure - %1 (A470)
%1	エラー番号
意味	アップローダーの初期化が失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ メモリーカードエラー

M301 メモリーカード制御モジュールのエラー [err]

内容	%1 process failure (M301)
%1	マウント (mount) またはアンマウント (unmount)
意味	マウント、アンマウント処理に失敗した。

M302 不正ファイルを削除できない [err]

内容	Invalid file (%1) can not remove. (M302)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルを削除できなかった。

M303 ディレクトリの処理ができない [err]

内容	Can not open directory(%1)(M303)
%1	ディレクトリ名
意味	処理すべきディレクトリを開くことができない

M304 管理情報再作成に失敗した [err]

内容	Fail updating management file(%1)(M304)
%1	管理情報識別番号
意味	管理情報再作成処理に失敗した。

M305 映像ファイルの書き込み時にエラーが発生 [err]

内容	write error %1 (%2) (M305)
%1	映像ファイルパス
%2	エラー理由
意味	映像ファイルの書き込み時にエラーが発生した。

M400 メモリーカードの初期化に失敗 [crit]

内容	Fail SD card initialization(%1).(M400)
%1	カード初期化NG (det)、電源制御NG (proc)
意味	メモリーカードの初期化に失敗した。

■ ONVIFエラー (RTP)

R301 配信間通信エラー [err]

内容	message queue open error. %1 (R301)
%1	エラー発生モジュール RTP_CTRL_QUEUE RTP_DATA_QUEUE VIDEO_CTRL_QUEUE VIDEO_DATA_QUEUE AUDIO_CTRL_QUEUE AUDIO_DATA_QUEUE EVENT_CTRL_QUEUE RECVQ_META SENDQ_MEDIA
意味	モジュール間通信のエラー。
対策	複数回連続で出力され、かつ再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

R302 設定値取得失敗 [err]

内容	cannot get parameter: %1 (R302)
%1	user_account : ユーザーアカウント IP_address : 本機のIPアドレス profile_media_configuration : MediaConfigurationの情報 RTSP_port_number : RTSPのポート番号
意味	設定値取得失敗。

R303 メタデータ配信初期化失敗 [err]

内容	metadata initialization error (R303)
意味	メタデータ配信初期化失敗。

R304 クライアント異常終了 [err]

内容	delete session from some kind of error: client_IP=%1, session_ID=%2 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	セッションID
意味	クライアント異常終了。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	connection reset by peer: client_IP=%1 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
意味	クライアントから切断された。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	RTP/HTTP connection closed by client (R304)
意味	クライアントから切断された。

R305 RTSP処理内で異常発生 [err]

内容	RTSP Error: error_code=500: Internal Server Error (R305)
意味	RTSP処理内で異常発生。

警告ログ

■ システム警告

S220 PAN/TILT動作警告 [warning]

内容	%1 warning detected. [%2] (S220)
%1	PAN TILT
%2	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時に異常を検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。

■ HTTPサーバー警告

H143 ユーザー名の指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) get_password failed, IP:%1 (H143)
%1	IPアドレス
意味	ユーザー認証で未知のユーザーが指定された。 なお、Internet Explorer / Microsoft Edge以外のWebブラウザを使用している場合は、通常操作においても本ログメッセージが表示されることがある。

H144 パスワードの指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) password doesn't match for %1 username%2, IP:%3 (H144)
%1	URL XSS脆弱性対策実施 (ftpd 同等の処理)
%2	ユーザー名
%3	IPアドレス
意味	ユーザー認証で誤ったパスワードが指定された。

H201 タイムアウトによる切断 [warning]

内容	a request for %1 timed out after writing %d seconds (H201)
%1	リクエストURI
%d	360 (タイムアウト時間)
意味	HTTPサーバーのタイムアウト(360秒)により切断された。

■ wvhttp警告

W101 不正ユーザー名 [notice]

内容	user <ユーザー名> not found (W101)
意味	登録されていないユーザーによるアクセス。

W102 不正パスワード [notice]

内容	user <ユーザー名> password mismatch (W102)
意味	パスワードが不正。

W130 バッファの回復 [notice]

内容	stream buffer recovered (W130)
意味	録画ストリームの映像バッファが回復した。

W201 不正なパノラマ画像[warning]

内容	corrupt panorama image - ignored (W201)
意味	パノラマ画像の情報取得に失敗した。

W230 バッファオーバーフロー [warning]

内容	stream buffer overflowed (W230)
意味	録画ストリームの映像バッファがオーバーフローし、映像が破棄された。

■ オーディオサーバー警告

B101 異常リクエストの受信 [notice]

内容	%1 unusual request[%2] (B101)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	異常種別 (400 404)
意味	コマンドエラー (400)、パラメータエラー (404) により、リクエストを拒否した。

B102 クライアントの接続拒否 [notice]

内容	%1 request denied[%2] (B102)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	拒否種別 (41 43 ...)
意味	認証エラー (41)、時間指定エラー (42)、リソース不足 (43)、非対応コーデック指定 (45)、非許可ユーザーレベル指定 (47)、クライアント数制限 (49)、動作モード (4a) により、クライアントの接続を拒否した。
対策	41：接続時のユーザー名、パスワード、もしくはユーザーリストを確認する。 42：接続時のplaytime、もしくは最大接続時間設定を確認する。 43：再接続または再起動する。 45：対応しているクライアントソフトを用いる。 47：接続時のuserlevelを確認する。 49：クライアント数設定を確認する。 4a：オーディオサーバーを使用する設定になっているか確認する。

B103 クライアントの強制切断 [notice]

内容	%1 access denied[%2] (B103)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	拒否種別 (41 42 4a)
意味	開始時は接続が許可されていたが、設定変更によってアクセス禁止となったため、強制的に切断された (拒否種別はB102と同じ)。

B201 イベント通知失敗 [warning]

内容	cannot notify %1 event [%2] (B201)
%1	イベント種別 (ald)
%2	エラー番号
意味	イベントの通知に失敗した。

B202 イベント受信失敗 [warning]

内容	cannot recv event [%1] (B202)
%1	エラー番号
意味	イベントの受信に失敗した。

B203 オーディオメッセージ送信失敗 [warning]

内容	audio message send error %1 [%2] (B203)
%1	メッセージ種別
%2	エラー番号
意味	オーディオメッセージの送信に失敗した。

B204 オーディオメッセージ受信失敗 [warning]

内容	audio message recv error [%1:%2] (B204)
%1	エラー通番
%2	エラー要因
意味	オーディオメッセージの受信に失敗した。

■ カメラアプリケーション警告

C201 デイナイト切り換えの警告 [warning]

内容	Can't switch Day/Night mode, because current mode is Auto.(C201)
意味	デイナイト切り換えができなかった。
対策	デイナイトモードをマニュアルにする。

C211 カメラ制御コマンドのオーバーフロー [warning]

内容	command queue overflowed (C211)
意味	カメラ制御コマンドのキューがオーバーフローし、コマンドの一部が破棄された。
対策	カメラ制御コマンドを送信する間隔を長めに (200msec) とってください。

■ ビデオ警告

V200 ビデオ入力の警告 [warning]

内容	video %1 warning - %2 (V200)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧可能な異常を検出した。
対策	画像サイズ、映像品質を変更し、JPEG画像1枚あたりのデータを小さくする。

■ アップローダー警告

A120 アップロード送信先の名前解決失敗 [notice]

内容	uploader cannot resolve the server name (A120)
意味	アップロード送信先の名前解決に失敗。

A121 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect to the server (A121)
意味	アップロード送信先への接続に失敗。

A122 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect to the server (A122)
意味	A120、A121以外で、アップロード送信先への接続に失敗。

A134 アップロードの設定値不正 (FTP/HTTPモード) [notice]

内容	ftp/http mode invalid. uploader set <none> forcibly (A134)
意味	アップロード方式の設定値不正。アップロードしない、に強制的にセットした。

A135 アップロードの設定値不正 (FTPのPORT/PASVモード) [notice]

内容	ftp port/pasv mode invalid. uploader set <pasv> forcibly (A135)
意味	FTPアップロードにおけるPORT/PASVモードの設定値不正。PASVモード、に強制的にセットした。

A136 アップロードの設定値不正 (HTTPの通知のみ/画像付きモード) [notice]

内容	http notice/image mode invalid. uploader set <image> forcibly (A136)
意味	HTTPアップロードにおける通知のみ/画像付きモードの設定値不正。画像付きモード、に強制的にセットした。

A137 アップロードの設定値不正 (メール通知) [notice]

内容	mode invalid. uploader set <none> forcibly (A137)
意味	メール通知の設定値不正。メール通知しない、に強制的にセットした。

A138 アップロードの設定値不正（メール通知の認証方式）[notice]

内容	authentication mode invalid. uploader set <smtp auth> forcibly (A138)
意味	メール通知の認証方式の設定値不正。SMTP_AUTH、に強制的にセットした。

A274 アップロード用イベントバッファあふれ [warning]

内容	event queue is full (A274)
意味	アップロード用イベントバッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。

A275 アップロード用映像バッファあふれ [warning]

内容	buffer queue is full (A275)
意味	アップロード用映像バッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。また、アップロード用の画質、映像サイズ、フレームレートを調整する。

■ メモリーカード警告

M203 メモリーカード容量不足 [warning]

内容	There is not available space (M203)
意味	メモリーカードの使用可能容量が不足している。

M204 不正ファイルの削除 [warning]

内容	Invalid file (%1) was removed. (M204)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルの削除を行った。

M205 管理情報ファイルのチェック [warning]

内容	%1 checking management file (M205)
%1	Start Finish
意味	アンマウントせずにメモリーカードを抜かれた可能性がある。管理情報ファイルのチェックを開始/終了する。

M206 不正な管理情報を削除した [warning]

内容	Invalid db information(%1)(%2) was removed(M206)
%1	不正情報のあった管理情報ファイル名
%2	不正情報のID
意味	不正な管理情報を削除した。

M207 アンマウント操作なしでのメモリーカード抜け [warning]

内容	Memory card was pulled before unmount. (M207)
意味	メモリーカードがマウント状態のときにカード抜けが発生した。

■ ONVIF警告 (RTP)

R101 RTPセッションタイムアウト [notice]

内容	session timeout: session ID=%1 (R101)
%1	セッションID
意味	RTPセッションタイムアウトが発生。

R102 情報取得失敗(RTPペイロードサイズ) [notice]

内容	cannot get parameter: RTP_payload_size (R102)
意味	情報取得失敗(RTPペイロードサイズ)。

R102 情報取得失敗(IPアドレス) [notice]

内容	cannot get parameter: IP_address (R102)
意味	情報取得失敗(IPアドレス)。

R103 RTSP認証失敗 [notice]

内容	RTSP authorization error (R103)
意味	RTSP認証失敗。

R107 RTSP接続の失敗 [notice]

内容	RTSP Error: error_code=%d: Service Unavailable (R107)
%d	400: RTSPオプションの指定が不正な値。 401: RTSP認証失敗または認証情報の不備。 457: RTSPの再生時間指定の値が不正。 501: 非対応のRTSPオプションが指定された。 503: リソースの不足でサービスの提供に失敗。 RTPの最大接続数を越えた場合など。
意味	RTSP接続に失敗。

通知ログ

■ システム通知

S001 システムの起動 [info]

内容	starting paramd (S001)
意味	パラメーター管理モジュールの起動。

S002 システムの設定変更 [info]

内容	Updated system settings. (S002)
意味	再起動なしの設定変更があった。

S010 イベントサービスの起動 [info]

内容	starting event (S010)
意味	イベントサービスの起動

S011 イベントサービスの停止 [info]

内容	shutdown event (S011)
意味	イベントサービスの停止

S012 外部デバイスサービスの起動 [info]

内容	starting extio (S012)
意味	外部デバイス入出力サービスの起動

S013 外部デバイスサービスの停止 [info]

内容	shutdown extio (S013)
意味	外部デバイス入出力サービスの停止

S014 タイマーサービスの起動 [info]

内容	starting timer (S014)
意味	タイマーサービスの起動

S015 タイマーサービスの停止 [info]

内容	shutdown timer (S015)
意味	タイマーサービスの停止

S017 qtimerサービスの起動または停止 [info]

内容	%1 qtimer (S017)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	qtimerの起動と停止

S070 証明書の変更 [info]

内容	%1: succeeded to %2 certificate (S070)
%1	sslまたは802.1X
%2	作成(generate) インストール(load) 削除(delete) リストア(restore)
意味	証明書の作成/インストール/削除/リストアを行った。

■ wvhttp通知

W001 システムの起動と停止 [info]

内容	%1 webview (W001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	wvhttpサーバー (webview)の起動と停止。

W030 WebView Livescopeクライアントの開始と終了 [info]

内容	%1%2 host=<ホスト>, user=<ユーザー>, prio=<優先度> (W030)
%1	W: WebViewセッション、V: セッションレスビデオクライアント、N: セッションレスイベントクライアント。
%2	+ : 接続、- : 切断
意味	カメラサーバクライアントの接続と切断。

W031 映像データ送信量 [info]

内容	%1= host=<ホスト>, user=<ユーザー>, video=<jpglh264>:<フレーム数> (W031)
1%	W: WebViewセッション、V: セッションレスビデオクライアント
意味	クライアント切断時に、クライアントに送信した総データ量をフレーム数で表示。

W040 外部メモリへの退避 [info]

内容	%1 the image storing - %2 (W040)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
%2	開始・終了原因
意味	録画ストリームの外部メモリへの退避が開始または終了した。

■ オーディオサーバー通知

B001 オーディオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 audio. (B001)
%1	starting stopping
意味	オーディオサーバーが起動/停止した。

B011 オーディオクライアントの開始 [info]

内容	[%1] %2 connected n=%3 (B011)
%1	クライアント種別(send recv)
%2	クライアントホストのIPアドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントが接続した。

B012 オーディオクライアントの終了 [info]

内容	[%1] %2 closed n=%3 (B012)
%1	クライアント種別(send recv)
%2	クライアントホストのIPアドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントとの接続が切れた。

■ カメラアプリケーション通知

C001 カメラ制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 camerad (C001)
%1	starting stopping
意味	カメラ制御モジュールが起動/停止した。

C002 カメラアプリケーションの起動と停止 [info]

内容	starting cameraappl (C002)
意味	カメラアプリケーションが起動した。

■ ビデオ通知

V001 ビデオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 video (V001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	ビデオサーバーの起動と停止。

V020 インテリジェントサービスの起動 [info]

内容	starting intelligent. (V020)
意味	インテリジェントサービスの起動

V021 インテリジェントサービスの停止 [info]

内容	shutdown intelligent. (V021)
意味	インテリジェントサービスの停止

■ アップローダー通知

A004 アップローダーの起動と停止 [info]

内容	%1 uploader (A004)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	アップローダー (uploader)の起動と停止。

A040 アップロード回数 (MAIL) [info]

内容	uploader mail: normal=%1 test=%2 (A040)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A041 アップロード回数 (FTP) [info]

内容	uploader ftp: normal=%1 test=%2 (A041)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A042 アップロード回数 (HTTP) [info]

内容	uploader http: normal=%1 test=%2 (A042)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

■ メモリーカード通知

M001 メモリーカード制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 sdctrl (M001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	メモリーカード制御モジュール (sdctrl) の起動と停止。

M002 有効な管理情報を追加した [info]

内容	Valid db information(%1)(%2)(%3) was inserted(M002)
%1	有効な情報を追加する管理情報ファイル名
%2	有効な情報のディレクトリ番号
%3	有効な情報のファイル番号
意味	有効な映像ファイルと思われるため管理情報に追加した。

M003 管理情報再作成を開始/終了した [info]

内容	%1 updating management file(%2)(M003)
%1	Start Finish
%2	管理情報識別番号
意味	管理情報再作成処理が終了した。

■ ONVIF通知 (RTP)

R001 RTP配信モジュールの起動 [info]

内容	starting media_plane (R001)
意味	RTP配信モジュールの起動。

R002 RTP配信モジュールの停止 [info]

内容	stopping media_plane (R002)
意味	RTP配信モジュールの停止。

R003 RTSPのPLAY受信 [info]

内容	PLAY received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6,BC=%7) (R003)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	PLAYを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのPLAY受信。

R004 RTSPのTEARDOWN受信 [info]

内容	TEARDOWN received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6,BC=%7) (R004)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	TEARDOWNを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのTEARDOWN受信。

R005 マルチキャスト開始 [info]

内容	start multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5,BC=%6) (R005)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTARTを要求された Profile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト開始。

R006 マルチキャスト停止 [info]

内容	stop multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5,BC=%6) (R006)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTOPを要求された Profile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト停止。

ビューワメッセージ一覧

インフォメーション表示に表示されるメッセージ

カメラビューワのインフォメーション表示に表示されるメッセージには、次の3つの分類があります。

アイコン	分類	説明
	情報メッセージ	各種ボタン、プルダウンなどのヘルプ用メッセージ、フレームレート情報などを表示します。
	警告メッセージ	カメラの制御権が取得できない場合や音声セッションが切断された場合など、ユーザーへの注意を促すメッセージを表示します。
	エラーメッセージ	ビューワ上でシステムエラーが発生した場合に表示されます。

■ 警告メッセージ

メッセージ	説明
ただいま混雑しています。	接続制限数を超過している
カメラ制御権を取得できません。	管理者が占有しているなどの理由で制御権要求が拒否された
カメラに接続していません。	カメラに接続していないのにカメラ操作しようとした
カメラ制御権を取得してください。	カメラ制御権がないのにカメラ操作しようとした
既に他のユーザーが管理者接続しています。	管理者が既に接続している
オーディオデバイスがありません。	PCのオーディオデバイスがない場合や無効化されていた場合に [音声受信] ボタン、または [音声送信] ボタンがクリックされた
メモリーカードの容量が不足しています。	メモリーカードの空き容量が不足した状態で手動録画した
メモリーカードへの録画が許可されていません。	[メモリーカードの操作] の [動作設定] が [ログと映像を保存する] に設定されていないことが原因で、メモリーカードへの録画に失敗した
デジタルPTZおよびビューワ PTZを終了しないとカメラを操作できません。 S30VE	デジタルPTZまたはビューワ PTZがONの状態で映像表示部をクリックした
デジタルPTZまたはビューワ PTZを開始してください。 S800VE S910F	デジタルPTZおよびビューワ PTZがOFFの状態で、パンチルトスライダーまたはズームスライダー、映像表示部をクリックした
制御権取得待ち状態です。	一般ユーザーが制御権の取得待ち状態に入った場合
映像管理情報を再作成中です。	メモリーカードの映像管理情報が再作成中の場合
ユーザー認証に失敗しました。	ユーザー認証に失敗した、または、登録ユーザー接続時に、[ユーザー権限] で登録ユーザーの [音声配信] を外してから [音声送信] ボタンをクリックした
ActiveXプラグインの初期化に失敗しました。	カメラビューワ起動後、ActiveXプラグインがインストールされていない場合、10秒間インストールされるのを待つが、10秒経過してもプラグインがインストールされなかった
JavaScriptが使用できないか無効化されています。	WebブラウザのJavaScriptが使用できなかった
音声送受信の開始または終了処理中です。	音声送受信開始、終了処理中に音声送受信開始、終了を行おうとした
無限遠固定モードが設定されているため、操作できません。 S30VE S910F	[フォーカス] が [無限遠固定] のときに、フォーカスを操作しようとした
マニュアルモードが設定されているため、操作できません。	[露出] が [マニュアル] のとき、または [スマートシェード補正] が [オート] のときに、[逆光補正] ボタン、もしくは露出補正を操作しようとした

メッセージ	説明
映像受信権限がありません。	映像受信権限がないユーザーでカメラに接続しようとした
音声受信が制限されています。	[映像と音声] > [音声] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] が [送信しない] に設定されている状態で、[音声受信] ボタンをクリックした [音声通信方式] が [半二重] に設定されている状態で、音声受信が行われているときに [音声配信] ボタンをクリックした
音声送信が制限されています。	[映像と音声] > [音声] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] が [受信しない] に設定されている状態で、[音声送信] ボタンをクリックした [音声通信方式] が [半二重] に設定されている状態で、音声受信が行われているときに [音声配信] ボタンをクリックした
ご使用のWebブラウザーには対応していません。	動作環境がサポート外のWebブラウザーでカメラビューワーを起動した
ActiveXが無効になっています。	Webブラウザー設定でActiveXの利用が無効化されている、またはセキュリティ設定でActiveXからシステムの機能にアクセスできない場合
スマートシェード補正がオートになっているため、操作できません。	[スマートシェード補正] が [オート] のときに、[逆光補正] ボタンを操作しようとした

工場出荷設定に戻す

設定値を忘れてしまったなどで、カメラを一から設定し直したい場合は、いったん工場出荷設定に戻してください。
工場出荷設定に戻す前に、[設定ページ] > [メンテナンス] > [バックアップ/リストア] を使用して、バックアップファイルを作成しておくことをお勧めします (P. 198)。

重要

工場出荷設定に戻すと、管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください (P. 34)。

メモ

- 設定値のバックアップは、カメラマネジメントツールでもできます。カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- 工場出荷の設定値についてはP. 225を参照してください。

Web ブラウザーから初期設定に戻す

設定ページの [メンテナンス] > [全般] > [初期化] > [ネットワーク設定] > [保持しない] で戻します (P. 196)。

本体リセットスイッチで工場出荷設定に戻す

カメラのIPアドレスや管理用パスワードが不明であったり忘れてしまった場合は、ネットワーク経由での操作ができません。この場合は、カメラを初期化します。

前準備として、カメラをリセットできる状態にしてください。

1 トップカバーを外す S30VE S800VE

トップカバーの外しかたについては、カメラに同梱の『設置ガイド』を参照してください。

2 カメラの電源を切る

カメラには電源スイッチがありません。LANケーブル (PoE給電) を抜き差しすることで、電源の入/切をします。

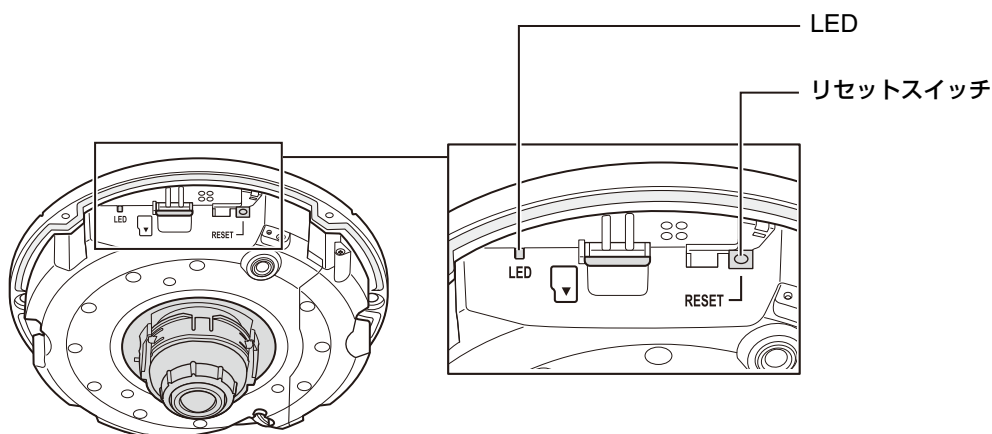
3 リセットスイッチを押したまま電源を入れ、LEDの点灯を確認後、約5秒後にリセットスイッチを離す

リセットスイッチは穴の奥にあります。クリップの先端など、細いもので押してください。

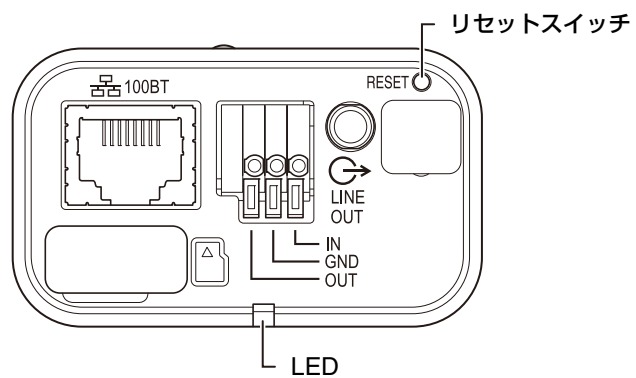
LEDの点滅が点灯に変わると、リセット完了です。

カメラの日付と時刻以外の全設定が工場出荷設定に戻ります。

S30VE S800VE



S910F



4 トップカバーを取り付ける **S30VE** **S800VE**

トップカバーの取り付けかたについては、カメラに同梱の『設置ガイド』を参照してください。

工場出荷設定一覧

項目	設定値
- LAN - LANインターフェース オート - 最大パケットサイズ 1500 - IPv4 - IPv4アドレス設定方式 自動設定(DHCP) - IPv4アドレス 192.168.100.1 - サブネットマスク 255.255.255.0 - IPv4デフォルトゲートウェイアドレス - AutoIPの使用 使用する - IPv4アドレス (AutoIP) - IPv6 - IPv6 の使用 使用する - 自動設定 (RA) 有効 - 自動設定 (DHCPv6) 有効 - IPv6アドレス (マニュアル設定) - プレフィックス長 64 - IPv6デフォルトゲートウェイアドレス - IPv6アドレス (自動設定) - DNS - ネームサーバーアドレス 1 - ネームサーバーアドレス 2 - ネームサーバーアドレスの自動設定 使用しない - ホスト名 - ホスト名のDDNS登録 登録しない - サーチドメイン - サーチドメインリスト - mDNS - mDNSの使用 使用する	
- 管理者アカウント - 管理者名 - ユーザー権限 - 登録ユーザーのカメラ権限 映像配信+特権カメラ制御 - 一般ユーザーのカメラ権限 映像配信+一般カメラ制御 - 登録ユーザーの音声配信 配信する - 一般ユーザーの音声配信 配信する	

項目	設定値
- 現在の日付と時刻 - 設定 - 設定方法 手動で設定する - NTPサーバーの自動設定 使用しない - NTPサーバー - 同期間隔(分) 5 - 最終同期時刻 - タイムゾーン (GMT+09:00) 大阪、札幌、東京 - サマータイム 自動調整しない	
- 映像全般 - 映像サイズセット 1920x1080/960x540/480x270 - JPEG - 映像品質:480x270 6 - 映像品質:960x540 6 - 映像品質:1920x1080 6 - 映像品質:デジタルPTZ 6 - 映像サイズ:映像送信 1920x1080 - 最大フレームレート:映像送信 15.0 - 映像サイズ:アップロード/メモリーカード 480x270 - H.264(1) - 映像サイズ 1920x1080 - ビットレート制御 ビットレート制御する - 目標ビットレート (kbps) 3072 - 映像品質 6 - フレームレート (fps) 15 - Iフレーム間隔 (秒) 1 - H.264(2) - H.264(2)の使用 使用しない - 映像サイズ 480x270 - ビットレート制御 ビットレート制御する - 目標ビットレート (kbps) 1024 - 映像品質 6 - フレームレート (fps) 15 - Iフレーム間隔 (秒) 1	
- 全般 - デフォルトページ 設定ページを表示 - ビューワー設定	

項目	設定値
ユーザー認証	認証する
映像表示の回転 S800VE S910F	回転しない
一般ユーザーでのH.264の使用	使用しない
- カメラ名 - カメラ名 (半角英数字) - カメラ名 (日本語) - カメラ制御 - デジタルズーム S30VE S910F - スマートシェード補正強度 (オート) - かすみ補正強度 (オート) - 動き適応ノイズリダクション - パン・チルト速度制御 S30VE - デイナイト (オート設定時) - 切り換える明るさ - 応答性 (秒) - 設置条件 - LEDの点灯 - 映像反転 - カメラ位置制御 - プリセットに限定 S30VE S910F - 制御権を持たない時の動作 - 外部入力デバイス - デバイス名 (半角英数字) - デバイス名 (日本語) - 外部出力デバイス - デバイス名 (半角英数字) - デバイス名 (日本語)	Camera 使用しない 中 中 使用しない ズーム位置に応じて制御 標準 20 点灯する 反転しない 限定しない ホームポジションへ移動しない
- カメラ位置 - パン・チルト・ズーム位置 S30VE - ズーム位置 S910F - デジタルPTZ位置 - カメラ設定 - フォーカス S30VE S910F - 露出 - AGCリミット - シャッターリミット (低速) - シャッターリミット (高速) - シャッタースピード - ゲイン	登録する 登録する 登録しない オート オート 6 1/30 1/16000 1/100 9

項目	設定値
露出補正	0
測光方式	中央部重点
スマートシェード補正	使用しない
スマートシェード補正レベル	1 (弱)
ホワイトバランス	オート
Rゲイン	255
Bゲイン	255
ノイズリダクション	標準
シャープネス	3
色の濃さ	4
かすみ補正	使用しない
かすみ補正レベル	4
デイナイト	デイモード
- パノラマ作成範囲 S30VE - パノラマ作成範囲の指定 - 撮影時の設定 S30VE - 露出のロック - ホワイトバランスのロック - フォーカスのロック	指定しない パノラマの中心 ロックしない ロックしない
- 可視範囲 S30VE S910F - 可視範囲制限	適用しない
- プリセット登録 - パン・チルト・ズーム位置 S30VE - ズーム位置 S910F - デジタルPTZ位置 S800VE - カメラ設定 - プリセット名 (半角英数字) - プリセット名 (日本語) - ビューワーでの使用	登録する 登録する 登録する 登録する Preset1 使用する
S800VE - ルート一覧/ルート - 有効条件 - 時間帯の指定 - 開始時刻 - 終了時刻 - 巡回ルート編集 - 静止時間 (秒)	使用しない 使用しない 00:00 00:00 1
- 指定領域 - 領域1 (ピンク) - 領域2 (紫) - 領域3 (青)	無効 無効 無効

項目	設定値
領域4 (シアン)	無効
領域5 (緑)	無効
領域6 (黄)	無効
領域7 (オレンジ)	無効
領域8 (白)	無効
• ADNR	
H.264(1)で使用する	使用しない
H.264(2)で使用する	使用しない
データ量低減レベル	強
• オンスクリーン表示	
日付表示	表示しない
日付表示位置	左上
日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
時刻表示	表示しない
時刻表示位置	左上
テキスト表示	表示しない
テキスト表示位置	左上
テキスト文字列	
文字の色	白
背景の色	黒
文字と背景の濃さ	文字と背景を塗りつぶす
• マスク領域	
領域	有効
• プライバシーマスク全般	
色	黒
• 音声全般	
音声入力の使用	使用しない
入力音量	50
低域カット	有効
パン・チルト中のミュート	ミュートしない
S30VE	
出力音量	50
音声通信方式	全二重
• 音声サーバー	
カメラからの音声送信	送信しない
無音検出	検出しない
ビューワーからの音声受信	受信しない
• 再生音ファイル登録1	
再生音名	
• 再生音ファイル登録2	
再生音名	

項目	設定値
• 再生音ファイル登録3	
再生音名	
• HTTPサーバー	
認証方式	Digest認証
HTTPポート番号	80
HTTPSポート番号	443
• SNMPサーバー	
SNMPv1, v2cの使用	使用しない
SNMPv3の使用	使用しない
管理者連絡先	
管理用の機器名称	S30VE VB-S30VE S800VE VB-S800VE S910F VB-S910F
設置場所	
セキュリティレベル	認証なし、暗号化なし
認証アルゴリズム	MD5
暗号化アルゴリズム	DES
• SNMPv1, v2cサーバー	
コミュニティ名	
• SNMPv3サーバー	
ユーザー名	
セキュリティレベル	認証なし、暗号化なし
認証アルゴリズム	MD5
暗号化アルゴリズム	DES
• FTPサーバー	
FTPサーバーの使用	使用しない
ユーザー名	
• WS-Security	
認証時の時刻チェック	チェックする
• 映像サーバー	
最大クライアント数	30
最大制御権待ち数	30
最大接続時間 (秒)	0
カメラ制御時間 (秒)	20
• 音声サーバー	
カメラからの音声送信	送信しない
無音検出	検出しない
ビューワーからの音声受信	受信しない
• RTPサーバー	
RTPの使用	使用する

項目	設定値
RTSP認証方式	Digetst認証
RTSPポート番号	554
• 音声マルチキャスト	
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
• RTPストリーム1	
映像サイズ	480x270 JPEG
フレームレート	5
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• RTPストリーム2	
映像サイズ	480x270 JPEG
フレームレート	10
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• RTPストリーム3	
映像サイズ	480x270 JPEG
フレームレート	15
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• RTPストリーム4	
映像サイズ	480x270 JPEG
フレームレート	30
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• RTPストリーム5	
映像サイズ	H.264(1)
フレームレート	5
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• 映像記録設定	

項目	設定値
映像記録動作	アップロード
• アップロード全般	
アップロードの動作	アップロード無効
映像フォーマット	JPEG
フレームレート	1
イベント前バッファ (枚数)	0
イベント後バッファ (枚数)	0
イベント前バッファ (秒)	0
イベント後バッファ (秒)	0
• HTTPアップロード	
通報内容	HTTPで通知のみ行う
URI	
ユーザー名	
プロキシサーバー	
プロキシポート番号	80
プロキシユーザー名	
パラメーター (query string)	
• FTPアップロード	
通報内容	映像をFTPする
FTPサーバー	
ユーザー名	
PASVモード	使用する
ファイルアップロードパス	
ファイル名記録方式	年月日時分秒ms
最大ループ数	0
作成サブディレクトリ名	
作成ファイル名	image.jpg
作成ファイル名	video.mov
• メール通報	
通報内容	テキストのみ
メールサーバー	
メールポート番号	25
差出人メールアドレス (From)	
宛先メールアドレス (To)	
メール認証方式	なし
ユーザー名	
POPサーバー	
表題	
本文	
• 外部デバイス出力	
動作モード	ノーマルオープン
アクティブ出力の形式	連続

項目	設定値
パルスの出力時間 (秒)	1
• 外部デバイス入力	
外部デバイス入力イベント	使用する
動作モード	ノーマルオープン
アクティブイベント時の動作	無効
インアクティブイベント時の動作	無効
アクティブイベント中の動作	無効
プリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
アクティブイベント時の音声再生	再生しない
インアクティブイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
デナイト切り換え	無効
• 音量検知	
音量検知イベント	使用しない
検知条件	基準音量レベル以上
基準音量レベル	50
検知条件の継続時間 (秒)	0
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
• タイマー 1	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	

項目	設定値
開始時刻のプリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
デナイト切り換え	無効
• タイマー 2	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
• タイマー 3	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
• タイマー 4	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
• 表示オプション	

項目	設定値
検知領域/検知ライン	選択中の検知設定のみ
非検知領域	有効な非検知領域のみ
検知結果	選択中の検知設定のみ
カメラ位置設定 S30VE S910F	
カメラ位置を固定する	チェックなし
デイナイト切り換え	
デイモード切り換え時のプリセット	指定しない
ナイトモード切り換え時のプリセット	指定しない
連結イベント 1	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔（秒）	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
連結イベント 2	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔（秒）	2
イベント 1	

項目	設定値
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
連結イベント 3	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔（秒）	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効

項目	設定値
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• 連結イベント 4	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔 (秒)	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット S30VE S910F	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• IPv4ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
ネットワークアドレス / サブネット	01: / 32 許可 02: / 32 許可 03: / 32 許可 04: / 32 許可 05: / 32 許可 06: / 32 許可 07: / 32 許可

項目	設定値
	08: / 32 許可 09: / 32 許可 10: / 32 許可 11: / 32 許可 12: / 32 許可 13: / 32 許可 14: / 32 許可 15: / 32 許可 16: / 32 許可 17: / 32 許可 18: / 32 許可 19: / 32 許可 20: / 32 許可
• IPv6ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
プレフィックス / プレフィックス長	01: / 128 許可 02: / 128 許可 03: / 128 許可 04: / 128 許可 05: / 128 許可 06: / 128 許可 07: / 128 許可 08: / 128 許可 09: / 128 許可 10: / 128 許可 11: / 128 許可 12: / 128 許可 13: / 128 許可 14: / 128 許可 15: / 128 許可 16: / 128 許可 17: / 128 許可 18: / 128 許可 19: / 128 許可 20: / 128 許可
• 証明書	
証明書の状態	インストールされていません
国名 (C)	
都道府県名 (ST)	
市区町村名 (L)	

項目	設定値
組織名 (O) 組織単位名 (OU) 一般名 (CN) 有効期間開始日 有効期間終了日 • 暗号化通信 HTTPS接続ポリシー	HTTP
• 802.1X認証 802.1X認証の使用 認証の状態 • 認証方式 認証方式 ユーザー名	使用しない 停止 EAP-MD5
• IPsec設定方法 IPsec設定方法 • 自動鍵交換の設定 IPsec SA 暗号化アルゴリズム IPsec SA 認証アルゴリズム IPsec SA 有効期間 (分) ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム ISAKMP SA 認証アルゴリズム DHグループ ISAKMP SA 有効期間 (分) • IPsec セット1 IPsecセットの使用 IPsec動作モード 接続先IPv4アドレス 接続先IPv6アドレス 送信元IPv4アドレス 送信元IPv6アドレス IPsecプロトコル セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス 接続先のサブネットマスク長 接続先のプレフィックス長 IKE事前共有鍵 SA ESP 暗号化アルゴリズム SA ESP 認証アルゴリズム SA ESP 暗号鍵 (送信)	自動鍵交換 AES->3DES HMAC_SHA1_96 480 AES->3DES SHA1 グループ14->グループ5->グループ2 480 使用しない トンネルモード ESP 16 16 AES HMAC_SHA1_96

項目	設定値
SA ESP 認証鍵 (送信) SA ESP SPI (送信) SA ESP 暗号鍵 (受信) SA ESP 認証鍵 (受信) SA ESP SPI (受信) SA AH 認証アルゴリズム SA AH 認証鍵 (送信) SA AH SPI (送信) SA AH 認証鍵 (受信) SA AH SPI (受信) • IPsec セット2 IPsecセットの使用 IPsec動作モード 接続先IPv4アドレス 接続先IPv6アドレス 送信元IPv4アドレス 送信元IPv6アドレス IPsecプロトコル セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス 接続先のサブネットマスク長 接続先のプレフィックス長 IKE事前共有鍵 SA ESP 暗号化アルゴリズム SA ESP 認証アルゴリズム SA ESP 暗号鍵 (送信) SA ESP 認証鍵 (送信) SA ESP SPI (送信) SA ESP 暗号鍵 (受信) SA ESP 認証鍵 (受信) SA ESP SPI (受信) SA AH 認証アルゴリズム SA AH 認証鍵 (送信) SA AH SPI (送信) SA AH 認証鍵 (受信) SA AH SPI (受信) • IPsec セット3 IPsecセットの使用 IPsec動作モード 接続先IPv4アドレス	HMAC_SHA1_96 使用しない トンネルモード ESP 16 16 AES HMAC_SHA1_96 HMAC_SHA1_96 使用しない トンネルモード

項目	設定値
接続先IPv6アドレス	ESP
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	16
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	
接続先のプレフィックス長	
IKE事前共有鍵	AES
SA ESP 暗号化アルゴリズム	
SA ESP 認証アルゴリズム	
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	HMAC_SHA1_96
SA AH SPI (受信)	
• IPsec セット4	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	ESP
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	16
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
SA AH SPI (受信)	

項目	設定値
SA ESP SPI (送信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
SA AH SPI (受信)	
• IPsec セット5	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	ESP
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	16
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	HMAC_SHA1_96
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
SA AH SPI (受信)	
• 映像記録設定	アップロード
映像記録動作	
• メモリーカードの操作	ログと映像を保持する
動作設定	
映像フォーマット	JPEG

項目	設定値
イベント前バッファ (枚数)	0
イベント後バッファ (枚数)	0
イベント前バッファ (秒)	0
イベント後バッファ (秒)	0
映像の上書き	無効
映像の自動削除	無効
保存日数	30
削除時刻	00:00
• 初期化	
ネットワーク設定	保持する
• バックアップ/リストア	
保存先	メモリーカード
• ファームウェア更新	
初期設定に戻す	戻さない
• ログ通知	
ログ通知の使用	使用しない
通知レベル	エラー
メールサーバー	
メールポート番号	25
差出人メールアドレス (From)	
宛先メールアドレス (To)	
メール認証方式	なし
ユーザー名	
POPサーバー	
表題	

数字

802.1X認証 186

A

ADSR 120

AGCリミット 102

AutoIP 84

D

DHCP 83

DHCPv6 84

DNS 85

F

FTPアップロード 141

FTPサーバー 133

H

H.264(1) 92

H.264(2) 93

H.264映像 19, 53, 120

HTTPS接続ポリシー 185

HTTPSポート番号 132

HTTPアップロード 140

HTTPサーバー 132

HTTP ポート番号 132

I

IPsec 188

IPv4 83

IPv4アドレス 84

IPv6 84

Iフレーム間隔 93

J

JPEG 53, 92

L

LAN 83

LED 97

M

mDNS 86

N

NTPサーバー 89

R

RM-Lite 18

RTP 136

RTSP 136

S

SNMPサーバー 132

SSL/TLS証明書 183

W

WS-Security 134

ア

アクセス制限 46

アップロード 139

暗号化通信 184

アンマウント 192

イ

いたずら検知 154, 166

一般カメラ制御 46, 88

一般ユーザー 46, 88

イベント後バッファ 140, 193

イベントと入出力

映像検知 73

音声検知 74

外部デバイス出力 73

外部デバイス入力 73

連結イベント 74

イベント表示 73, 171

イベント前バッファ 140, 193

色の濃さ 105

インストール 26

インテリジェント機能

イベント 174

映像検知 156

検知オプション 172

再起動 175

表示オプション 171

インフォメーション表示 52

ウ

動き適応ノイズリダクション 97

工

映像管理情報	194
映像記録	146, 149, 151, 178
映像記録動作	139, 192
映像検知	73, 153, 156
映像サーバー	135
映像サイズ	53, 92, 137
映像サイズセット	91
映像と音声	
H.264	53
映像サイズ	53
音声受信	71
音声送信	71
最大フレームレート	54
表示サイズ設定	53
映像の上書き	194
映像の自動削除	194
映像配信	46, 88
映像反転	97
映像表示の回転	94
映像表示部	48, 78
映像品質	92
映像フォーマット	140, 193
映像保存	194
エラーメッセージ	221
選んでインストール	27
エリアズーム	59

オ

置き去り検知	153, 163
おまかせインストール	27
オンスクリーン表示	123
オンスクリーン表示アシストツール	18
音声検知	74, 148, 155
音声サーバー	130
音声受信	71, 130
音声送信	71, 130
音声通信方式	130
音声入力の使用	129
音声配信	46, 88
音声マルチキャスト	136
音量	71, 72, 147, 175
音量検知	148

カ

外部出力デバイス	98
外部デバイス出力	145
外部デバイス入力	73, 146
外部入力デバイス	98
可視範囲	110
かすみ補正	105
かすみ補正強度	96
かすみ補正レベル	105
カメラ位置	99

カメラ位置を固定する	156
カメラ基本設定	36
カメラ制御権	57
カメラ制御時間	135
カメラ操作	
ズーム	61
ズーム速度	61
デナイト	63
パン/チルト	61
パン/チルト速度	61
フォーカス	62
露出補正	63
カメラビューワー	41
カメラマネジメントツール	17, 34
カメラ名	96
簡単カメラ設定	100
管理者	46
管理者アカウント	35, 87
管理者パスワード	36, 87

キ

機器情報	196
基準音量レベル	148
起動時設定	99
逆光補正	63

ク

クライアント	135
クライアント証明書	187

ケ

警告メッセージ	221
ゲイン	103, 104
権限	88
言語切り換えボタン	76
現在の音量レベル	130
現在の設定	196
検知オプション設定	172
検知種別	153, 157
検知条件	148, 160
検知ライン	168, 171
検知領域	156, 171

コ

工場出荷設定	223, 225
--------	----------

サ

再起動	196
再生音ファイル登録	130
再接続	48, 79
最大クライアント数	135

最大制御権待ち数	135
最大接続時間	135
最大パケットサイズ	83
最大フレームレート	54, 92
サブネットマスク	84
サマータイム	90

シ

時刻	89
自己証明書	183
自動鍵交換	189
シャープネス	105
シャッタースピード	102
シャッターリミット	102
修飾子	204
出力音量	130
手動録画	70
巡回ルートの設定	118
情報メッセージ	221
証明書情報	186
証明書の管理	184, 187
初期化	196
初期設定	34
初期設定に戻す	197
侵入検知	154, 170
信頼済みサイト	30, 37

ス

ズーム	58, 61
スナップショット	69, 79
スマートシェード補正	103
スマートシェード補正強度	96
スマートシェード補正レベル	103

セ

制御権	57
静止画	69
設置ガイド	5
設定値のバックアップ	198
設定値のリストア	198
設定ページ	75
設定メニュー	77, 80
セットアップCD-ROM	5, 17
全画面表示	54

ソ

測光方式	103
------------	-----

タ

タイマー	150
タイムゾーン	90

チ

チルト	58, 61
-----------	--------

ツ

通過検知	154, 167
通報内容	140, 141, 143

テ

データ量低減レベル	122
低域カット	130
デイナイト	63, 97, 105
デイナイト切り換え	147, 151, 176
デイモード	63, 105
デジタルPTZ	66
デジタルズーム	59, 96
デバイス名	98
デフォルトゲートウェイアドレス	84, 85
デフォルトページ	94

ト

動作設定	193
動作モード	145, 146
動体検知	153, 162
登録ユーザー	46, 87
特権カメラ制御	46, 88
ドラッグムーブ	60
トラブルシューティング	206

ナ

ナイトモード	63, 105
--------------	---------

ニ

入力音量	129
認証方式	132, 186

ネ

ネームサーバーアドレス	85
ネットワーク	83
ネットワークアドレス/サブネット	181

ノ

ノイズリダクション	104
-----------------	-----

ハ

パスワード	43, 87
バックアップ	198
パノラマ	106
パノラマ画面	79

パノラマ表示パネル	62
パラメーター	204
パルス	145
パン	58, 61
パン・チルト中のミュート	130

ヒ

非検知領域	158, 171
日付	89
ビットレート制御	92
ビューワー	
RM-Liteビューワー	18
カメラビューワー	17, 41
モバイルカメラビューワー	5, 17
ビューワー PTZ	65
ビューワーメッセージ	221
表示オプション	171
表示サイズ	53

フ

ファームウェア	196
ファームウェア更新	199
ファイアウォール	29
フォーカス	62, 100
フォーカス調整	101
フォーマット	194
プライバシーマスク	125
プリセット	64, 68, 114, 146, 149, 178
タイマー開始時刻	150
デナイト切り換え時	176
プリセット巡回	117
プリセット選択ボックス	64
プリセット名	115
フレームレート	92, 137, 140
プレフィックス	85, 182

ホ

ホームポジション	64, 114
ホストアクセス制限	181, 182
ホワイトバランス	104

マ

マウント	192
マルチキャストDNS	86

ム

無音検出	130
------------	-----

メ

メール通報	143, 146, 149, 151, 174, 178
-------------	------------------------------

メイン	
言語切り替えボタン	49
設定ページ	49
モバイルカメラビューワー	49
ユーザー切り替え	49
メッセージ	
エラーメッセージ	221
警告メッセージ	221
情報メッセージ	221
ログメッセージ	209
メモリーカード	192
メモリーカードの情報	194
メモリーカード容量	195
メモリーカード録画	70
メンテナンス	196

モ

目標ビットレート	92
持ち取り検知	153, 164
モバイルカメラビューワー	5, 17, 21

ユ

ユーザーアカウント	87
ユーザー管理	87
ユーザー切り替え	44
ユーザー権限	88
ユーザー認証	43, 94
ユーザーページ	82
ユーザー名	43, 87
ユーザーリスト	88

ラ

ライセンス	196
-------------	-----

リ

リストア	198
リセットスイッチ	223

レ

連結イベント	74, 177
--------------	---------

ロ

ログ	200
録画映像ユーティリティ	5, 18, 70
ログメッセージ	209
露出	101
露出補正	63, 103

ワ

ワンショットAF101

ワンショットWB104

お問い合わせ先

製品に関するお問い合わせは、お客様相談センターをご利用ください。

キヤノンお客様相談センター

ネットワークカメラ / モニタリング機器

 **0570-08-0074**

受付時間 <平日> 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日および年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

上記番号をご利用いただけないかたは ☎ 03-6634-4532 をご利用ください。

IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。

受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後 7 年間です。
(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です)